市来町埋蔵文化財発掘調査報告書(1)

川上(市来)貝塚

1991年3月

鹿児島県日置郡市来町教育委員会

序　　文

市来町の川上貝塚は市来貝塚とも呼ばれ，九州の縄文時代後期の貝塚として古くから知られた著名な遺跡です。

特に，市来式土器は，本貝塚出土の標式土器として九州の縄文時代後期土器の重要な土器型式とされています。

この度，鹿児島県教育庁文化課のご指導をいただき，国，県の補助事業として，市来貝塚の範囲確認の発掘調査を行いました。

広い範囲の確認調査から多量の貴重な遺物が出土しましたが，調査指導の諸先生，調査担当の県文化課調査員及び発掘作業員の方々のご協力によって計画どおり遂行でき，貴重な成果を得ることができましたことを深く感謝いたします。

ここに発掘調査の報告書を刊行いたしましたが，本報告書が今後の研究の資料として活用されることを念願するとともに，町民のみなさんが埋蔵文化財についていっそう理解を深めていただき，今後広く文化財の保護にご協力くださるようお願い致します。

平成３年３月

市来町教育委員会

教育長　松　崎　　孝

例　　言

1　この報告書は川上（市来）貝塚の範囲確認調査に伴い，鹿児島県日置郡市来町教育委員会が行った川上（市来）貝塚の発掘調査報告書である。

2　発掘調査及び整理作業中は県文化財保護審議会委員河口貞徳氏の指導を得て，人骨については鹿児島大学教授小片丘彦氏，獣骨については鹿児島大学助教授西中川駿氏，貝類については坂上泰典氏の同定結果を収録した。

3　本書に用いたレベル数値は海抜絶対高である。

4　本書の遺物番号は一連の通し番号を用い，図版中の番号も一致する。

5　本書の執筆は次のとおりである。

　第Ⅰ章，第Ⅲ章，第Ⅴ章を新東晃一，第Ⅱ章，第Ⅲ章，第Ⅴ章を堂込秀人，第Ⅳ章を小片丘彦，西中川駿，坂上泰典が担当した。本書の編集は，市来町教育委員会が行い新東・堂込が担当した。

6　本貝塚の今回調査の出土遺物は市来町教育委員会が保管・展示している。

本　文　目　次

序　文
例　言
第Ⅰ章　調査の経過 …… 1
　第１節　調査に至るまでの経過 …… 1
　第２節　調査の組織 …… 1
　第３節　調査の経過 …… 2
第Ⅱ章　位置と環境 …… 5
第Ⅲ章　川上(市来)貝塚遺跡の調査 …… 7
　第１節　調査の概要 …… 7
　第２節　各トレンチの調査 …… 13
　第３節　中世の遺構・遺物 …… 111
第Ⅳ章　人骨及び自然遺物 …… 114
第Ⅴ章　発掘調査のまとめ …… 125
　第１節　川上（市来）貝塚について …… 125
　第２節　出土遺物について …… 126
　第３節　人骨および自然遺物について …… 129
あとがき …… 165

表　目　次

第１表　周辺の遺跡地名表 …… 6
第２表　類別土器の層位的出土状態 …… 127
第３表　出土土器観察表（１） …… 130
第４表　出土土器観察表（２） …… 131
第５表　出土土器観察表（３） …… 132
第６表　出土土器観察表（４） …… 133
第７表　出土土器観察表（５） …… 134
第８表　出土土器観察表（６） …… 135
第９表　出土土器観察表（７） …… 136
第10表　出土土器観察表（８） …… 137
第11表　出土土器観察表（９） …… 138
第12表　出土土器観察表（10） …… 139

第13表　出土土器観察表（11）…… 140
第14表　出土土器観察表（12）…… 141
第15表　出土土器観察表（13）…… 142
第16表　出土土器観察表（14）…… 143
第17表　出土土器観察表（15）…… 144
第18表　出土土器観察表（16）…… 145
第19表　出土土器観察表（17）…… 146
第20表　出土土器観察表（18）…… 147
第21表　出土石器観察表（１）…… 147
第22表　出土石器観察表（２）…… 148
第23表　出土石器観察表（３）…… 149
第24表　土製加工品観察表 …… 149
第25表　出土貝輪観察表 …… 150
第26表　出土垂飾・骨角器観察表 …… 150

挿　図　目　次

第１図　川上（市来）貝塚の位置と周辺の遺跡 …… 4
第２図　川上（市来）貝塚遺跡地形図 …… 9
第３図　グリッド配置図 …… 11
第４図　前回調査トレンチ（昭和36年度）と第１貝塚の推定範囲 …… 12
第５図　１トレンチ層位断面図 …… 14
第６図　１トレンチの遺物出土状態 …… 17
第７図　１トレンチの出土遺物（１）…… 19
第８図　１トレンチの出土遺物（２）…… 21
第９図　１トレンチの出土遺物（３）…… 22
第10図　１トレンチの出土遺物（４）…… 23
第11図　１トレンチの出土遺物（５）…… 24
第12図　１トレンチの出土遺物（６）…… 25
第13図　１トレンチの出土遺物（７）…… 26
第14図　１トレンチの出土遺物（８）…… 27
第15図　１トレンチの出土遺物（９）…… 28
第16図　１トレンチの出土遺物（10）…… 29
第17図　１トレンチの出土遺物（11）…… 30

第18図　1トレンチの出土遺物（12）…… 31
第19図　1トレンチの出土遺物（13）…… 32
第20図　1トレンチの出土遺物（14）…… 33
第21図　1トレンチの出土遺物（15）…… 34
第22図　1トレンチの出土遺物（16）…… 35
第23図　1トレンチの出土遺物（17）…… 36
第24図　1トレンチの出土遺物（18）…… 37
第25図　1トレンチの出土遺物（19）…… 38
第26図　1トレンチの出土遺物（20）…… 39
第27図　1トレンチの出土遺物（21）…… 40
第28図　1トレンチの出土遺物（22）…… 41
第29図　1トレンチの出土遺物（23）…… 42
第30図　1トレンチの出土遺物（24）…… 43
第31図　1トレンチの出土遺物（25）…… 45
第32図　1トレンチの出土遺物（26）…… 46
第33図　1トレンチの出土遺物（27）…… 47
第34図　1トレンチの出土遺物（28）…… 48
第35図　1トレンチの出土遺物（29）…… 48
第36図　1トレンチの出土遺物（30）土製加工品1 …… 49
第37図　1トレンチの出土遺物（31）土製加工品2 …… 50
第38図　1トレンチの出土遺物（32）石器1 …… 51
第39図　1トレンチの出土遺物（33）石器2 …… 52
第40図　1トレンチの出土遺物（34）石器3 …… 53
第41図　1トレンチの出土遺物（35）貝輪1 …… 54
第42図　1トレンチの出土遺物（36）貝輪2 …… 55
第43図　1トレンチの出土遺物（37）貝輪3 …… 56
第44図　1トレンチの出土遺物（38）装飾品1 …… 57
第45図　1トレンチの出土遺物（39）装飾品2 …… 58
第46図　3トレンチ東壁土層断面図 …… 60
第47図　3トレンチの出土遺物（1） …… 61
第48図　3トレンチの出土遺物（2） …… 62
第49図　3トレンチの出土遺物（3） …… 63
第50図　3トレンチの出土遺物（4） …… 64
第51図　3トレンチの出土遺物（5） …… 65
第52図　4トレンチⅡ層下出土状況 …… 67

第53図　4トレンチⅢ層出土状況 …… 68
第54図　4トレンチⅣ・Ⅴ層上出土状況 …… 69
第55図　4トレンチの出土遺物（1） …… 70
第56図　4トレンチの出土遺物（2） …… 71
第57図　4トレンチの出土遺物（3） …… 72
第58図　4トレンチの出土遺物（4） …… 73
第59図　4トレンチの出土遺物（5） …… 74
第60図　4トレンチの出土遺物（6） …… 75
第61図　4トレンチの出土遺物（7） …… 76
第62図　4トレンチの出土遺物（8） …… 77
第63図　4トレンチの出土遺物（9） …… 78
第64図　4トレンチの出土遺物（10） …… 79
第65図　4トレンチの出土遺物（11） …… 80
第66図　4トレンチの出土遺物（12） …… 81
第67図　4トレンチの出土遺物（13） …… 82
第68図　4トレンチの出土遺物（14） …… 83
第69図　4トレンチの出土遺物（15） …… 84
第70図　4トレンチの出土遺物（16） …… 85
第71図　4トレンチの出土遺物（17） …… 86
第72図　4トレンチの出土遺物（18） …… 87
第73図　4トレンチの出土遺物（19） …… 88
第74図　4トレンチの出土遺物（20） …… 89
第75図　4トレンチの出土遺物（21） …… 90
第76図　4～7トレンチの遺構検出状況 …… 91
第77図　5～7トレンチの出土遺物 …… 92
第78図　8トレンチ西壁土層堆積状況 …… 93
第79図　8トレンチの人骨出土状況 …… 94
第80図　8トレンチの遺物出土状況 …… 95
第81図　8トレンチの出土遺物（1） …… 96
第82図　8トレンチの出土遺物（2） …… 97
第83図　8トレンチの出土遺物（3） …… 98
第84図　8トレンチの出土遺物（4） …… 99
第85図　8トレンチの出土遺物（5） …… 100
第86図　9トレンチ南壁土層断面図 …… 102
第87図　9トレンチの出土遺物（1） …… 103

第88図　9トレンチの出土遺物（2）…… 104
第89図　9トレンチの出土遺物（3）…… 105
第90図　10トレンチの出土遺物 …… 106
第91図　11トレンチの土層断面図 …… 106
第92図　12トレンチの出土遺物 …… 107
第93図　14トレンチの出土遺物 …… 108
第94図　10〜14トレンチの出土石器 …… 109
第95図　15トレンチの土層断面図 …… 110
第96図　中世の遺構 …… 112
第97図　1トレンチ・3トレンチ出土，青磁・白磁 …… 113
第98図　縄文時代の海岸線（標高10m線）…… 125

図　版　目　次

図版1　貝塚部分近景，発掘作業風景，1トレンチ焼土検出状況
同拡張区，同中世溝状遺構，調査状況（途中）…… 151
図版2　1トレンチ貝層上面検出状況，同貝層遺物出土状況 …… 152
図版3　1トレンチ貝層堆積状況，3トレンチ遺物出土状況
同掘り上がり，同南壁土層，同南側遺物出土状況 …… 153
図版4　3トレンチ杭，4トレンチ遺物出土状況 …… 154
図版5　4トレンチV層上面遺構検出状況，5・6・7トレンチ遺構検出状況
9トレンチ基盤岩整形状況 …… 155
図版6　8トレンチ完掘状況，同土層堆積状況，同杭列検出状況 …… 156
図版7　8トレンチ人骨出土状況，10トレンチ遺物出土状況
14・15トレンチ発掘作業風景 …… 157
図版8　伐採風景，9トレンチ埋めもどし，遺跡見学会及び体験学習 …… 158
図版9　出土土器（1・3・4・6・11・26・27・78・79・91・
184・139・185・197・199・216・227）…… 159
図版10　出土土器（230・237・275・351・356・407・910・1066・1068）
円形土製加工品 …… 160
図版11　出土土器（608・625・894・709・641・648・640・699・678・683・703）…… 161
図版12　出土骨角器（480・481・483・506・507〜516）…… 162
図版13　出土骨角器（517〜523）…… 163
図版14　出土石器（450〜454・966・863・1063・469）…… 164

第Ⅰ章　調　査　の　経　過

第１節　調査に至るまでの経過

川上（市来）貝塚は，大正９年，地元の江夏盛吉氏の情報を得て有村栄助（当時西市来小学校訓導）氏によって最初に発見された貝塚である。その後，大正10年，有村氏は山崎五十麿氏に依頼して発掘調査を行った。早速，山崎氏は中央の考古学会誌『考古学雑誌』にその成果を発表し，全国的に知られるようになった。

その後，昭和12年に，寺師見國氏によって発掘調査が実施され，多量の貴重な資料も得られている。

河口貞徳氏は，戦後の昭和25年と36年の二回にわたって発掘調査を実施し，多量の土器・石器や貝製品や埋葬人骨などを発掘して川上貝塚の様相を明らかにした。まとまった報告書はまだ刊行されていないが，その成果は遂時に発表され，川上（市来）貝塚とともに市来式土器の型式名称は学会で流布するようになった。

こうして，川上貝塚の貝塚の調査は古くから行われ明らかにされてきたが，周辺に存在すると想定される第二，第三の貝塚の発見や貝塚を形成した集落の確認など残された多くの課題が指摘されていた。

このような経緯のなかで，町としては貴重な本遺跡の取り扱いについて，県教育委員会文化課とも協議を重ねてきたのである。

その結果，南九州の先史時代研究のうえで，貴重な本遺跡の保護対策の資料とするために遺跡の範囲確認等を，埋蔵文化財確認緊急調査事業として，国および県の助成を得て実施することになった。発掘調査は市来町教育委員会が主体者となり，発掘調査は県教育委員会文化課に依頼した。

第２節　調査の組織

調査主体者	市来町教育委員会		
調査責任者	市来町教育委員会	教育長	松崎　孝
	〃	社会教育課長	堀之丸　彰
	〃	係長（派遣社会教育主事）	吉嶺　梓
	〃	社会教育主事	古田　裕史
	〃	公民館主事	古木　照代
	〃	社会教育指導員	濱村　将曹
	〃	公民館指導員	山下　昌人
発掘調査担当者	鹿児島県教育委員会文化課	主　査	新東　晃一
	〃	文化財研究員	堂込　秀人
発掘調査指導者	鹿児島県文化財保護審議会	委　員	河口　貞徳
	（人骨）鹿児島大学歯学部	教　授	小片　丘彦
	（獣骨）　〃　農学部	助教授	西中川　駿
	（貝）　日本貝類学会	会　員	坂上　泰典

調査企画においては，鹿児島県教育委員会文化課長吉井浩一・同課長補佐濱松巖・同主幹立園多賀生・同主幹兼企画助成係長濱崎琢也・主任文化財研究員兼埋蔵文化財係長吉元正幸の各氏の指導・助言のほか，市来町文化財保護審議会（会長代理　吉村武雄・委員　大久保幸夫・同　宇都利夫・同　徳重涼子・同　逆瀬川一男・同　児島貞雄）の協力を得た。なお，発掘調査中，鹿児島大学法文学部教授上村俊雄・同助教授森脇広・九州大学文学部助手西健一郎・九州歴史資料館参事補佐橋口達也各氏に指導・助言を頂いた。

発掘調査作業員

久徳　栄・道岡清法・石原ナツミ・江夏ミキ・蒲地ヨシミ・前田ナミ・田中スズ子・前田ナツエ・道岡ミキ・秋丸スズ子・山下ミカ・前田恵子・木場テル・大迫シズ子・乗添貞代

整理作業員

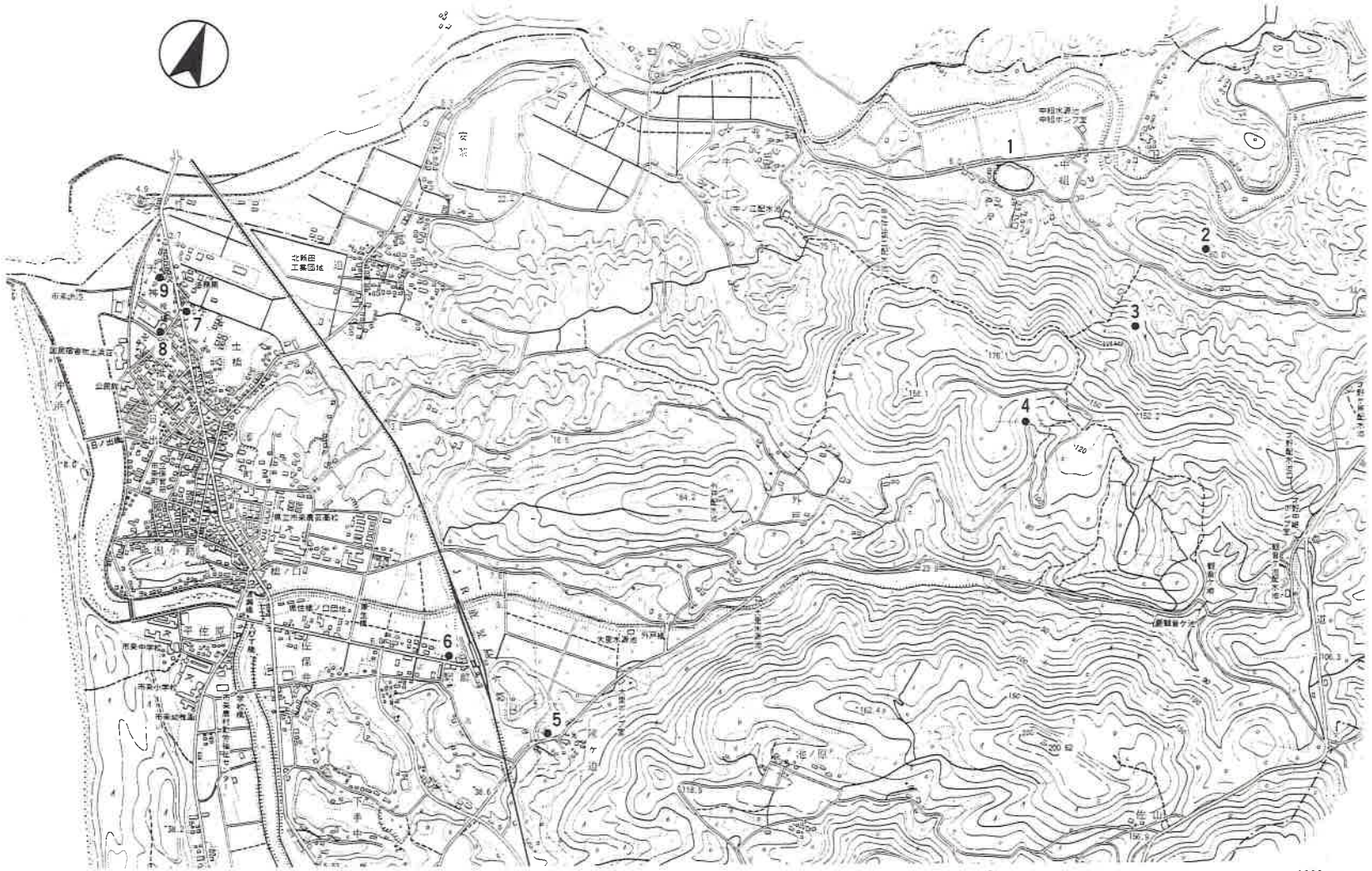
前ノ園俊子・有満和子

第3節　調査の経過（日誌抄）

発掘調査は，平成2年10月1日(月)～11月6日(火)の間に実施した。報告書の整理作業は，発掘調査終了後，平成3年3月までに行った。発掘調査の経過は下記の通りである。

2年10月1日(月) 天候(晴れ)	発掘調査開始。発掘調査の説明と注意。プレハブ及びテント設営。伐採作業の開始。河口貞徳氏の調査指導。
2年10月2日(火) 天候(晴れ)	伐採作業継続。1T及び2Tのトレンチ設定。掘り下げ作業開始。
2年10月3日(水) 天候(晴れ後曇)	1T及び2Tの掘り下げ作業継続。2Tは岩陰で掘り下げ作業終了。3Tのトレンチ設定。掘り下げ作業開始。
2年10月4日(木) 天候(晴れ)	1T及び3Tのトレンチ掘り下げ作業。4Tのトレンチ設定及び掘り下げ作業開始。
2年10月8日(月) 天候(曇後晴れ)	4Tの掘り下げ作業継続。5T及び6Tのトレンチ設定及び掘り下げ作業開始。
2年10月9日(火) 天候(晴れ)	5T及び6Tの掘り下げ作業続行。7Tのトレンチ設定及び掘り下げ作業開始。近世の溝・ピットの検出。1Tの掘り下げ作業継続。傾斜面側に若干拡げる。
2年10月11日(木) 天候(晴れ)	3Tの平板実測・遺物取り上げ作業。8T及び9Tのトレンチ掘り下げ作業続行。8Tの下面から混土貝層検出。1T及び3Tの掘り下げ作業続行。4Tのトレンチ写真撮影。
2年10月12日(金) 天候(曇時々雨)	1T及び3T，9Tの包含層掘り下げ作業続行。8Tの混土貝層掘り下げ，貝層取り上げ。
2年10月15日(月) 天候(晴れ)	1Tの傾斜面拡張区の掘り下げ作業続行。8Tの傾斜面掘り下げ続行。9Tの拡張区の掘り下げ作業及び拡張区の掘り下げ作業。

2年10月16日(火) 天候(晴れ)	1Tの掘り下げ作業続行。3Tの平板実測・遺物取り上げ。8Tの傾斜面の掘り下げ作業。最下のシラスの二次堆積面上部より遺物出土。9Tの拡張区と傾斜面の掘り下げ作業。
2年10月17日(水) 天候(晴れ)	1Tの掘り下げ作業継続。平板実測・遺物取り上げ作業。河口貞徳先生の調査指導。
2年10月18日(木) 天候(晴れ)	10T及び11T，12Tのトレンチ設定。表土剝ぎ作業開始。
2年10月19日(金) 天候(晴れ)	3Tの平板実測・遺物取り上げ作業。10T及び11T・12Tの掘り下げ作業続行。
2年10月20日(土) 天候(晴れ)	10T及び11T，12Tの掘り下げ作業続行。昼から現地説明会及び発掘調査体験学習（川上小学校)。
2年10月22日(月) 天候(晴れ)	1Tの拡張区の掘り下げ作業。11T及び12Tの掘り下げ作業継続。13Tのトレンチ設定及び掘り下げ開始。3T及び4Tの平板実測・遺物取り上げ作業。
2年10月23日(火) 天候(晴れ)	1T及び9Tの平板実測・遺物取り上げ。4Tのトレンチ掘り下げ作業続行。3T及び11Tのトレンチ清掃作業。
2年10月24日(水) 天候(晴れ)	1T・3T・4T・8T・9Tの掘り下げ作業。平板実測・遺物取り上げ作業。河口貞徳先生調査指導。森脇先生ほか学生二人来跡。
2年10月25日(木) 天候(曇時々雨)	1T・3T・5T・6T・7T・9T・10T・12T・13Tの掘り下げ作業。平板実測・遺物取り上げ作業。河口貞徳先生調査指導。
2年10月26日(金) 天候(晴れ)	1T・3T・9T・10T・12T・13Tの掘り下げ作業。3T及び9Tの平板実測・遺物取り上げ作業。
2年10月29日(月) 天候(曇，午後雨)	14Tのトレンチ設定。3T・9T・10T・12T・13Tの掘り下げ作業続行。1Tの掘り下げ作業。平板実測・遺物取り上げ作業。西中川駿先生調査指導。
2年10月30日(火) 天候(晴れ)	9Tの清掃作業ほぼ終了。3Tの深掘り作業。1T・4T・10Tの平板実測・遺物取り上げ作業。15Tのトレンチ設定。表土剝ぎ作業開始。
2年10月31日(水) 天候(晴れ)	1T・3T・4T・8T・12T・13Tの掘り下げ作業続行。1Tの平板実測・遺物取り上げ作業。
2年11月1日(木) 天候(晴れ)	各トレンチの断面実測作業開始。1T・3T・4T・8T・12T・13Tの平板実測・遺物取り上げ作業。
2年11月2日(金) 天候(晴れ)	1Tの平板実測・遺物取り上げ作業。各トレンチの断面実測作業。トレンチの埋め戻し作業。
2年11月5日(月) 天候(晴れ)	1T・14Tの平板実測・遺物取り上げ作業。各トレンチの断面実測作業。トレンチの埋め戻し作業。
2年11月6日(火) 天候(晴れ)	1Tの断面実測作業。トレンチの埋め戻し作業。発掘調査終了。



第１図　川上（市来）貝塚の位置と周辺の遺跡

第Ⅱ章　位　置　と　環　境

市来町は鹿児島県日置郡の北西部をしめ，薩摩半島の付け根の部分に位置する。西は東シナ海に面し，海岸沿いに南北約４㎞にわたって発達する砂丘は，南下するに従ってその幅と高さを増し，吹上浜自然公園の一部として風光に恵まれている。町の大半は第三紀後半から第四紀更新世にかけての火山岩からなる山地で，重平山の北東斜面に源をなす大里川と矢岳の北東斜面に主流の源を発する八房川が，それぞれ狭い谷底平野をつくり，下流で三角州を形成する。この両河川の沖積地が，水田として利用されている。山地は大部分が安山岩質の岩石でおおわれ，八房川の上流，重信川の流域等に溶結凝灰岩が露出している。中央部付近の台地はシラス台地であり，「原（はい）」として畑地となっている。

市来町においては，市来貝塚のほかは，中世の城跡と古石塔群が知られており，それ以前の時代については表採された資料からしか伺われない。大里たんぼからは，成川式の壺等多数の遺物が採集されており，大里川の流域に弥生時代から古墳時代の集落跡が存在する可能性がある。また中原諏訪・島内上ン原・中平後北山屋敷・才野ケ原の小牟田などの台地においては，磨製石斧等の石器が採集されており縄文時代の遺物の可能性もある。今日までまとまった開発がなく分布調査等も実施されていないことから，認知された遺跡は少ないが，表採された資料からは縄文時代から延々と営まれて来た歴史を感じることができる。

平安時代においては『延喜式』に駅名として「市来」の地名がしるされ，鎌倉～戦国期には「市来院」の院名が残されている。前者については具体的な位置は不明であるが，後者については現在と一致するものと考えられている。鎌倉時代の市来院においては，郡司職の市来氏と河上名を領した河上氏があいならんでいる。南北朝期には建武四年（1337年），南朝方に呼応して市来時家が市来鶴丸城にたてこもり，数年間にわたって島津貞久方の軍勢と激しい攻防戦を展開している。院内の各地で戦闘は繰り返されており，文和四年（1355年）には，時家の子の氏家が櫛木野城を攻めている。市来貝塚の東に河上城があるが，北にひと山越えれば中・近世の串木野の中心部となる上名麓へ至り，河上城の戦略的位置は重要であった。戦国期まで，間断はあってもこうした緊張状況下であったと考えられる。河上城の北の八房川を挟んで河上氏の墓地跡がある。このほかに，鶴丸城に移る前の市来氏の居城であった鍋ケ城と，市来氏の菩提寺であった来迎寺跡があり，その西に鍋ケ城の防御のためか，上城・詰城などの城跡がある。また源頼朝の子を生んだ丹後局の伝説に関する旧跡も多い。なお，今回の発掘で，青・白磁の一品が出土したが，八房川河口・市来湊を舞台とした対外貿易があったことを裏付けている。藩政時代は御仮屋が置かれ，西薩一の湊町として栄え，明治時代も郡役所が置かれ，行政の中心地でもあった。

市来貝塚は，八房川の南岸に位置する。貝塚の上の台地は，山地から伸びた尾根が谷底平野に突き出すかたちで，標高12～13mの舌状の台地となっている。貝塚はこの台地の北斜面が段状に畑地として造成された斜面に，一部露頭していたものである。貝塚は標高７～12mの所に

北側(川方向)へ，傾斜して形成されている。海岸より約3.5kmのところにあり，現在でも八房川に潮が上ってくる。海進時にはこの台地のすぐ下まで潮線が来ていたことが考えられる。台地の西斜面・東斜面にも貝塚が存在するといわれているが，確認していない。

第１表　周辺の遺跡地名表

番号	遺跡名	所在地	地形	時代	備考
1	川上貝塚（市来貝塚）	川上中組	丘陵	縄(後)	市来式，指宿式土器，魚獣，人骨，石器，貝輪，骨角器
2	川上城跡	川上中組	山	13ｃ～15ｃ	山頂に３段の平地
3	川上中組墓塔群	川上中組	山麓	13ｃ～15ｃ	墓塔
4	岩屋観音	港町外戸	山	不明	石像
5	重信城跡	大里重信上城	台地		
6	船着場	大里駅前	平地	不明	樹木（ハマヒサカキ）
7	町門の跡	湊町天神	宅地	江戸	なし
8	お仮屋跡	湊町祇園	役場地	慶長～幕末	石垣
9	川口番所跡	湊町天神	道路	寛政～幕末	なし

第Ⅲ章　川上(市来)貝塚遺跡の調査

第１節　調査の概要

今回の調査の目的は，町指定文化財に指定されている貝塚の範囲確認と，貝塚に伴う住居跡など周辺の遺跡の存在の確認にある。貝塚部分については，昭和38年の調査におけるトレンチの位置を参考にしながら，貝層があった平坦地の下の段の平坦地に１・３トレンチを設定し，岩陰に２トレンチ（２×３ｍ）を設定した。１・３トレンチは当初２×7.5ｍで設定し，それぞれ上の平坦部へ拡張し，１トレンチが２×13ｍと１ｍ幅で北へ５ｍの31㎡を，３トレンチが２×10ｍを調査した。１・３トレンチで貝層の堆積の末端をつかむこと，２トレンチについては住居跡や埋葬跡がある可能性を考えての設定である。１・３トレンチでは，表層から遺物が多く出土し，出土状況を観察しながら掘り下げたため，最も時間を要した。２トレンチでは縄文時代の土器片が２点出土したのみである。１トレンチでは，南側に拡張して貝層を検出し，一部については調査した。貝層はかなりの傾斜をもって北側に傾き，その末端をつかむまでには至らなかった。貝層を一部削平して，中世の溝が掘り込まれており，人頭大の石がこの溝に沿って並べられていた。中世に何らかの施設がつくられ，さらに後世の撹乱を受けたために，かなりの量の遺物が浮き上がっていた。次回の調査の資料を得るため，南側の貝層部分について２×２ｍほどの面積で，混土貝層を挟んで２枚の純貝層を掘り下げた。深さが増して，幅２ｍでは調査が不可能となり，時間的制約もあって貝層の下層までには至らなかった。発掘した貝層部分については，排土はすべて水洗し，人工遺物，獣魚骨，貝類を分別した。３トレンチも中世の撹乱を受けている。遺物が入っている層とシラスが何枚も交互に堆積しており，湧水があり，貝層は検出されなかった。縄文時代の遺物のほかに，土師器・青磁・白磁などが出土している。

貝塚の上の台地については，コンクリートで基礎を固めてある墓地の南側の線を基準線（４区と５区の境界線）として，南東の端を基準点（Ｉ・Ｊ－４・５区の中点）として10ｍグリッドを設定した。北から南へ１区・２区・３区・４区・５区……10区，西から東へＡ区・Ｂ区・Ｃ区……Ｏ区とした。結果的に磁北とほぼ一致する縦軸となっている。このグリッドにあわせて，貝塚のある北斜面の直上のＦ－４区に４トレンチ（２×５ｍ）を，４トレンチの南端から９ｍ南に，東西方向にＥ－５区・Ｆ－５区・Ｇ－５区にそれぞれ５・６・７トレンチ（２×５ｍ）を設定した。４トレンチでは，表層＝褐色土層・Ⅱ層＝黒褐色土層・Ⅲ層＝茶褐色土層・Ⅳ層＝暗褐色土層・Ⅴ層＝暗赤褐色土層と堆積し，Ⅱ層下位で土師器が出土し，その下から縄文時代後期の市来式などから弥生時代の土器が出土し，Ⅲ層からは市来式と磨消縄文の土器が出土し，Ⅳ層から沈線文の土器が出土する。このように分層でき遺物の出土状況も土器型式と矛盾しないことから，４トレンチの土層堆積状況を基本土層としてとらえた。５・６・７トレンチにおいては，約40㎝～50㎝掘り下げたところで土層が変わり，この面で複数のＰｉｔなど遺構を検出した。Ⅱ層が削平され，Ⅲ層が残存しているものと考えられる。埋土と遺物か

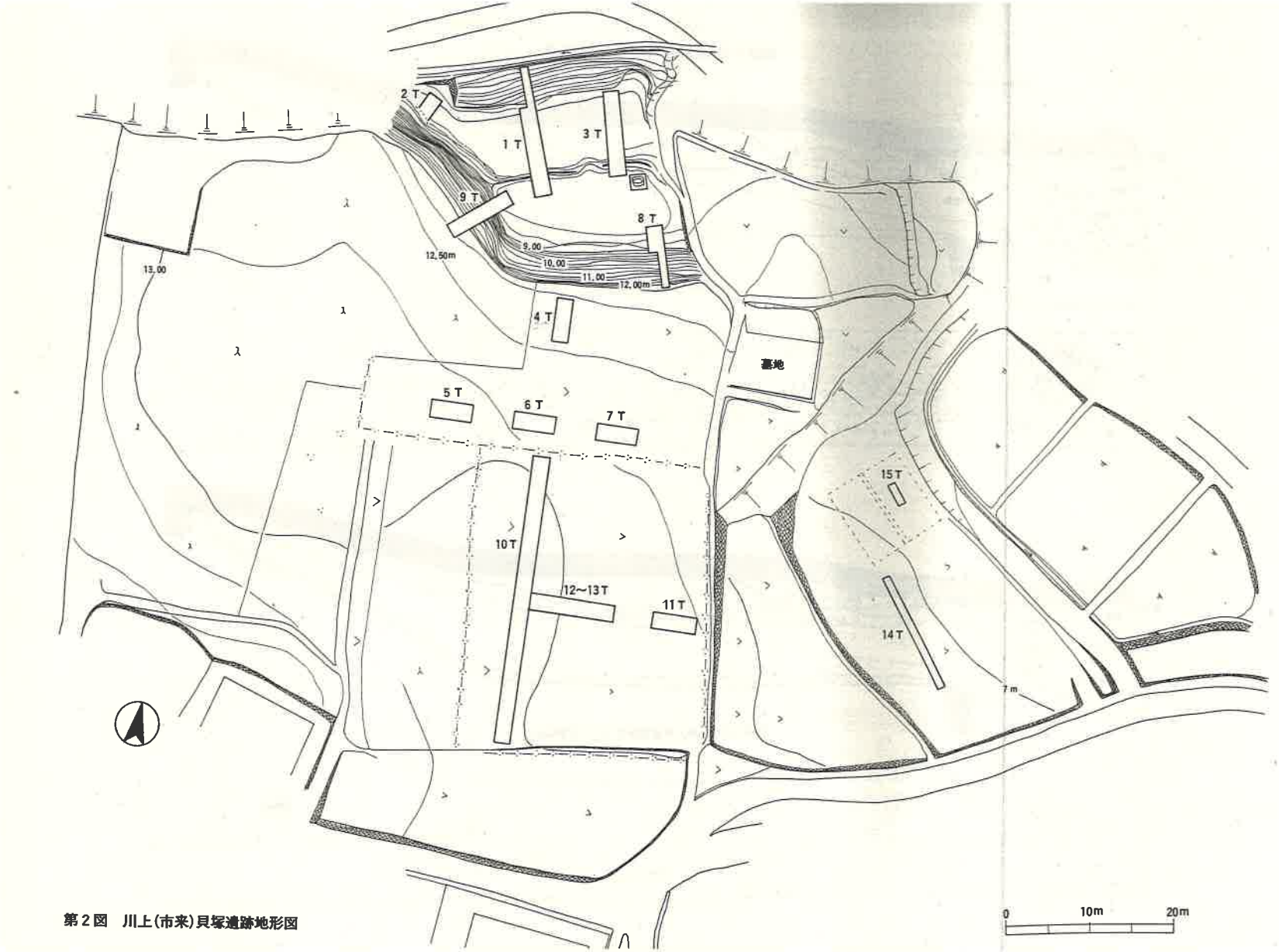
ら縄文時代に相当する遺構と，近世の遺構と判断した。6トレンチの東側と7トレンチでは表層下に黄色砂層があり，土層の堆積状況が西側とは違っていることも考えられる。

さらに貝塚の東西へのひろがりを確認するために，東側に8トレンチ（1×5＋2×3m）を，西側に9トレンチ（2×8m）を設定した。8トレンチでは中世と近世の2時期に造成されたと考えられる痕跡があり，その下に混貝土層が検出された。貝塚の東側の末端部分にあたると判断できる。混貝土層から人骨が出土した。また斜面下に，土止めと考えられる杭列が検出された。9トレンチでは縄文時代の遺物包含層（斜面で安定していない）があったが，深さ1m程で基盤岩がでてきた。斜面の下の部分で，基盤岩が直線的に切られていた。

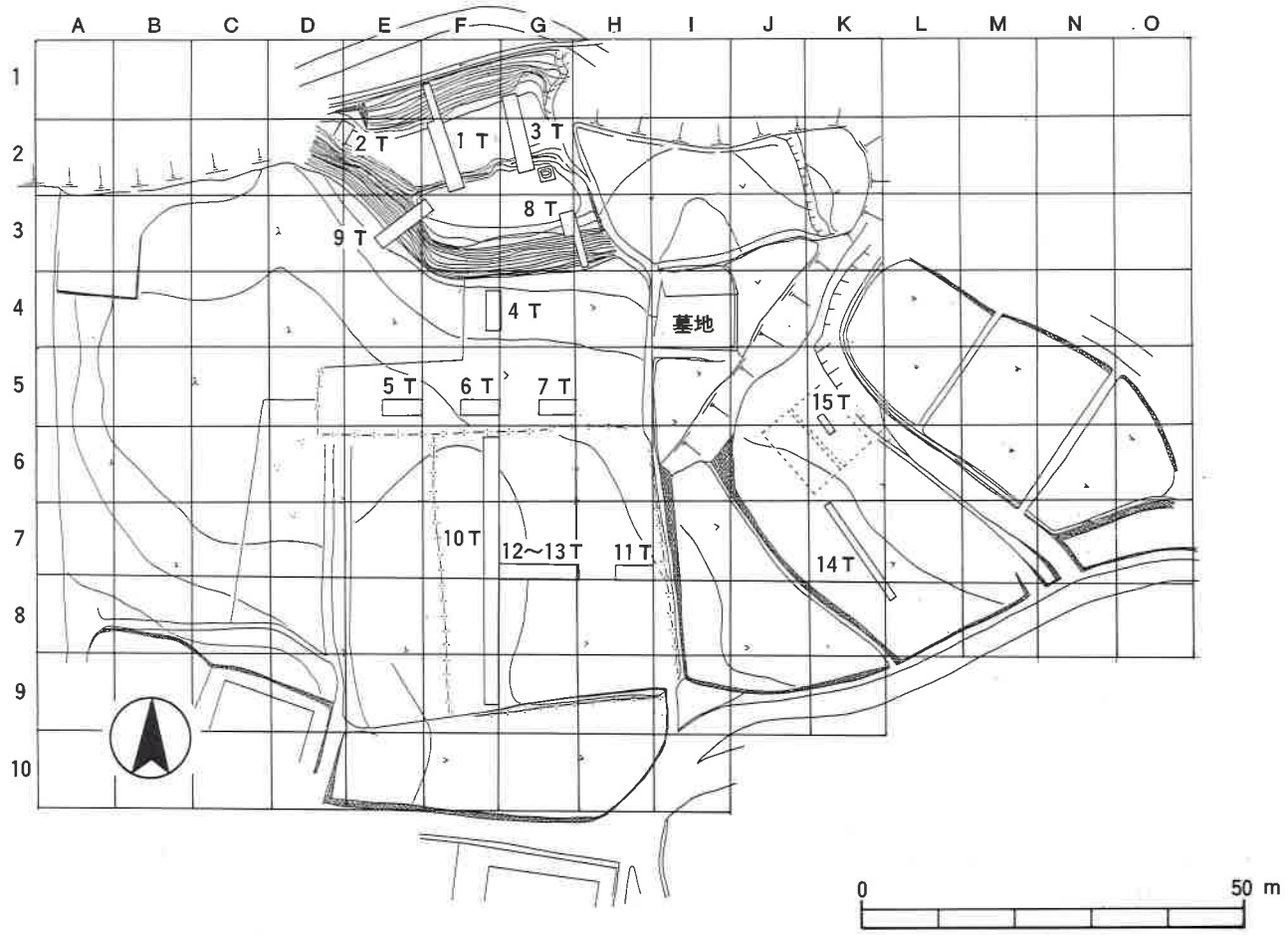
1・3・8・9トレンチの調査と前回の調査の状況から，貝塚の範囲は約250㎡で貝層の厚さは2mを越えるものと考えられる（第4図）。さらに前回3体，今回1体の計4体の埋葬人骨があったことになる。

台地のほぼ中央部F－6区から9区にかけて10トレンチ（2×35m）を，これに直交するかたちで東側のG・H－7区に11～13トレンチ（2×5m）を設定した。11トレンチでは基盤岩が出てきたが，10・12・13トレンチに関してはⅢ層上面まで掘り下げた。中・近世のＰｉｔが6個検出され，掘立て柱建物跡の柱穴と判断できるものもあった。台地の東側は，現在3段に畑地と水田として利用されている。台地の東側に貝塚があることは以前から記録されているところであったが，この真ん中の畑地に第2次大戦後の一時期に民家があり，この民家が使用する井戸を掘ったところ貝が出土したという情報があった。そこでこの畑地に14トレンチ（1×15m），15トレンチ（1×3m）を設定し掘り下げた。14トレンチではⅡ層・Ⅲ層の遺物包含層を確認し，土師器と縄文時代の遺物が出土した。15トレンチでは深さ2m強まで掘り下げたが，遺物は出土するものの依然として表層であった。貝層の確認はできなかったが，この畑地は遺跡域に含むことができる。

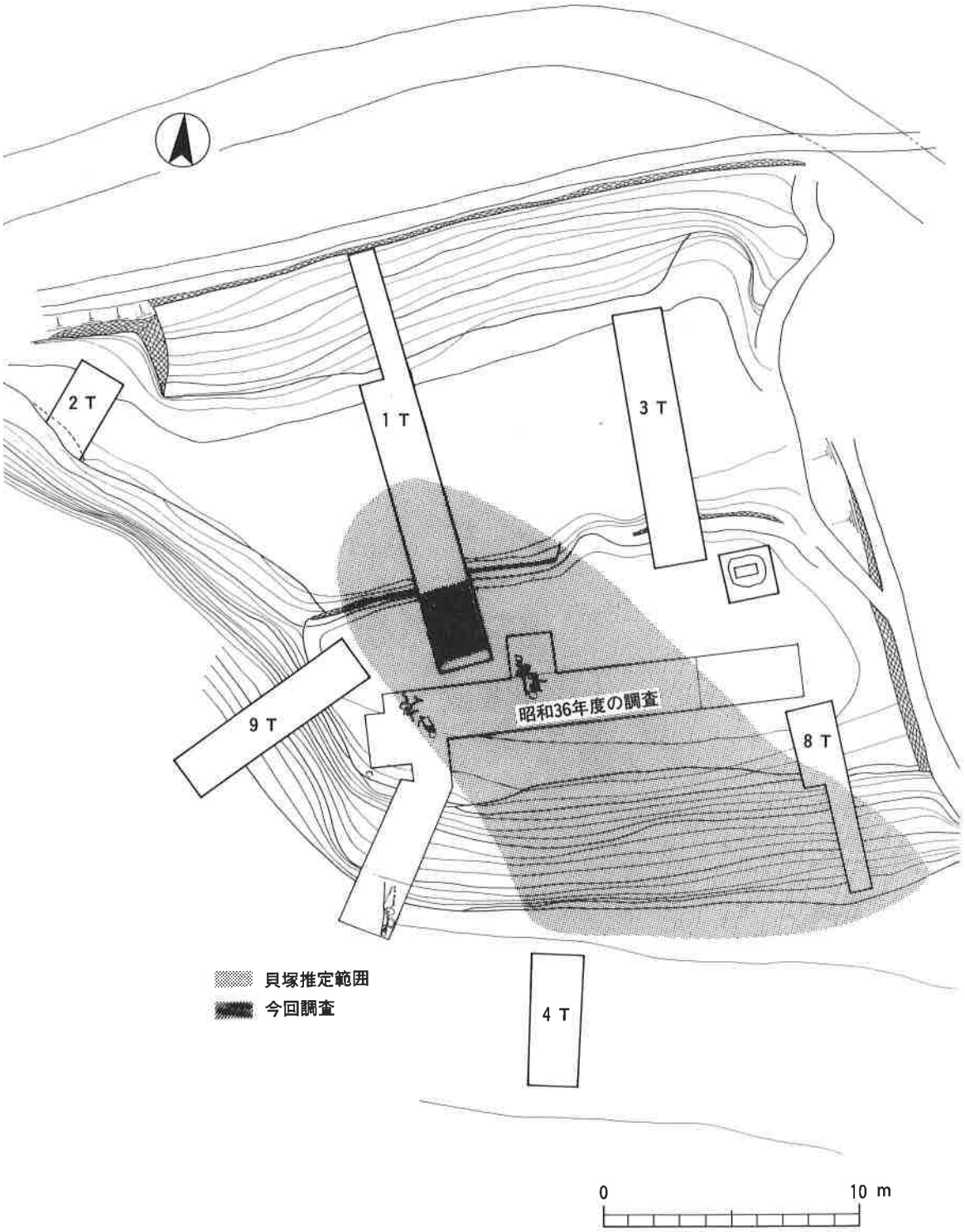
調査は10月2日(月)から11月6日(火)まで行い，調査面積は242㎡におよんだ。この結果，北斜面の貝塚の範囲が把握でき，直上の台地部分（E－4区・F－4区・G－4区・E－5区を中心に）に縄文時代の数時期にわたる包含層があること，中世・近世の遺構をともなうことがわかった。調査は単年度で予定されていたが，途中で今後数回の調査を行うことを前提としての調査に切り替えた。そこで，台地の西側部分については桑畑が多いこととあわせてトレンチは入れず，遺構はすべて検出面で埋めもどしてある。貝塚部分の貝層も一部の調査である。今後の課題については，まとめで触れたい。



第２図　川上(市来)貝塚遺跡地形図


A
B
C
D
E
F
G
H
I
J
K
L
M
N
O
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
2 T
1 T
3 T
8 T
9 T
4 T
墓地
5 T
6 T
7 T
15 T
10 T
12～13 T
11 T
14 T
0
50 m

第３図　グリッド配置図



第４図　前回調査トレンチ（昭和36年度）と第１貝塚の推定範囲

第２節　各トレンチの調査

１．１トレンチの調査

１トレンチは，貝塚の貝層の末端を確認するために設定したものである。トレンチは，今回の調査グリッドでは２Ｆ区に位置した最北端のトレンチにあたり，Ｎ－20－Ｅ方向を向く。

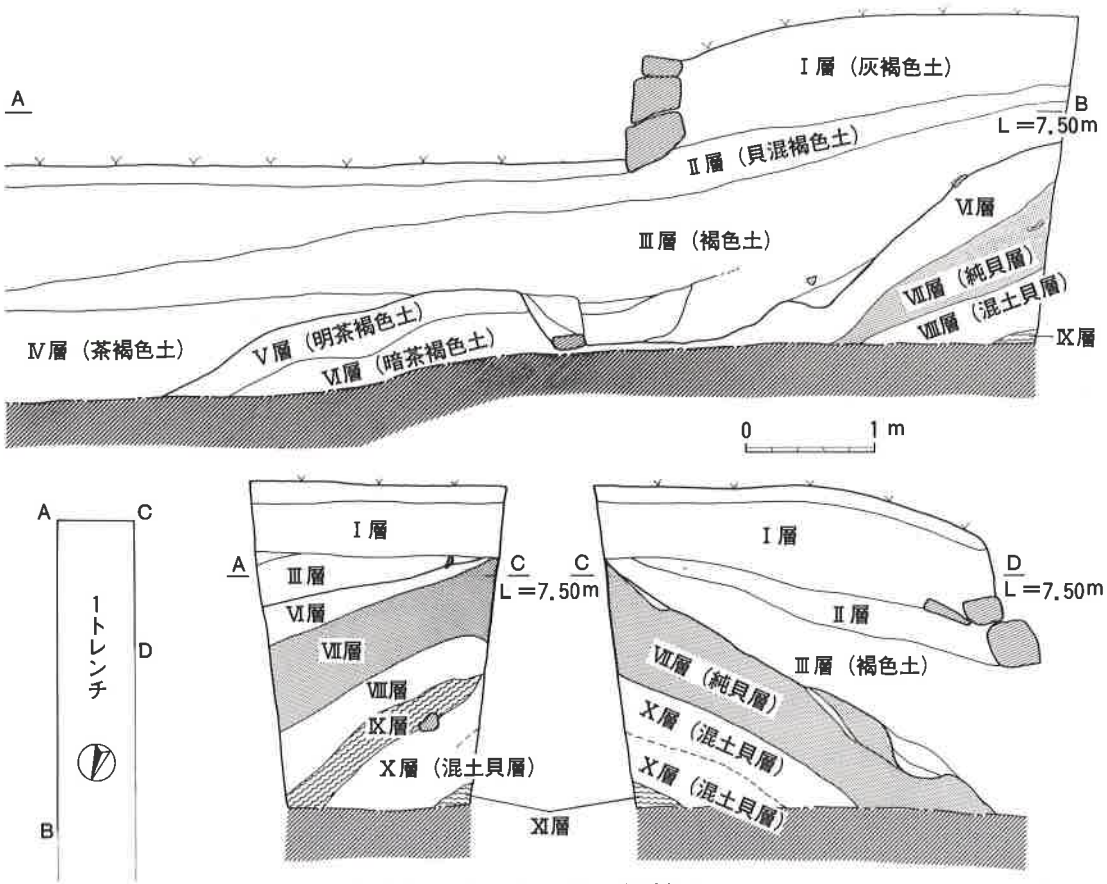
トレンチ設定部分は，現在貝殻が地表面に露呈し，従前の調査（昭和36年）が行われた畑地の一段下にあたる。

調査の結果，トレンチの南側の角で純貝層が確認された。純貝層は混土貝層を挟んで二枚確認されたが，今回の調査では貝層はトレンチの北側に進むにつれて深くなり，貝層の末端をつかむことは不可能であった。さらに貝層は，トレンチの南西隅から北東方向へ傾斜して堆積している。なお，トレンチ南側の貝層直上（西側壁は純貝層直上，東側壁は混土貝層直上）は，中世の溝状遺構によって一部削平されていることが判明した。

１トレンチの層位は，下記のようになる。Ⅰ層は表層で，トレンチの南側部分は上段の畑地にあたり表面の腐植土層の下は50㎝～80㎝程度の厚さの灰暗褐色土層である。このⅠ層は，それ以下の下層とは不整合に覆っており，耕作によって撹乱されたことが窺えられる。トレンチのほぼ中心部では，その下層（Ⅱ層）の褐色土層が表層となっている。Ⅱ層は，トレンチ南側では貝殻の粉末が顕著に混入している。Ⅱ層は，トレンチ南側隅から始まり北側に進むにつれて厚くなる（厚さ1.3m程度）。Ⅲ層は，暗茶褐色土層である。Ⅲ層は，中世の溝状遺構などの掘り込み面に流入する土層である。トレンチ末端の北側では，Ⅲ層の暗茶褐色土層の下層（Ⅳ層）は褐色土層となる。このⅣ層までは縄文土器に混入して土師器の出土が確認され，中世以降に形成された堆積層であることが確認された。

Ⅴ層以下は，縄文時代後期該当の層にあたる。層位はいずれも約40°の急な傾斜で堆積し，そのため下層については僅か一部の確認となった。Ⅴ層は，トレンチの南側隅は中世遺構で削平され，南側隅から４ｍ～７ｍ付近に厚さ20㎝～30㎝程度に残存した明茶褐色土層の包含層である。Ⅵ層は，暗茶褐色土層に貝殻の混入した混土貝層である。中世の削平で西側断面には残存しない。Ⅵ層は，下層のⅦ層へは漸移的に移行している。Ⅶ層は，ハマグリを中心とした純貝層である。なお，Ⅶ層は，このトレンチの第１貝層として取り扱った。Ⅷ層は，茶褐色粘土に貝殻を含んだ混土貝層である。この混土貝層は，比較的出土遺物は多い。Ⅸ層は純貝層で形成され，第２貝層にあたる。トレンチの中央部分は約20㎝の厚さで残存し，東壁に向かって大きく傾斜して堆積する。この純貝層は西壁には残存せず，トレンチの中ほどから東壁の最下に潜る状態で堆積する。Ⅸ層の純貝層は，トレンチ南隅の一部を調査したのみであり，ほとんどは未調査である。Ｘ層は茶褐色土の混入した混土貝層である。上層（Ｘａ層）は貝が多く，下層（Ｘｂ層）は土が多い。そして，トレンチの南西隅壁にⅪ層の純貝層が確認されている。Ⅺ層は，純貝層で第３貝層にあたる。しかし，トレンチの深さが2.5mに達したため，保安上の関係で貝層を確認したに留めた。

１トレンチの出土遺物は，中世の遺物と縄文時代の遺物がある。縄文時代の遺物は，土器，



第５図　１トレンチ層位断面図

円盤形土製加工品（メンコ），石器，貝器，骨角器の種類に分かれる。特に，１トレンチは貝塚の端部にあたり，出土土器は他のトレンチに比較して多量であり，貝器や骨角器等の特殊な遺物も本トレンチだけの出土であった。

① **土器**(第７図～第35図－１～414)

１トレンチ出土の縄文土器は多量なため，出土土器の形態を検討して便宜的に下記のような類別をおこなって説明する。また，文様等の各要素で，さらに細分したものもある。これらの類別は便宜的なもので，各類が各型式を示すものではなく，数形式を包括するものや器種毎の類別もある。本類別と各型式との関係については，まとめにおいて比定したい。なお，各土器の出土層位については，末頁の一覧表に記した。

Ⅰ類土器＝文様が凹線文の短直線文や曲線文及び凹点文などで，口縁部に文様を集約して施文されるもの。

Ⅱ類土器＝沈線文で文様を構成するもので，文様構成は二本平行化の傾向がみられるもの。

Ⅲ類土器＝肥厚口縁帯をつくり，そこを文様帯とする一群。山形の波状口縁を呈するものが多く，沈線文・凹線文・刻目文・貝殻腹縁刺突文などを単独にあるいは組み合わせて施文するもの。今回の調査で最も出土量が多い一群である。

Ⅳ類土器＝口縁部が逆「く」字状に屈曲し，その外面に貝殻腹縁刺突文を施すもの。

Ⅴ類土器＝台付皿形土器。脚台や皿部に装飾が施される。

Ⅵ類土器＝型式不明な土器群。多型式が含まれていることが考えられる。

Ⅶ類土器＝各種の底部。Ⅰ類からⅥ類土器に帰属する底部である。

Ⅷ類土器＝磨消縄文系の土器。Ⅰ類からⅦ類とは形態上明瞭に区分され，移入土器の一群と考えられる。なお，Ⅷ類土器は類型式に分かれることが考えられる。

Ⅸ類土器＝磨消縄文系土器の影響を受けた土器。

の以上９類に類別して説明する。

イ）Ⅰ類土器（第７図－１～12）

Ⅰ類土器は，凹線文の短直線文や曲線文及び凹点文を口縁部に集約して施文する。１は短直線を羽状に施文するもので，５や８も同手法である。２は直線を格子状に施文するが，若干乱れている。３及び４は短直線を斜位に巡らすが，３は口唇部に刻目を施し，４は短直線の両端に刺突文を施文する。６は，刺突文を二段に巡らせるタイプである。７・９・10は凹点文を施文するタイプであるが，文様の施される口縁部は若干肥厚口縁となる。11・12は口縁下端に突帯文を巡らせ，その上位に弧状の曲線文を施文するタイプである。以上，Ⅰ類土器として包括したが，少なくとも３型式に類別される可能性がある。１はX層の最下の混土貝層から出土し，２はⅧ層の混土貝層，11は上部の純貝層，３・７はⅥ層の混土貝層と各層からの出土がみられる。

ロ）Ⅱ類土器（第７図－13～25）

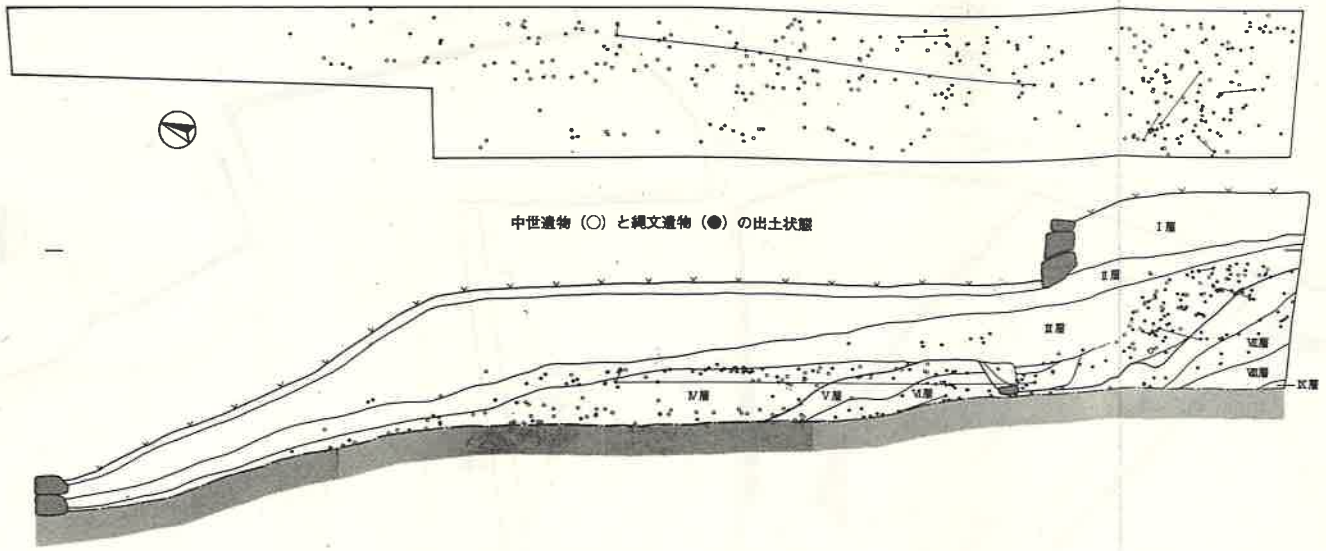
Ⅱ類土器は，沈線文で文様を構成するタイプである。口唇部は，丸くあるいは平坦におさめる。細片のため全体の文様構成は不明であるが，沈線文は二本平行化の傾向がみられる。19・20は突起部で，内面に文様を施文して誇張する。22は，口唇部に刻目を付けた粘土帯を貼付したものである。25は沈線間に刺突文を充填させたものであるが，ここに含めた。23がⅦ層の純貝層で，18・22はⅥ層の混土貝層の出土である。

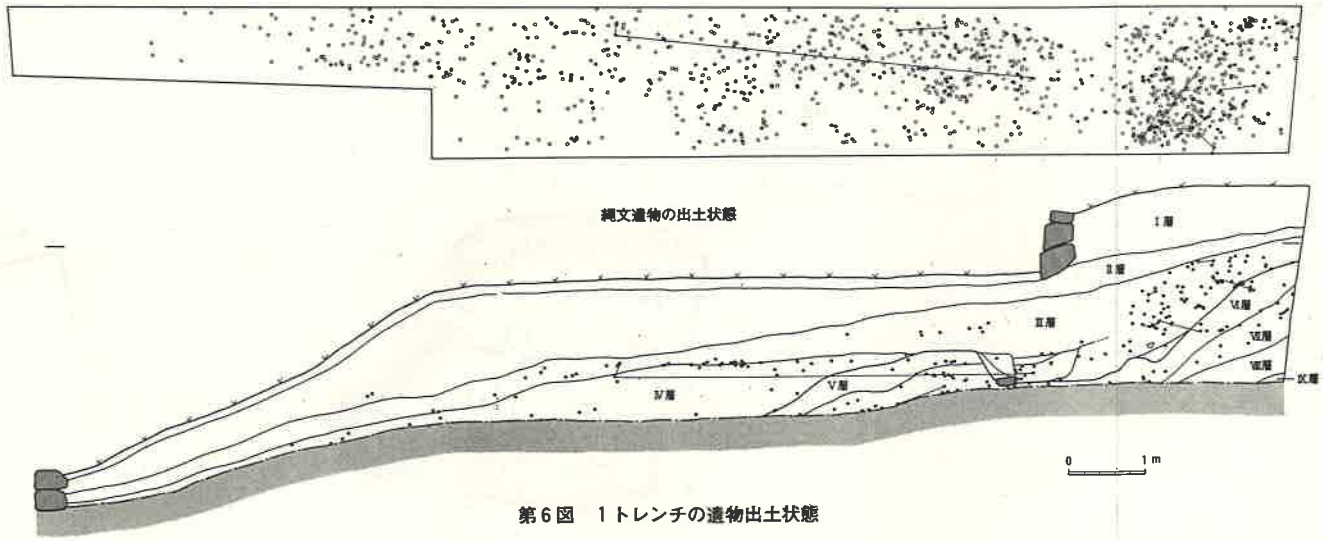
ハ）Ⅲ類土器（第８図～第24図－26～258）

Ⅲ類土器は，肥厚口縁帯をつくりそこを文様帯とする一群である。口縁部の形状には平口縁を呈するものと波状口縁を呈するものがみられるが，波状口縁のタイプが多い。今回の調査で最も出土量の多いタイプである。文様は，沈線文・凹線文・刻目・貝殻刺突文などを単独にあるいは組み合わせて施文する。

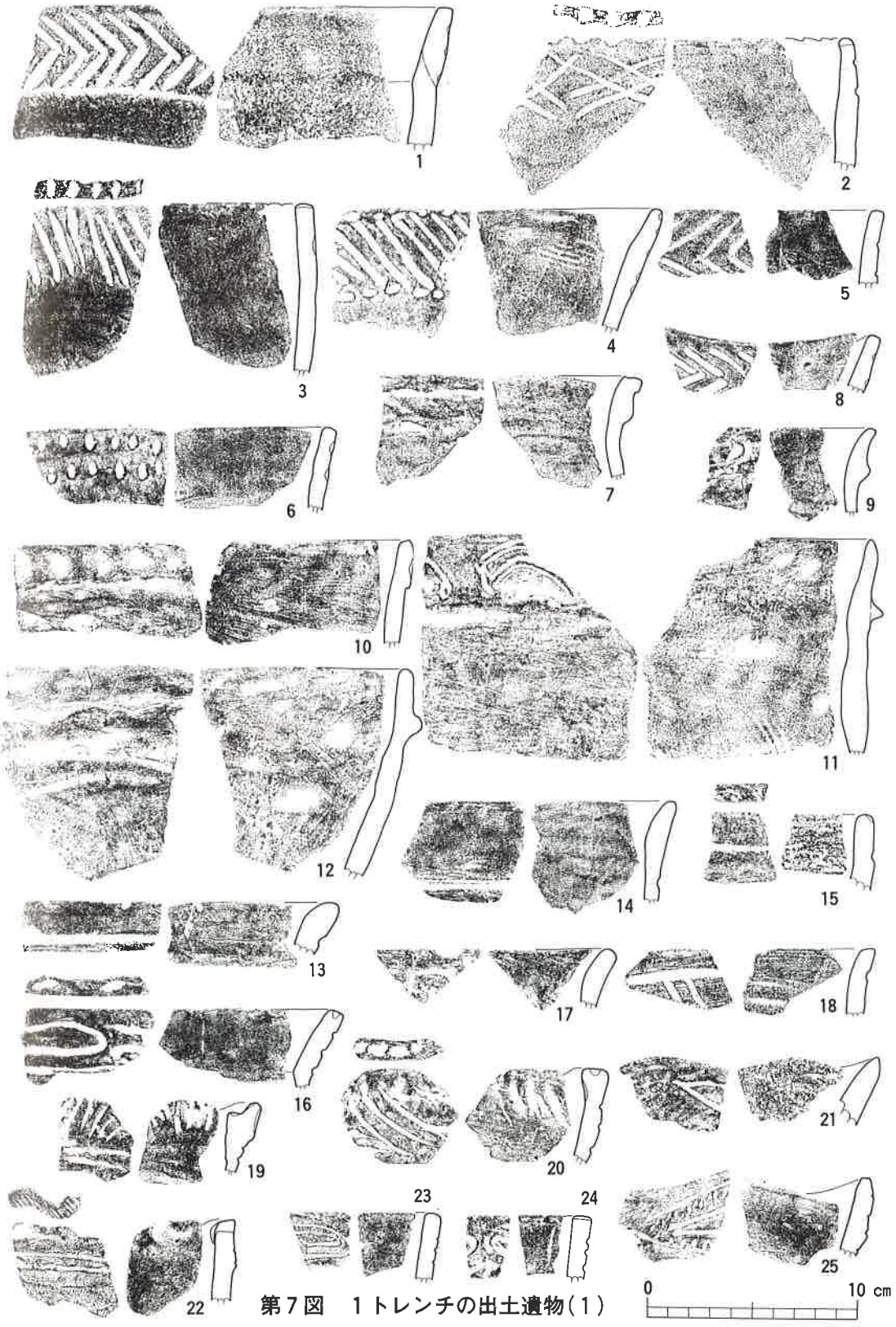
①沈線文（あるいは凹線文）（26～40・42・49・50）

口縁肥厚帯に沈線文を平行に数条巡らすだけの比較的単純な文様のタイプである。26のよう





第６図　１トレンチの遺物出土状態



第７図　１トレンチの出土遺物（１）

に，上下の沈線文が弧状に曲がって結ばれるものもある。27や40のように，突起部をつくるものもある。32がⅧ層出土で，他はⅦ層以上の出土である。

②沈線文（あるいは凹線文）＋刻目（41～44・46～48・51～57）

沈線文の上位あるいは下位に刻目を巡らすタイプである。41のように，口縁下端に突帯をつけて肥厚口縁化しているものもある。46や56のように，縦位に丁寧な刻目を施文するものもある。層位的には，Ⅶ層以上の出土である。

③沈線文（あるいは凹線文）＋刺突文（43・59）

沈線文の下端域は沈線文間に刺突文を施文するタイプである。43は細片のため明らかでないが，肥厚口縁とは形態が異なり他型式の可能性がある。59は55と形態上は類似しており，刺突文は刻目の代わりに施文されたもので②の範ちゅうと考えられる。

④沈線文（あるいは凹線文）＋貝殻刺突文（45・58・60～65・67・70・71・73・76・77）

沈線文の下端域は上端または沈線文間に貝殻腹縁の刺突文を施文する。貝殻刺突文は普通斜位に連続して施文されるが，58のように沈線文間に横位に施文されるものもある。58はⅨ層の出土で，他はⅦ層以上の出土である。

⑤凹線文（太形）＋刻目（78～94・96・99・101～106・111）

1㎝弱程度の太形の凹線文の上下端に刻目を施文するタイプである。凹線文の始終には同施文具による半月状の刺突文を施しアクセントをつける。最も丁寧な施文で，華麗な文様構成である。107のように凹線文の代わりに条線文を施文するものもあるが，これは凹線文が退化したことが考えられる。79は最下混土貝層のX層出土で，他はⅦ層以上の出土である。

⑥刻目文（118～166・170～180）

口縁部の上端あるいは中央，下端に一条から二条の刻目を巡らせるタイプである。120のように刻目間に刺突文を施文してアクセントをつけるものもある。また，163の刺突文や178・180のように長い刻線や短い刻線を巡らすものもある。これらは刻目文と同類と考えここに含めた。

⑦刻目文＋貝殻腹縁刺突文（181～196・216）

刻目を上端或は下端に巡らせその間に貝殻腹縁刺突文を斜位に施文するタイプと，194のように横位の貝殻腹縁刺突文間に刻目を施すものがある。また，196のように沈線文も加わるものもある。216は刻目文間に横位の貝殻腹縁刺突文を施文する珍しいタイプである。

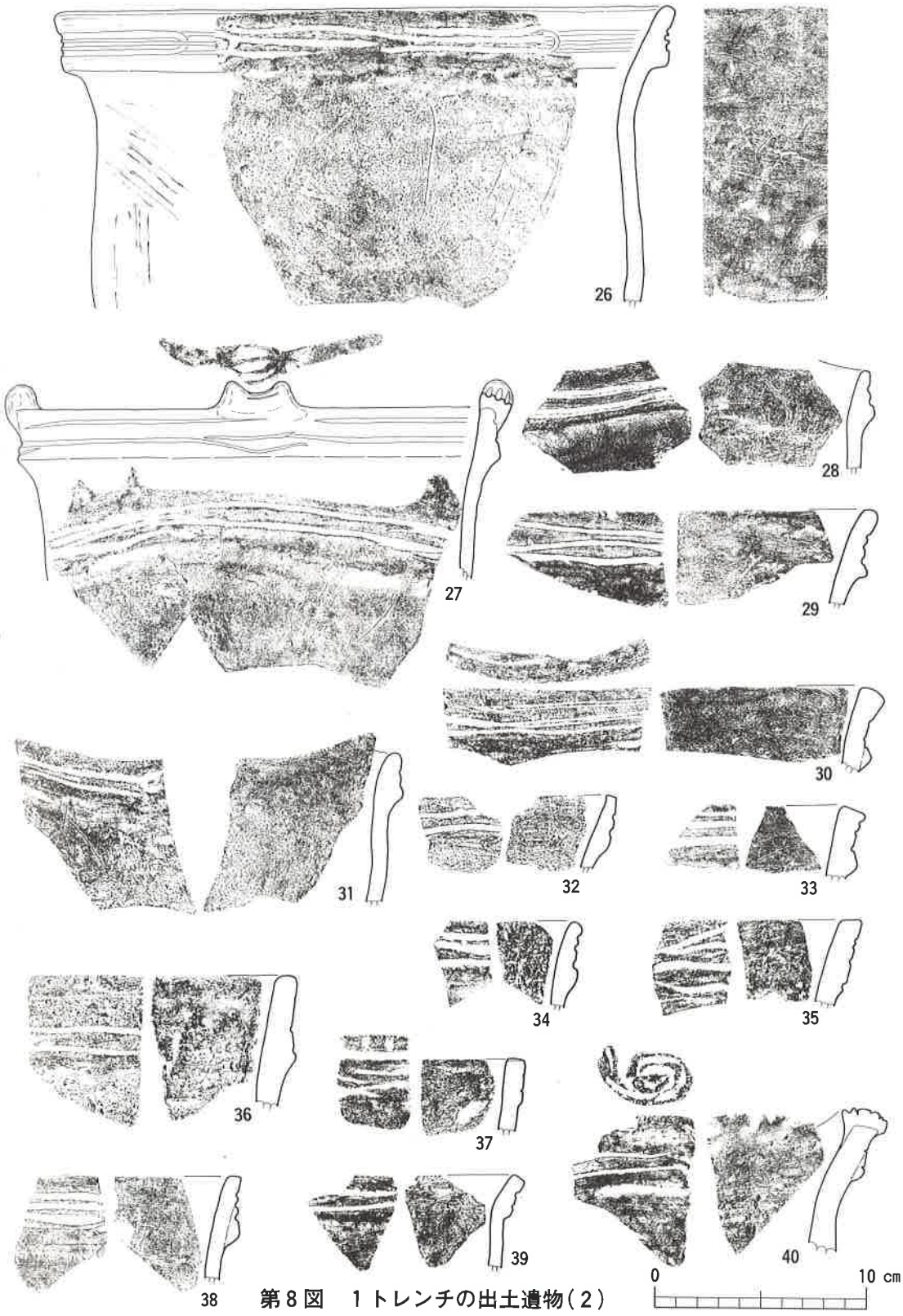
⑧貝殻腹縁刺突文（197～234）

口縁肥厚部に貝殻腹縁刺突文を斜位に施文するタイプである。230のように貝殻腹縁刺突文を横位に施文するものもある。

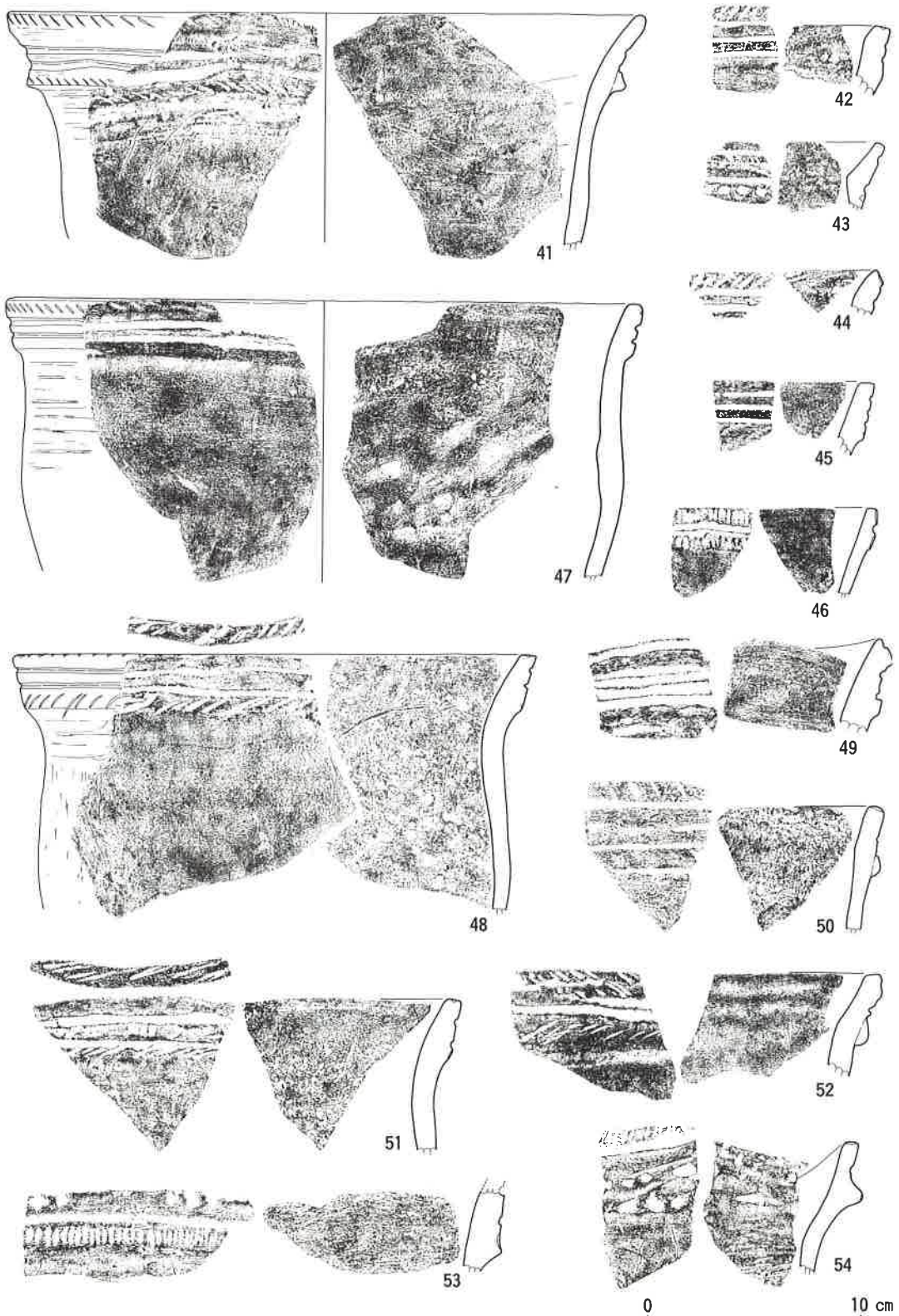
⑨無文（235～257）

口縁部肥厚帯に文様が施文されないものである。238のように，意識して強い条痕整形を施すものがある。

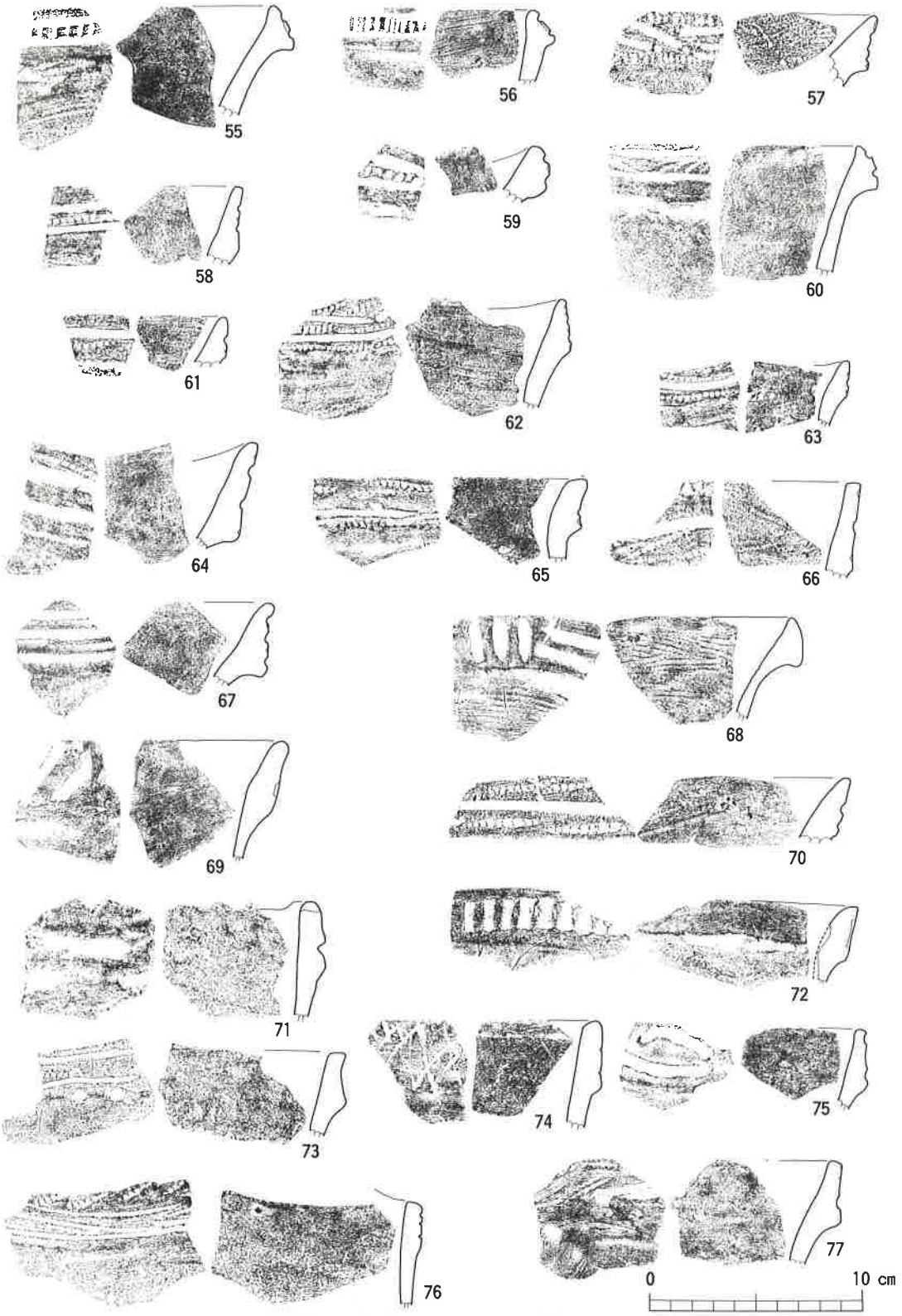
以上，Ⅲ類は文様は9つに類別されたが，この他に特殊な文様もみられる。68は凹線文を縦



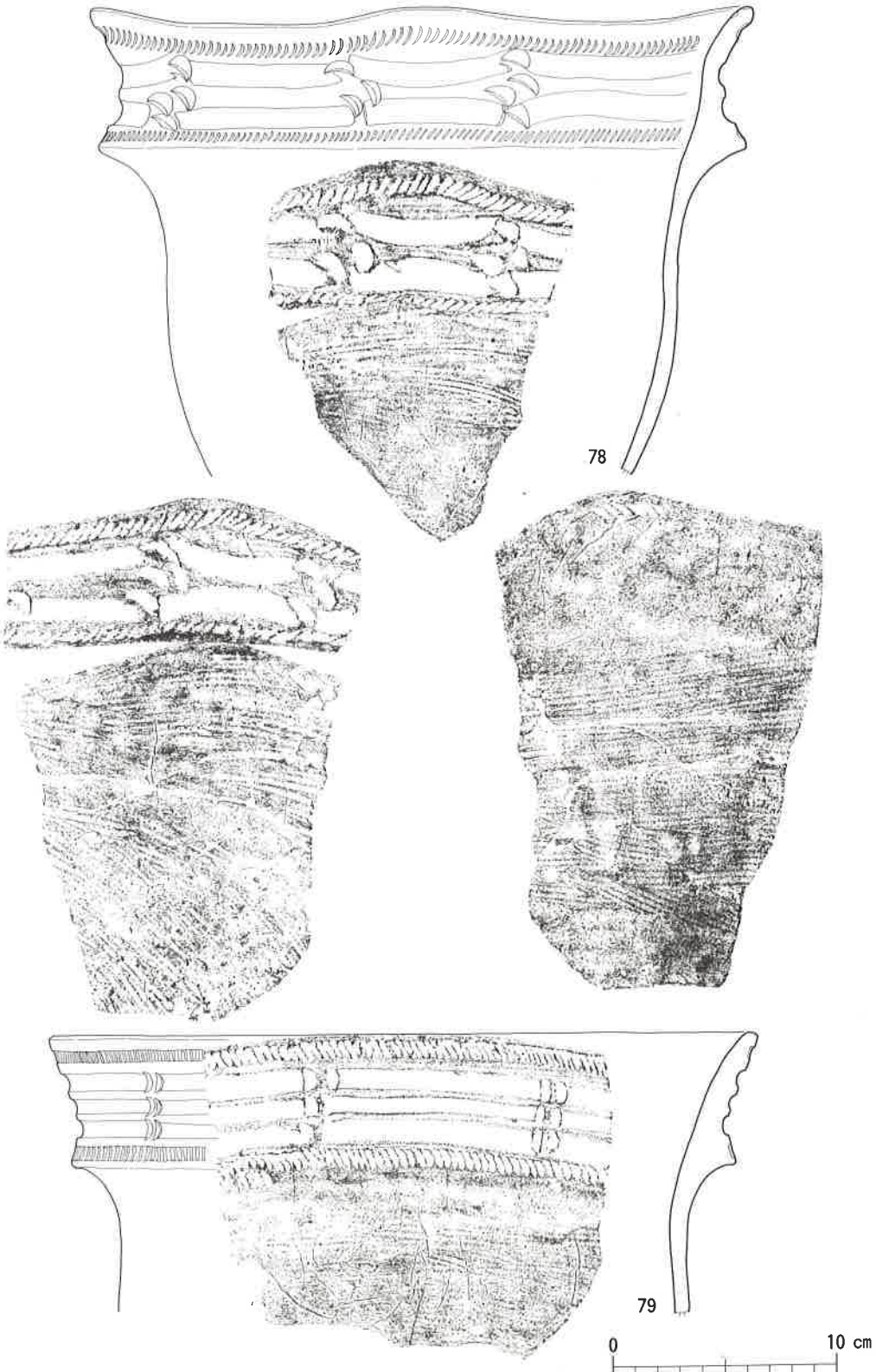
第８図　１トレンチの出土遺物（２）



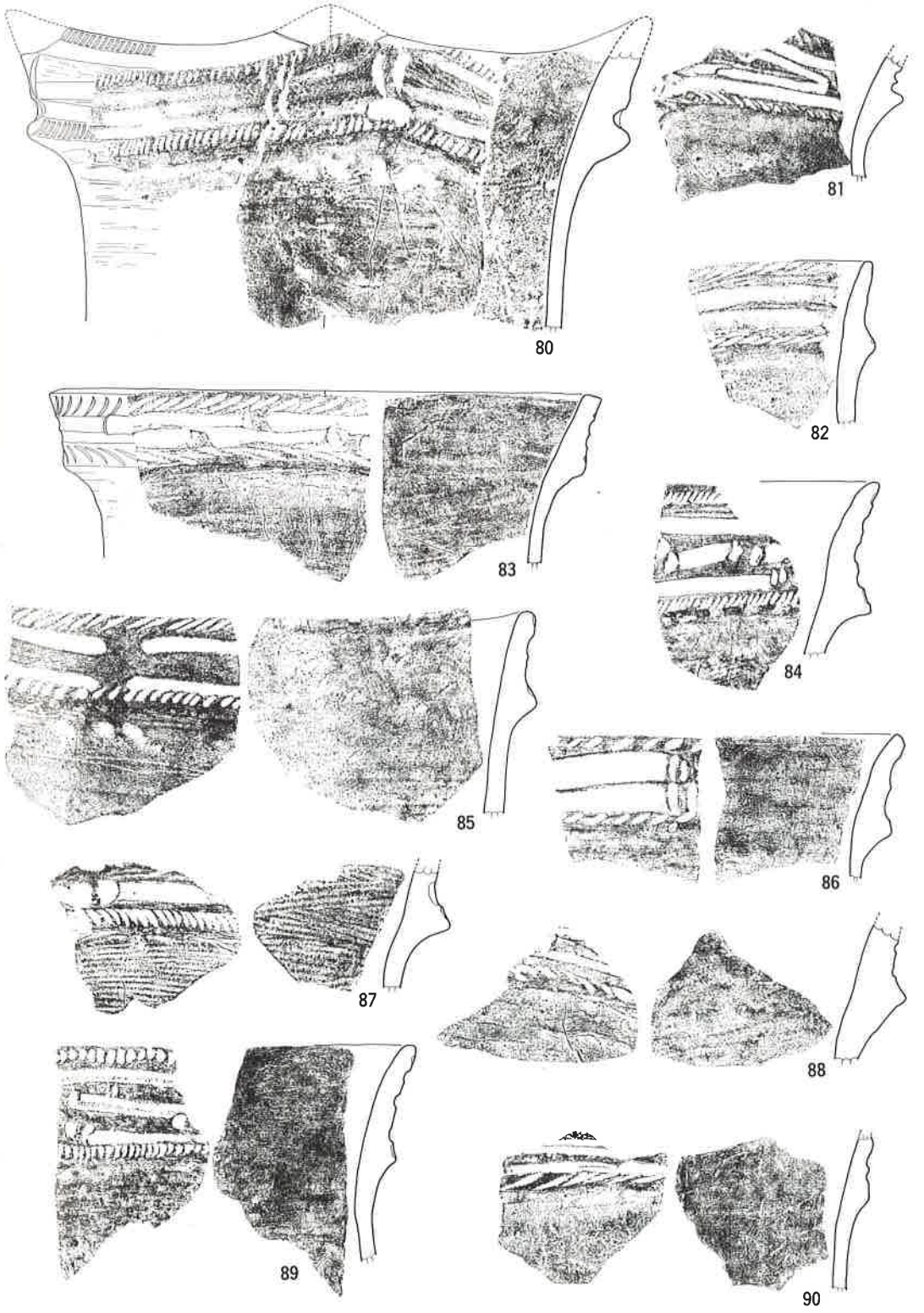
第９図　１トレンチの出土遺物（３）



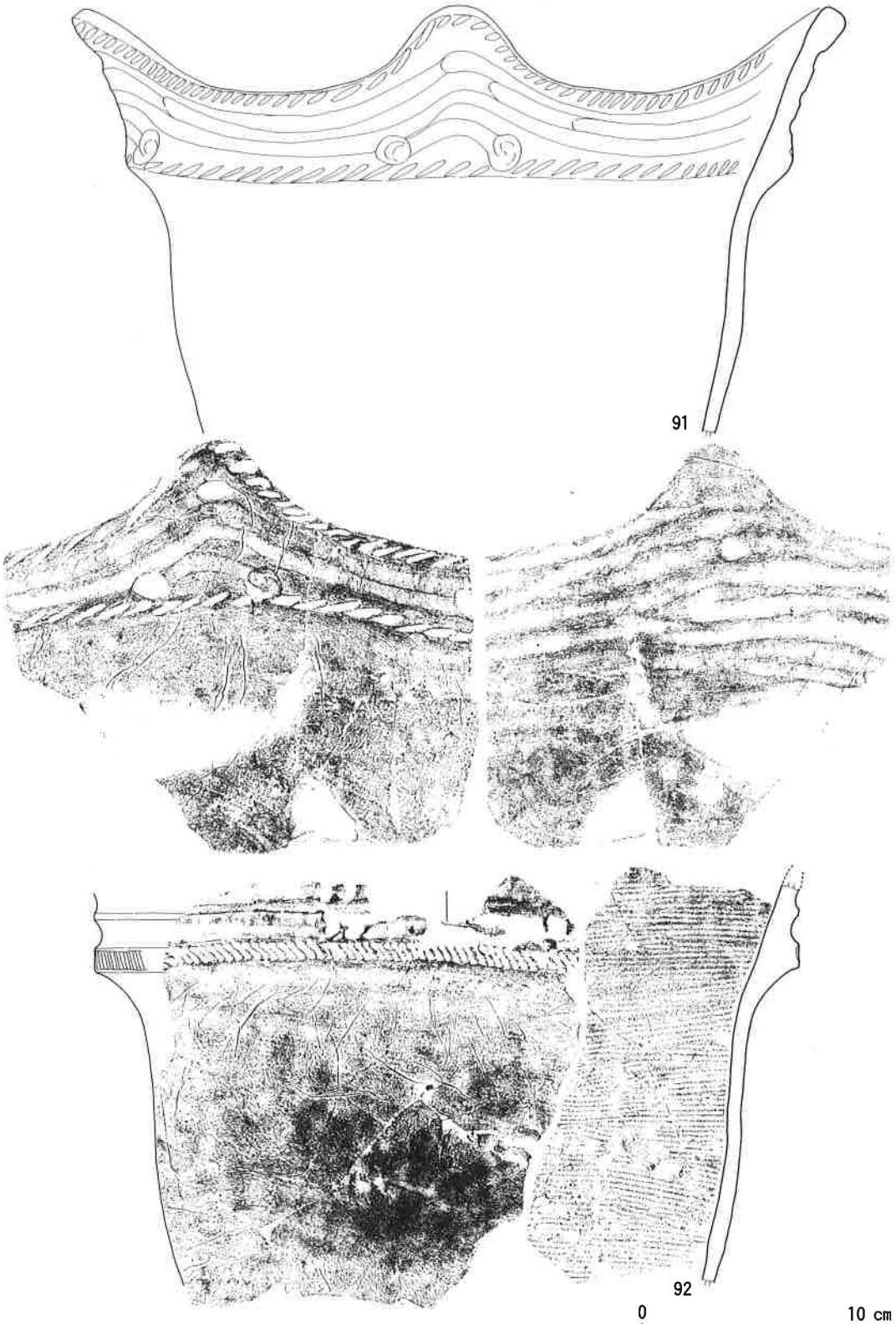
第10図　1トレンチの出土遺物(4)



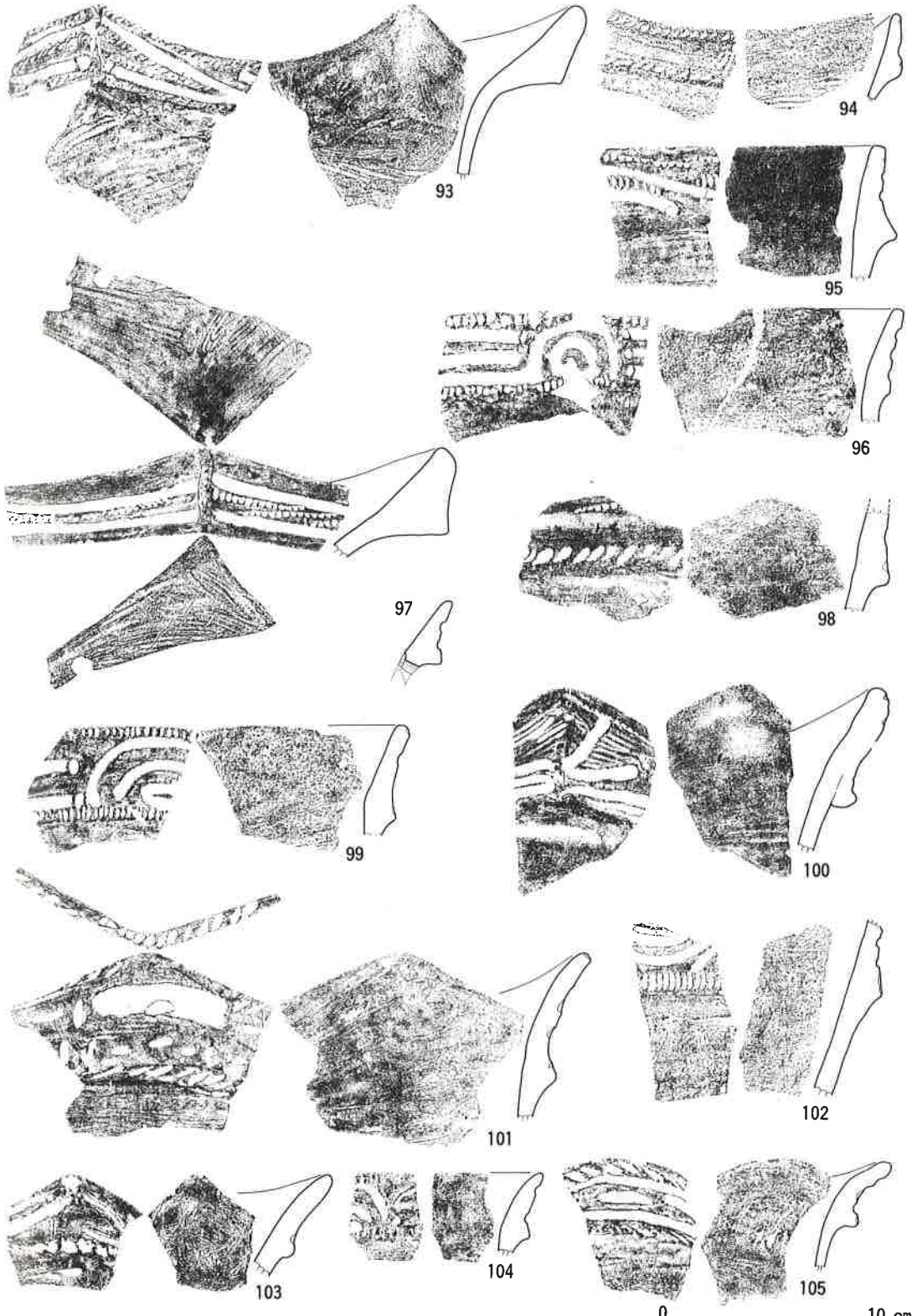
第11図　1トレンチの出土遺物（5）



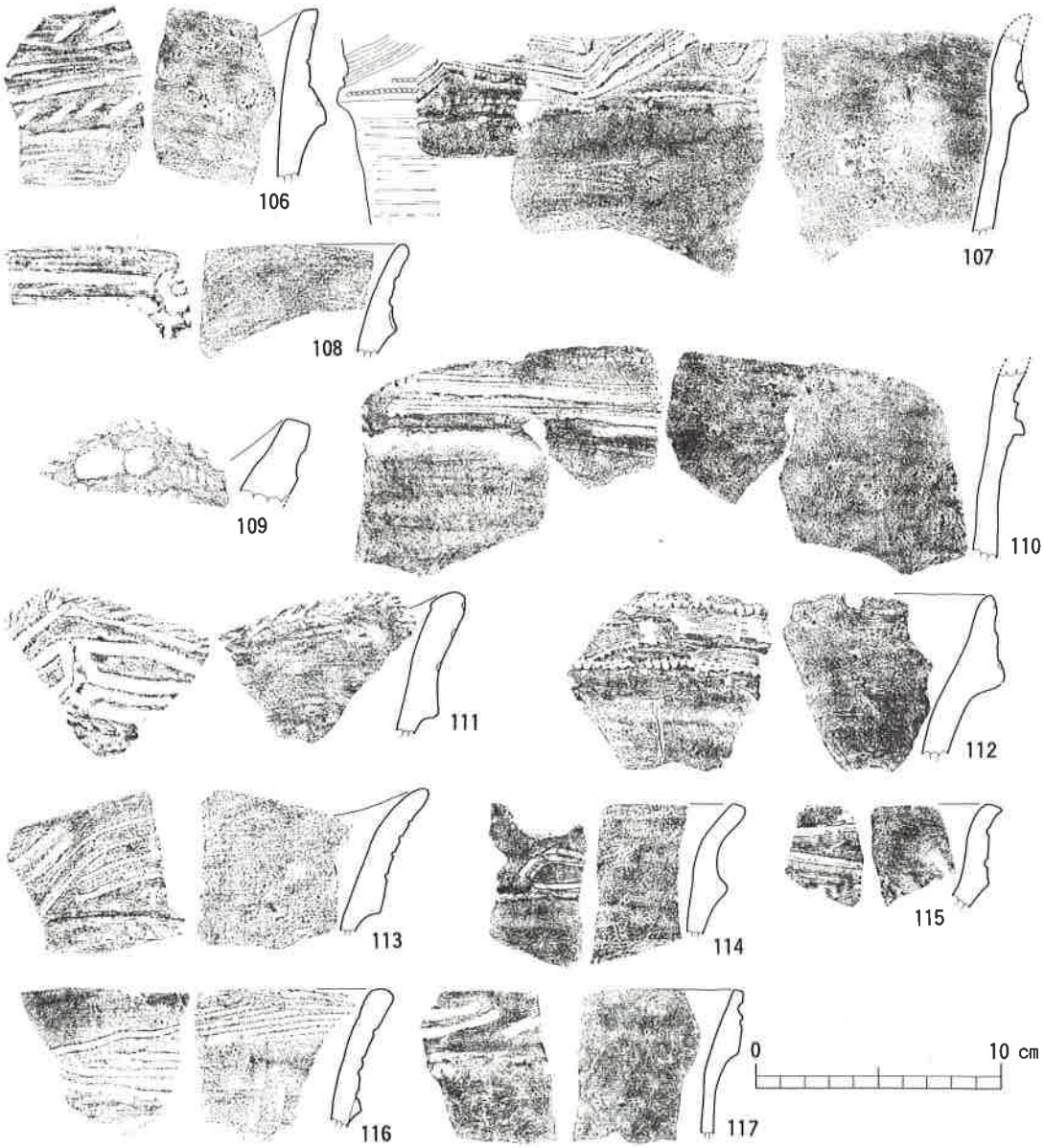
第12図　１トレンチの出土遺物（６）



第13図　1トレンチの出土遺物(7)



第14図　1トレンチの出土遺物(8)

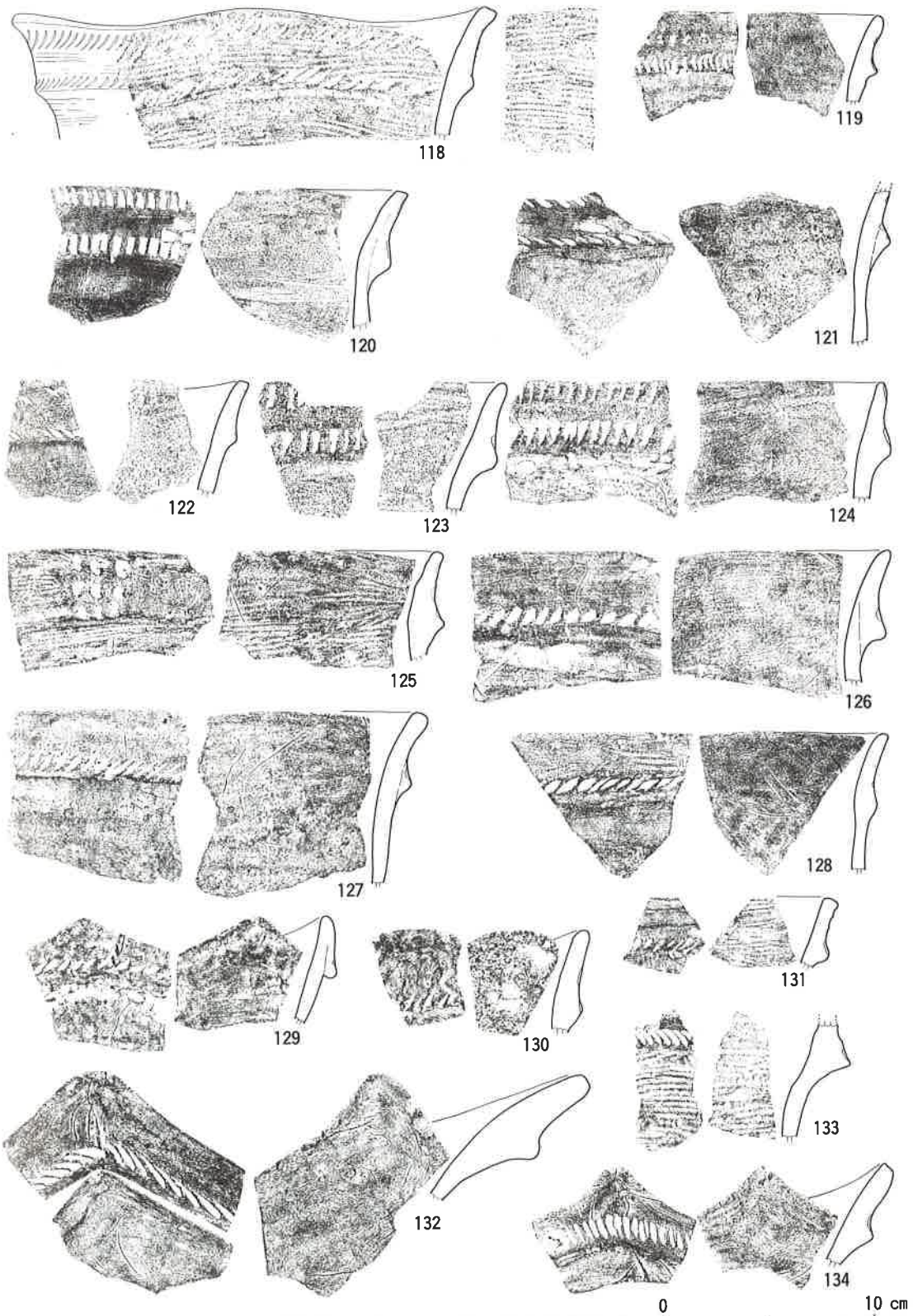


第15図　1トレンチの出土遺物（9）

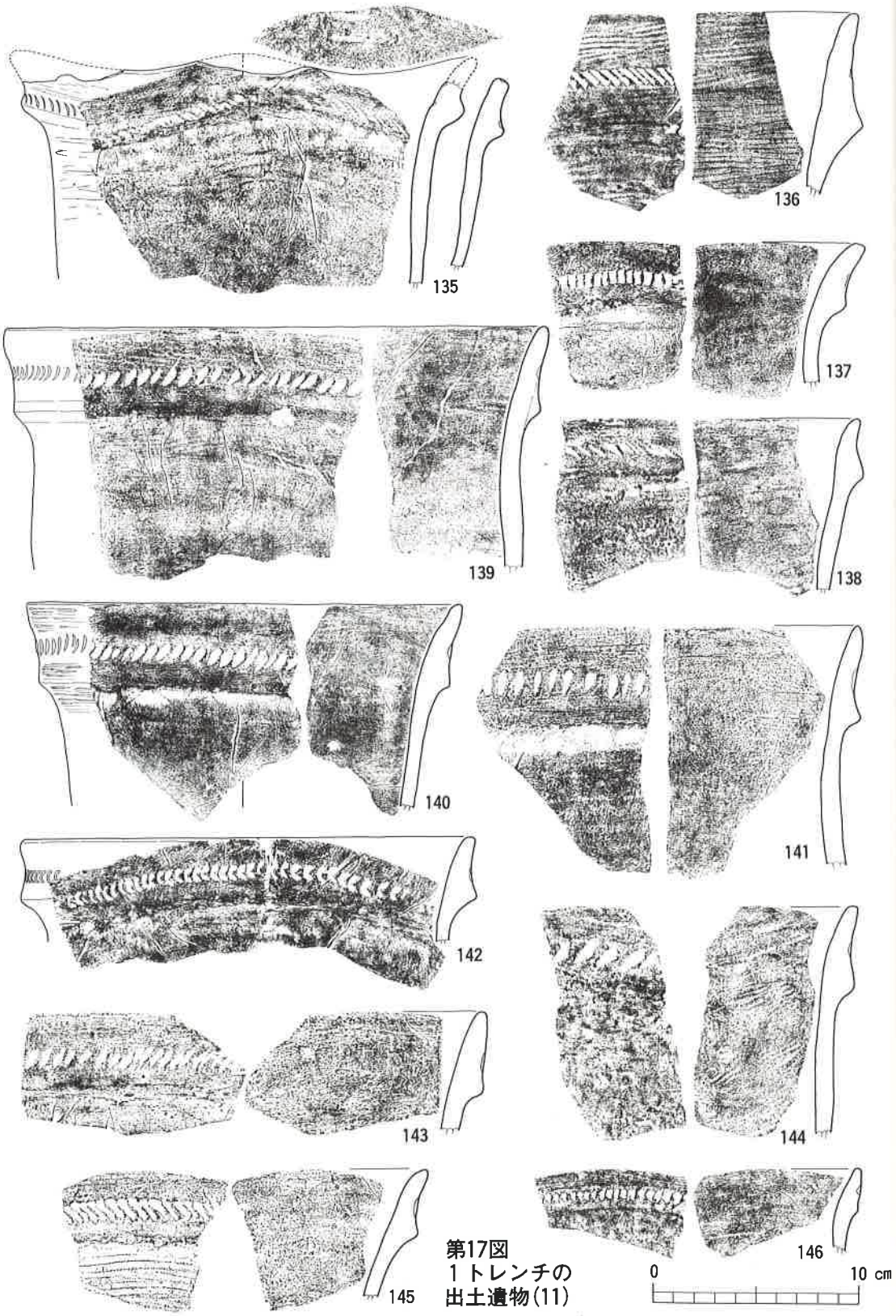
位と横位に組み合わせて施文し，69・72は短い凹線文を斜位・縦位に施文し，74は沈線文で格子文を描き，75は弧線を描くものである。これらはいずれも肥厚口縁を呈するが，基本的には型式が異なることが考えられる。

ニ）Ⅳ類土器（第24図－259～262）

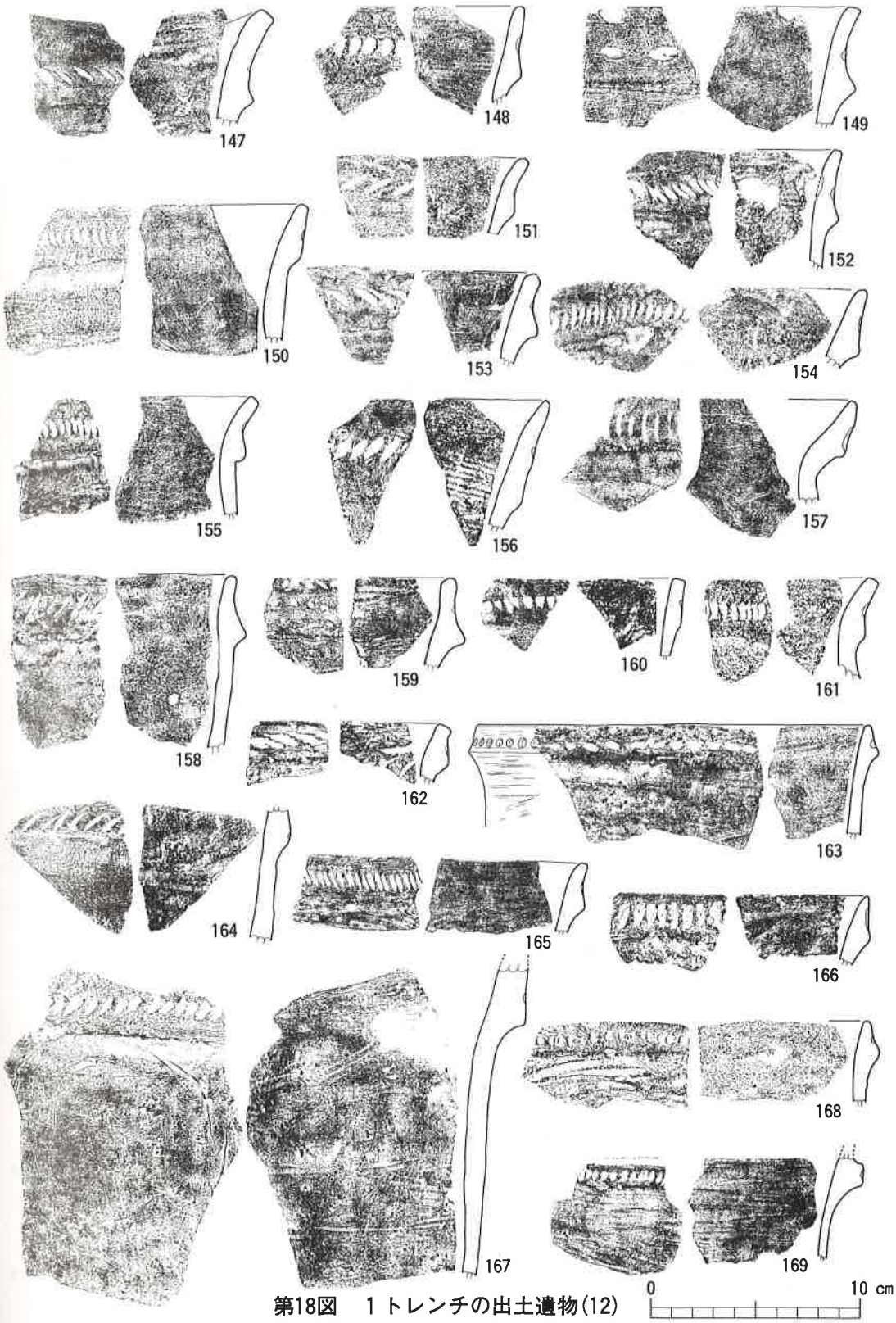
口縁部が逆「く」字に内湾して屈曲し，屈曲部の稜線の上下に貝殻腹縁の刺突文を施文するタイプである。260・261には金雲母が比較的多量に混入されているのは注目される。Ⅳ類土器は量的には少ないが，層位的にはⅥ層以降からの出土である。



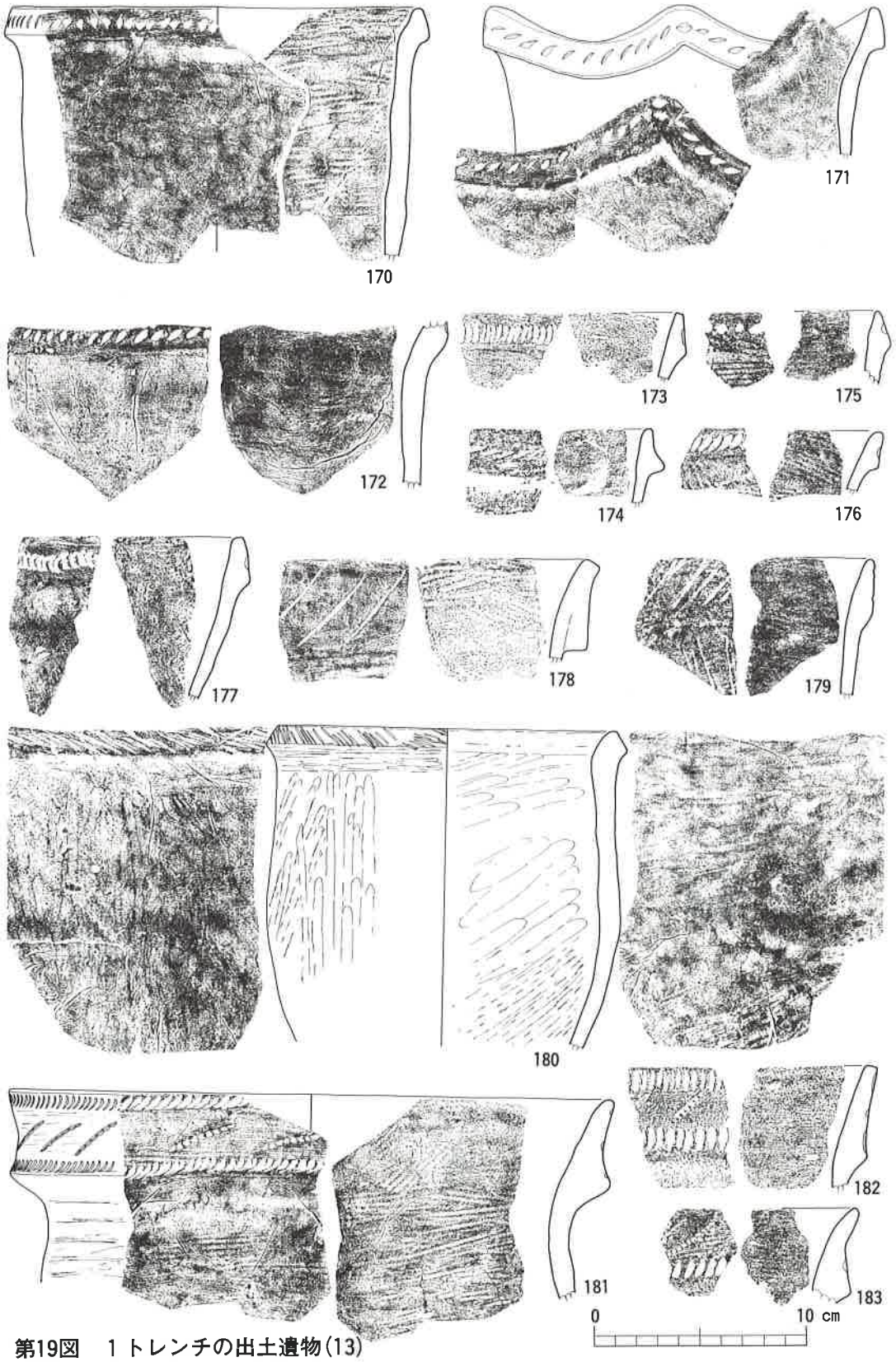
第16図　1トレンチの出土遺物(10)



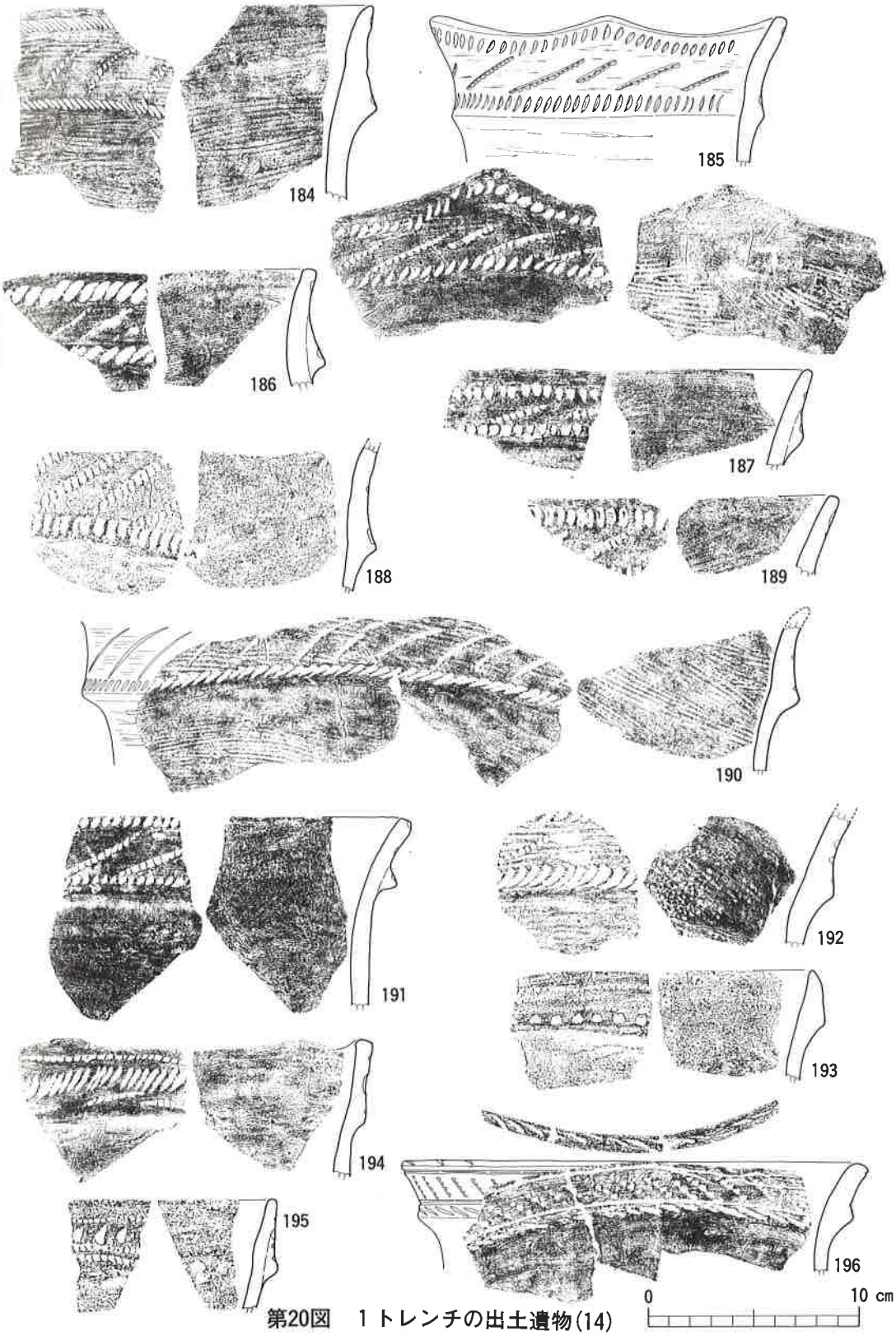
第17図
1トレンチの
出土遺物(11)



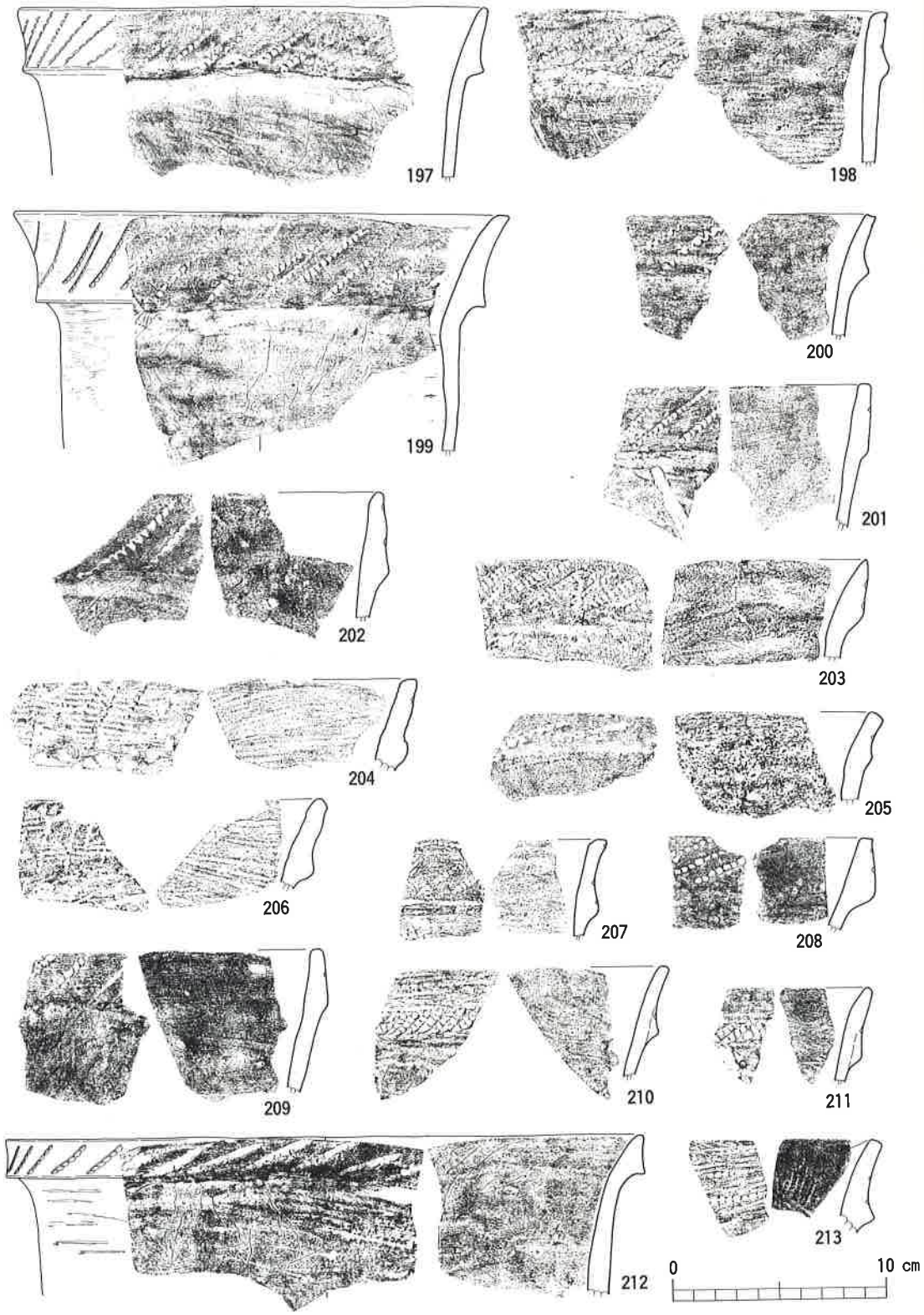
第18図　1トレンチの出土遺物(12)



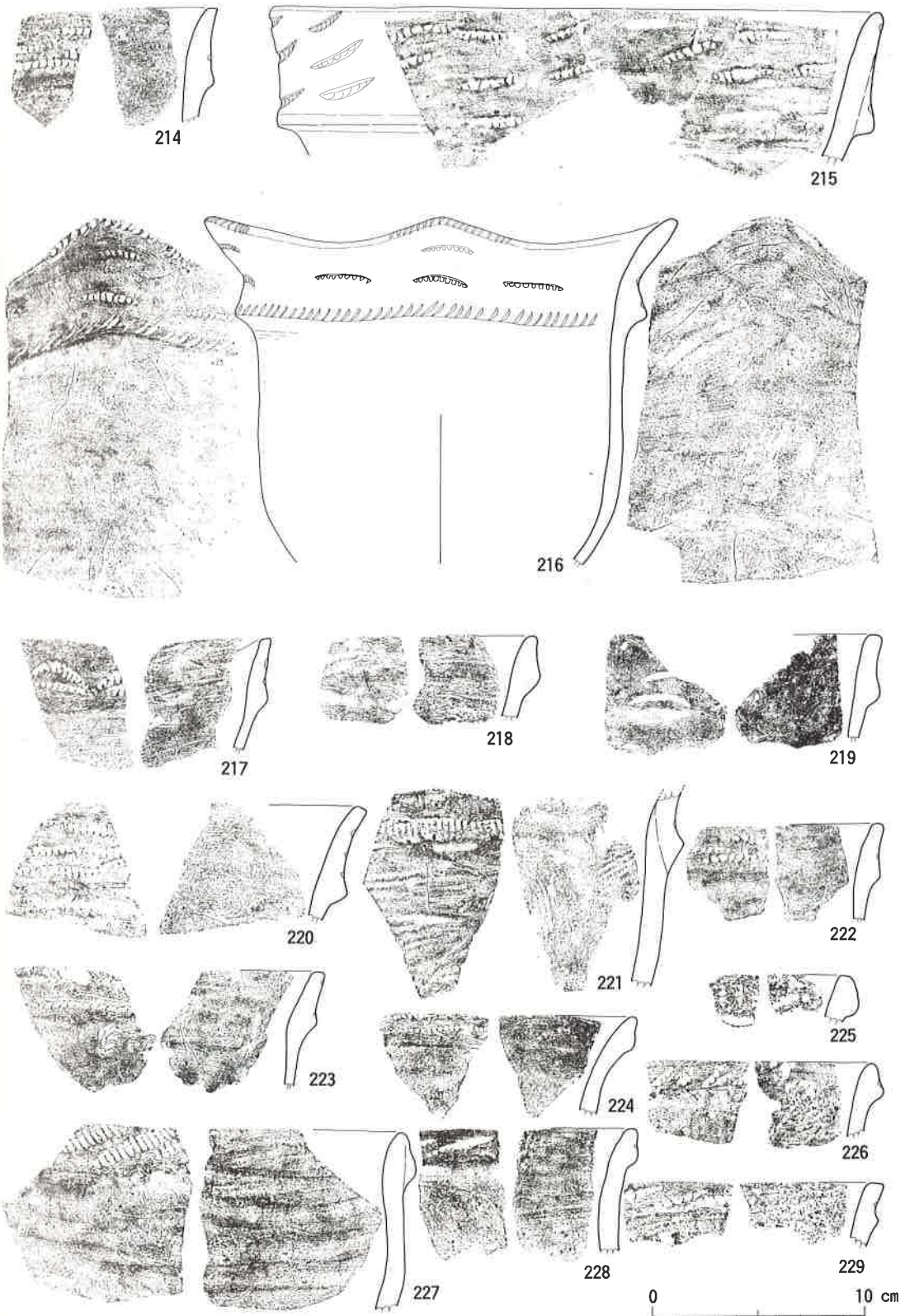
第19図　1トレンチの出土遺物(13)



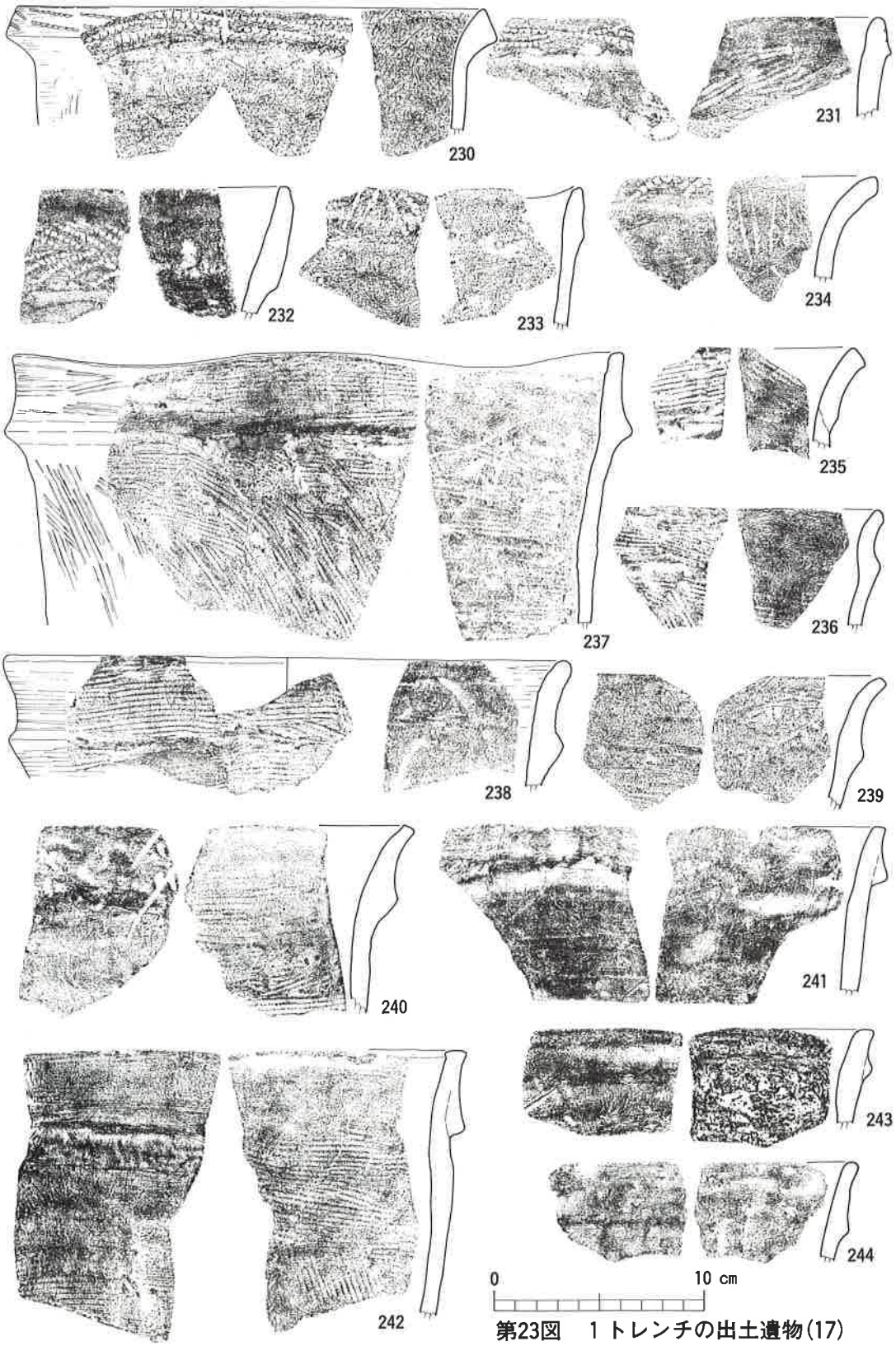
第20図　1トレンチの出土遺物(14)



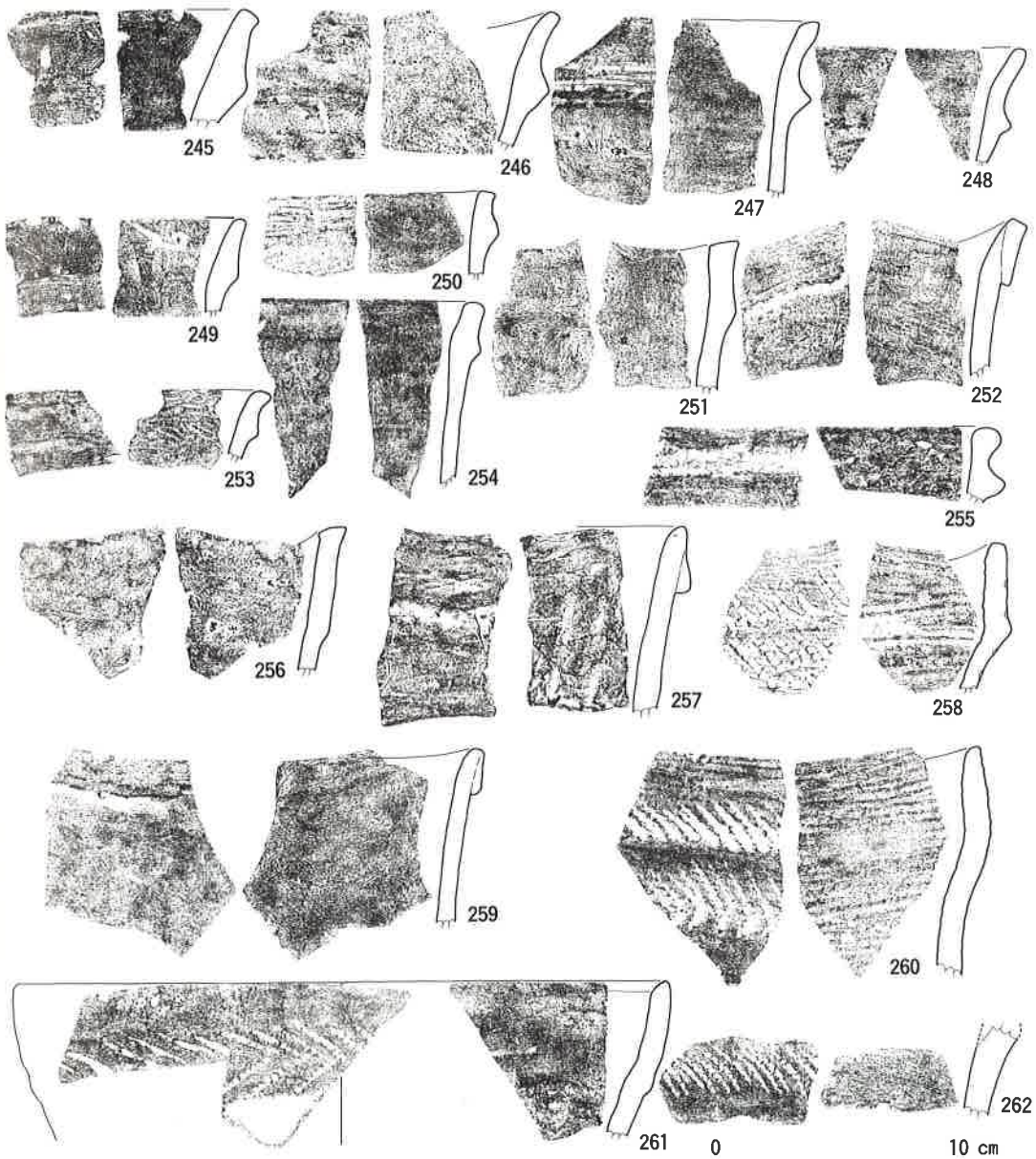
第21図　1トレンチの出土遺物(15)



第22図　1トレンチの出土遺物(16)



第23図　1トレンチの出土遺物(17)

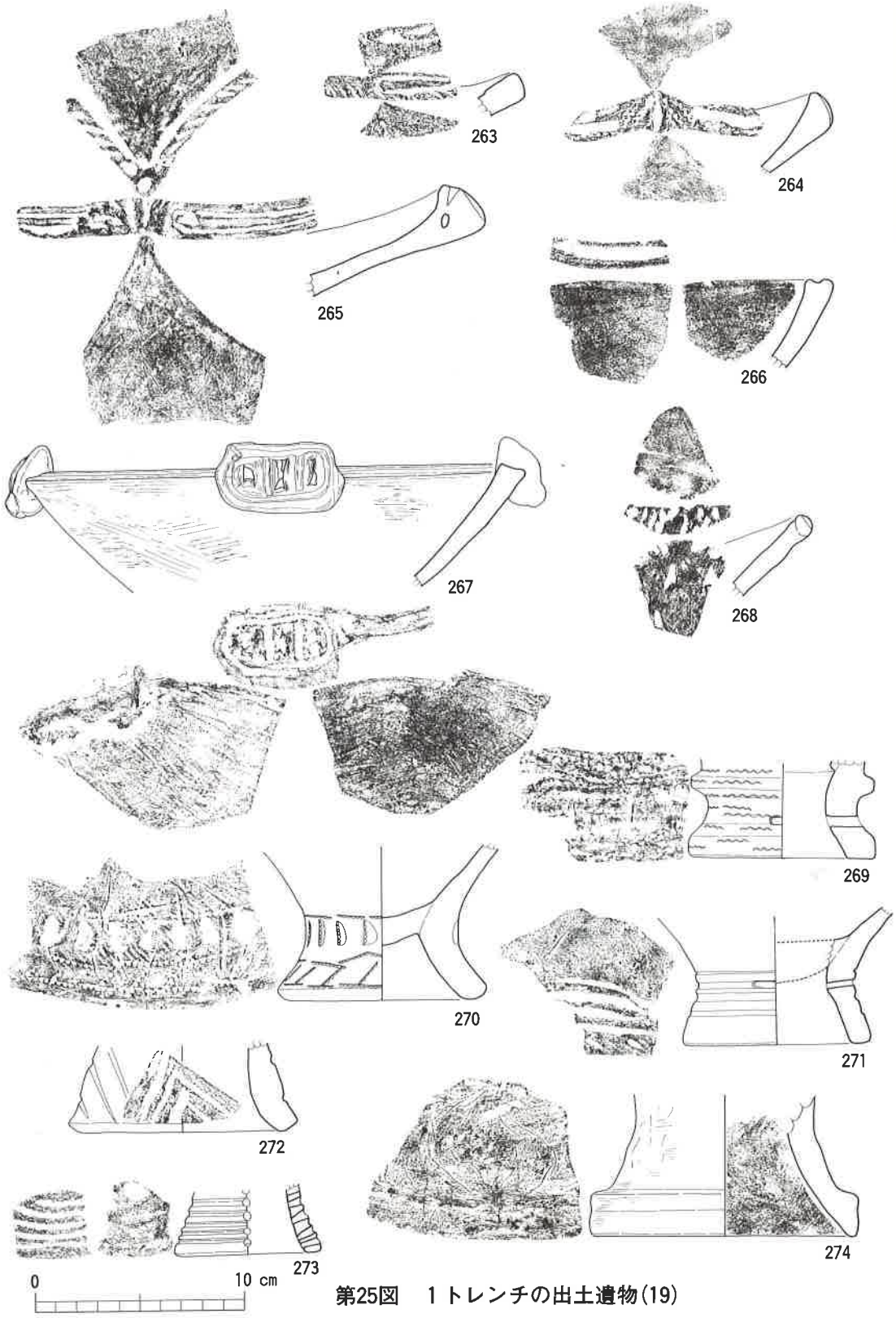


第24図　1トレンチの出土遺物(18)

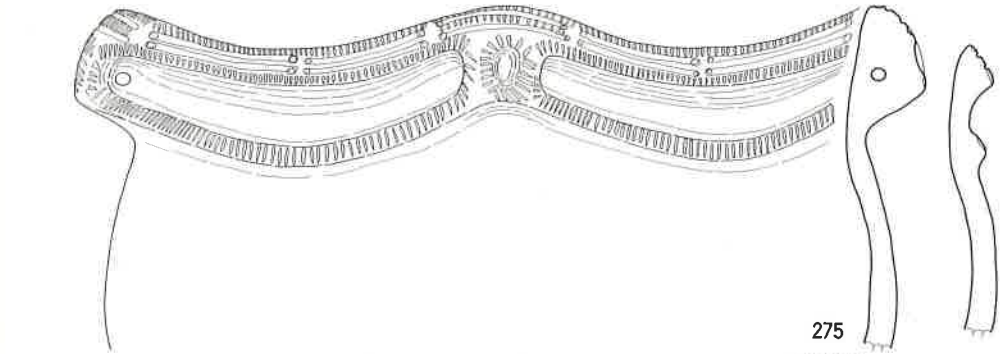
ホ）V類土器（第25図－263～274）

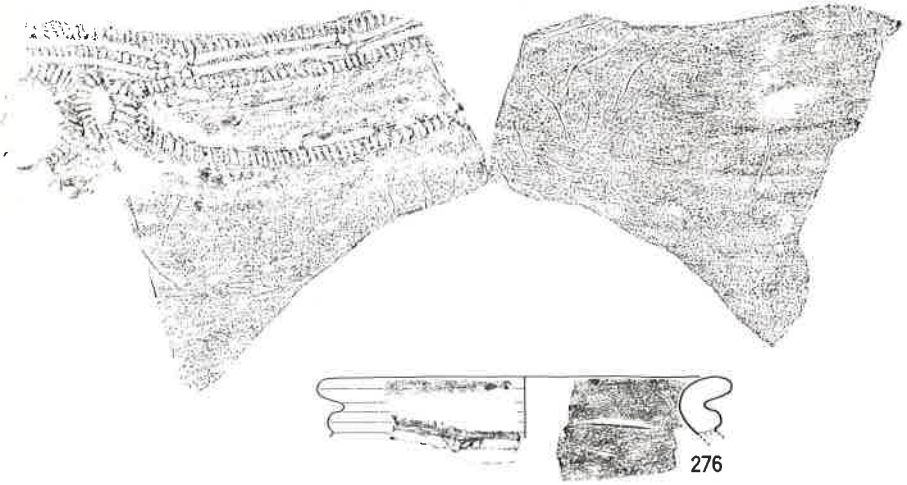
V類土器は，台付皿形土器の器種を一括した。263～268は皿部の破片であり，269～274は台部（脚部）である。263～265はⅣ類の口縁部にみられる文様を使用している。なお，265には赤色の顔料が貼付されている。266は口唇部に凹線文を巡らせ，267は貼付突帯で突起部をつくる珍しいタイプの装飾皿部である。

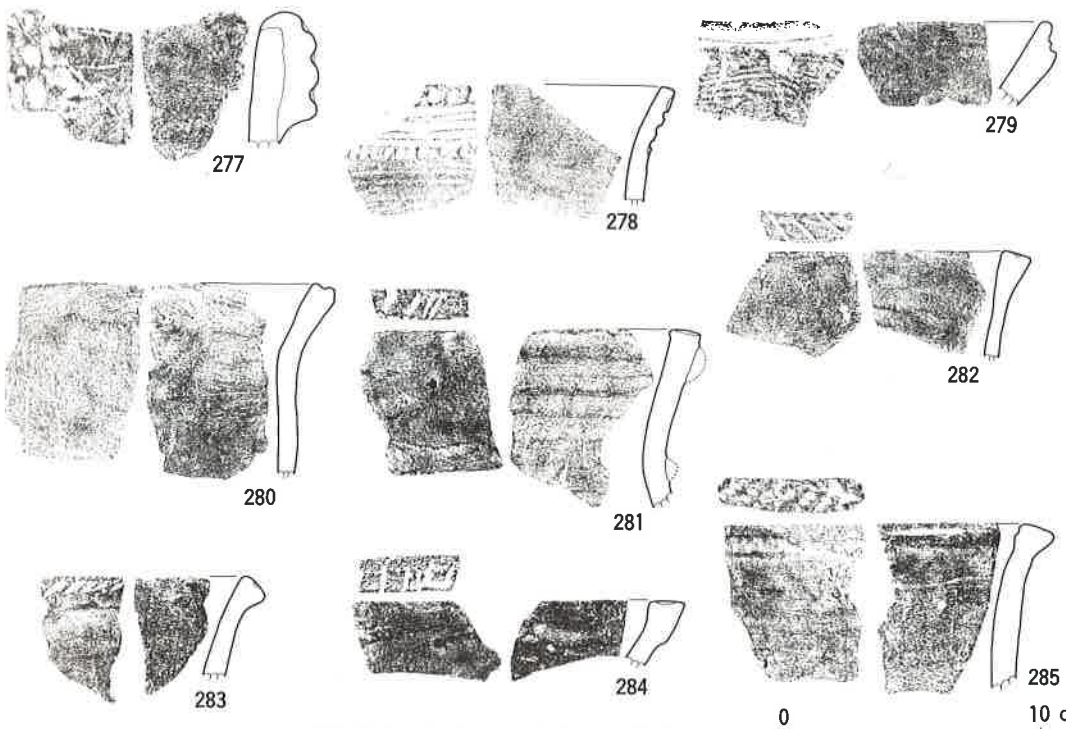
269～274は，台部（脚部）である。269・270は貝殻腹縁刺突文で文様が施され，269・271・273は透かし穴が施される装飾脚部である。



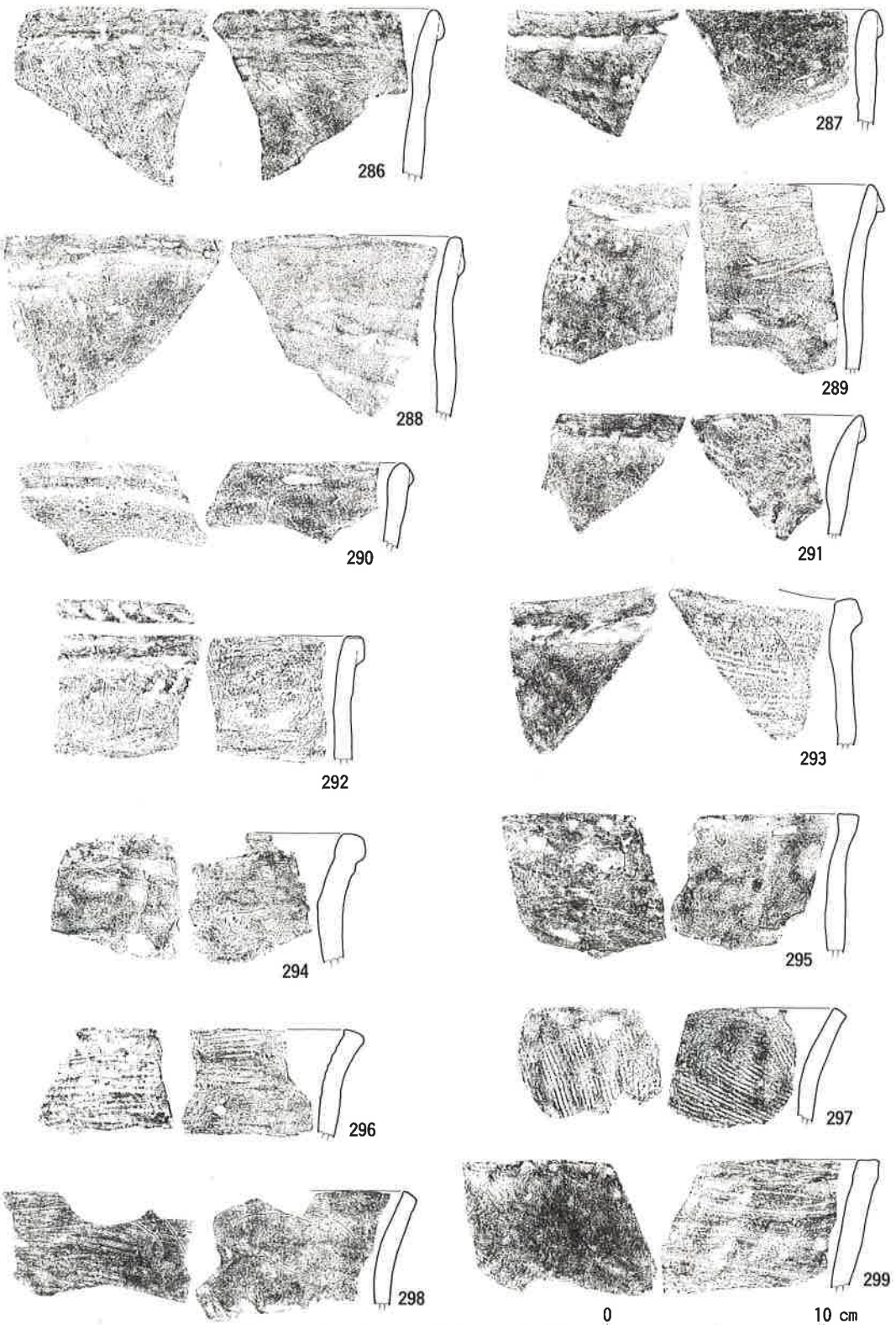
第25図　1トレンチの出土遺物(19)







第26図　1トレンチの出土遺物(20)



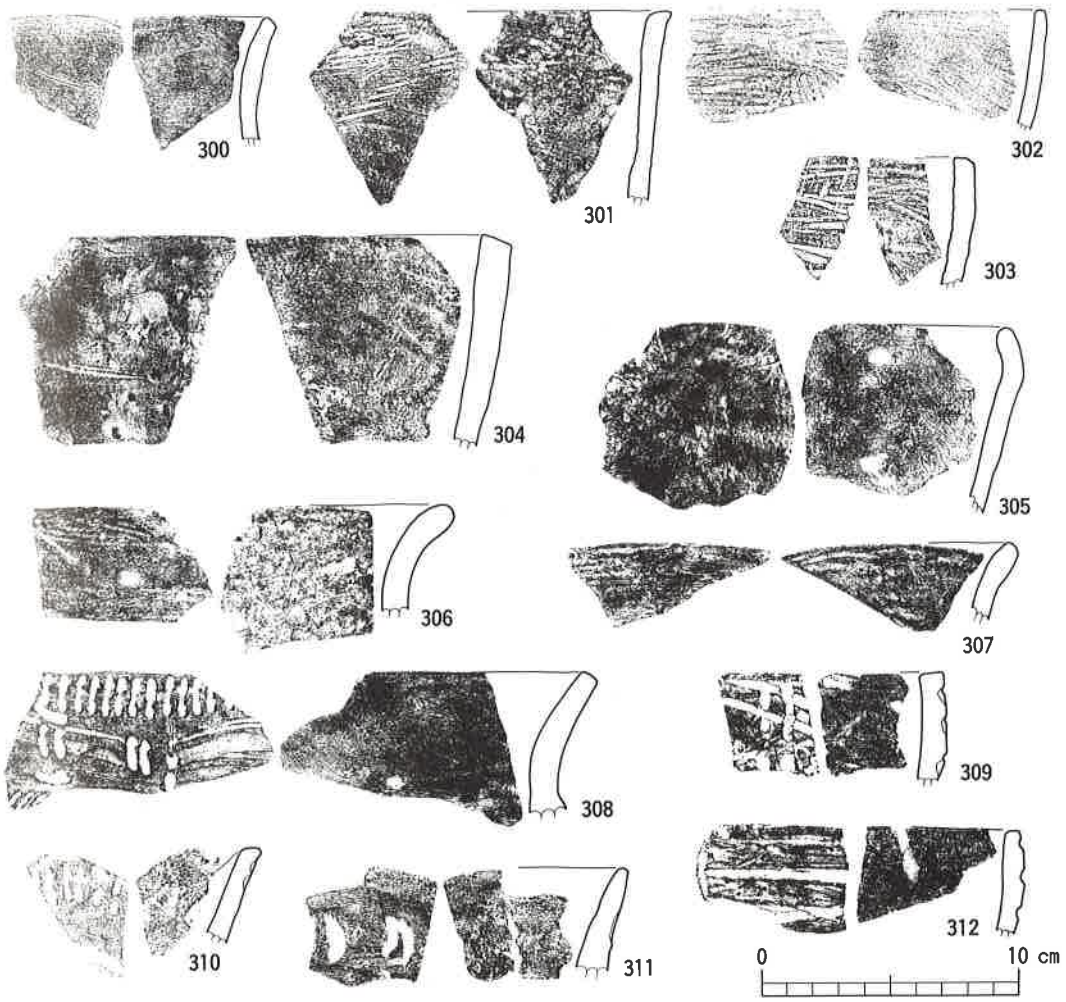
第27図　1トレンチの出土遺物(21)

へ）Ⅵ類土器（第26図～第28図－275～312）

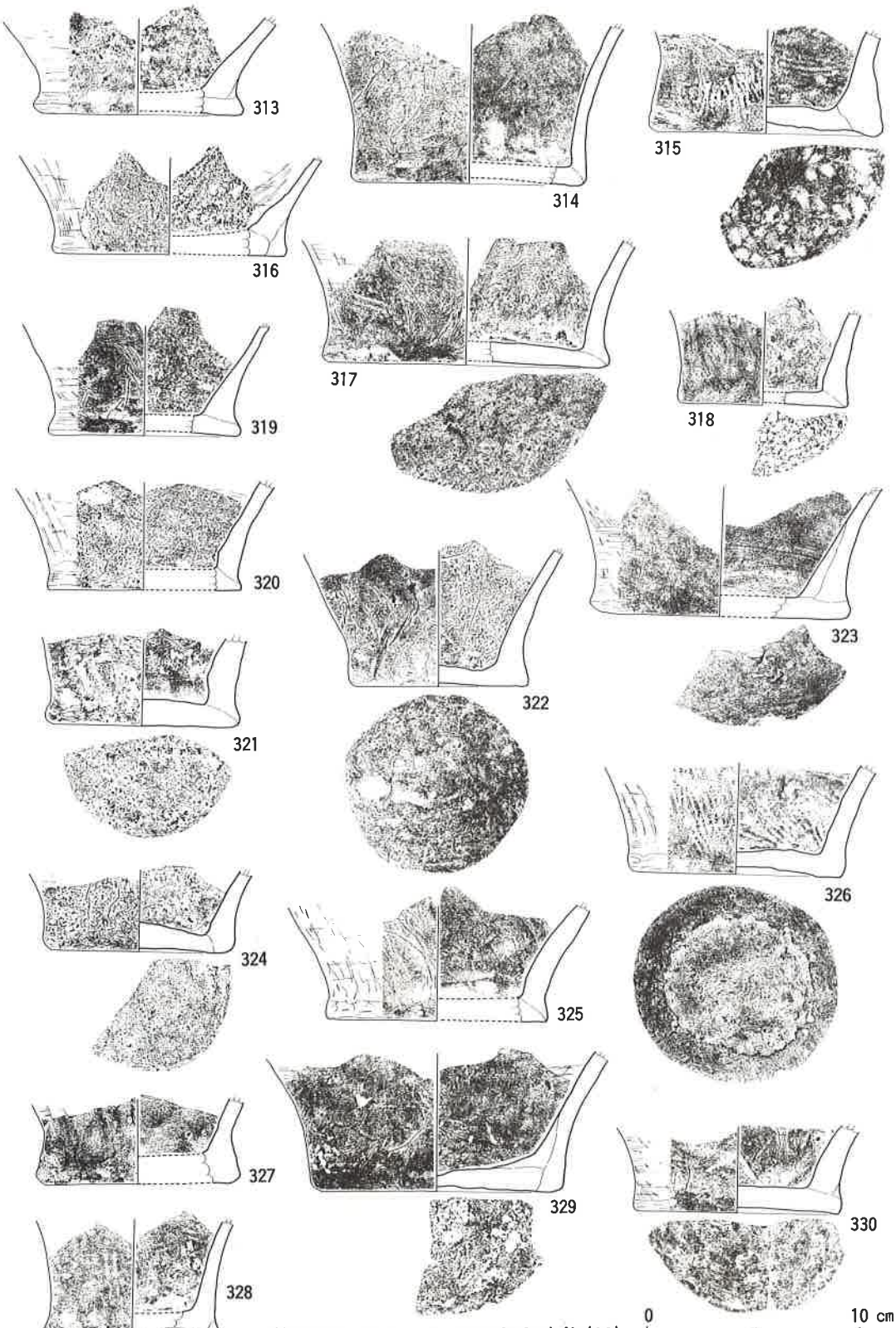
Ⅵ類土器は，型式不明な土器を一括した。器形・文様がそれぞれ異なるタイプである。

275は口唇部を拡張して二条の凹線文の両脇に刻目を巡らせ，口縁部下には刻目を施した突帯文を巡らせて文様帯とする。波頂部では両方が連なり橋状把手をつくる。文様の施文や器面整形は丁寧であり，在地系土器にはみられないタイプである。Ⅶ層の純貝層中の出土である。276は，丸みをもった突帯文の壺状を呈する口縁部である。277は突起部で，278は外向する口縁外面に凹線文と刺突文を施す。280～285は口唇部を拡張させ，その拡張口唇部にヘラ状の施文具で刻目を施す。285は貝殻腹縁で刺突文を施文する。281の口縁外面には，突帯文の剝離痕が二段みられる。286～294は，口縁端部を突帯状に僅かに肥厚させるタイプである。

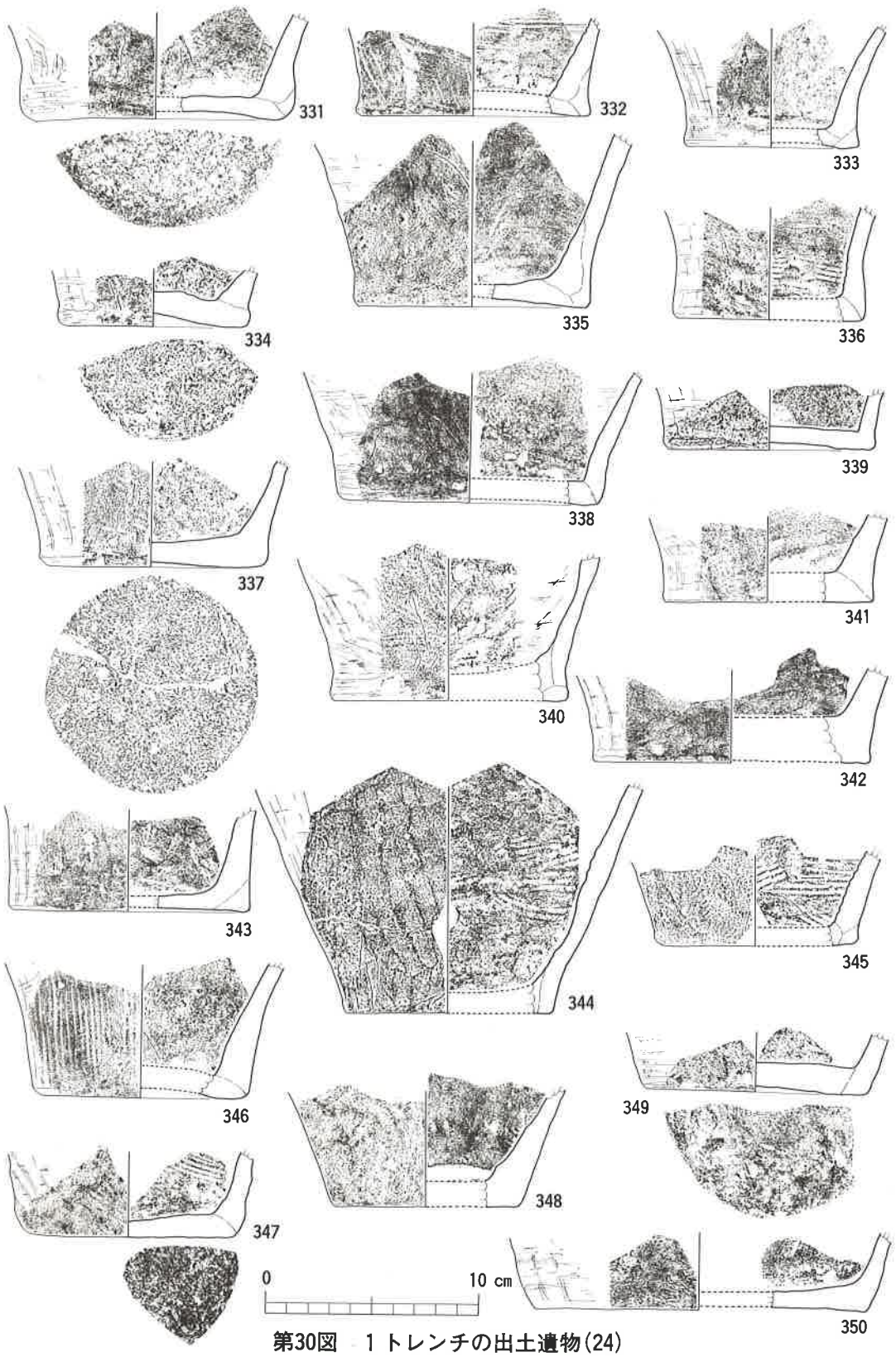
296～304は口唇部を平坦に仕上げるタイプである。305～307は口唇部を丸くおさめるが，305



第28図　1トレンチの出土遺物(22)



第29図　1トレンチの出土遺物(23)



第30図　1トレンチの出土遺物(24)

のように口縁部が内向するものと外向するものがある。308～310は，短凹線文を縦位・横位に施文して文様を構成するタイプである。

ト）Ⅶ類土器（第29図・第30図－313～350）

Ⅶ類土器は，研磨仕上げ以外の底部を一括した。Ⅰ類～Ⅵ類土器に属する底部と考えられる。底部には特徴的な差異は見られないが，底部側面の接地面が張り出すものと直線的に立ち上がるものがある。331～339のように若干上げ底を呈するものもある。細片のため不明なものが多いが，底面には網代などの圧痕はみられない。

チ）Ⅷ類土器（第31図～第34図－351～406）

Ⅷ類土器は，研磨土器で磨消縄文系の土器を一括した。文様の特徴や形態からａ～ｄの四つに細分される。

Ⅷａ類土器（351・352）

外反する口縁部下端に稜をつくり，そこから上部へ文様を施し口縁文様帯とする。胴部中ほどで屈曲し，屈曲部から肩部にかけて文様を施す。胴部文様は，凹線文で渦文・弧文・直線で構成し，その間に縄文を施す。

Ⅷｂ類土器（353・377）

器形や文様のバリェーションは豊富であるが，形態的な特徴に共通性がみられるところから包括して同類とした。353～362は口縁部付近である。胴部から内湾してそのまま口縁部となる。口唇部は外方に若干拡張して平坦面を作り，平坦面に凹線文や刻目で文様を施文する。360のように橋状の把手をつくるものもある。364の内湾して口唇部を丸くおさめるものや365・366のように若干外反するものもここに含めた。胴部文様は，凹線文で鋸歯文や菱形文や懸垂渦文を描きその間に縄文を施す。

Ⅷｃ類土器（378・386）

口縁部がカマボコ状に丸みをもって肥厚し，その面に平行凹線文と縄文を施文する。386のように，沈線文化するものもある。

Ⅷｄ類土器（387～403）

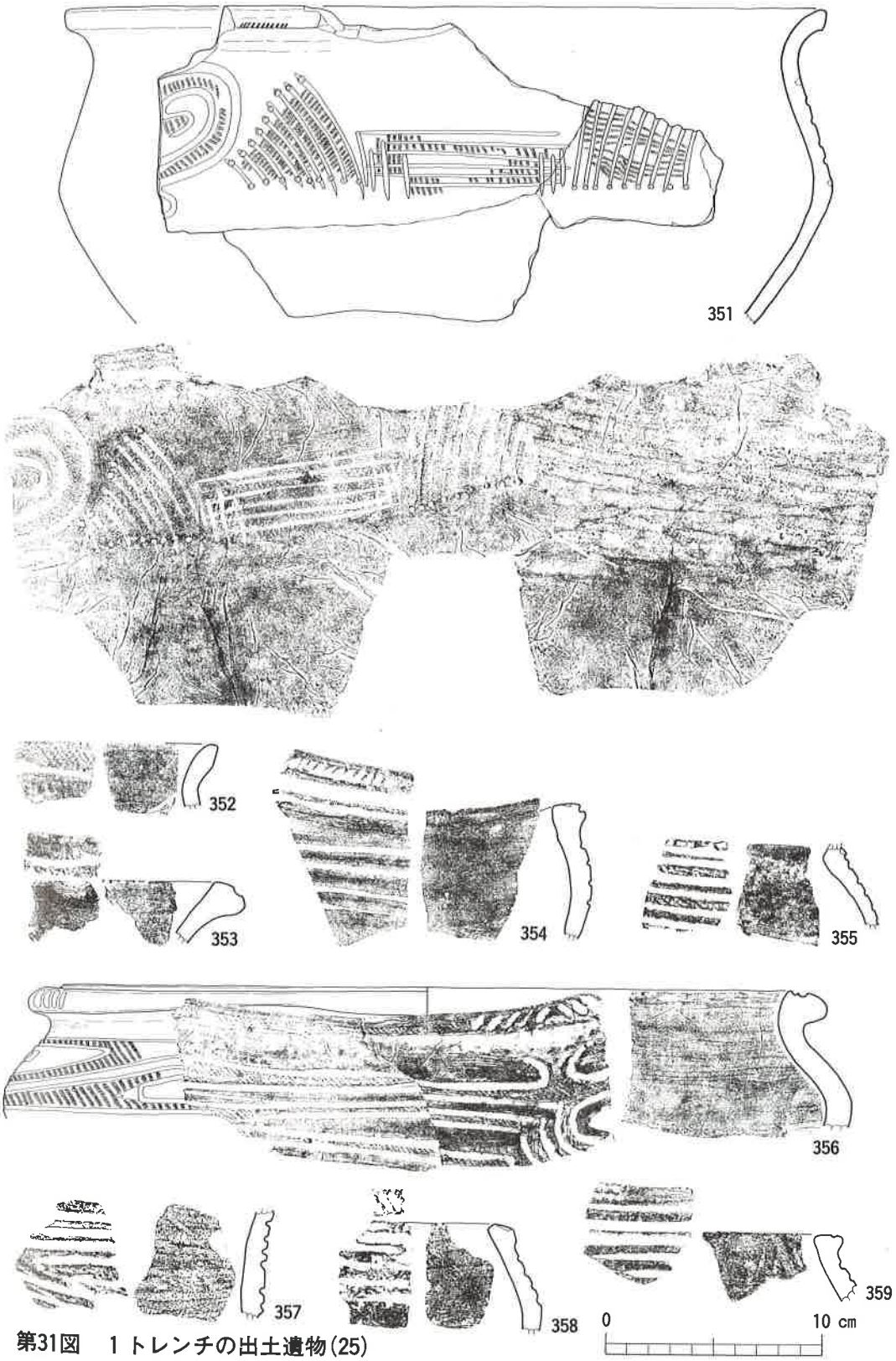
口縁端部を上下に拡張して口縁帯をつくり，明瞭な細沈線文と丁寧な縄文を施して文様帯をつくる。波状口縁をなすもので，波頂部は拡張部がさらに広くなる。

404～406は内外面とも丁寧な研磨仕上げである。平底（404・405）と上げ底（406）がある。磨消縄文系土器の底部である。

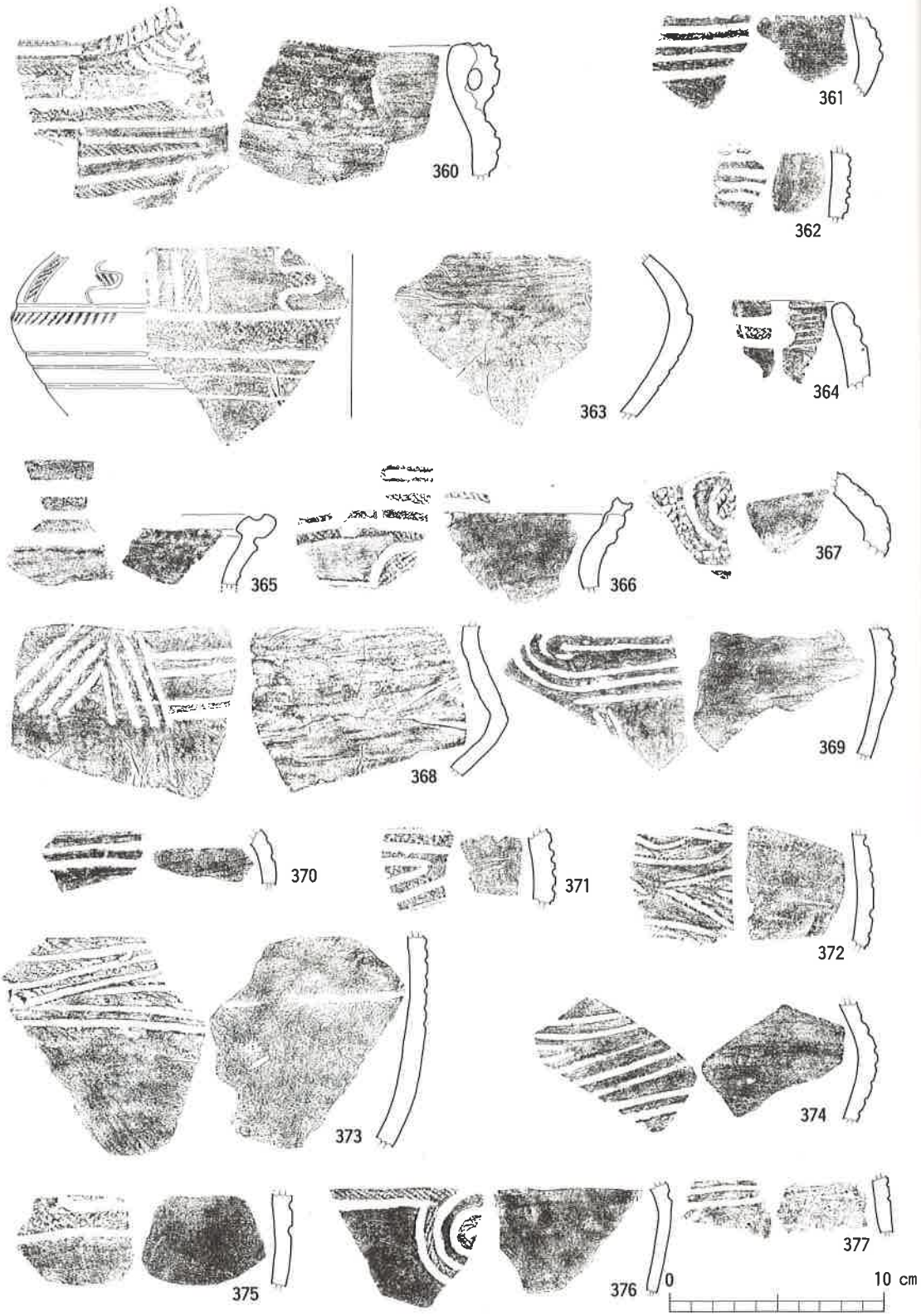
リ）Ⅸ類土器（第35図－407～414）

肥厚口縁の形態はⅢ類土器に類似するが，胎土や色調や文様などの特徴からⅧ類土器の影響が考えられる一群で，あえてⅨ類土器として類別した。

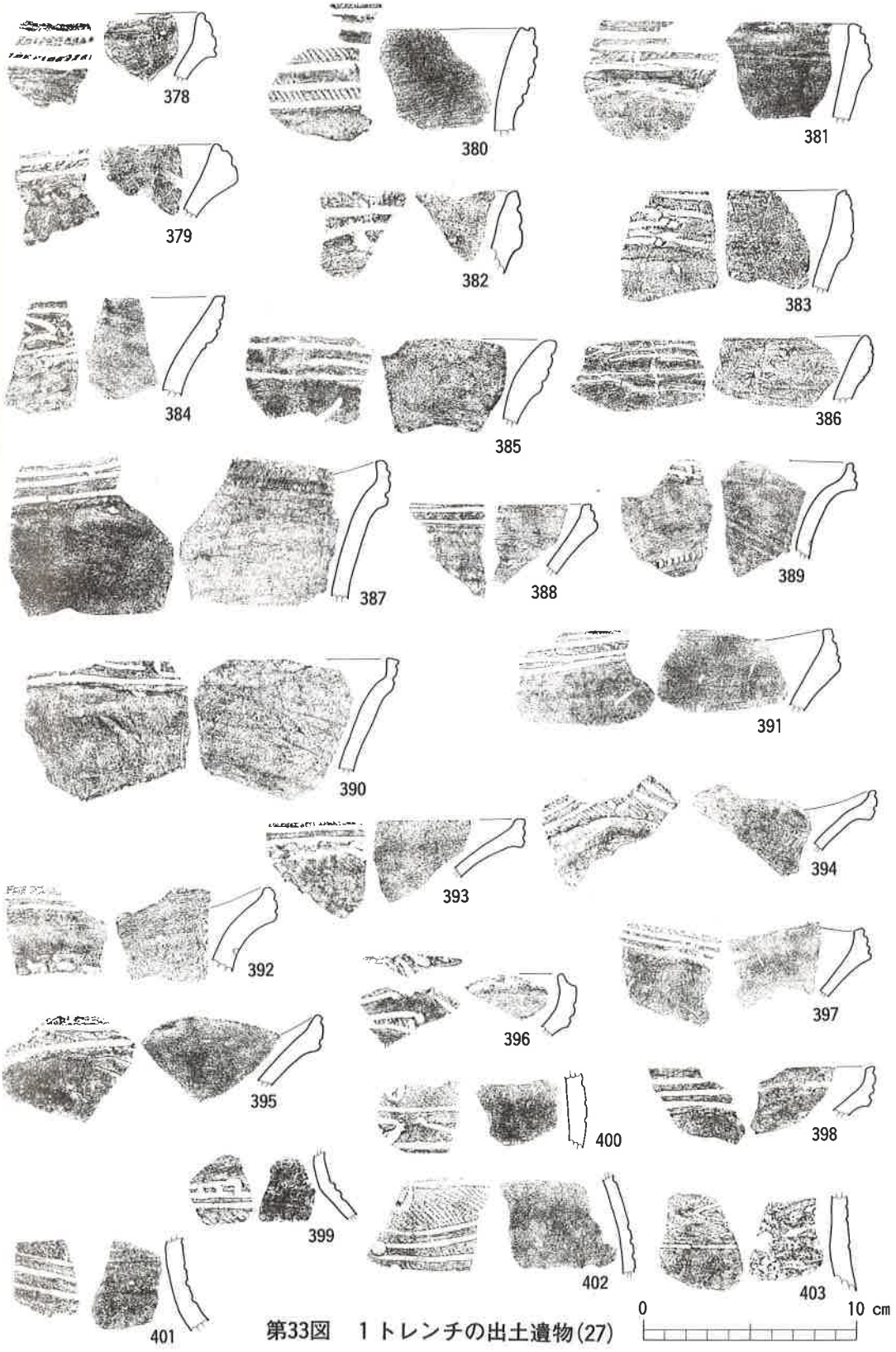
基本的には口縁部を肥厚させ，口縁端部は大きな山形波状の口縁を呈する。407・408は凹線文間に貝殻腹縁刺突文を施す。408には渦文も描かれる。409は胴部片であるが，肩部にヘラ状の刻目が施される。414はカマボコ状の肥厚口縁で突起部を持つものである。



第31図　1トレンチの出土遺物(25)



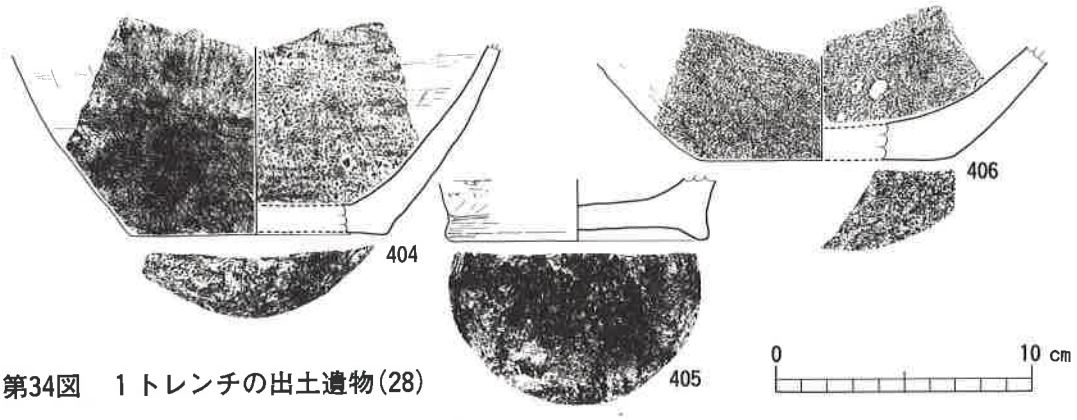
第32図　1トレンチの出土遺物(26)



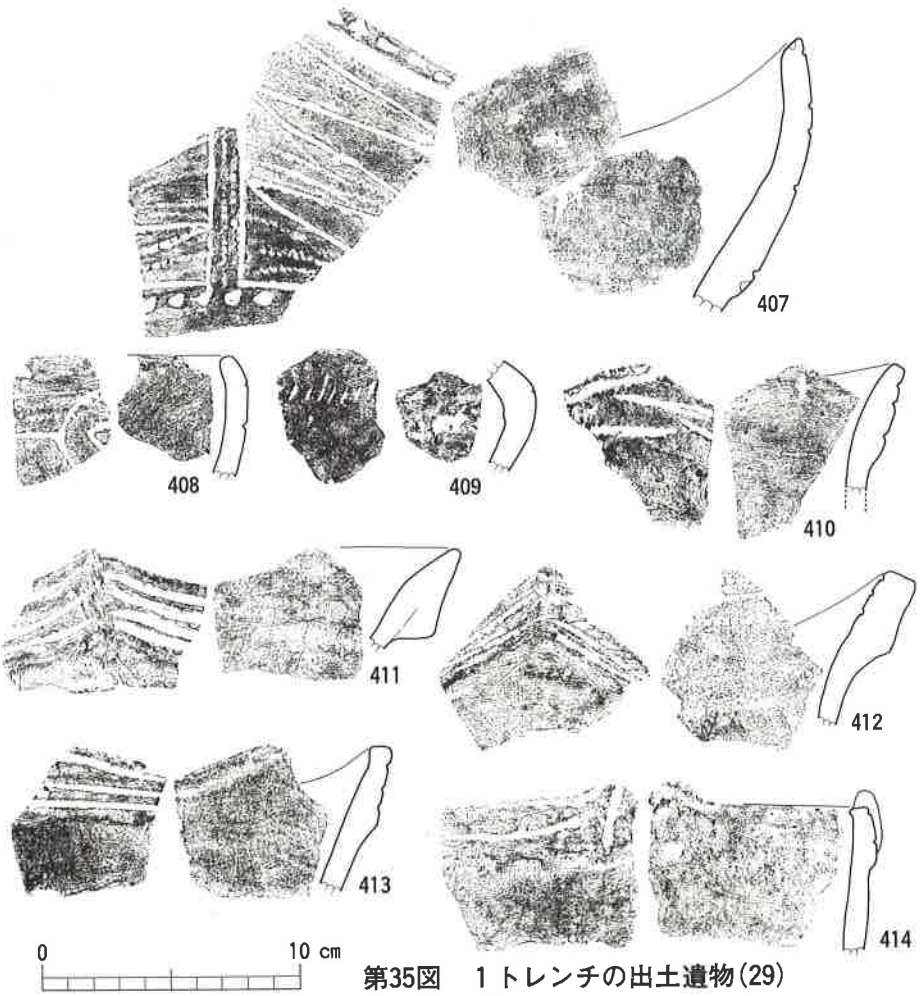
第33図　1トレンチの出土遺物(27)

② **土製加工品**（第36図・第37図－415～449）

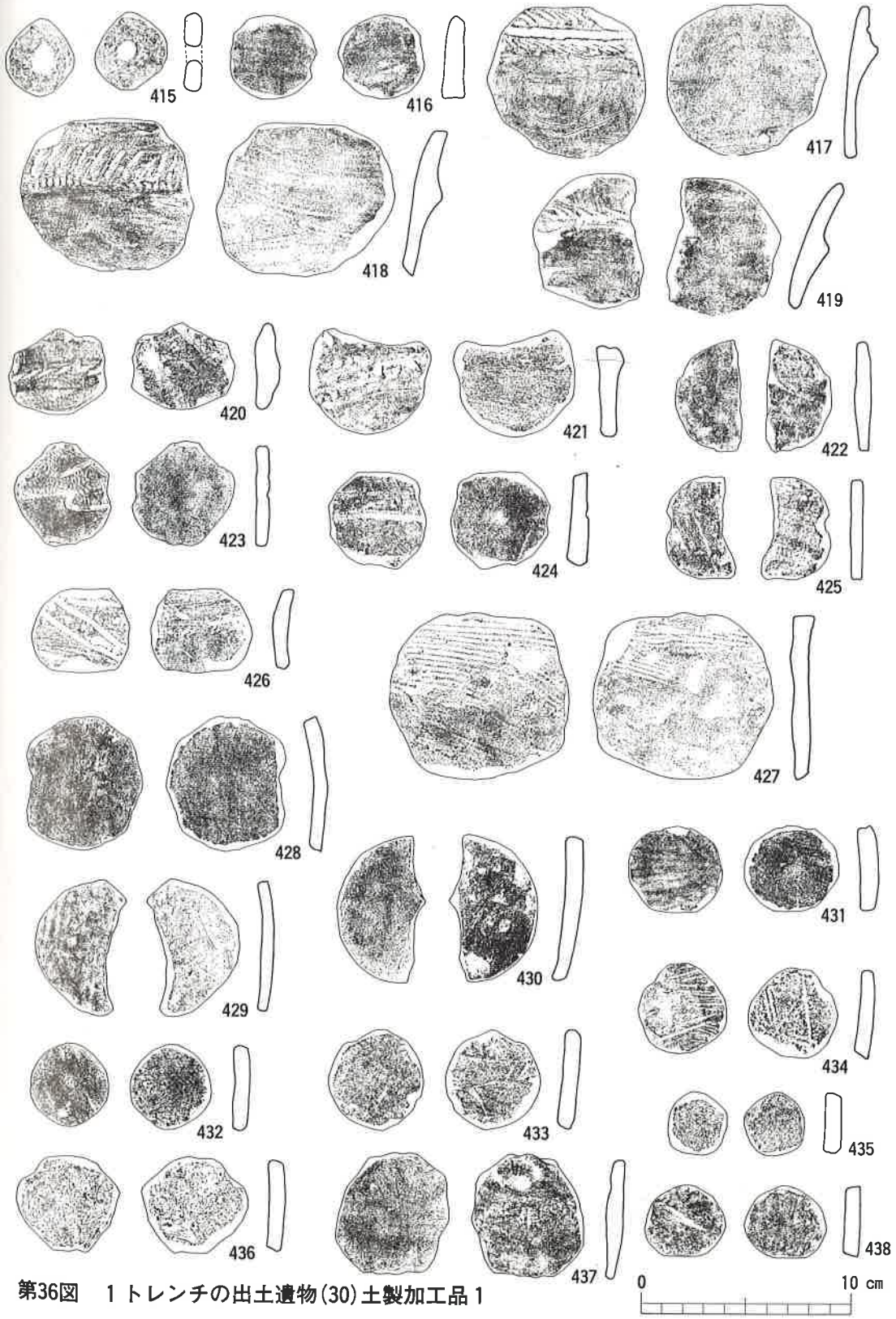
土器片を円盤状に意図的に加工したものを土製加工品とした。土製加工品は総数35個の出土である。穿孔のあるものが1個，口縁部片を利用したものが6個，底部片が3個で，他は胴部



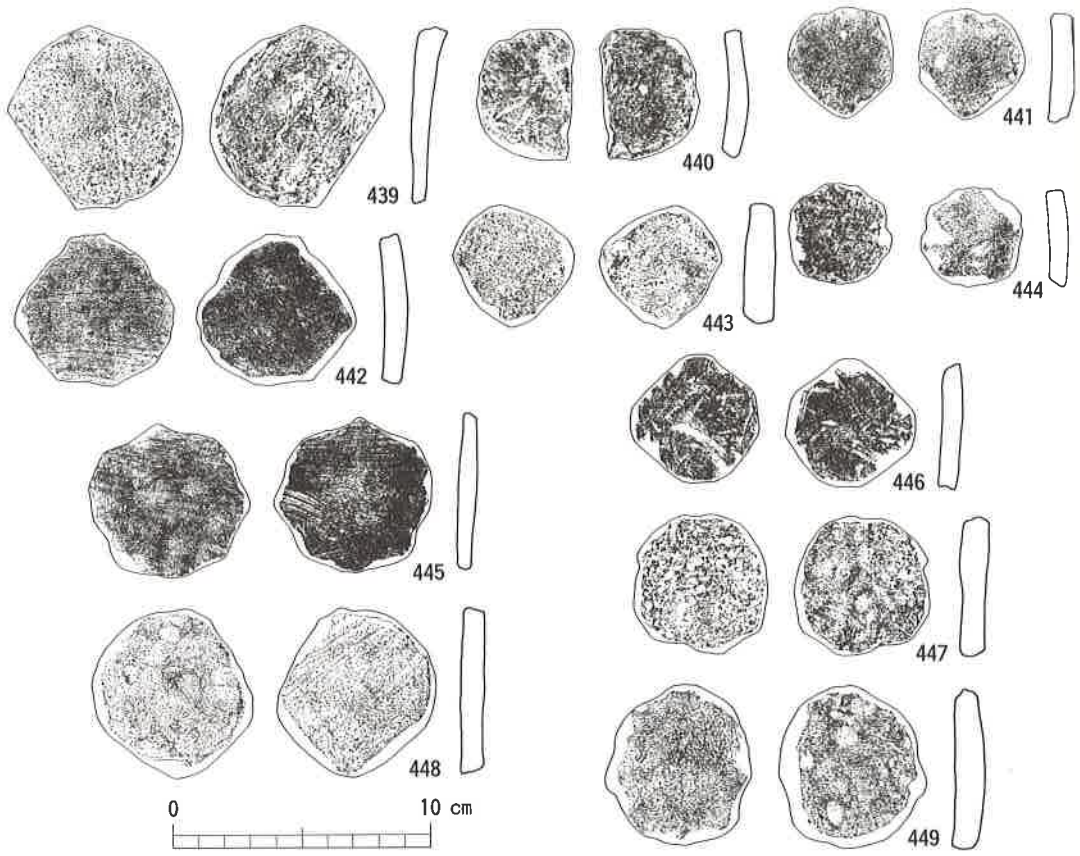
第34図　1トレンチの出土遺物(28)



第35図　1トレンチの出土遺物(29)



第36図　1トレンチの出土遺物(30)土製加工品1

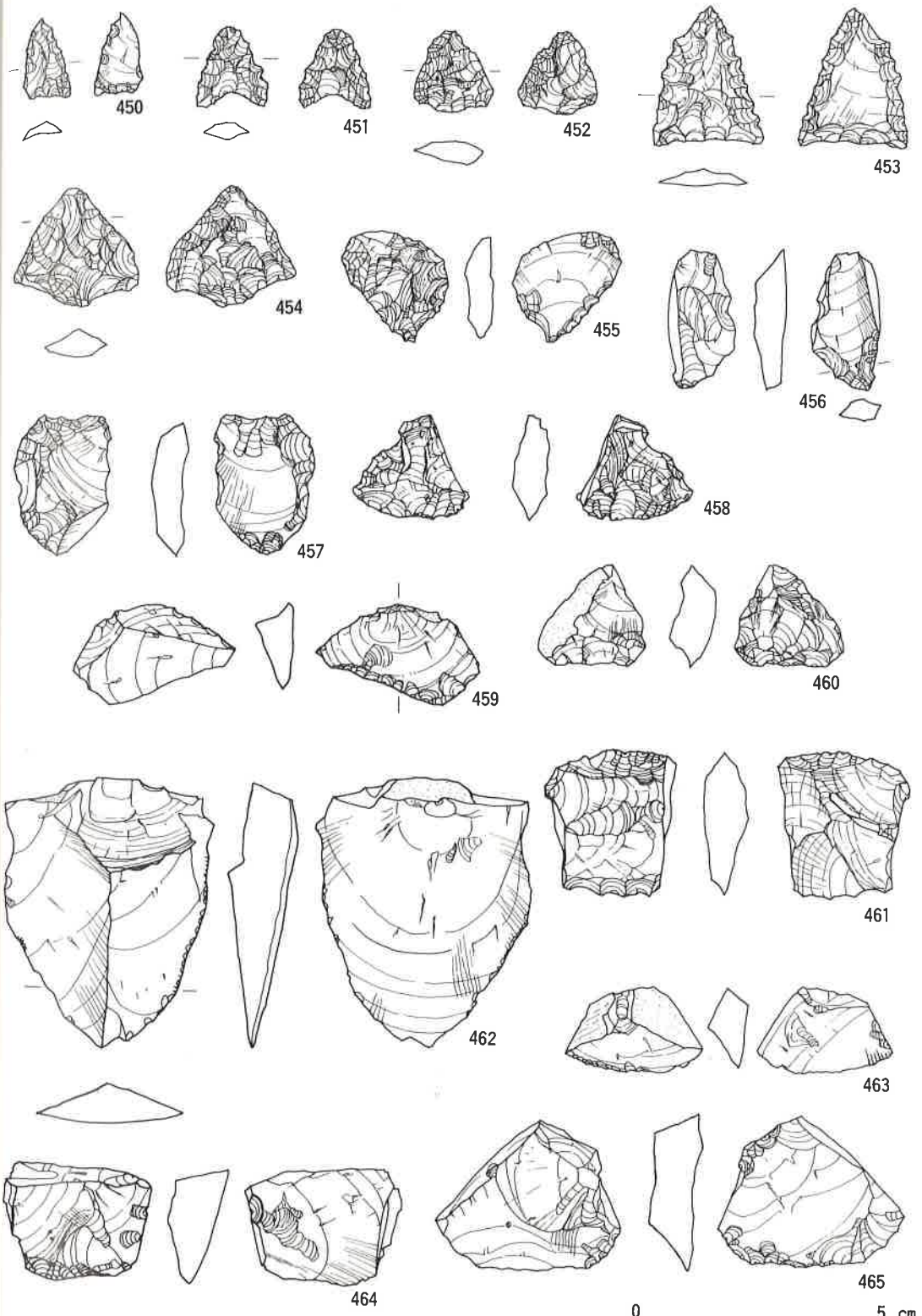


第37図　1トレンチの出土遺物(31)土製加工品2

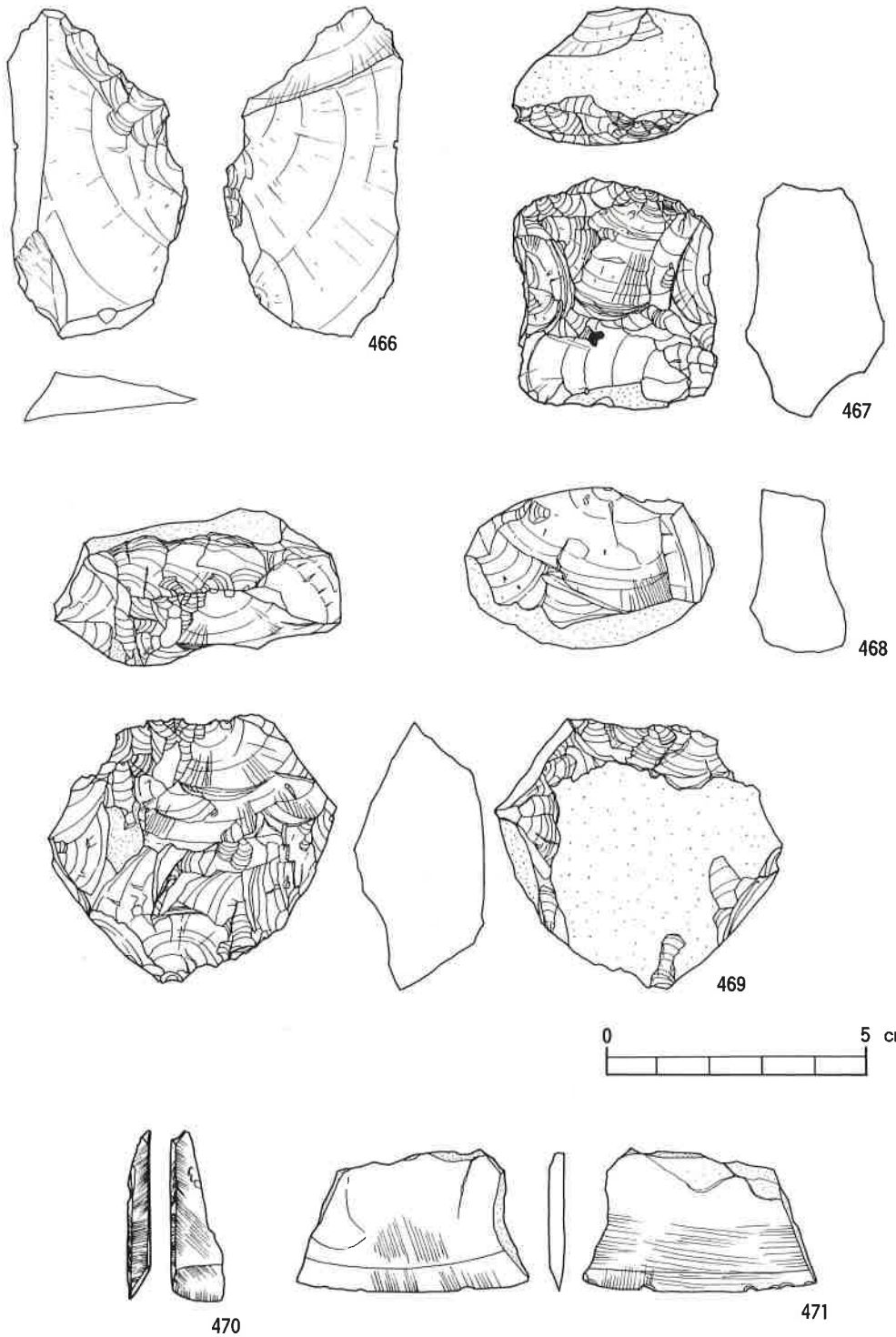
片を利用したものである。このように土製加工品は，口縁部，胴部，底部と各部位を使用している。土製加工品の最大のものは427で径8.5cmを測り，最小は415で径3.4cmを測る。429～434は円盤の外周を丁寧に面取りした仕上げが観察されるが，他は比較的雑な加工仕上げがみられる。417～421はⅢ類土器の口縁部を使用し，423と426は平行沈線文間に貝殻腹縁の押引文や刺突文を施文したものでⅡ類土器に近いタイプのものである。

③　**石器**（第38図～第40図－450～479）

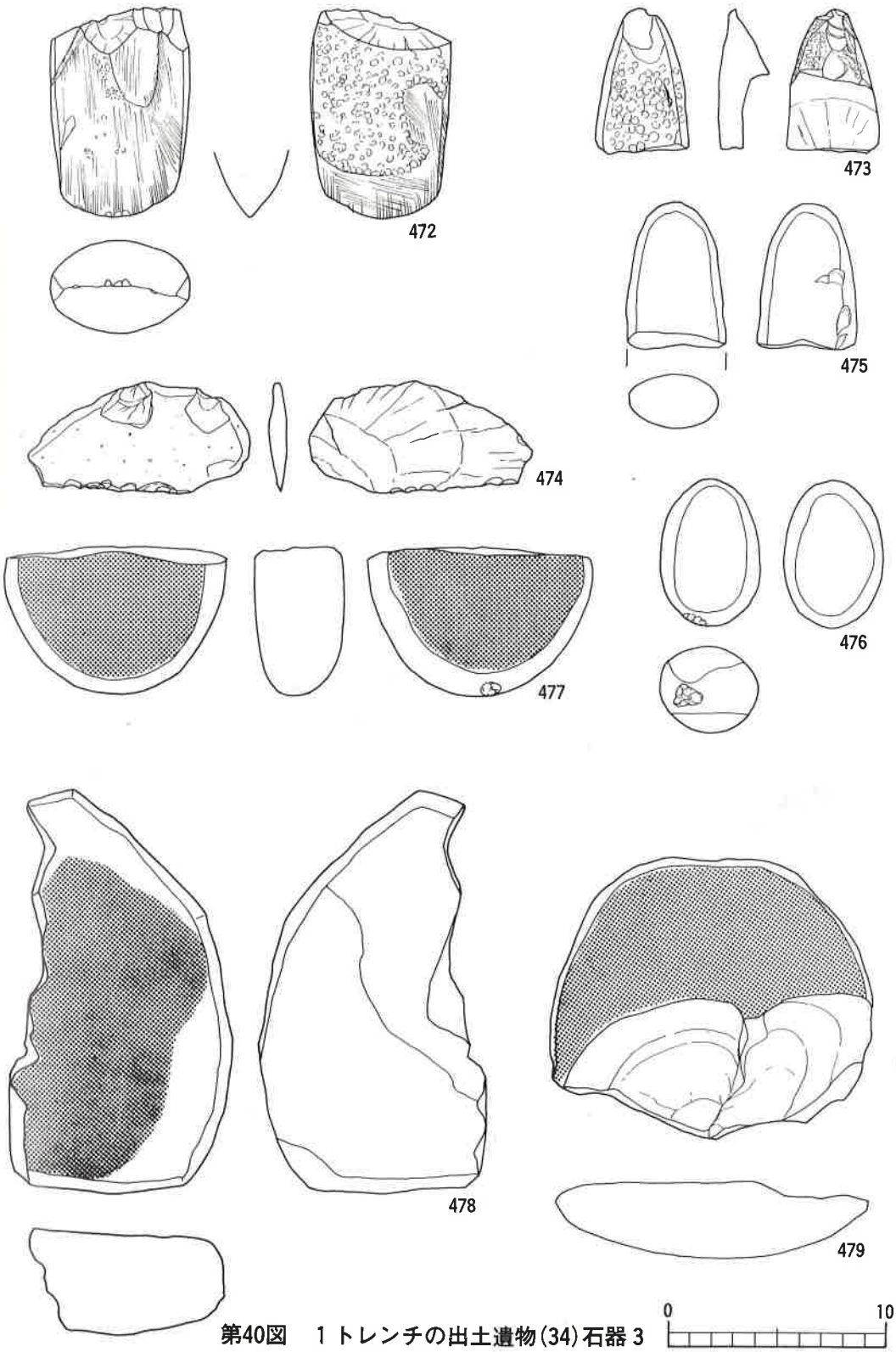
450～454は，石鏃である。450は，剥離面を残す。454は未製品と判断したが，有茎の石鏃の可能性もある。457は楔形石器で，主要剥離面側の上下に使用痕が観察できる。458は刃部と抉りがあり，石匙で一部欠損している。459・465は主要剥離面側に刃部の調整痕が見られる。467～469は石核で，いずれも礫面を残す。467は，周縁から順次剥片剥離を行っている。468は，礫の一方から剥片を得ており打面の調整はなされていない。469は打面を調整し，下部を固定して剥片を得ている。471は撹乱層からの出土であるが，板状で刃部がゆるやかに湾曲し，全面に擦痕が観察される。弥生時代の遺物が僅かではあるが出土しており，北側の谷底平野がかつては低湿地で，初期稲作に適していたと考えられ，石庖丁の可能性がある。472・473は磨製石斧の破損品である。両方とも細かい敲打があり，472は破損面が磨られており再利用された



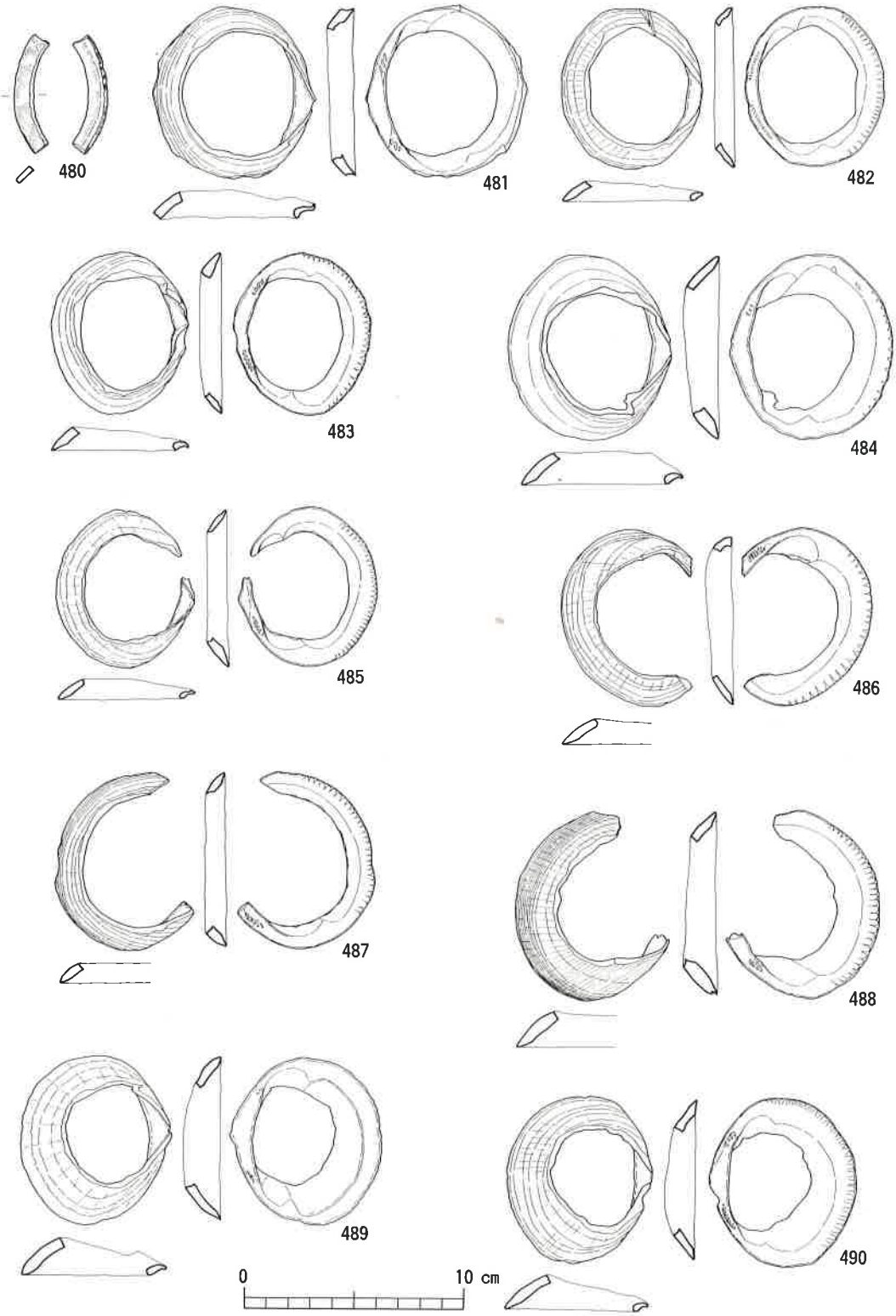
第38図　1トレンチの出土遺物(32)石器1



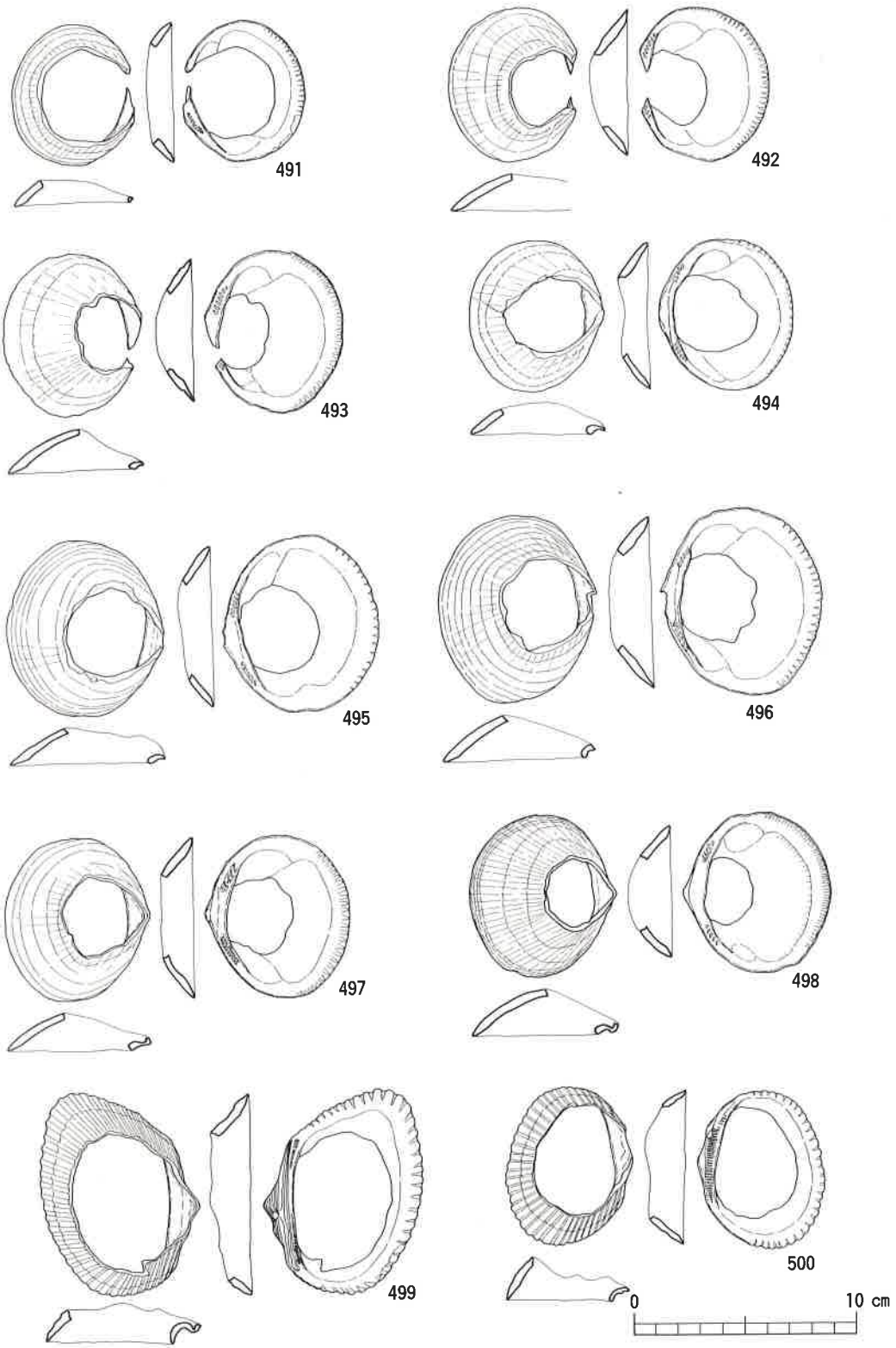
第39図　1トレンチの出土遺物(33)石器2



第40図　1トレンチの出土遺物(34)石器3



第41図　1トレンチの出土遺物(35)貝輪1



第42図　1トレンチの出土遺物(36)貝輪2

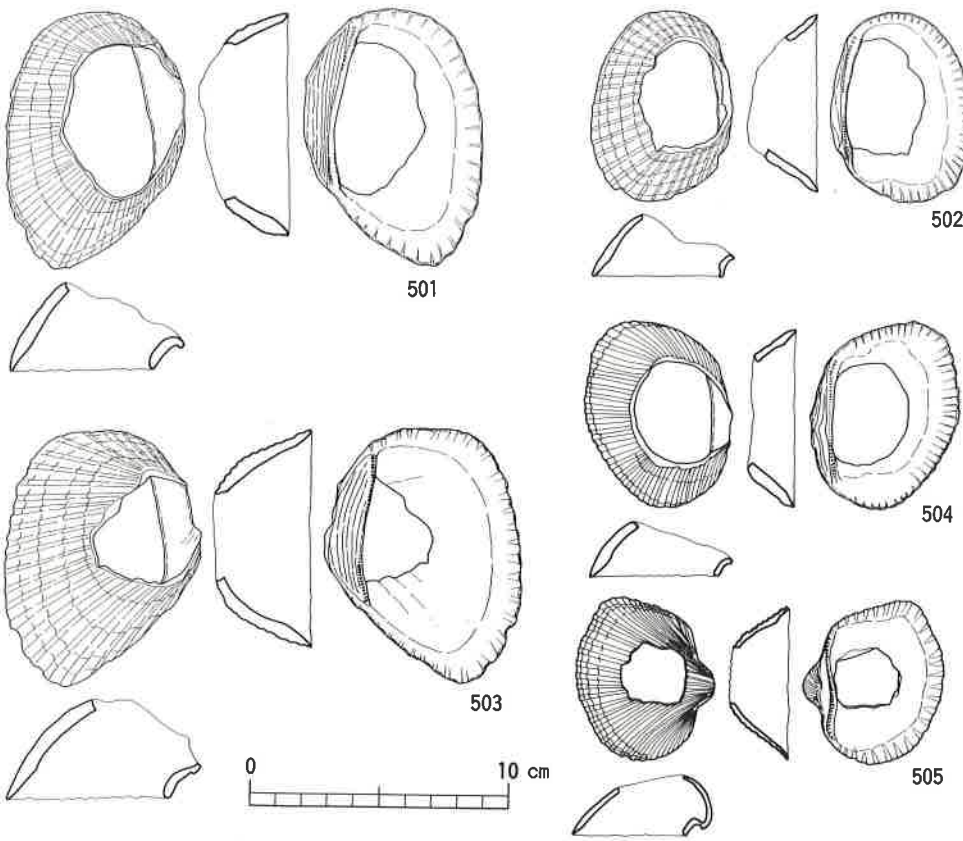
ものと考えられる。474は，砂岩の円礫から剝いだ薄い横長剝片に，礫面に刃部をつくっている。磨石・石皿の使用面については，点のスクリーントンで表現した。その他，詳細は石器計測表に記した。

④ **貝輪**（第41図～第43図－481～505）

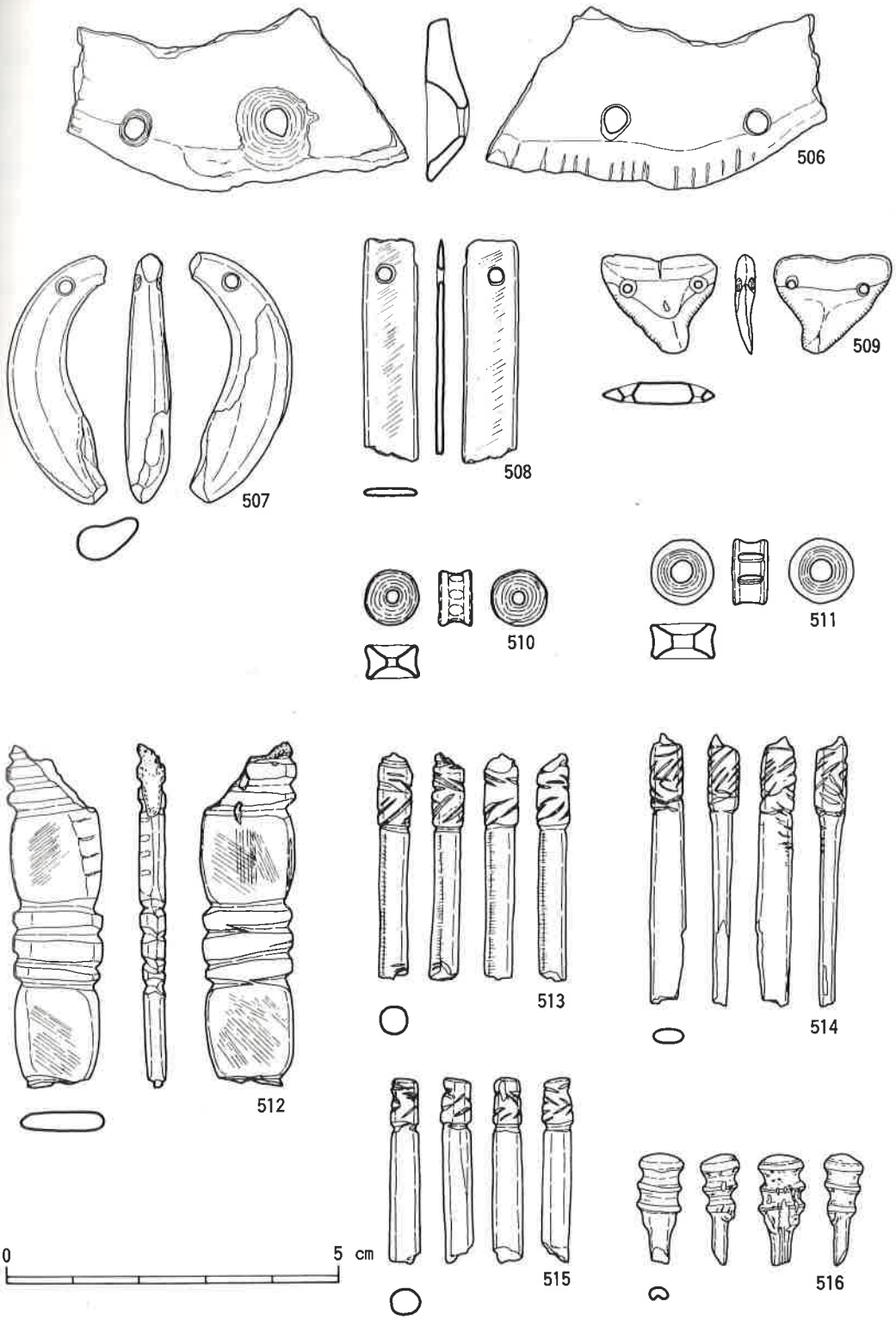
貝を素材に環状を呈するように作られたもので，貝輪の未製品と考えられるものである。貝種には，タマキガイとマルサルボウガイの二種がある。

480～498はタマキガイ製の貝輪ならびにその未製品である。本貝塚出土のものには行程上四段階がみられる。製品に近いものから初期加工の順に並べた。480は，内側々面は未仕上げであるが表裏及び外側々面は丁寧に研磨仕上げされたもので，破損品ではあるが製作上は最も完成品に近い第四工程の段階のものである。481は，殻頂部を除去し，表裏を粗く研磨し，貝殻腹縁の内側縁の刻み部分を剝離した第三工程の段階のものである。482～491は，殻頂部を除去し，外面を粗く研磨した第二工程の段階のものである。492～498は，殻頂部の除去段階のもので第一工程のものである。

499～505はマルサルボウガイ製の貝輪の未製品と考えられるものである。いずれも殻頂部の除去のみの工程であり，第一段階のものである。



第43図　1トレンチの出土遺物(37)貝輪3



第44図　1トレンチの出土遺物(38)装飾品1

⑤　**装飾品**（第44図－506～516）

装飾品には，貝製垂飾・歯牙製垂飾・サメ歯垂飾・耳栓・髪針がある。

垂飾状貝製品（506）

ウミギクガイの貝殻腹縁に径３～４㎜程度の二つの穿孔が施されるもので，貝製の垂飾と考えられる。

垂飾状歯牙製品（507）

507は，イノシシ牙製の垂飾品である。右側上顎切歯を利用したものである。基部に径２㎜の穿孔を施している。

垂飾状板状加工品（508）

イノシシ牙と考えられる素材である。幅８㎜，厚さ１㎜の薄い板状に研磨し，基部に２㎜程度の穿孔を施すもので垂飾と考えられる。

サメ歯穿孔品（509）

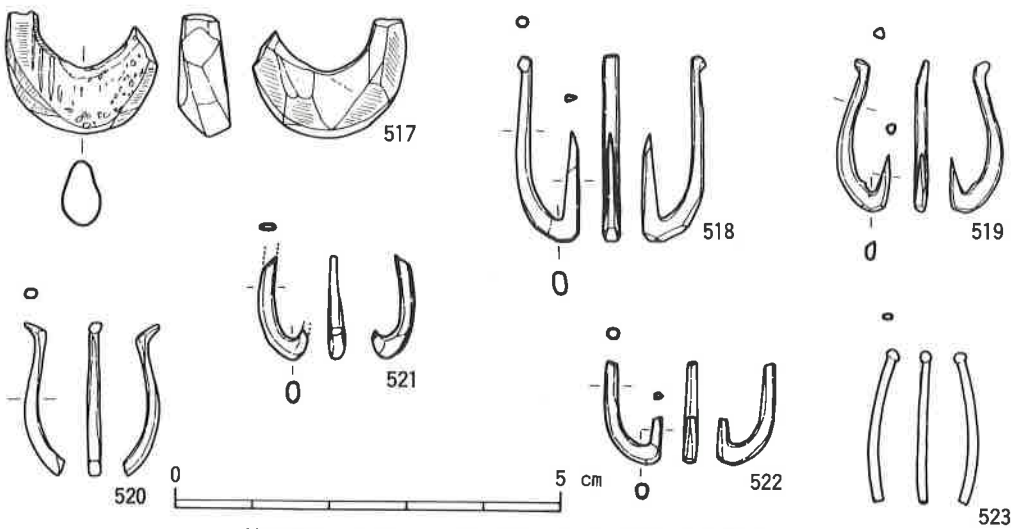
サメの歯根部に二個の穿孔を施したものである。穴の周辺は丁寧に研磨されている。

サメ椎体穿孔品（510・511）

510・511はサメの椎骨を研磨し，穿孔した加工品である。研磨したと考えられるものは他に数点見られるが，穿孔を施されるものはこの２点であった。耳栓と考えられている。

髪針（512～516）

髪針は，５個出土した。幅広で扁平な線刻・彫刻の装飾加工が施されるものと棒状で頂部に線刻・彫刻の装飾が施されるものがある。512は，幅14㎜の幅広で扁平な線刻・彫刻の装飾加工が施される加飾部である。加飾部の上下端は欠損し不明である。素材は，シカの中足骨である。513～515は，頂部に線刻・彫刻で装飾帯をつくる棒状のタイプである。514の体部は，若干扁平になる。513・514の素材はイノシシの腓骨で，515はシカの中足骨である。516は，三段

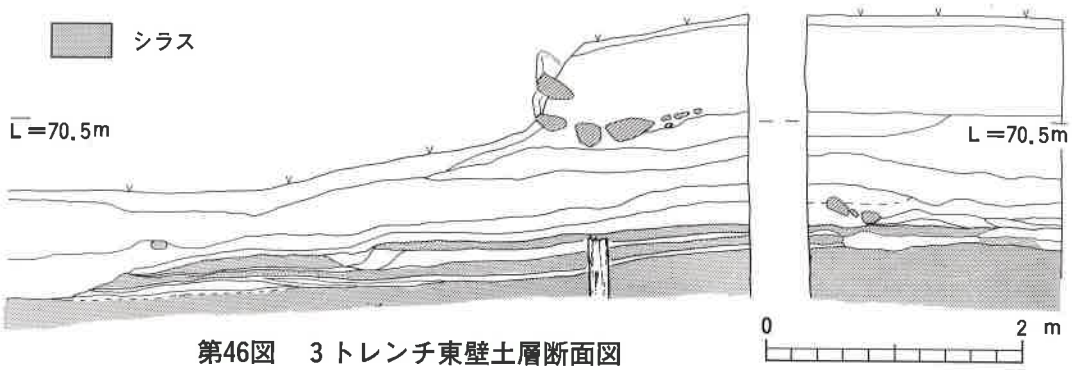


第45図　１トレンチの出土遺物(39)装飾品２

の輪状の装飾部をつくるタイプである。素材はイノシシの腓骨である。

⑥ **単式釣針**（第45図－517～523）

単式釣針は，総数７本出土した。517の素材は，シカ角である。基本形態はU字型であるが，湾曲部だけの残存である。518～523の素材は，イノシシ犬歯またはシカ角である。518と519は完形品でいずれも無鎖である。軸頭部は，紐結びのために瘤状につくる。518の軸部はほぼ真直で，519は内湾する。湾曲部はいずれも鋭角に鉤先部へ立ち上がる。鉤先部は，いずれも鋭利に尖る。大きさは，20㎜～24㎜の小型のタイプである。520は軸頭部と軸部で，湾曲部から鉤先部は欠損している。521と522は軸部と湾曲部の一部を残し，軸頭部と鉤先部は欠損している。523は軸頭部と軸部で，他は欠損している。



第46図　3トレンチ東壁土層断面図

2．2トレンチの調査

前回の調査で，岩陰から埋葬人骨が出土していることから，北斜面の西側の岩壁に2トレンチ（2×3m）を設定した。表土の下は，茶褐色土が堆積し，掘り下げるにしたがって礫が多く出土し，深さ1m程で基盤岩に達した。岩陰に縄文時代の土器の底部が1点と，時期不明の土器片が出土した。

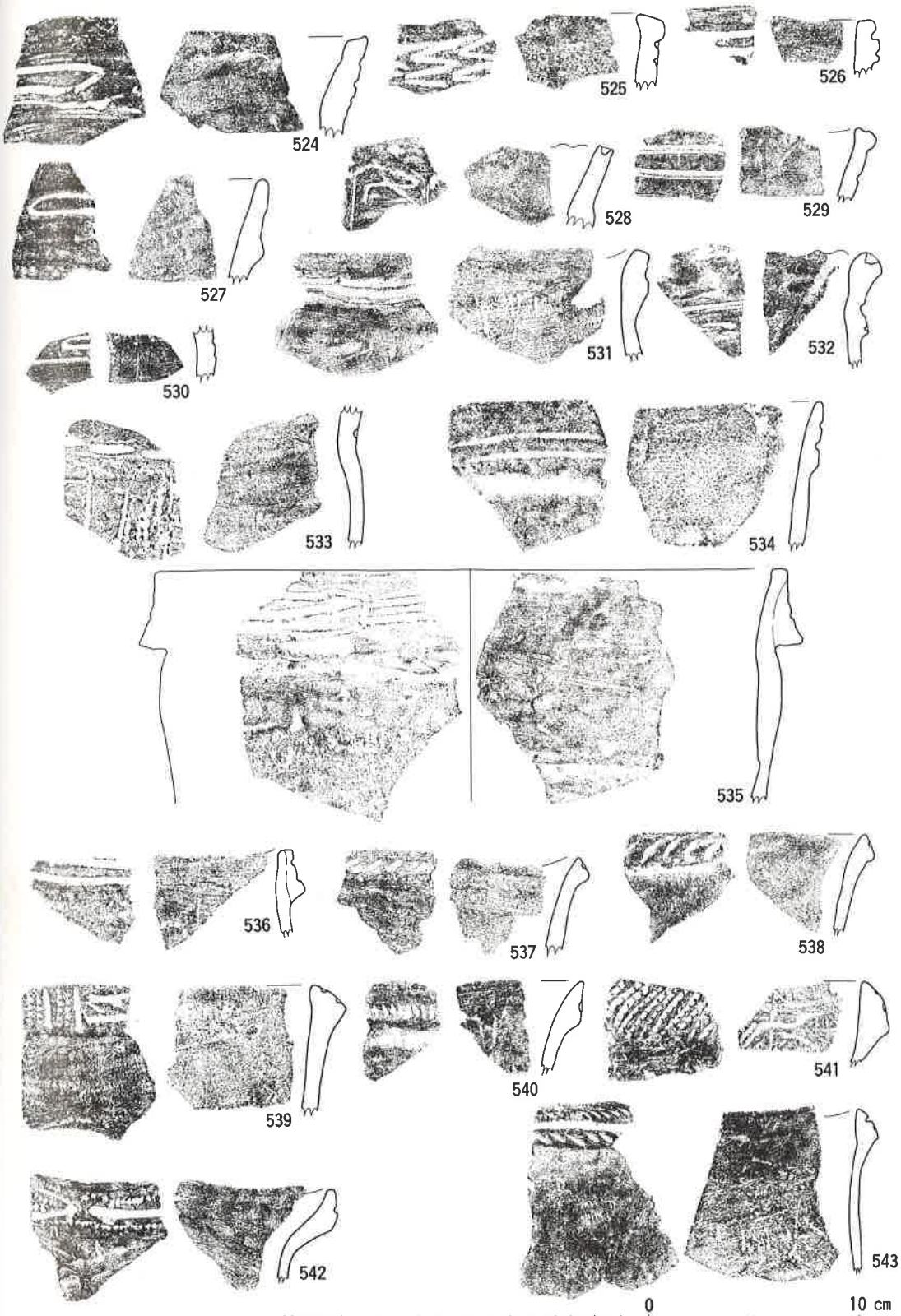
3．3トレンチの調査（第46図～第51図）

貝塚の範囲確認と土層の堆積状況を把握するために，3トレンチを設定した。最終的に2×10mのトレンチとなった。第46図にあるように，シラス層と土器などの遺物包含層が交互に堆積しており，最も下部の包含層が縄文時代後期の包含層で，それ以外は中世の撹乱を受けた後の再堆積であることが判明した。南側断面図の炭化物を多く含んだ黒色土層から，青・白磁が出土しており，2枚目のシラス層から上位は，中世の撹乱を受けている。また杉材と考えられる直径20cm程の丸太が最下層のシラスに打ち込んである。各層の分層部で鉄分の沈澱がみられ，調査中も湧水があった。

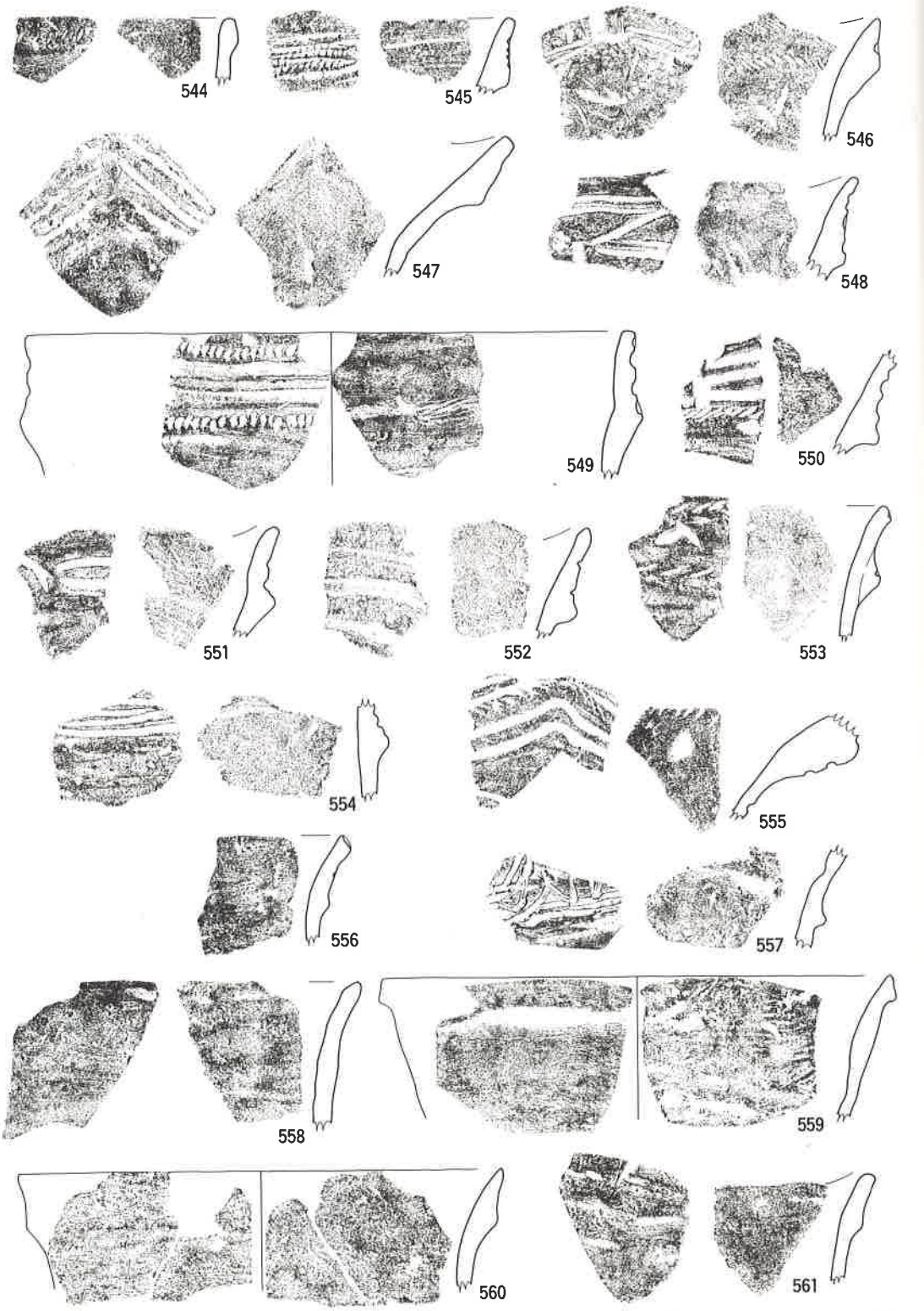
遺物（第47図～第51図）

土器は，文様と口縁部形状から深鉢形土器についてⅠ～Ⅳ類に分類した。Ⅰ類（524～533）は沈線文土器で，口唇部の上面平坦部に刺突文をもつものもある。Ⅱ類（534～536）は口縁部が幅広く肥厚し，2条の平行沈線を引くものである。Ⅲ類（537～565）は，口縁端部が肥厚し，そこに文様を施していくものである。文様は貝殻腹縁を押圧したものやヘラ状工具による連続刺突文と，凹線を組み合わす。無文のものもある。端部が断面三角形状を呈するもの（537～544，Ⅲ－a類）と，幅広く文様帯となり断面が「く」の字状となることもあるもの（545～557，565，Ⅲ－b類）と，無文のもの（558～564，Ⅲ－c類）がある。Ⅳ類（566～577）は磨消縄文系の土器である。579・580は台付き皿である。581～589は胴部の破片で，589は壺形土器の肩部にあたる。590～596は底部，597・598は円盤型土製品である。個々の土器についての説明は土器観察表に詳しい。

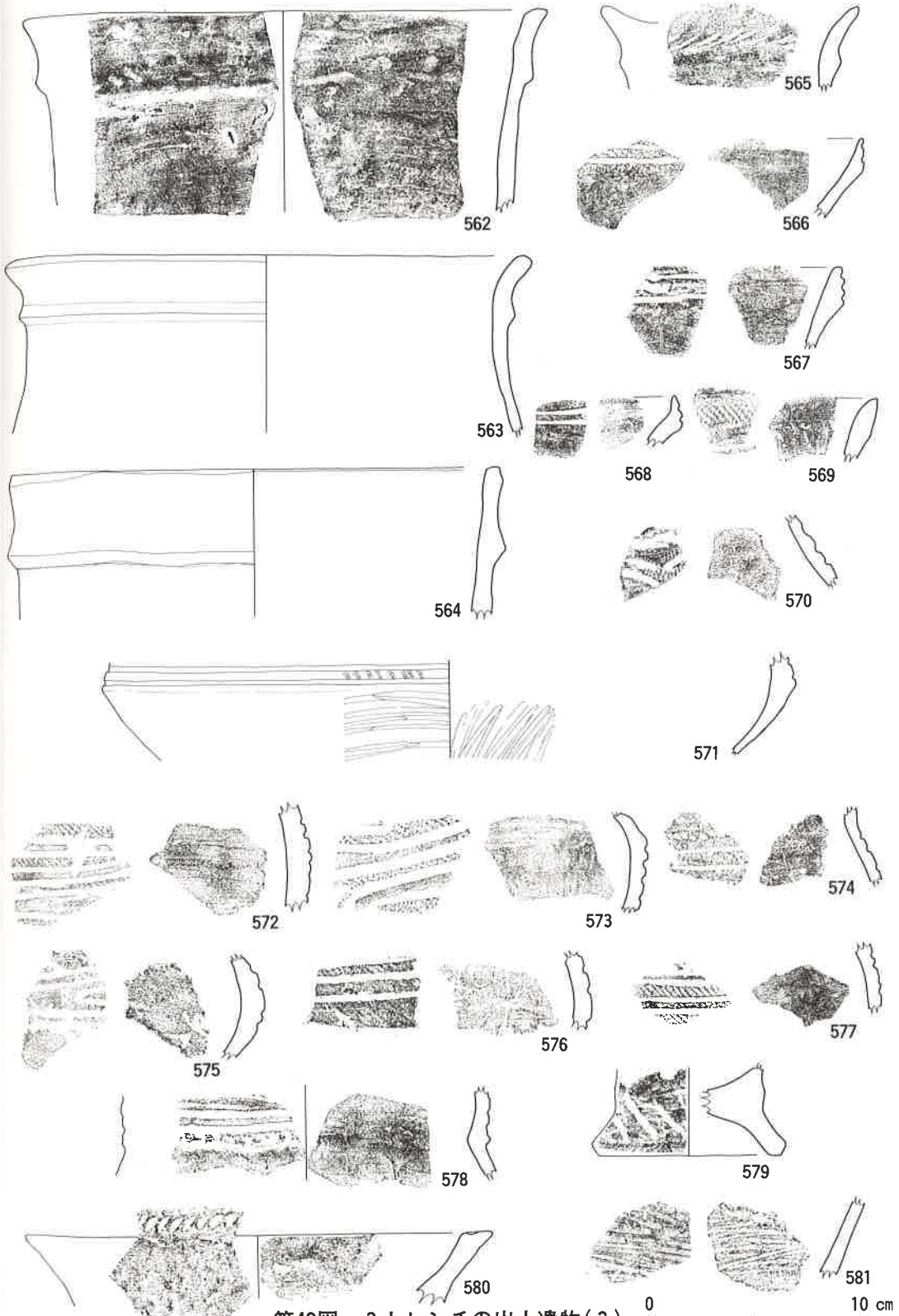
石器は石匙・磨製石斧・石錘・磨石などが出土した。599は抉りがあり，600とともに石匙で，破損している。602は偏平の円礫に剥離が加えられており，使用痕によるものか刃部調整剥離



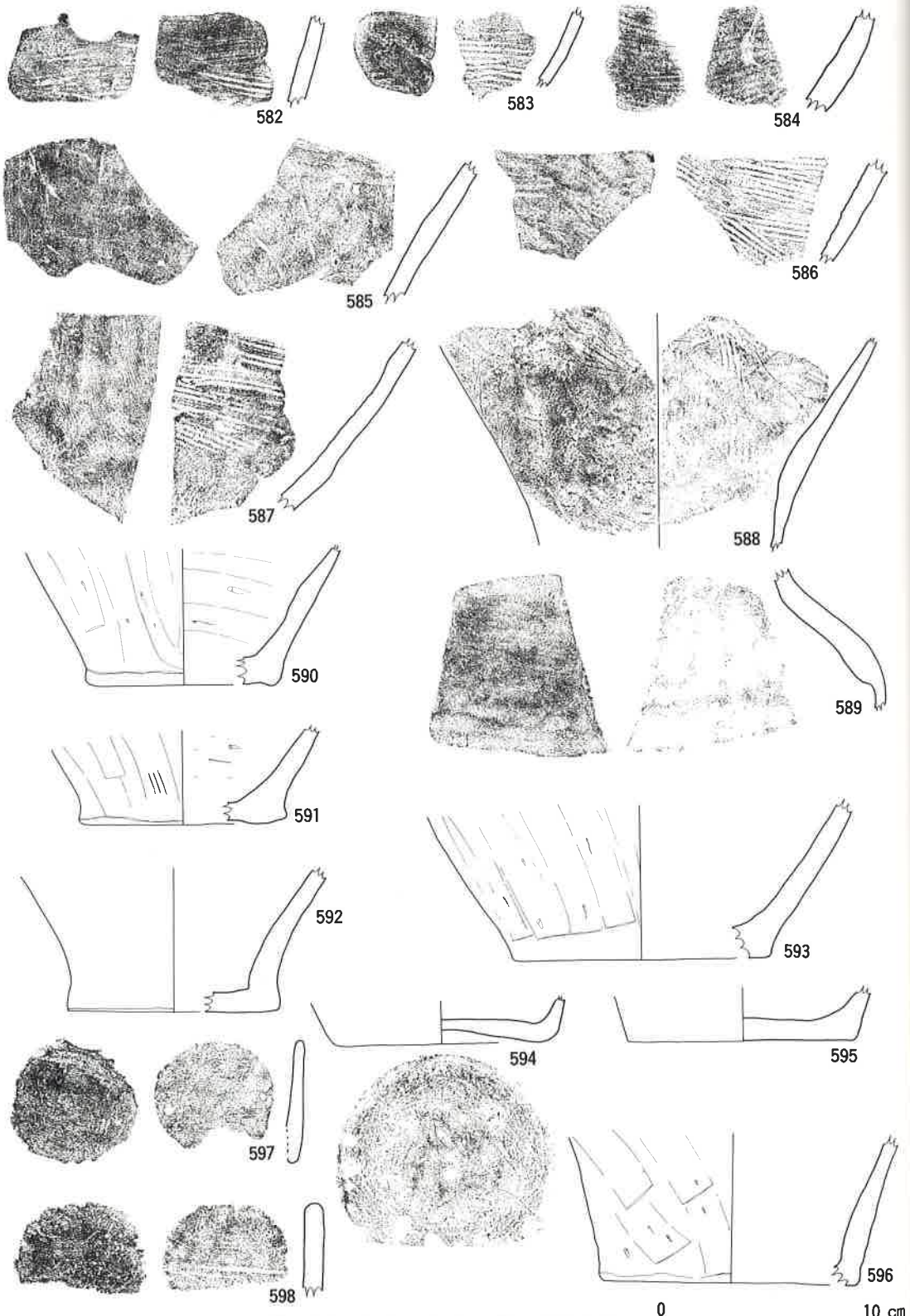
第47図　3トレンチの出土遺物(1)



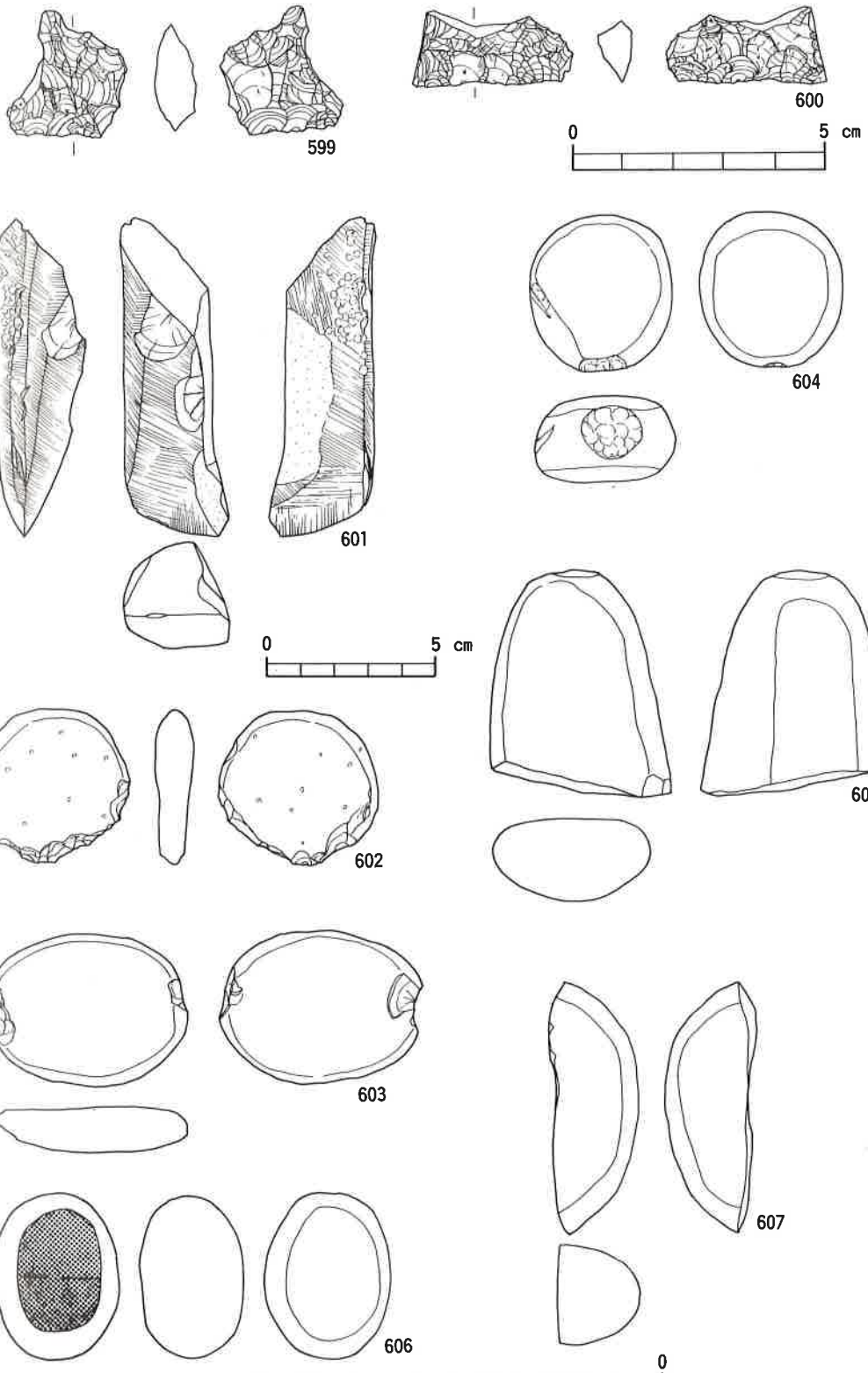
第48図　3トレンチの出土遺物(2)



第49図　3トレンチの出土遺物（3）



第50図　3トレンチの出土遺物（4）



第51図　3トレンチの出土遺物(5)

によるものか分からない。603は偏平な円礫の長辺側の両端を打ち欠いてある。個々の石器については計測表に詳しい。

4．4トレンチの調査（第52図～第54図）

第1貝塚の直上の台地に第4トレンチ（2×5m）を設定した。Ⅰ層＝耕作土，Ⅱ層＝黒褐色土層を掘り下げて，色調の変わったⅢ層上面で，南側に縄文土器片・黒曜石のチップ・剥片を，北側に土師器が出土した。土層は北側の貝塚方向にかなり傾斜しており，土師器の包含層は，下部がわずかに北側に残存していたものと考えられる。Ⅲ層以下を縄文時代の包含層と判断して掘り下げた。Ⅲ・Ⅳ層は遺物があつく堆積している。トレンチ調査のためⅢ・Ⅳ層については，遺構は把握できなかったが，土器・石皿・焼石など遺物の出土状況から，遺構の存在する可能性がある。色調の違うⅤ層上面で，Ⅳ層土の落ち込みを検出し，遺構と考えられるため，掘り下げを中止した。遺構の性格については，面的にとらえる必要があり，Ⅲ・Ⅳ層の状況と時間的な制約と併せて調査を見合わせた。遺物の出土状況から良好な保存状況が推測される。

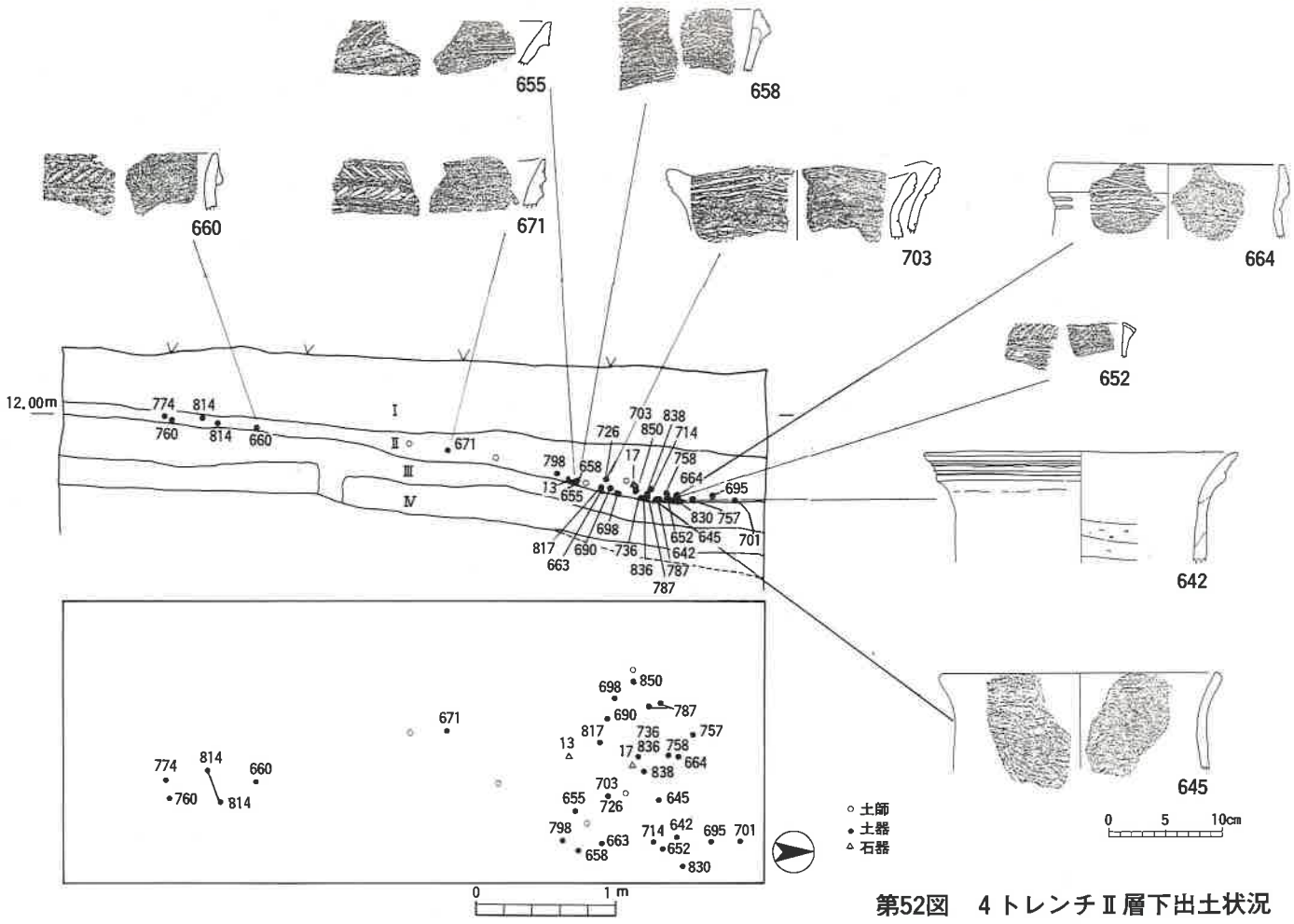
遺物（第55図～第75図）

土器は文様・口縁部形状・調整を中心に分類した。分類は深鉢形土器を中心におこない，外の器種については個体数が少なく，分類の概念化はできなかった。

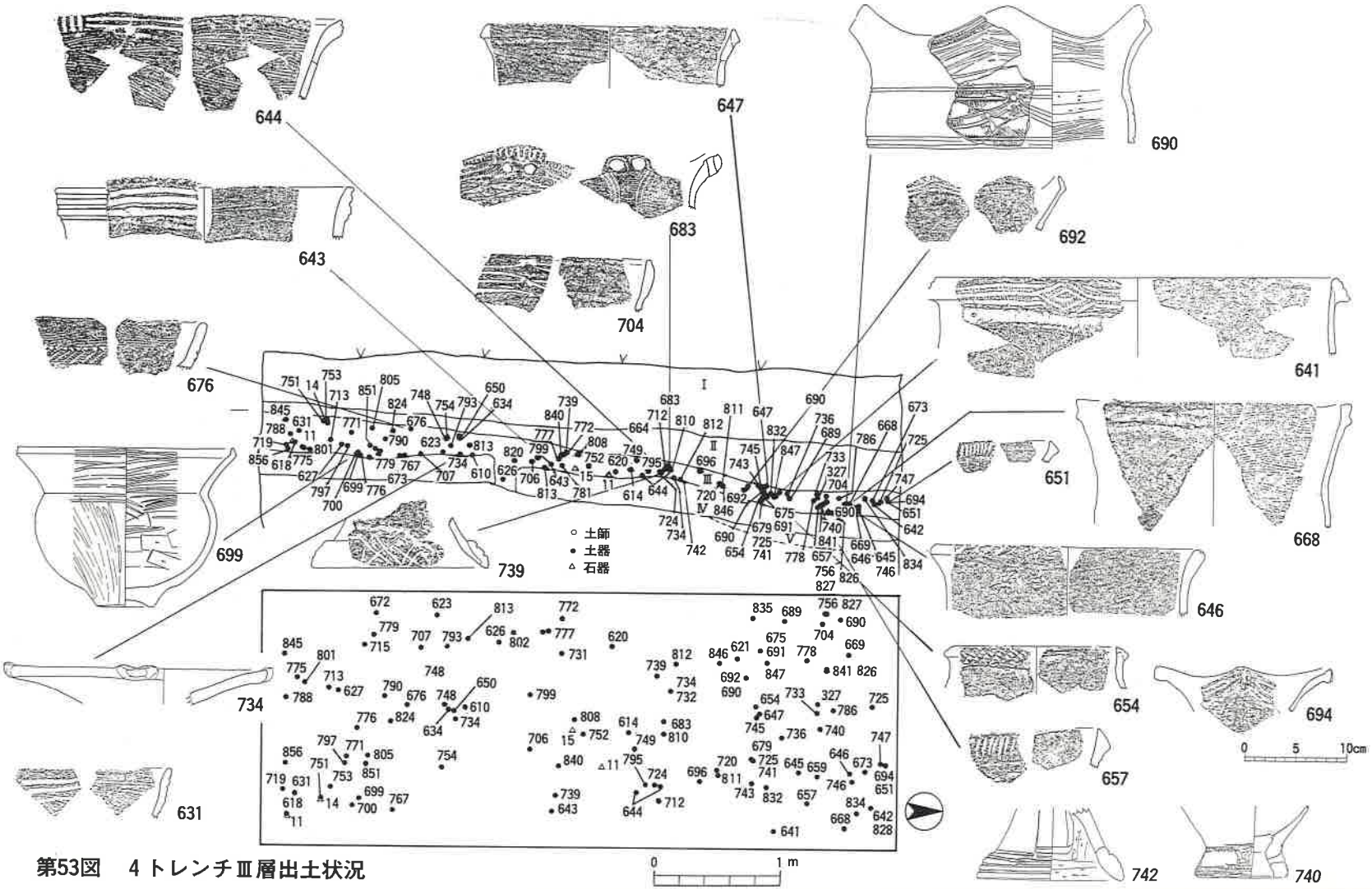
Ⅰ類（608～639・759～777）は沈線文土器である。外反する口縁部で，頸部でわずかに折れ曲がり内側に稜をつくるもの（608～610・625・629，Ⅰ－a類）と，口縁がまっすぐ立ち上がるもの（613～616，Ⅰ－b類）と，口縁部が内湾気味に立ち上がり直線文を施すもの（626～632・634・639，Ⅰ－c類）がある。Ⅱ類（640・641・644）は口縁端部を肥厚させ，平行沈線文を施すものである。Ⅲ類（646～663）は，口縁端部を断面三角形に肥厚させその肥厚部の外面に，貝殻の腹縁を押圧したりヘラ状工具で連続刺突を施したりするものである。674は小型の巻貝を押圧回転させたもので，縄文と見誤る文様である。Ⅳ類（674・678～698）は磨消縄文系の土器である。いずれも内外面を丁寧にヘラミガキしている。口縁部が舌状をなして外反し，曲線文がおおきく凹線の幅がひろいもの（678～680，Ⅳ－a類）と，口縁部が厚さを変えずに立ち上がり端部で蒲鉾状に肥厚しその外側に縄文を残すもの（684～687，Ⅳ－b類）と，口縁端部が「く」の字状に上方に拡張され外に面をつくり，そこに一般に2条の沈線を引き縄文を残すもの（688～694，Ⅳ－c類）に細分できる。678は赤色顔料が表面に磨り込まれている。683は他の同類の土器がなく，1個体のみであったので分類はしなかったが，資料の増加を待ってa・b・c類と別に分離できるものと考える。Ⅴ類（664・665・703・704）は，口縁部が幅広く半円形に肥厚し，やや内湾気味に立ち上がり，文様はヘラ状工具による沈線と刺突文で口縁部と胴部に施される土器である。

以上のⅠ～Ⅴ類の土器のほかに699～701の無文の研磨土器がある。705～708はⅣ類の土器か，研磨土器の胴部の破片である。

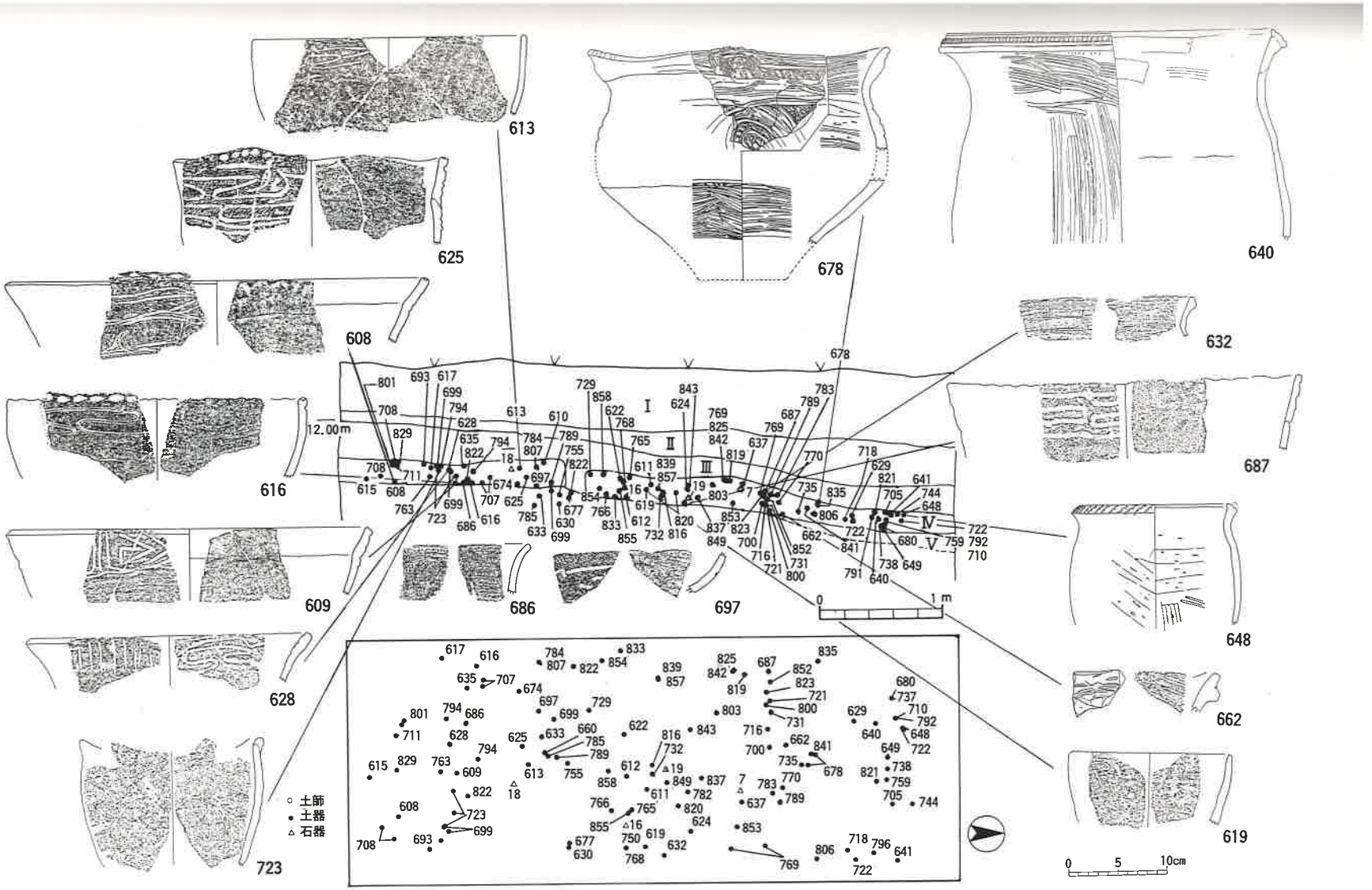
709～729は小型の鉢形土器の口縁部で，ほとんどが無文である。口縁部は肥厚せずに，4・



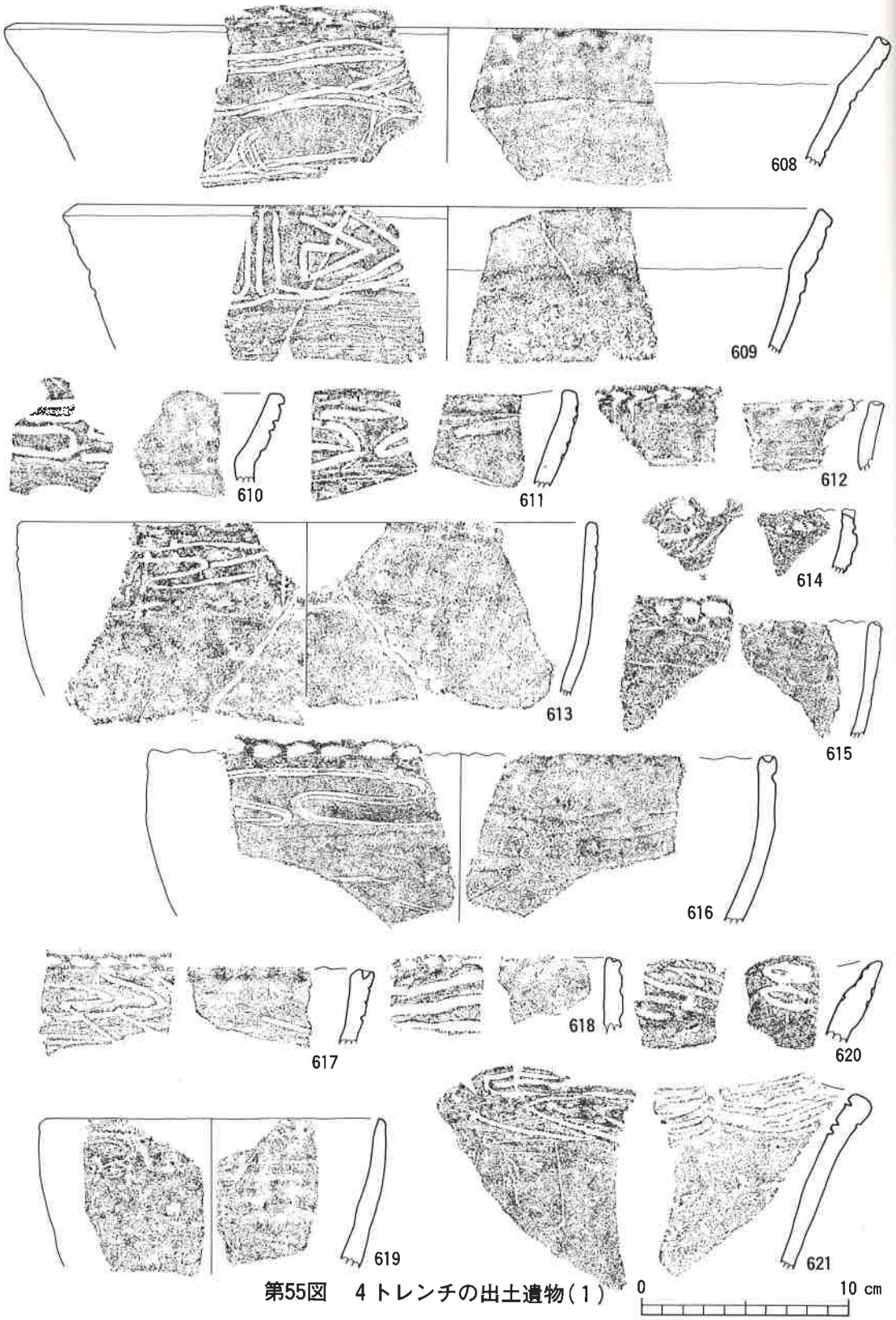
第52図　4トレンチⅡ層下出土状況



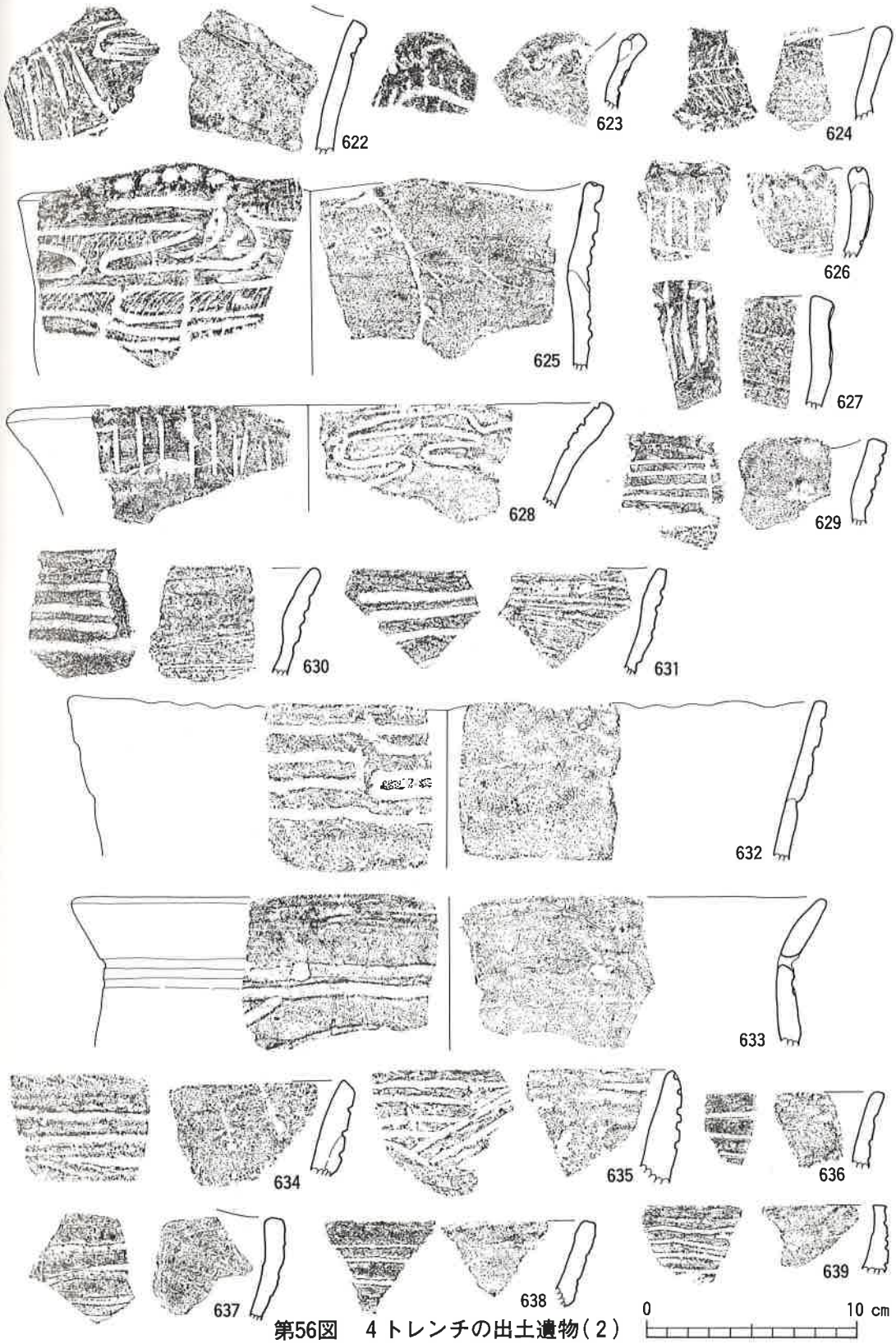
第53図　4トレンチⅢ層出土状況



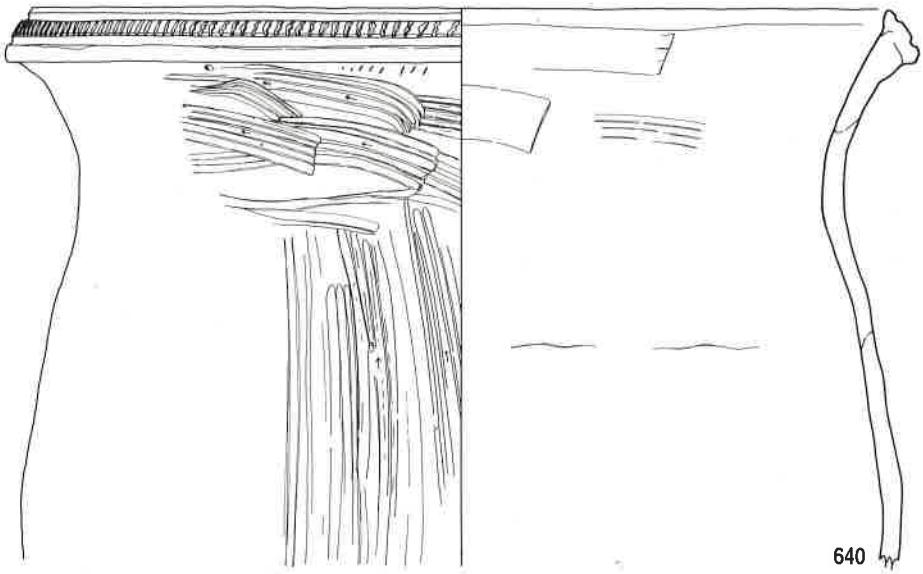
第54図　4トレンチⅣ・Ⅴ層上出土状況

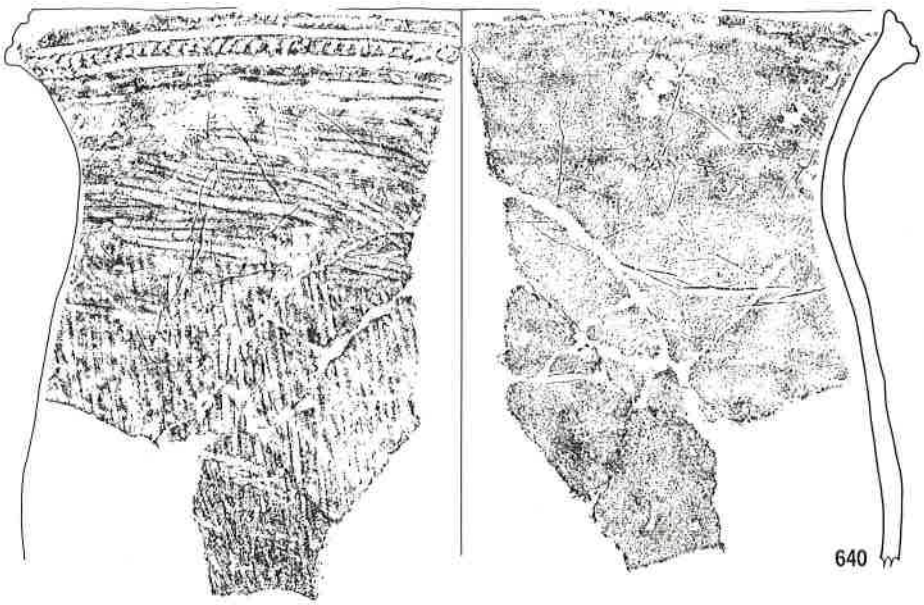


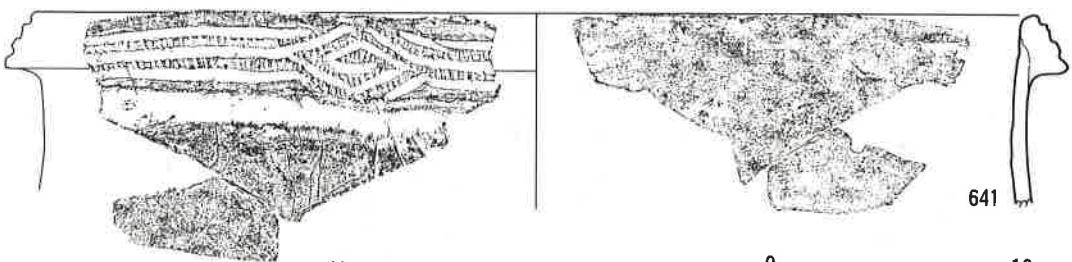
第55図　4トレンチの出土遺物(1)



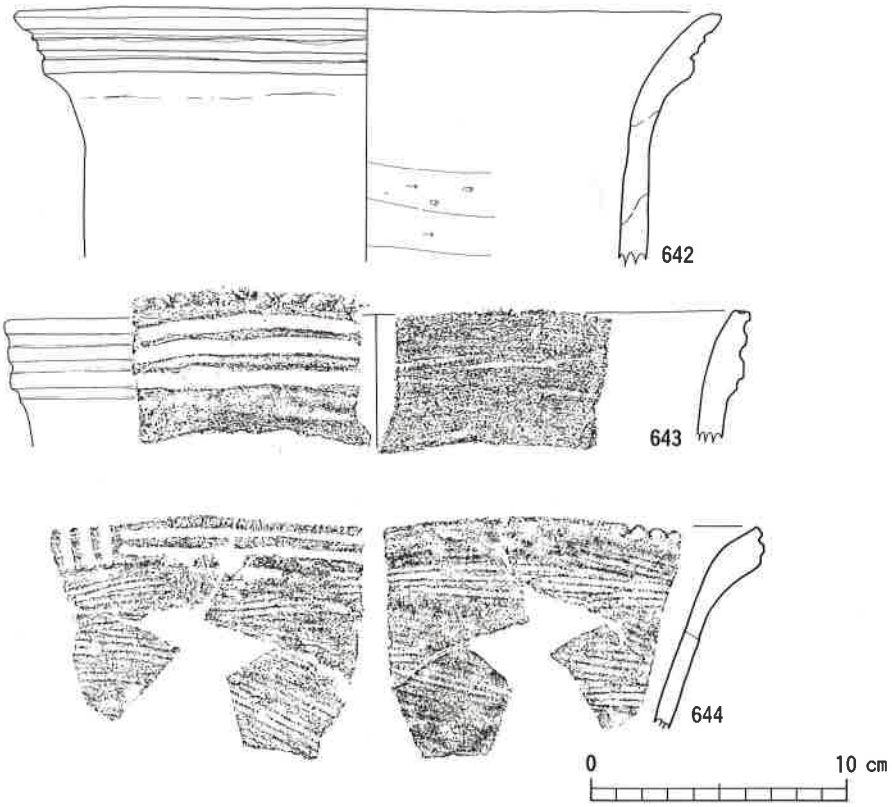
第56図　4トレンチの出土遺物（2）







第57図　4トレンチの出土遺物(3)　0　10 cm

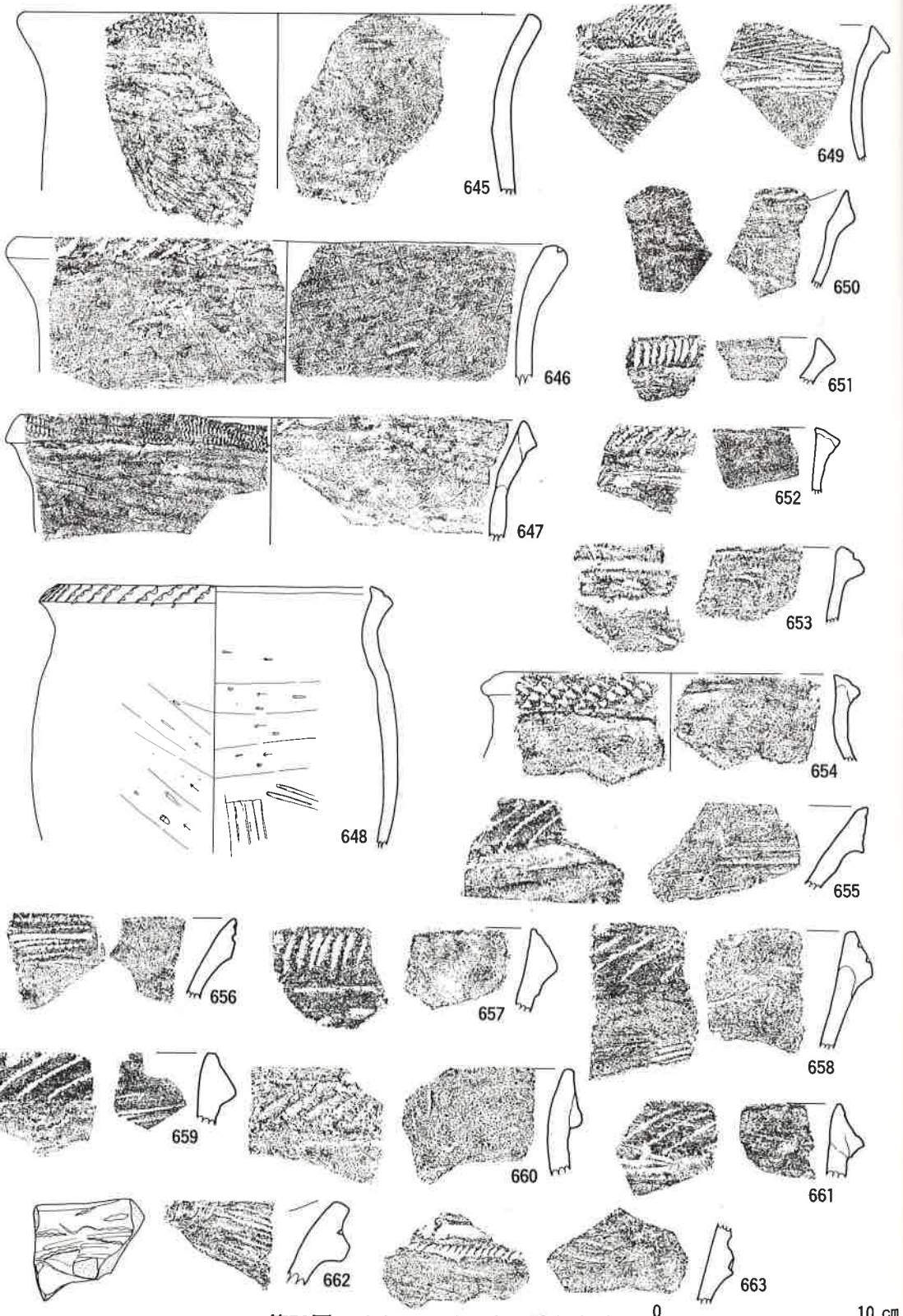


第58図　4トレンチの出土遺物（4）

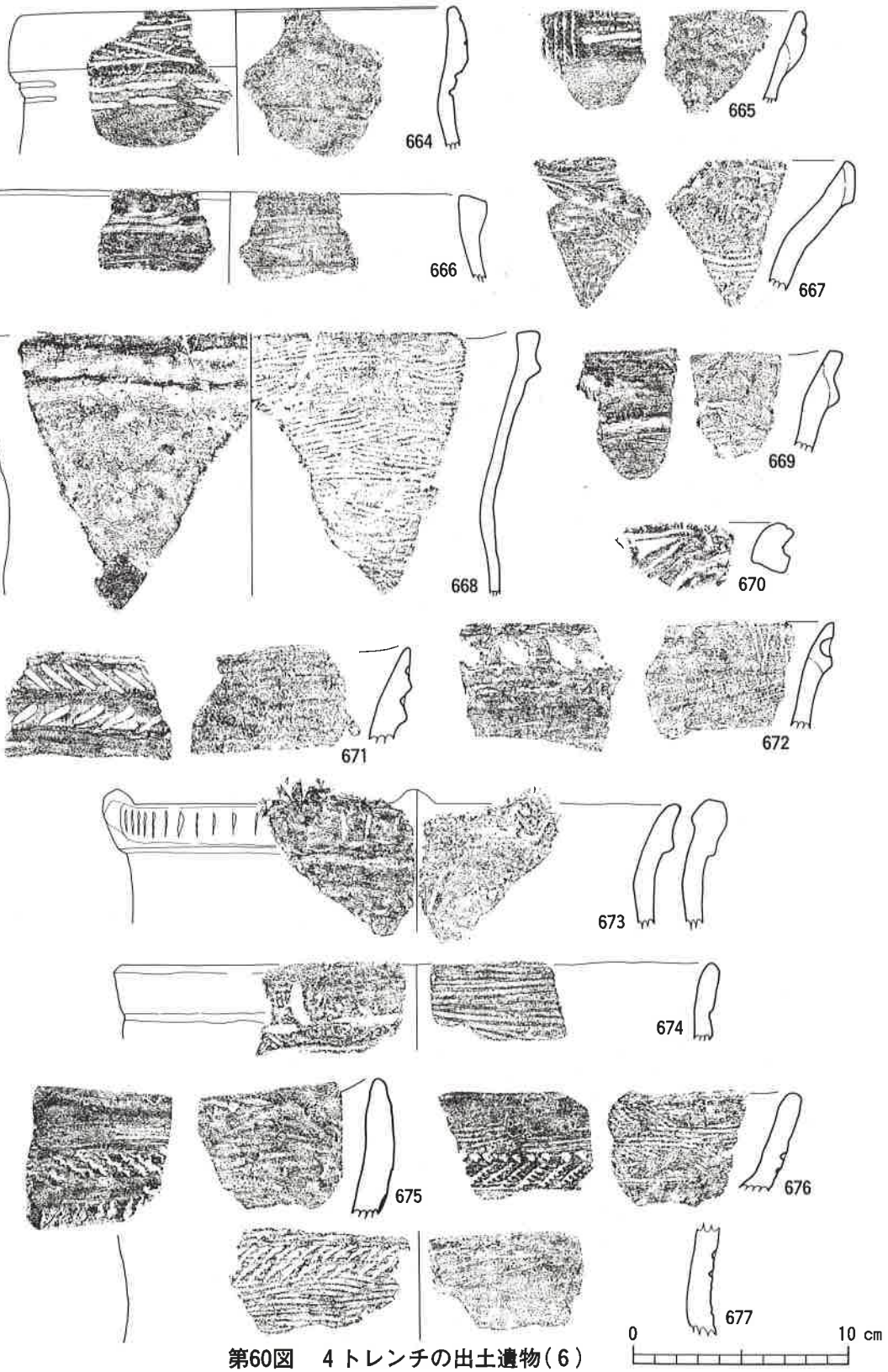
5㎝ほど下でくびれている。貝殻条痕を残すものが多い。709が口縁部に文様帯をもつ。730～732は円筒形の小型の土器で，外面が研磨されている。734～754は台付き皿の皿部と脚部である。脚部に関してはほとんどが透かしを有している。皿部は，円形のものと方形のものがあり，Ⅰ類土器やⅢ類土器と共伴する。759～820は胴部である。759～779が有文の胴部の破片で，ほとんどがⅠ類土器に分類できる。821～843が底部で，822・823・824は底部に圧痕をもつ。841・842は脚をもっている。844・845は弥生時代の土器片である。846～858は円盤形土製品で，848は中央部に穿孔しようとした痕跡がある。個々の土器に関しての説明は，観察表に詳しい。

土器についてはⅡ層下からⅣ～Ⅴ層までの出土状況を第52図～第54図に記した。ドットは実測図として報告するものに限って落してある。Ⅰ類土器とⅣ－ａ類土器・Ⅳ－ｂ類土器がⅣ層から出土し，Ⅱ類土器とⅢ類土器とⅣ－ｃ類土器がⅢ層から，Ⅴ類土器がⅡ層下から出土している。

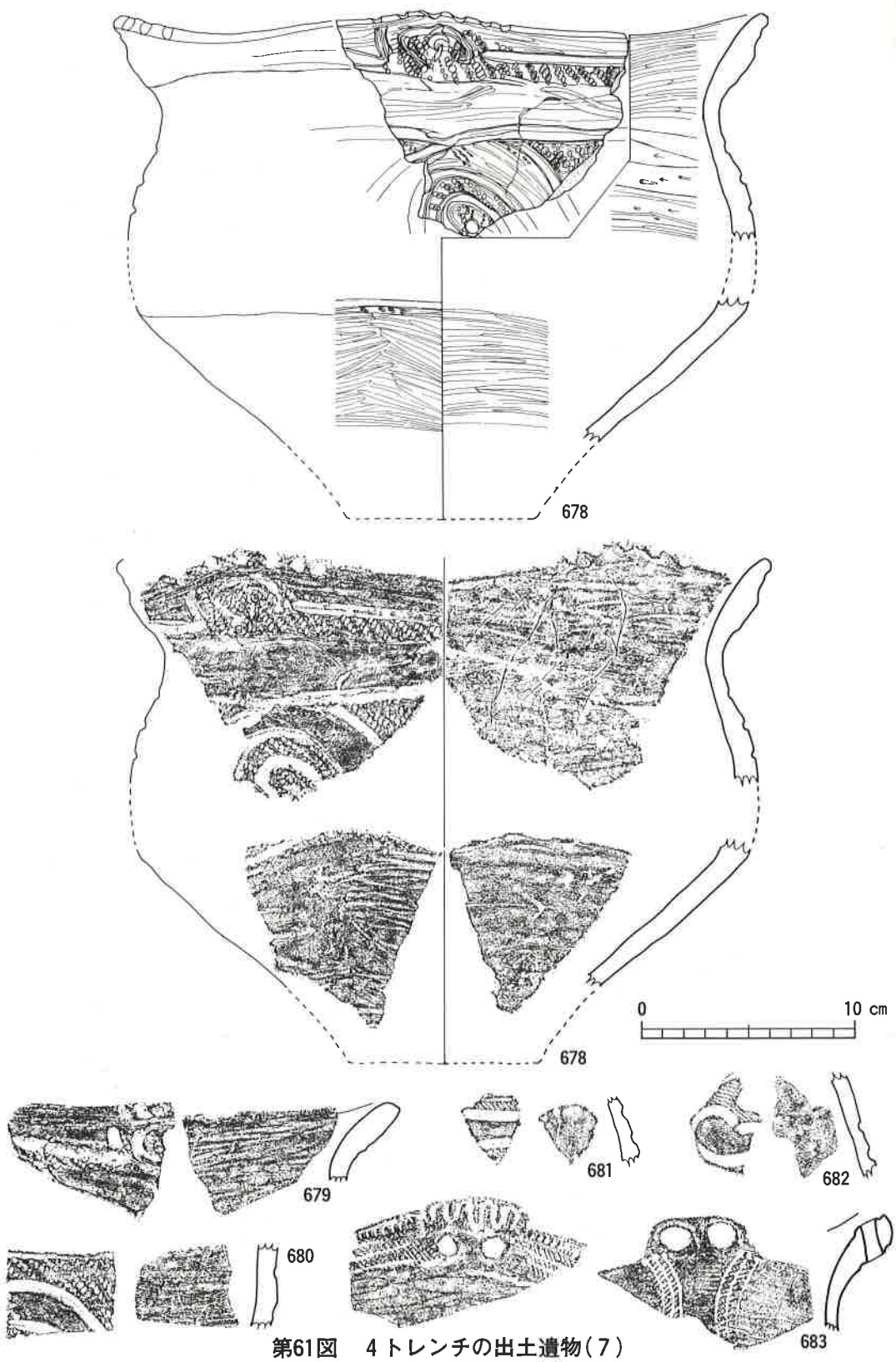
石器（859～883）は，石鏃・楔形石器・石錘・磨石・敲石・石皿が出土した。黒曜石のチップも多く出土した。とくにトレンチの狭い範囲の中で石皿が多く出土し，焼石もあり，住居跡が存在する可能性を感じさせた。石皿は878・881・882・883と２次加熱を受けて，亀裂が入っている。個々の石器については計測表に詳しい。



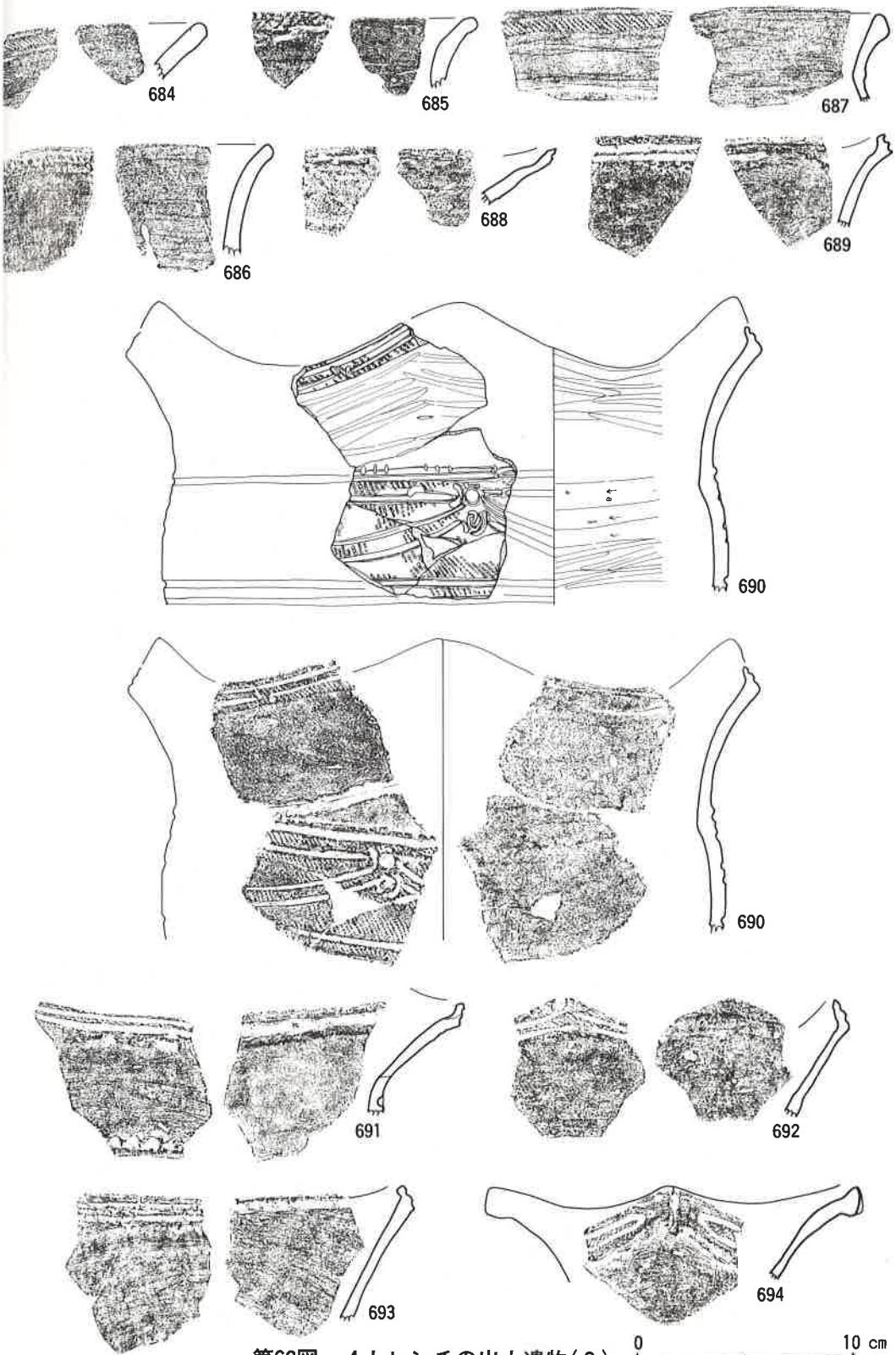
第59図　4トレンチの出土遺物(5)



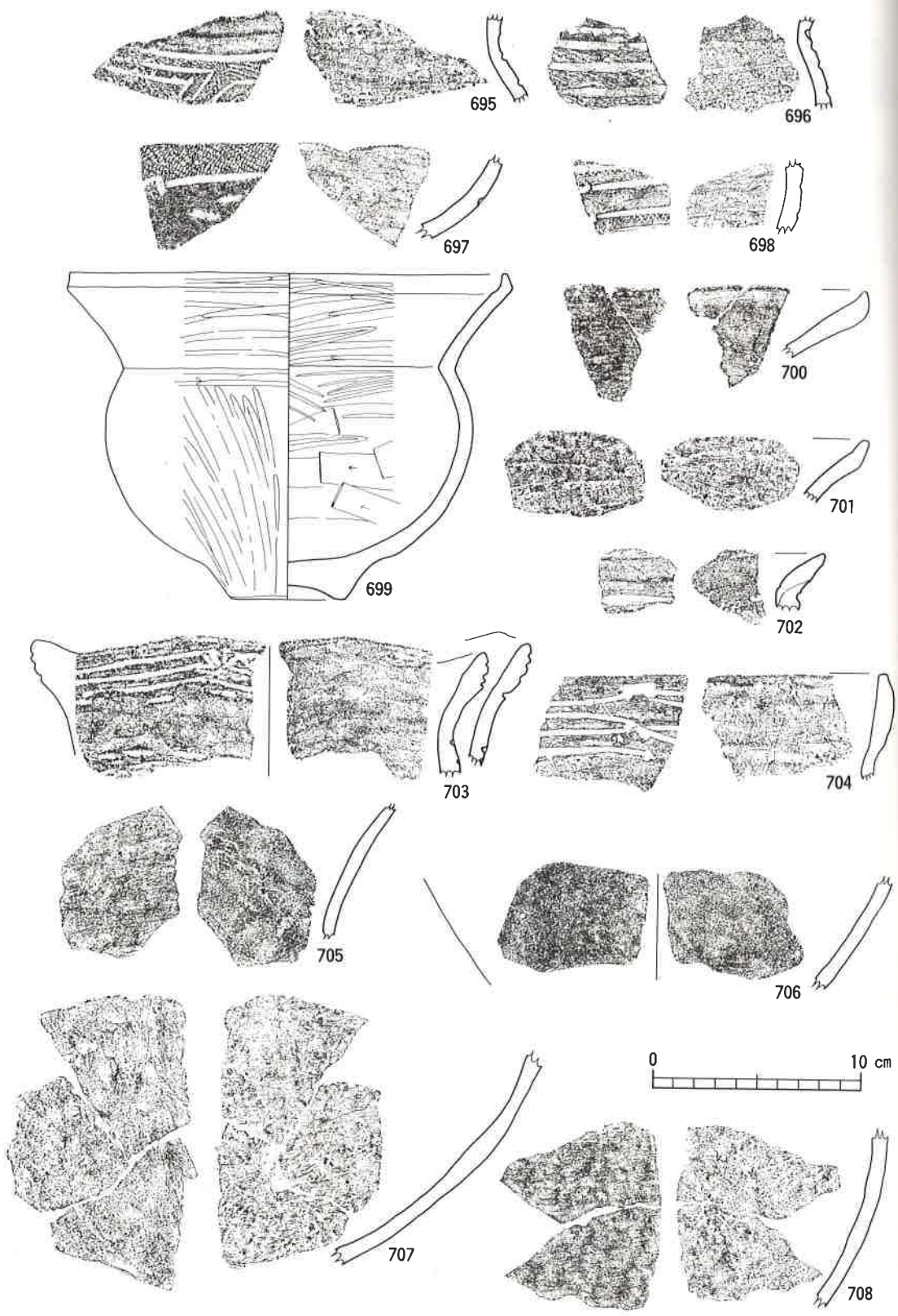
第60図　4トレンチの出土遺物（6）



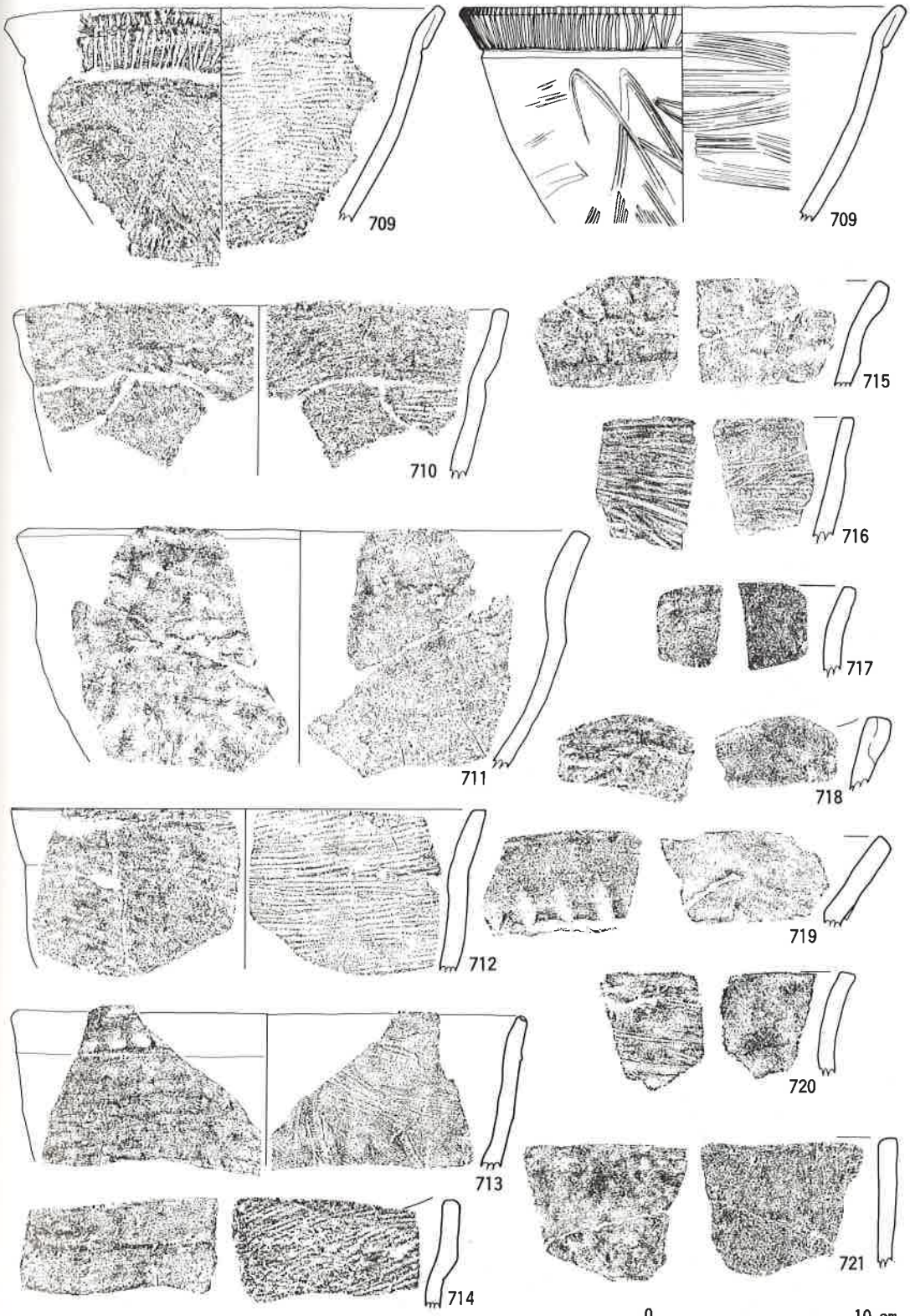
第61図　4トレンチの出土遺物(7)



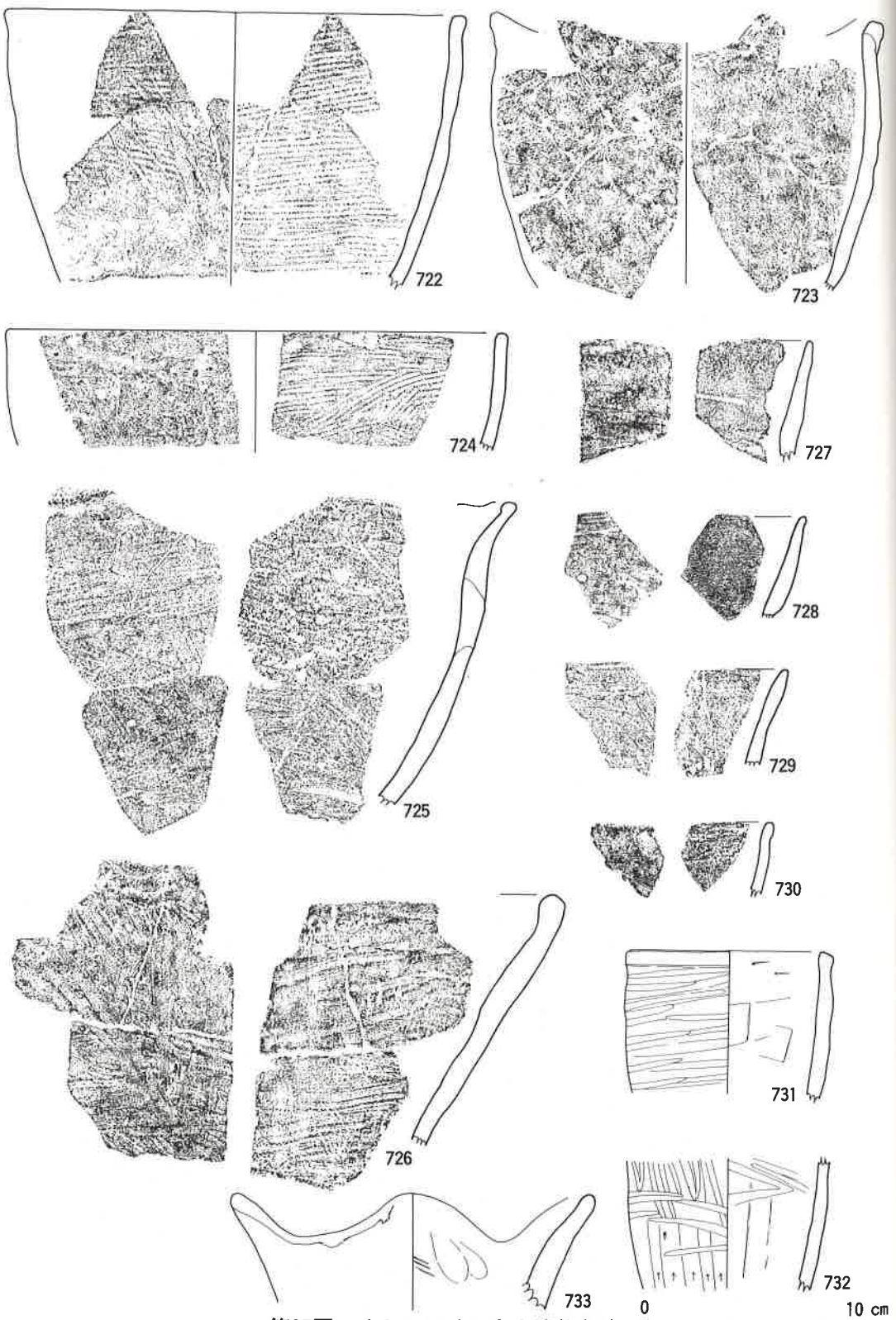
第62図　4トレンチの出土遺物(8)



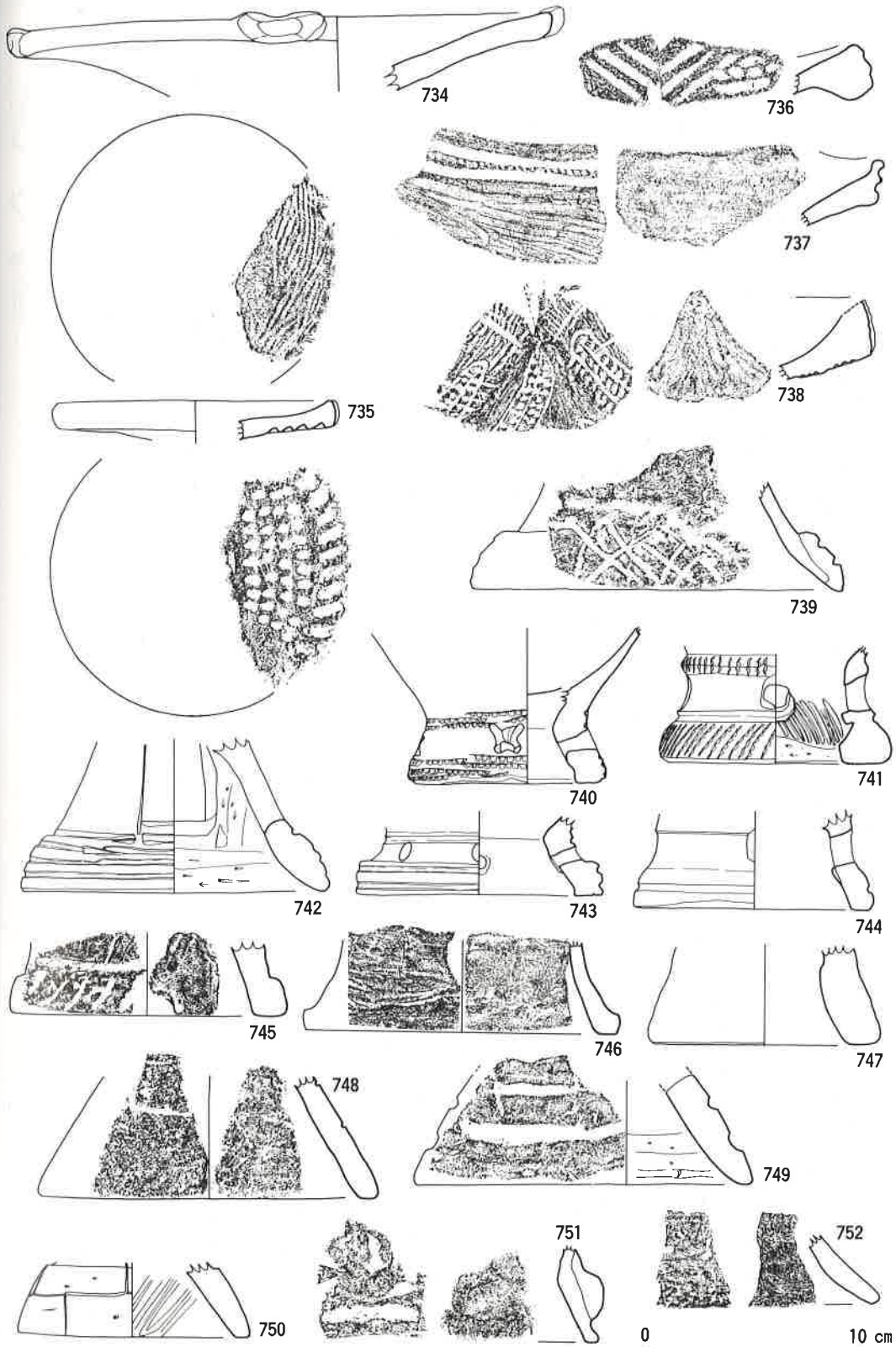
第63図　4トレンチの出土遺物(9)



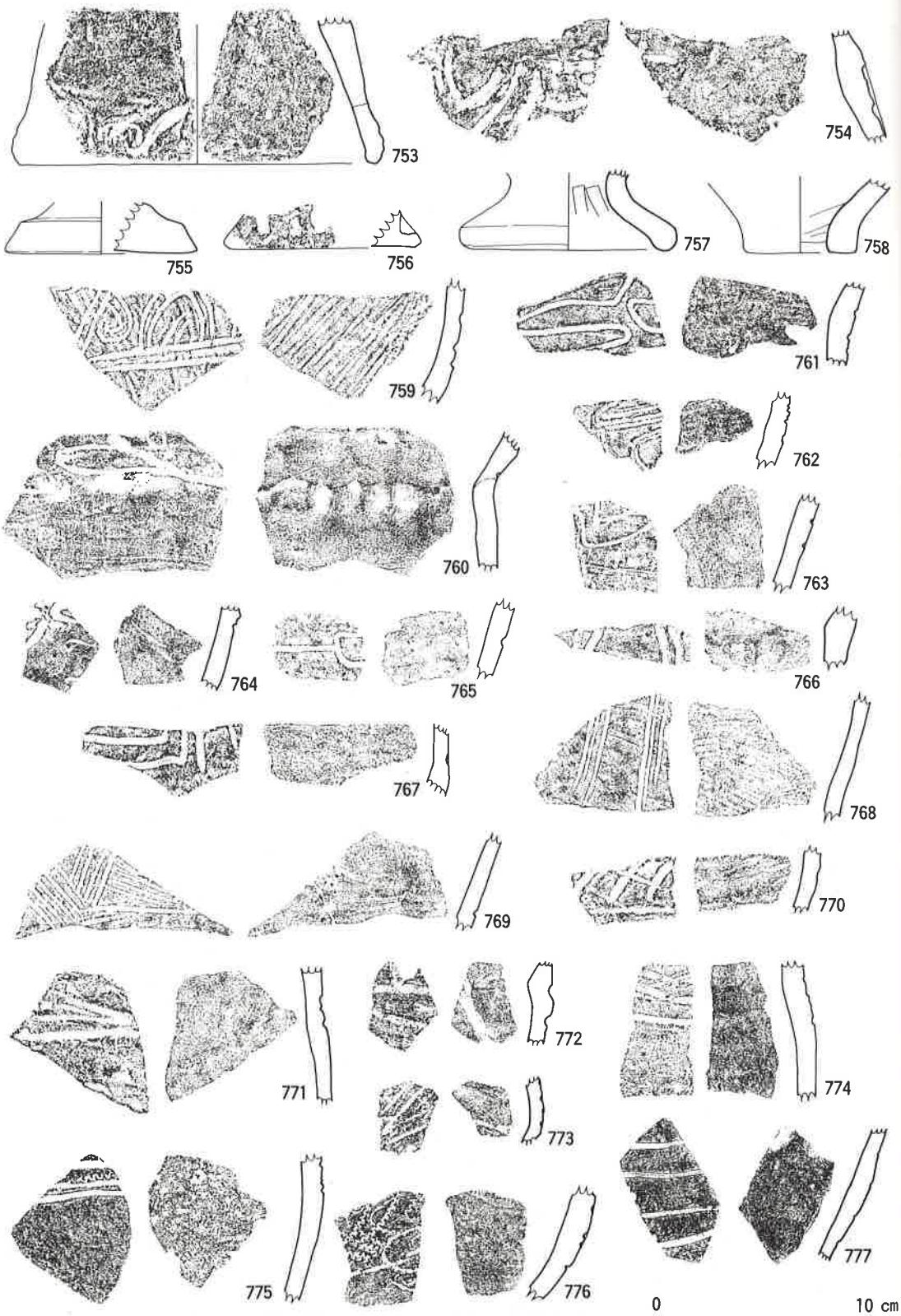
第64図　4トレンチの出土遺物(10)



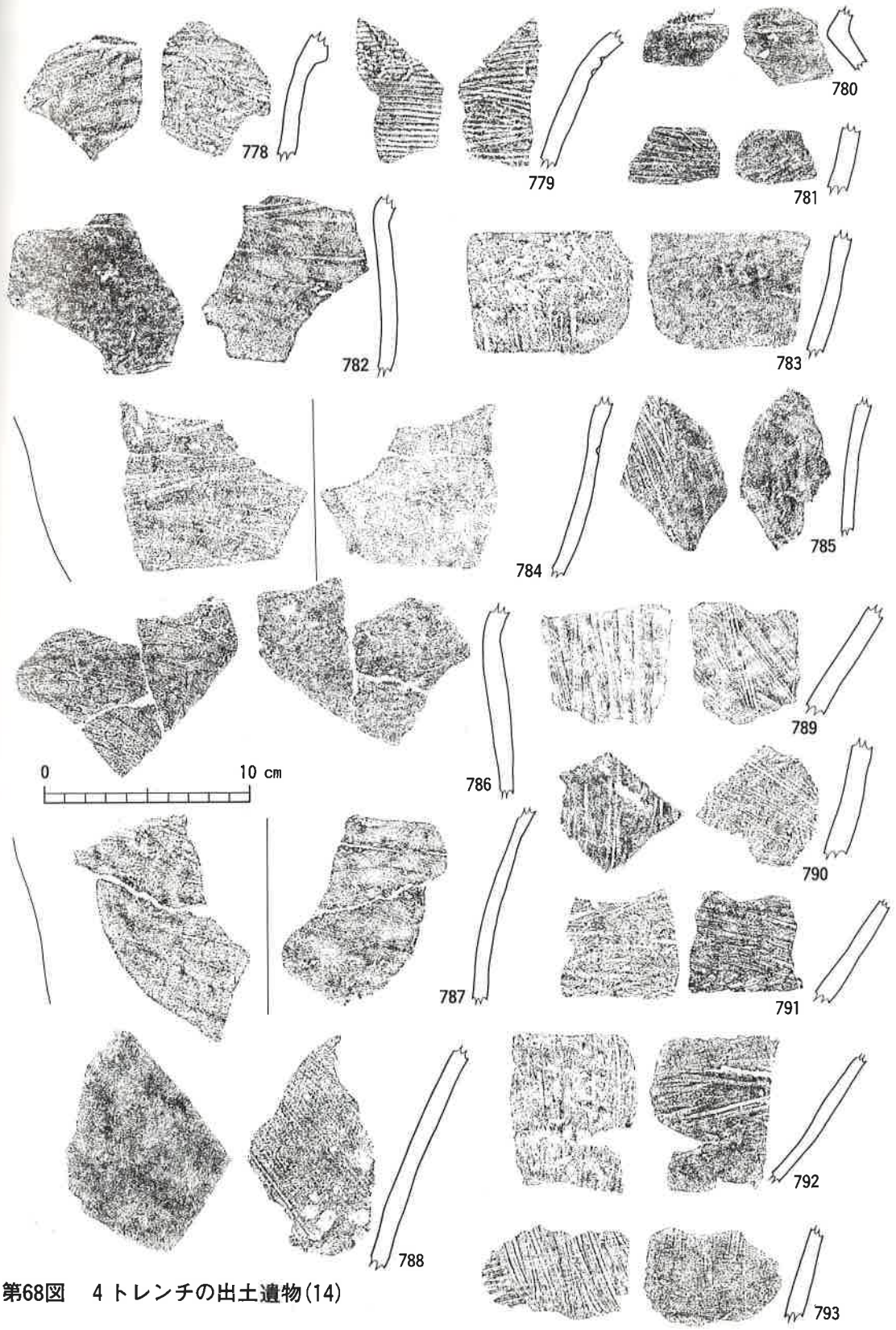
第65図　4トレンチの出土遺物(11)



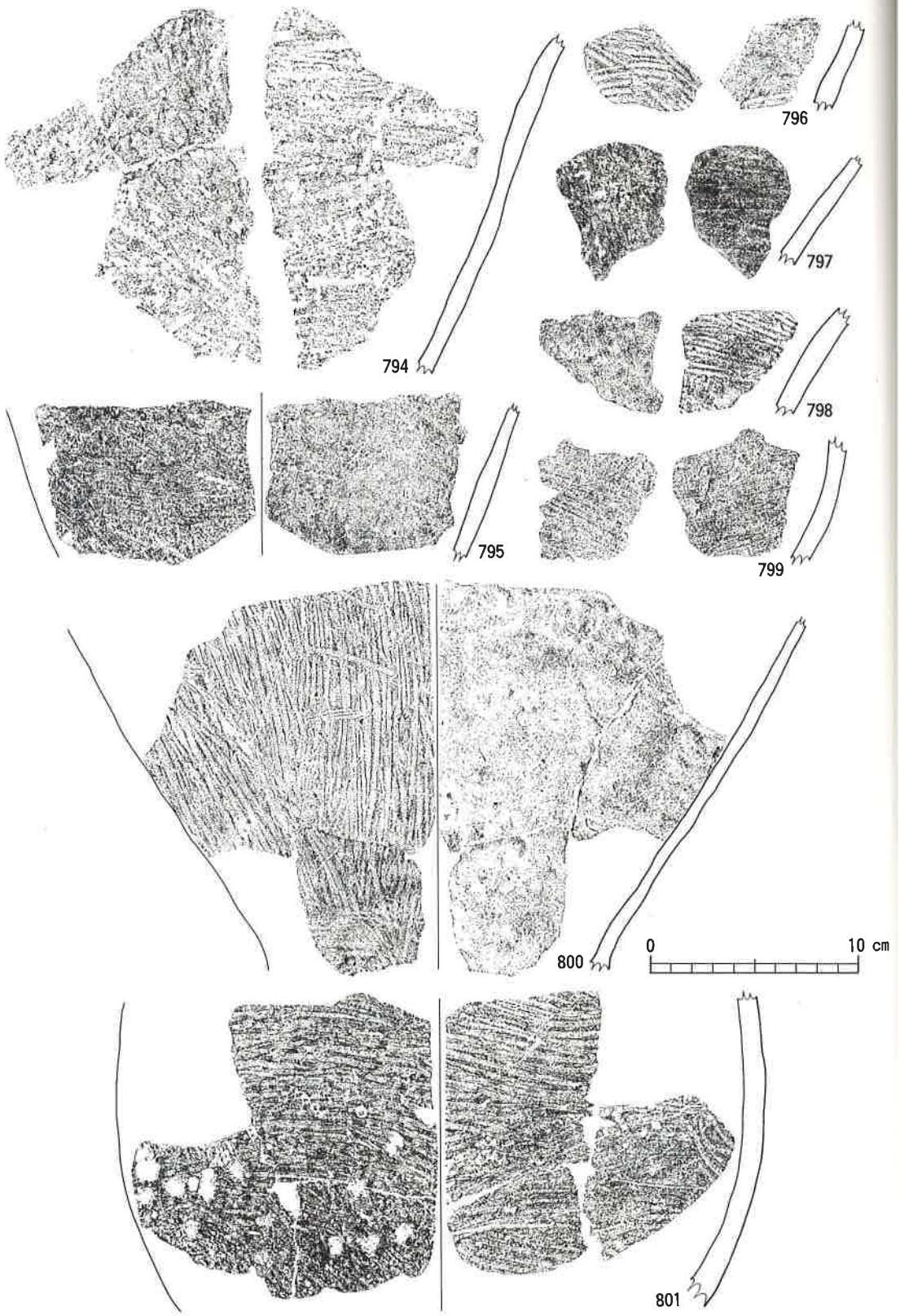
第66図　4トレンチの出土遺物(12)



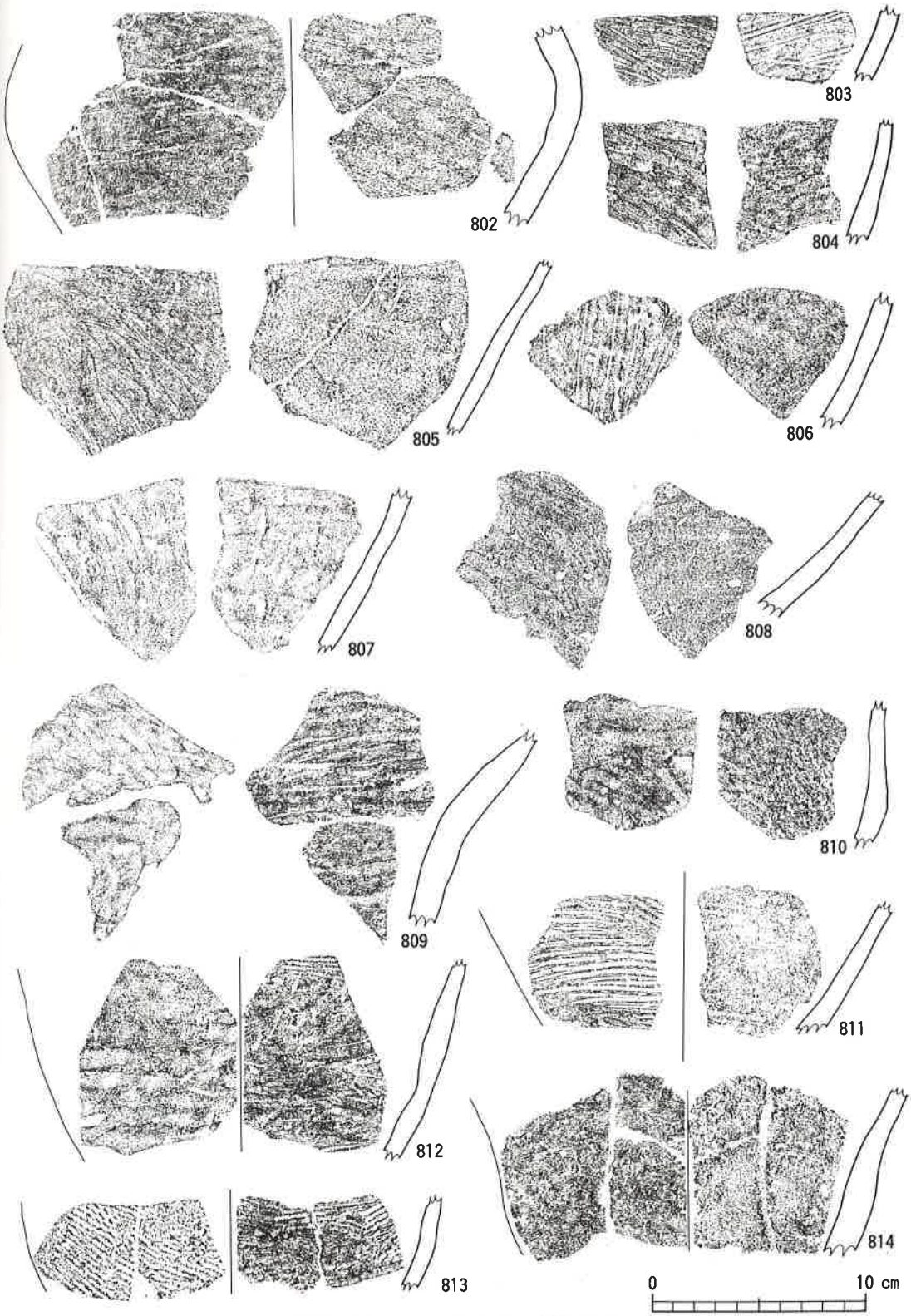
第67図　4トレンチの出土遺物(13)



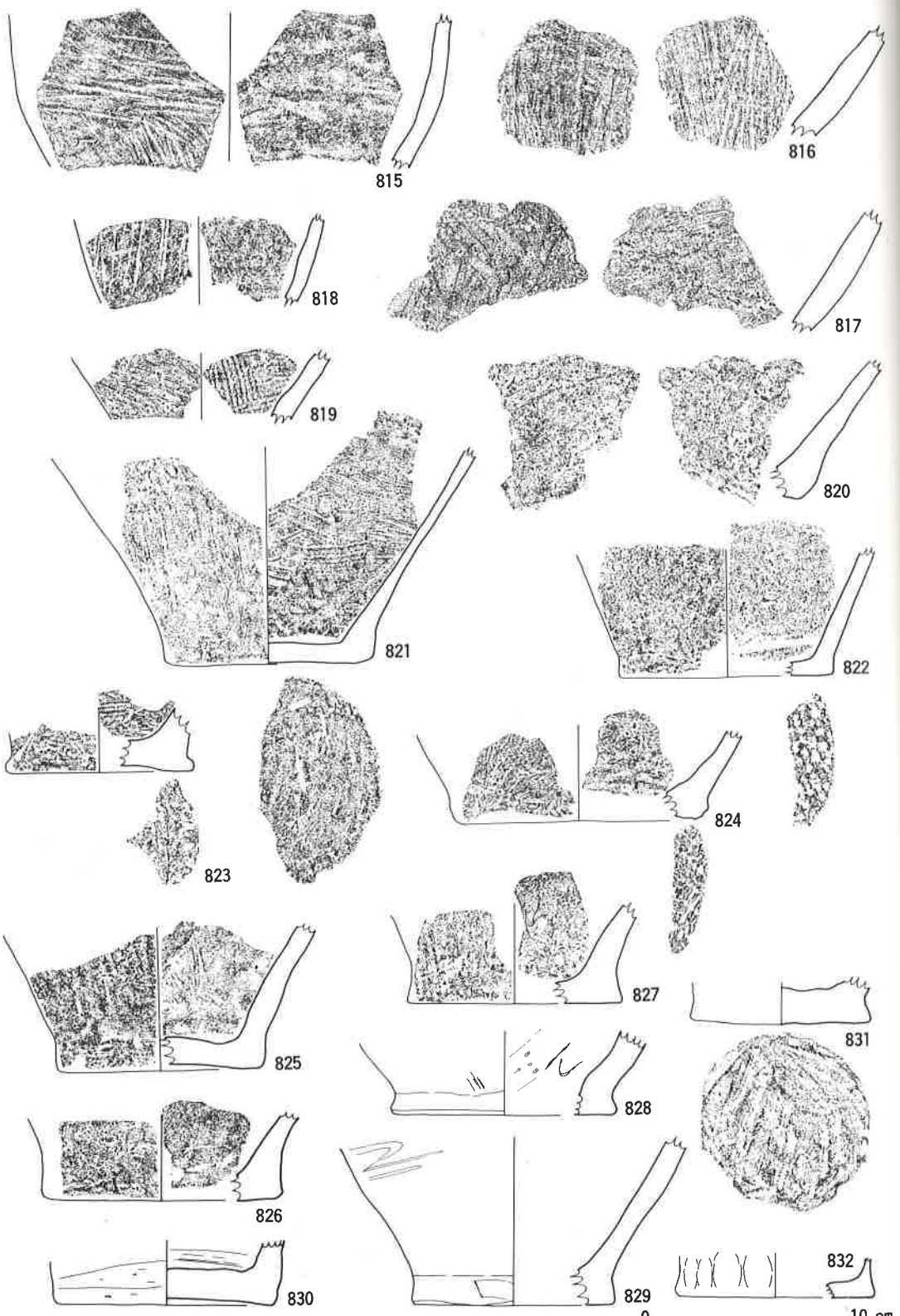
第68図　4トレンチの出土遺物(14)



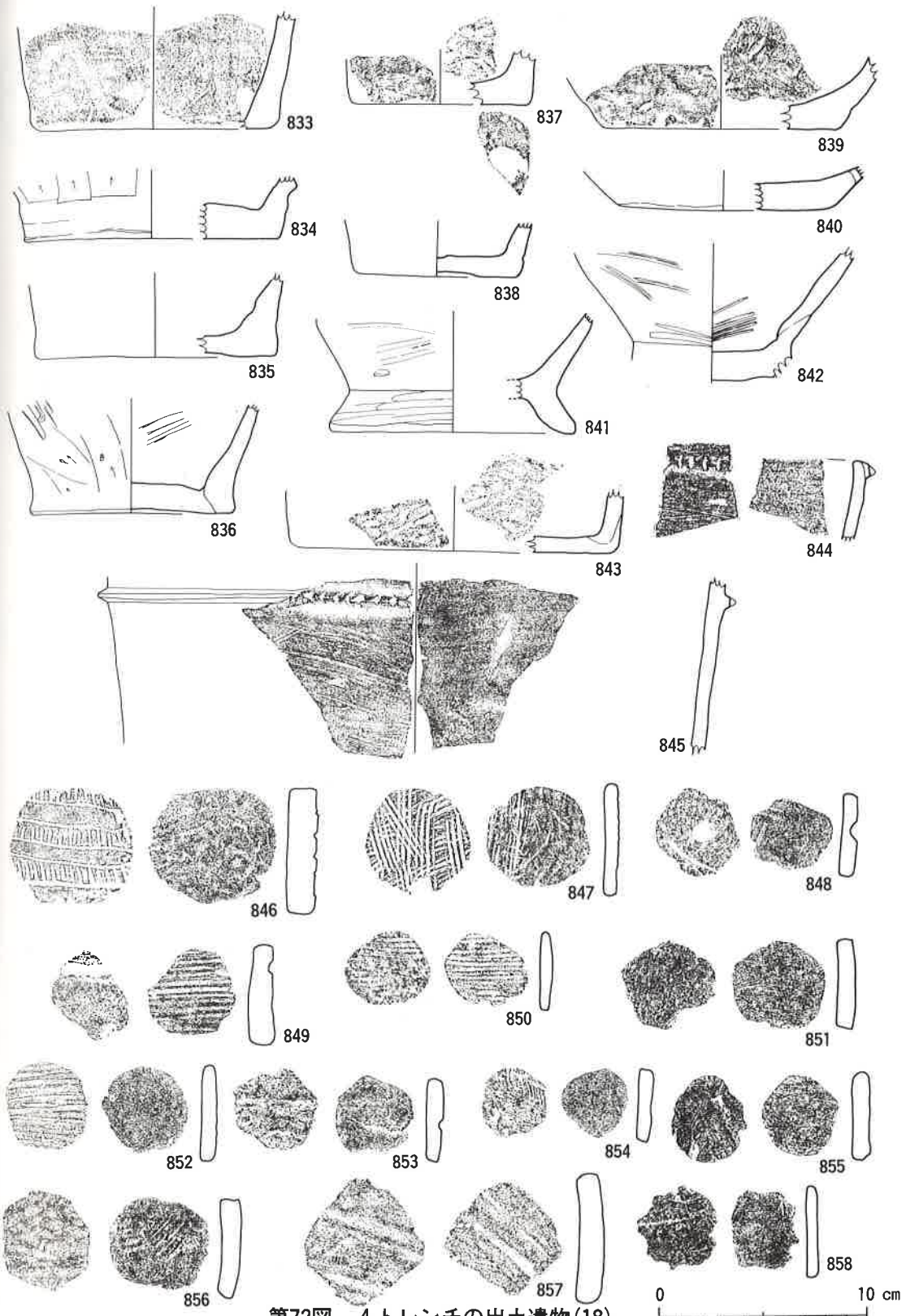
第69図　4トレンチの出土遺物(15)



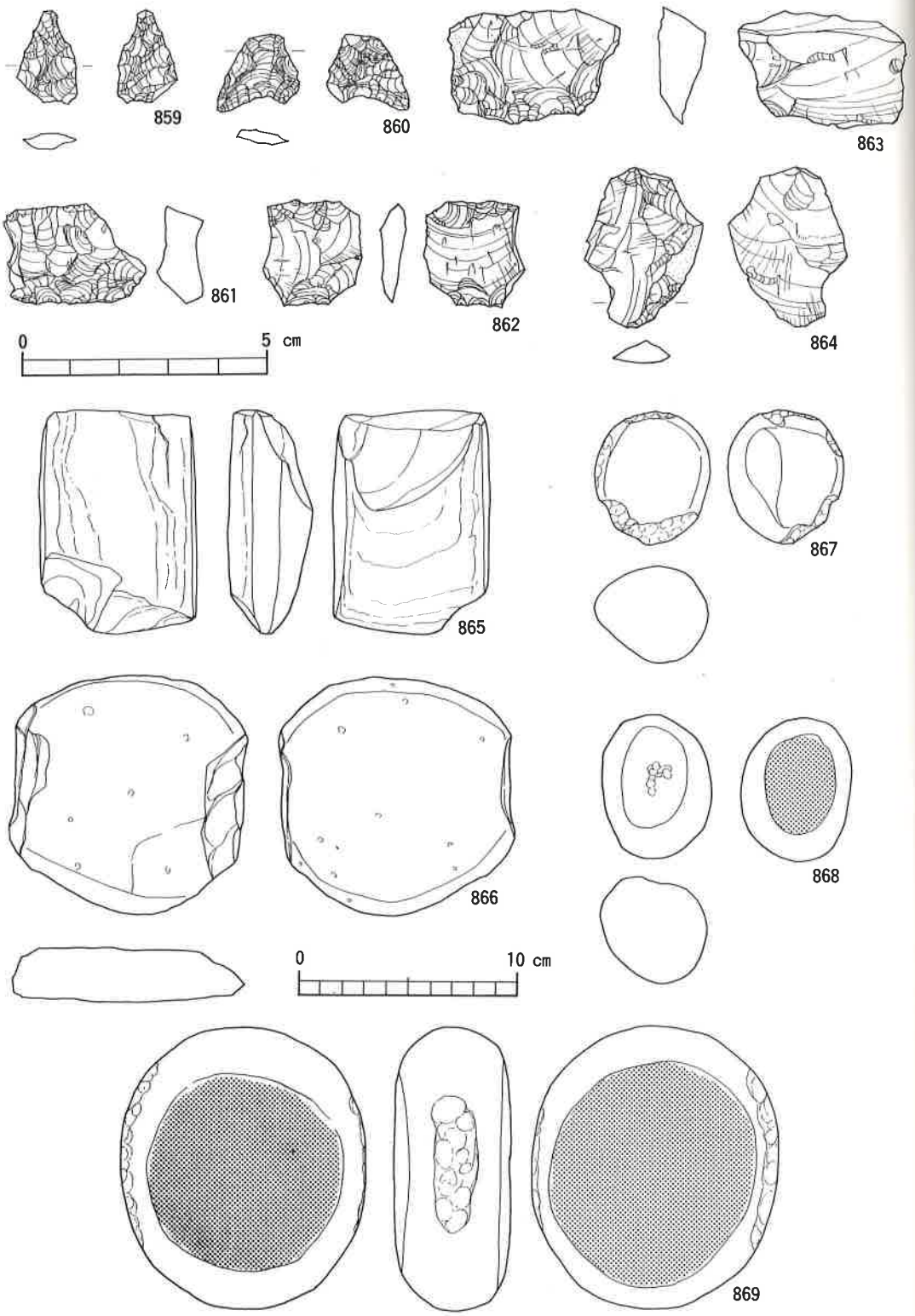
第70図　4トレンチの出土遺物(16)



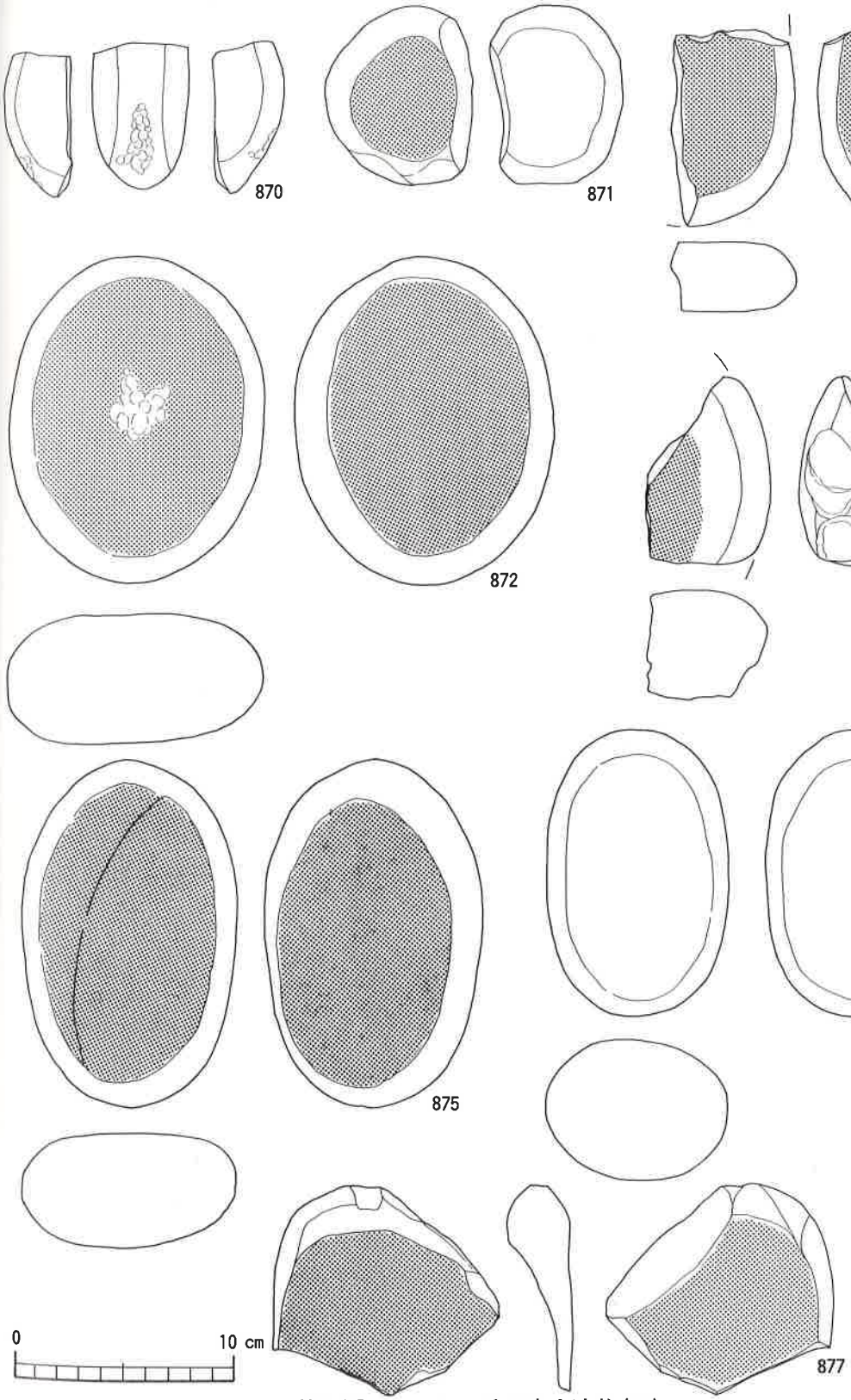
第71図　4トレンチの出土遺物(17)



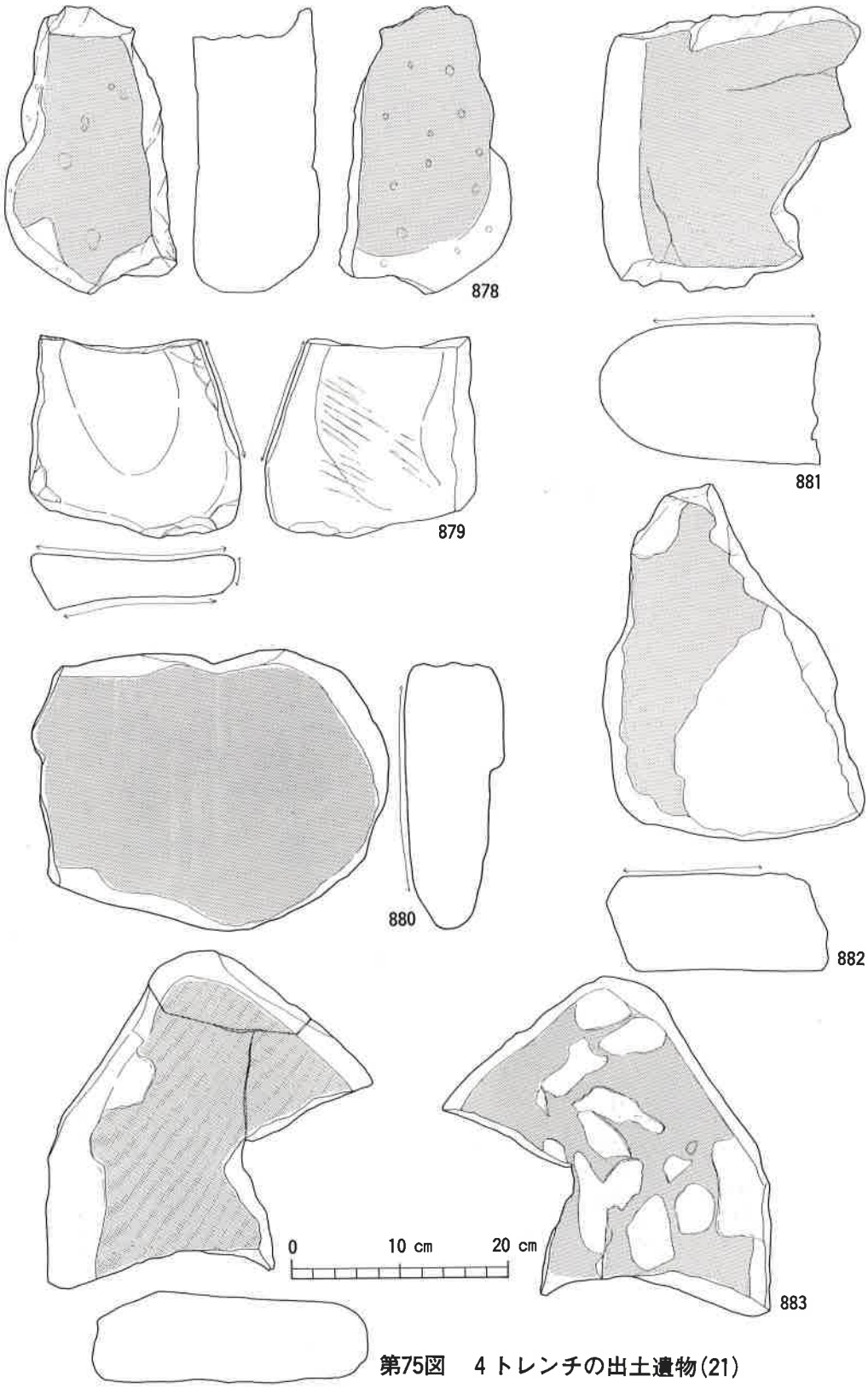
第72図　4トレンチの出土遺物(18)



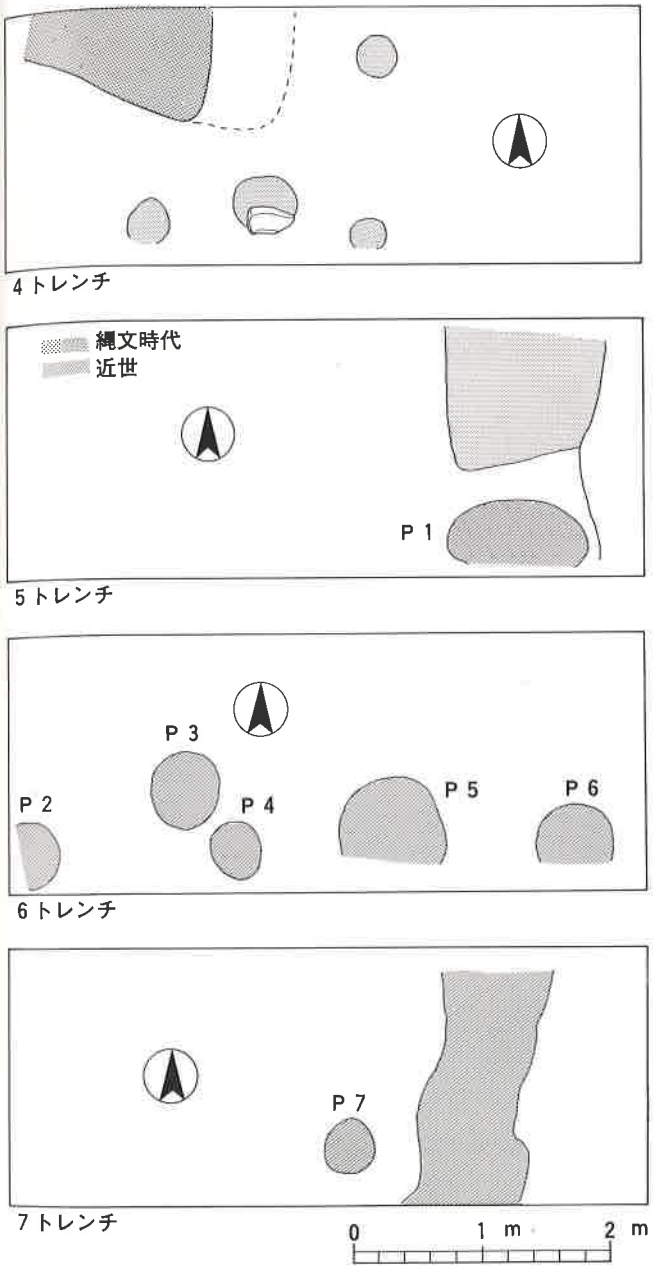
第73図　4トレンチの出土遺物(19)



第74図　4トレンチの出土遺物(20)



第75図　4 トレンチの出土遺物(21)



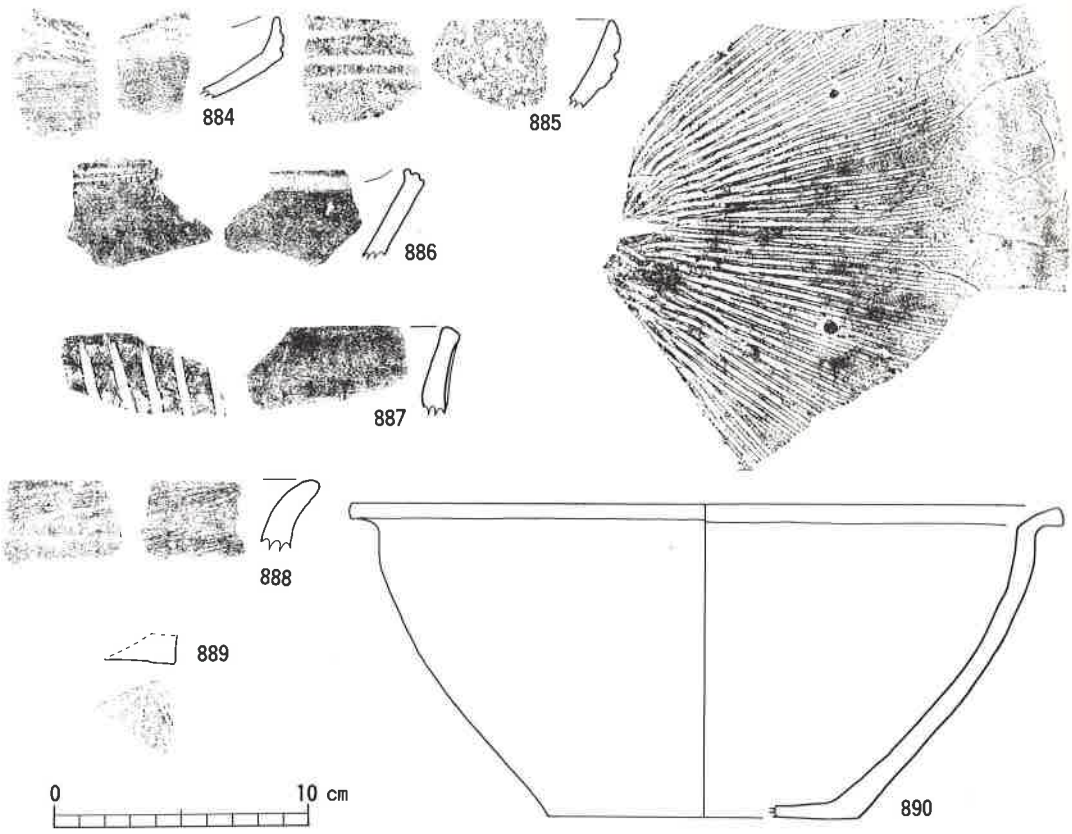
第76図　4～7トレンチの遺構検出状況

4トレンチの調査は，Ⅴ層上面でⅣ層土の落ち込みを検出したため，それ以上の掘り下げは行わずに埋めもどした。第76図にあるように隅丸方形の落ち込みと，円形のＰｉｔであり，住居跡の可能性がある。

5．5～7トレンチの調査

5～7トレンチでは，表層を40～50cm除去したところ，Ⅲ層と考えられる色調の異なる面で，黒褐色土の落ち込みを検出し，それぞれを精査した。5トレンチでは，一部に撹乱があったが，北東隅に暗赤褐色土の方形のコーナーがあり，縄文時代の遺物が出土した。縄文時代の遺構で，住居跡の可能性がある。Ｐ1は黒褐色土の埋土をもつ。

6トレンチでは南側の壁沿いに，黒褐色土を埋土とするＰｉｔが並んで検出された。Ｐ3から890の近世のすり鉢を出土した。Ｐ2～Ｐ6までは掘り上げずに埋めもどしたが，検出面の埋土で観察する限りはＰ3の埋土が若干異なっていた。Ｐ6の周辺は砂地となっている。5トレンチのＰ1とあわせて平面プランを把握する必要があるが，いずれも近世以降の掘立柱跡と考えられる。7トレンチは検出面で，色調の違いとともに土質が砂質であり，5・6トレンチとは異なる。7トレンチの北は，8トレンチ・3トレンチと続くが，このトレンチの調査の結果，7トレンチの北に現在より谷が入り込んでいたと推定され，自然の流路があり，この結果砂質土が堆積したとも考えられる。7トレンチの溝状遺構は，黒褐色土の埋土をもち，時期的にはやはり近世以降のものと判断できる。検出面の観察では，

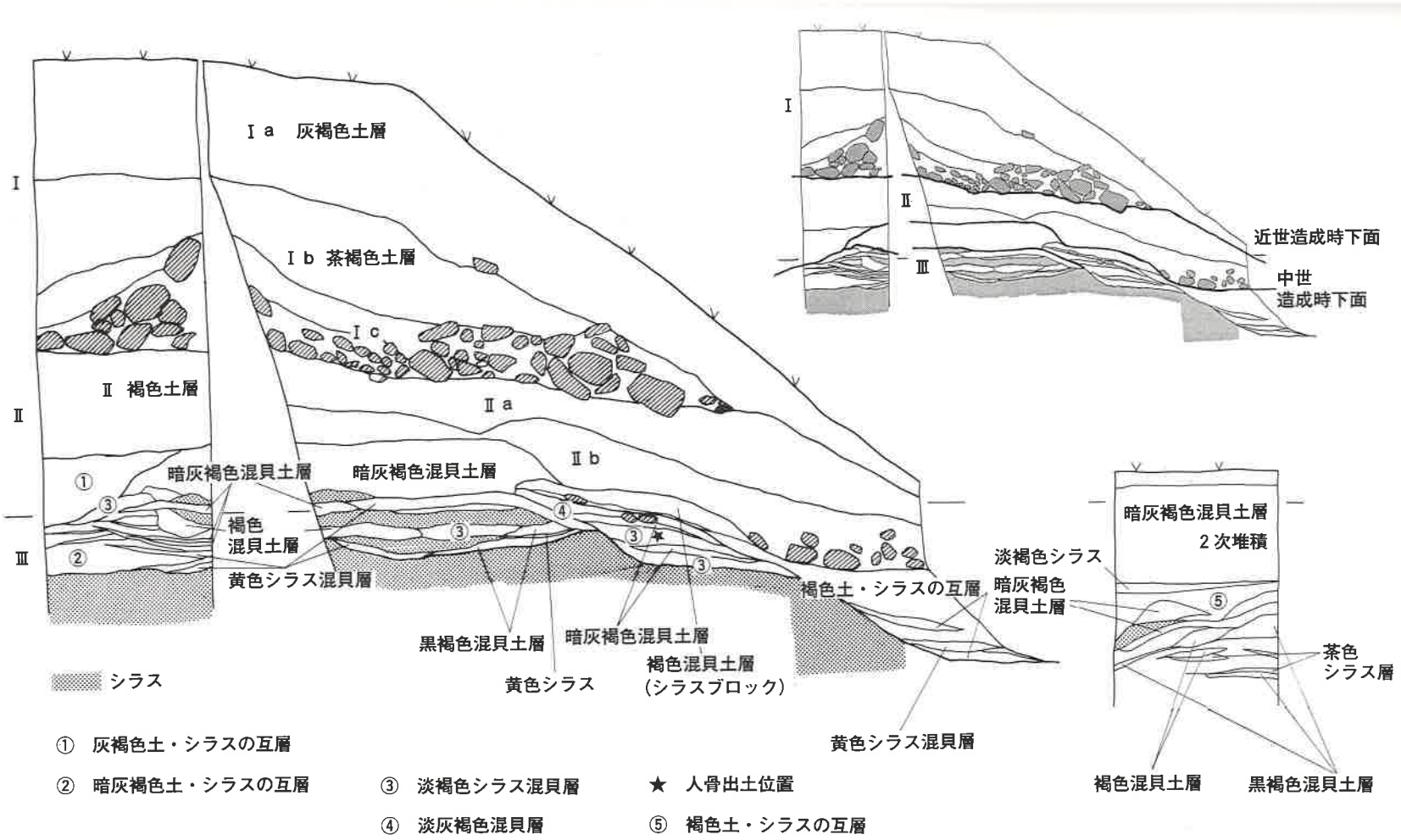


第77図　5～7トレンチの出土遺物

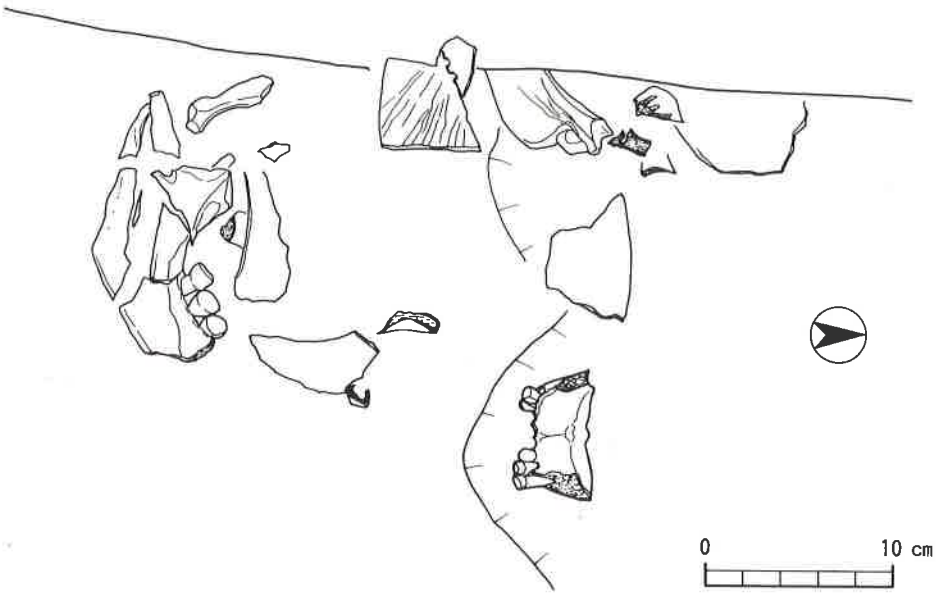
新しい自然流路とも考えられる。

遺物は，884～886が磨消縄文系の土器であり，887が沈線文，889が底部で木葉の圧痕をしるしている。890はＰ２からの出土品であったために，中世以降については後ほどにまとめてあるが，近世の遺物をここにあえて掲載した。近世でも新しい時期になるのではないか。縄文時代の土器については４トレンチ出土土器と内容的に同じである。

以上のように，４トレンチで縄文時代の包含層が厚く堆積し，遺構が重複している可能性が高いことと，５トレンチに縄文時代の遺構があることで，Ｅ－４・５，Ｆ－４・５，Ｇ－４・５区に縄文時代の包含層・遺構が，かなり良好に保存されているということができる。また６・７トレンチから南側では近世の遺構があり，付近は造成によって削平されている事も考えられる。７トレンチ周辺では，土層の堆積状況がやや異なる様相を呈する。



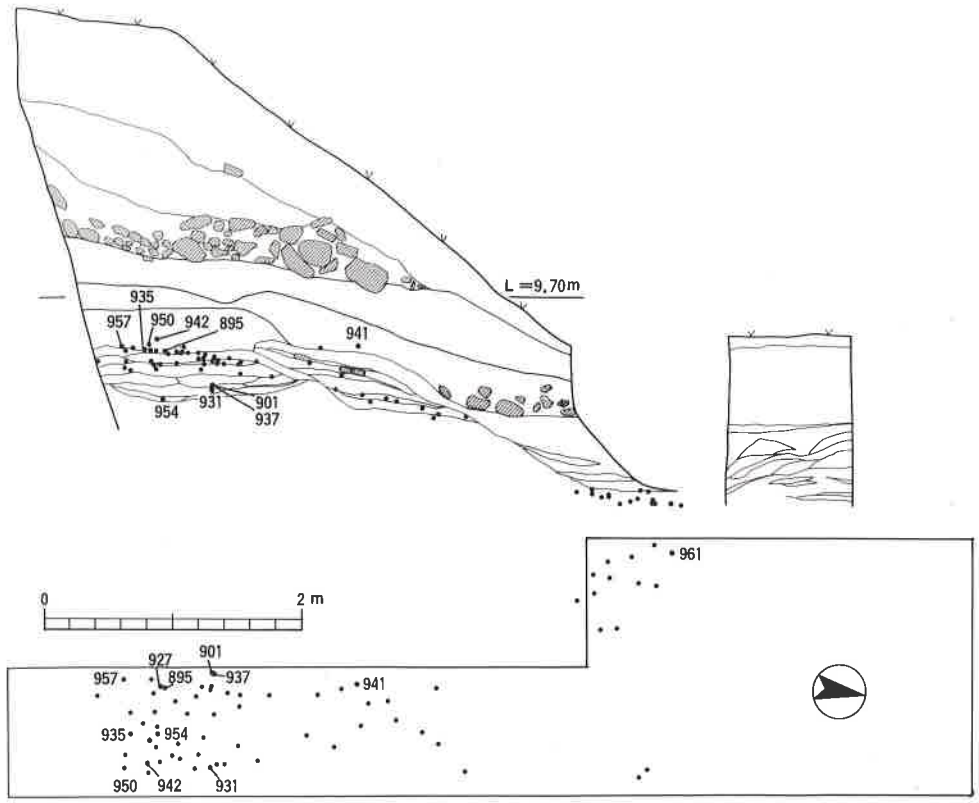
第78図　8トレンチ西壁土層堆積状況



第79図　8トレンチの人骨出土状況

6．8トレンチの調査（第78図～第85図）

第1貝塚の東側の範囲を確認するために，傾斜にあわせて8トレンチを設定した（1×5＋2×3m）。土層断面図（第78図）にあるように，その堆積状況から多くの成果が得られた。中程に岩・礫層があり，染め付けや薩摩焼きなどの磁器等が出土し，その下層からは青磁片・土師器が出土した。岩・礫層の下層は，縄文時代の土器片も出土するが，土層堆積にしまりがなく，礫を多く含み2次堆積である。北側の傾斜面の下で，径10cm前後の杭の列を検出した。杭の列は，シラス面で検出したが，Ⅱa層が上に堆積しており，中世の時期であると考えられる。8トレンチの周辺は出土遺物と堆積状況から，中世と近世に少なくとも2度の造成がなされたものと判断される。8トレンチの北側においては，表土から暗灰褐色混貝土層が60cmほど堆積しているが，2次堆積である可能性が高い。この貝層の供給源としては，当然貝塚中心部である西側が考えられ，8トレンチの西側の現傾斜面に貝層が厚く堆積し，それが削られて再堆積したことが窺われる。南側では現地表面から約3mで混貝土層に達したが，西から東に混貝土層が傾斜して堆積している。同様の堆積状況は北側でも観察され，2次堆積ととられた暗灰褐色混貝土層と考え併せて，第1貝塚が西側へ山なりに堆積していたことがわかる。この付近ではシラスは基盤岩の間や谷部に残っているだけだが，このトレンチと3トレンチで最下層にシラスが堆積し，トレンチ北側では湧水があること，貝塚の形成状況などから縄文時代は谷であり，この谷を埋めるかたちでまず貝塚が，そして後世の造成により現地形がつくられたものであろう。縄文時代の遺物包含層は，ここでは純貝層は検出されず，おおよそ混貝土層とシラス層が互層状態で堆積している。人骨は，縄文時代包含層のこの互層に挟まっており，撹乱

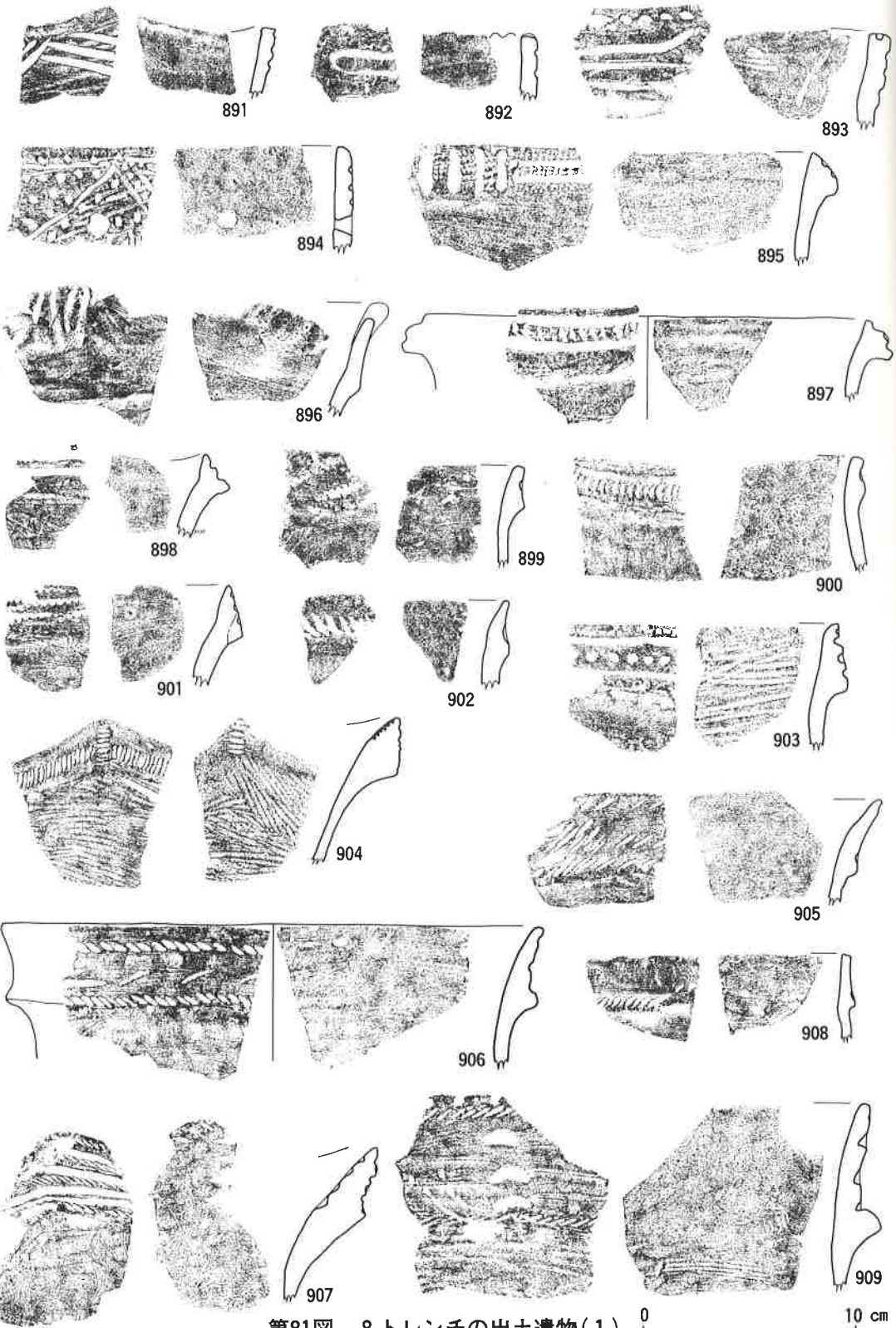


第80図　8トレンチの遺物出土状況

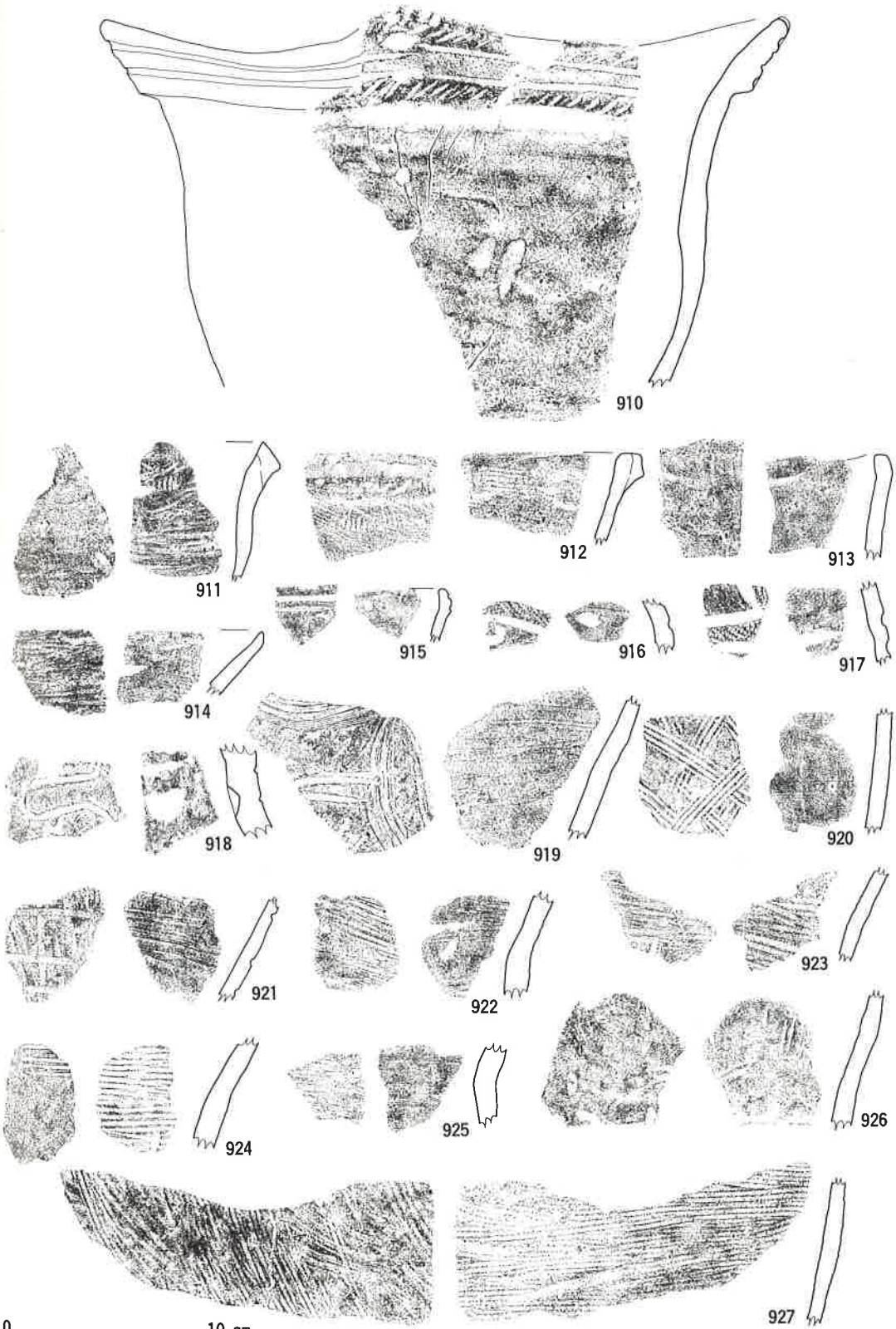
は考えられない。また頭骨がまとまって出土し（第79図），土層断面には北西側に人骨が残っており，埋葬人骨の可能性が高い。また南側のシラス層を2枚挟んだ堆積層のまとまりと，中央部の人骨の出土した層を含むまとまりとがあり，その上に暗灰褐色混貝土層がのっている。少なくとも3回の堆積か崩壊があったことがうかがわれる。時期差が考えられ，今後の調査によっては土器型式の細分などの手がかりになると思われる。また混貝土層は薄く何枚も堆積しているので，3つの堆積層のまとまりはさらに細分され，排棄量の推定なども行える可能性がある。

遺物出土状況は第80図にあるが，縄文時代の包含層に達してからの遺物について，ドットを落とした。1m幅での発掘作業であったことと，一応分層して排土をすべて水洗いしたため，遺物のすべてを図化はしなかった。遺物は，シラス層を除く混貝土層から出土している。貝塚の周縁部のためか，混貝土層にしては遺物は少なかった。

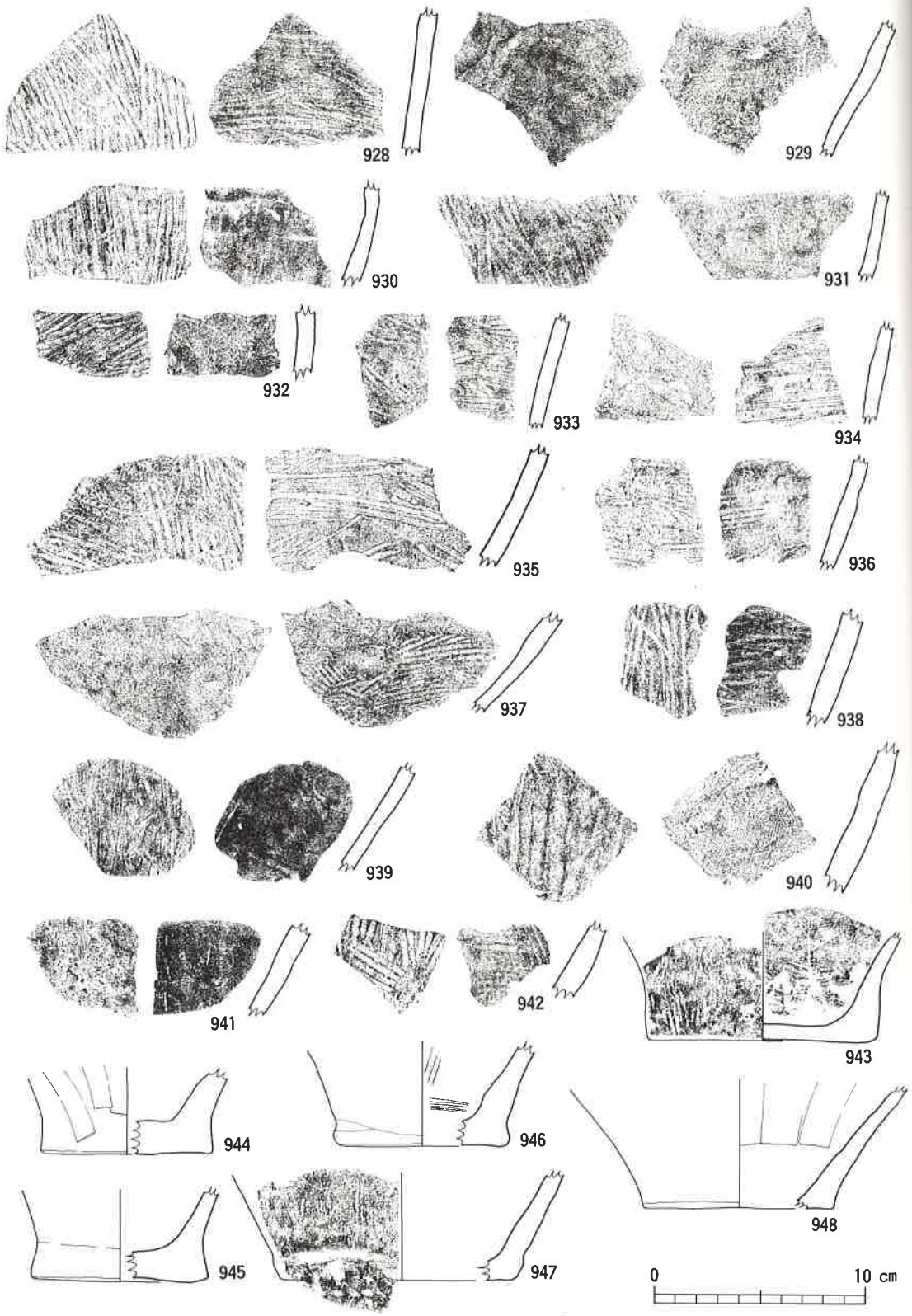
土器はⅠ類（891～893），Ⅱ類（897・898），Ⅲ類（895・899～910），Ⅳ類（915～917）に分けられる。Ⅰ類は沈線文土器で，Ⅱ類は口縁端部を肥厚させ斜め上方に面を作り，そこに平行沈線を施すものである。Ⅲ類は，口縁部を断面三角形に肥厚させ，そこにヘラ状工具による刺突文や貝殻腹縁による圧痕文，凹線文を施すものである。口縁部文様帯がひろがって，肥厚部がまのびするものもある。Ⅳ類は磨消縄文系の土器である。911～913は無文の口縁部である。



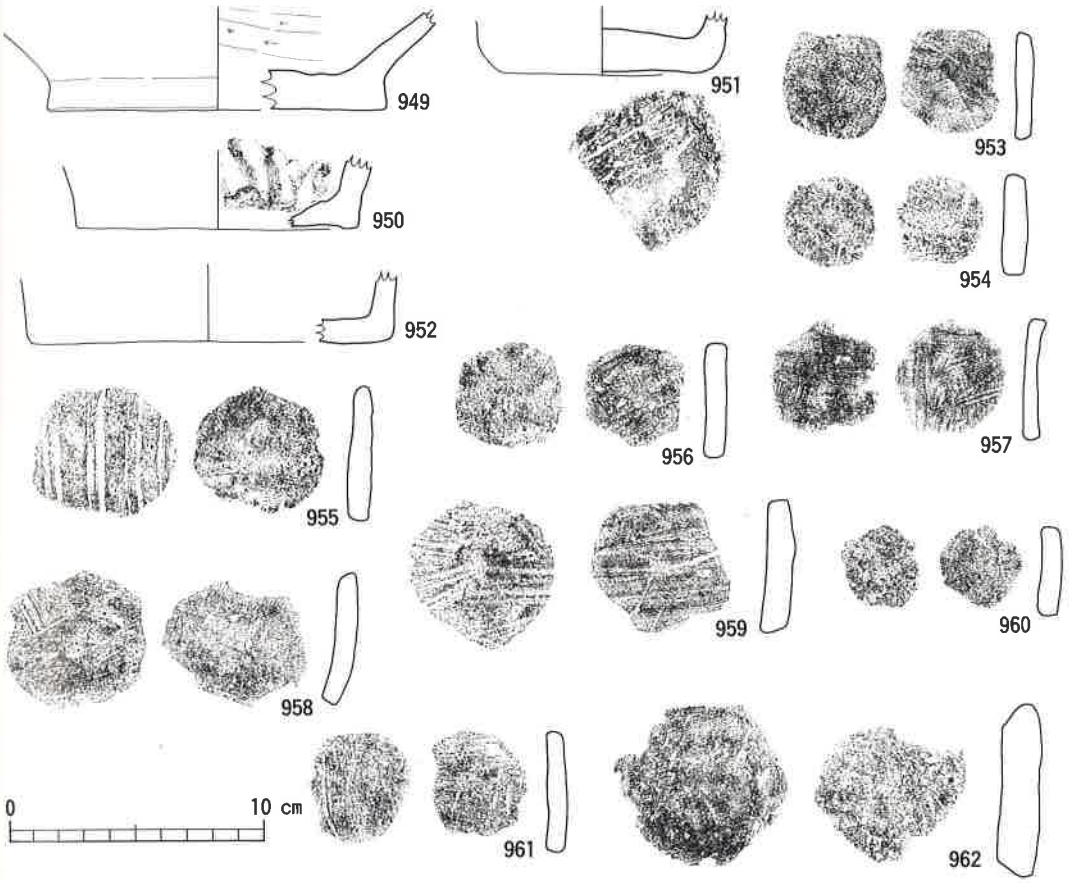
第81図　8トレンチの出土遺物（1）　0　10 cm



第82図　8トレンチの出土遺物（2）



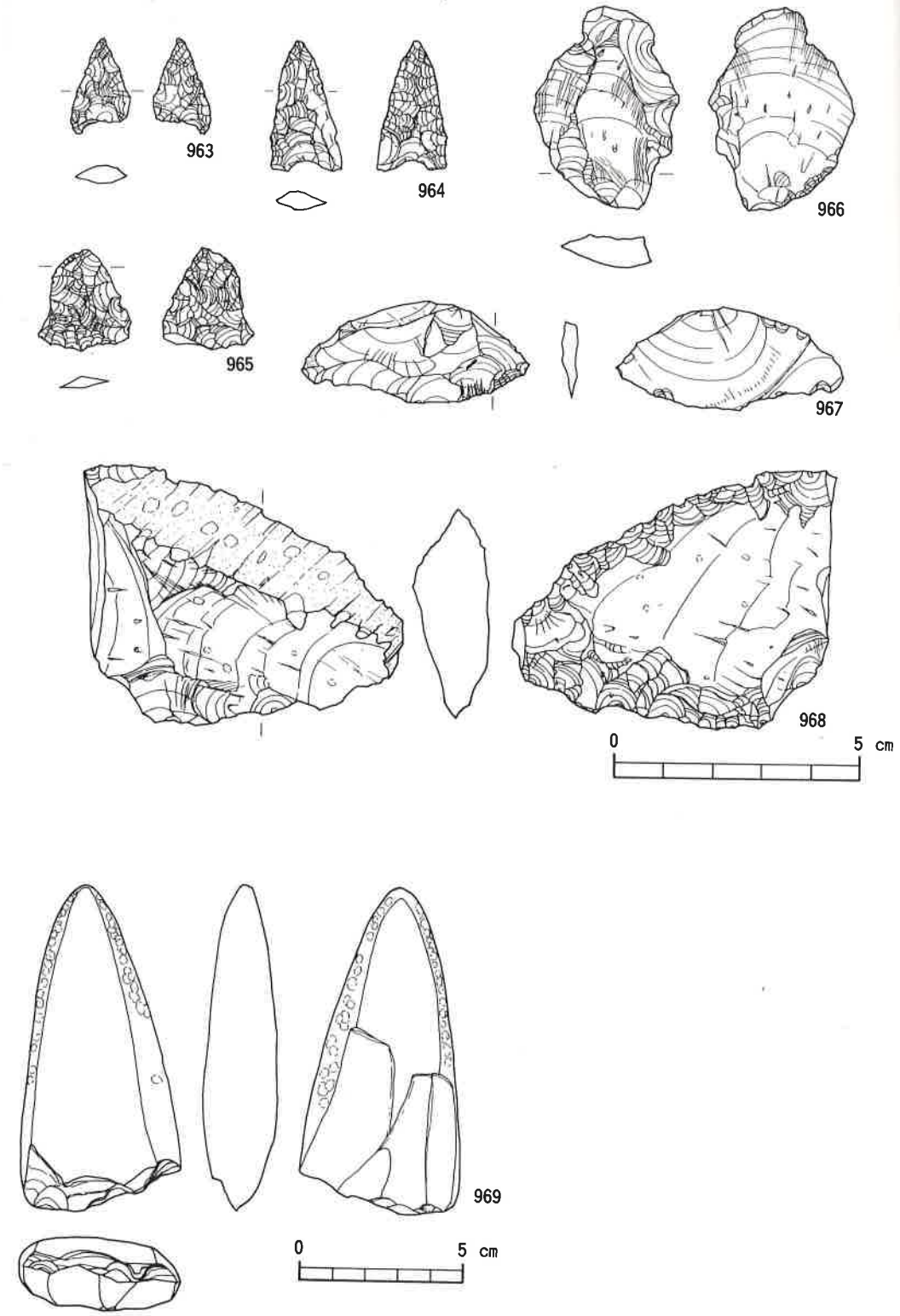
第83図　8トレンチの出土遺物（3）



第84図　8トレンチの出土遺物（4）

918～921は有文の胴部で，沈線文が中心である。922～942が胴部，943～952が底部である。953～962は円盤形土製品である。個々の土器については観察表に詳しい。

石器は石鏃・石匙・掻器などが出土した。966は，素材をそのまま活用して，刃部調整剥離をあまり行っていない。しかし打点と反対方向に両側から抉りを入れており，石匙とした。967は横長剥片を素材として，一方に刃部調整を行う。使用時についたと考えられる痕跡が窺われる。968は縦長剥片を素材として，主要剥離面側に刃部の調整剥離が施されている。969は石斧の破損品であるが，再利用も考えられる。個々の石器に関しては計測表に詳しい。



第85図　8トレンチの出土遺物(5)

7．9トレンチの調査（第86図～第89図）

9トレンチは，貝塚の埋葬人骨等の西側への拡がりを確認するために設定したものである。トレンチは2ｍ×8ｍで設定し，グリッドではＥ3区の約30度の急傾斜部分にあたる。

調査の結果，9トレンチでは縄文時代の遺構等は確認されなかった。そのため縄文時代の遺構等の範囲は，河口氏の調査された傾斜面トレンチと今回の9トレンチの間付近であることが推定される。9トレンチの層位は，表層（Ⅰ層）の下には灰褐色のⅡ層が堆積する。Ⅱ層は，縄文時代の遺物が主に出土しているが歴史時代の遺物（土師器等）も含まれる。またトレンチ下端の平坦地付近ではⅡ層中に露呈する岩石が人工的に掘削されており，歴史時代の遺構が存在することが確認された。その下層は，トレンチ上端では暗黒褐色土層が堆積するがⅡ層と次のⅢ層との漸移層となっている。そのためⅡ層とした。Ⅲ層は黒褐色土層で縄文時代後期の包含層であるが，トレンチの傾斜上端に僅かに残存しているだけであった。その下面は，岩盤となっており，部分的に岩石の露頭が存在する。

9トレンチの出土遺物は，ほとんどがⅡ層中からのもので二次堆積土からの出土である。縄文時代の出土遺物は，土器と石器である。

出土土器は形態的にバリェーションが多く，多型式が混在していることが考えられる。主なものには太形凹線文で直線文及び曲線文・刺突文を口縁部に集約して施文するタイプ（970・971・977・974等），細凹線文を二本平行線状に施文するタイプ（975・976・983・987等），口縁部を肥厚させて文様帯として太形凹線文や刻目文や貝殻刺突文を施文するタイプ（994・995・998等）がある。そのほかに特殊な器形や文様を施文したものがみられるが，細片で不明なためその特徴は観察表に記した。その他には底部片（1000～1007）や土製加工品（1008）が出土している。石器は，掻器・磨製石斧・磨石・敲石等が出土している。

8．10トレンチの調査（第90図）

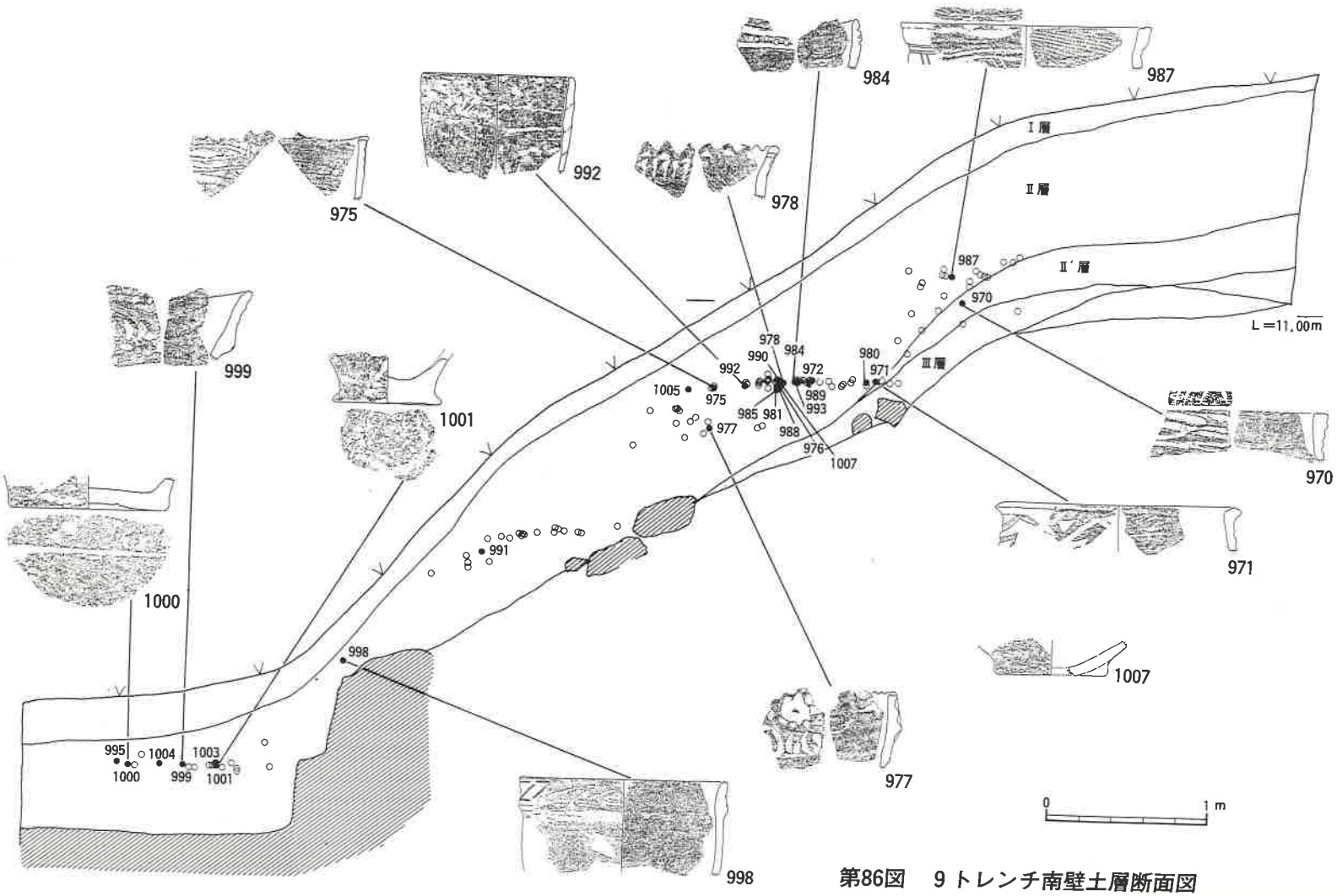
10トレンチは，貝塚上段の平坦地の状況を知るために設定したトレンチである。Ｆ6区～Ｆ9区のグリッドに沿って，南北に2ｍ×35ｍ規模のトレンチを設定した。

表層直下に僅かに遺物が出土したが，耕作のため表層は撹乱を受けている。時間的制約のため，今回は遺物取り上げの段階で一応調査は終了した。

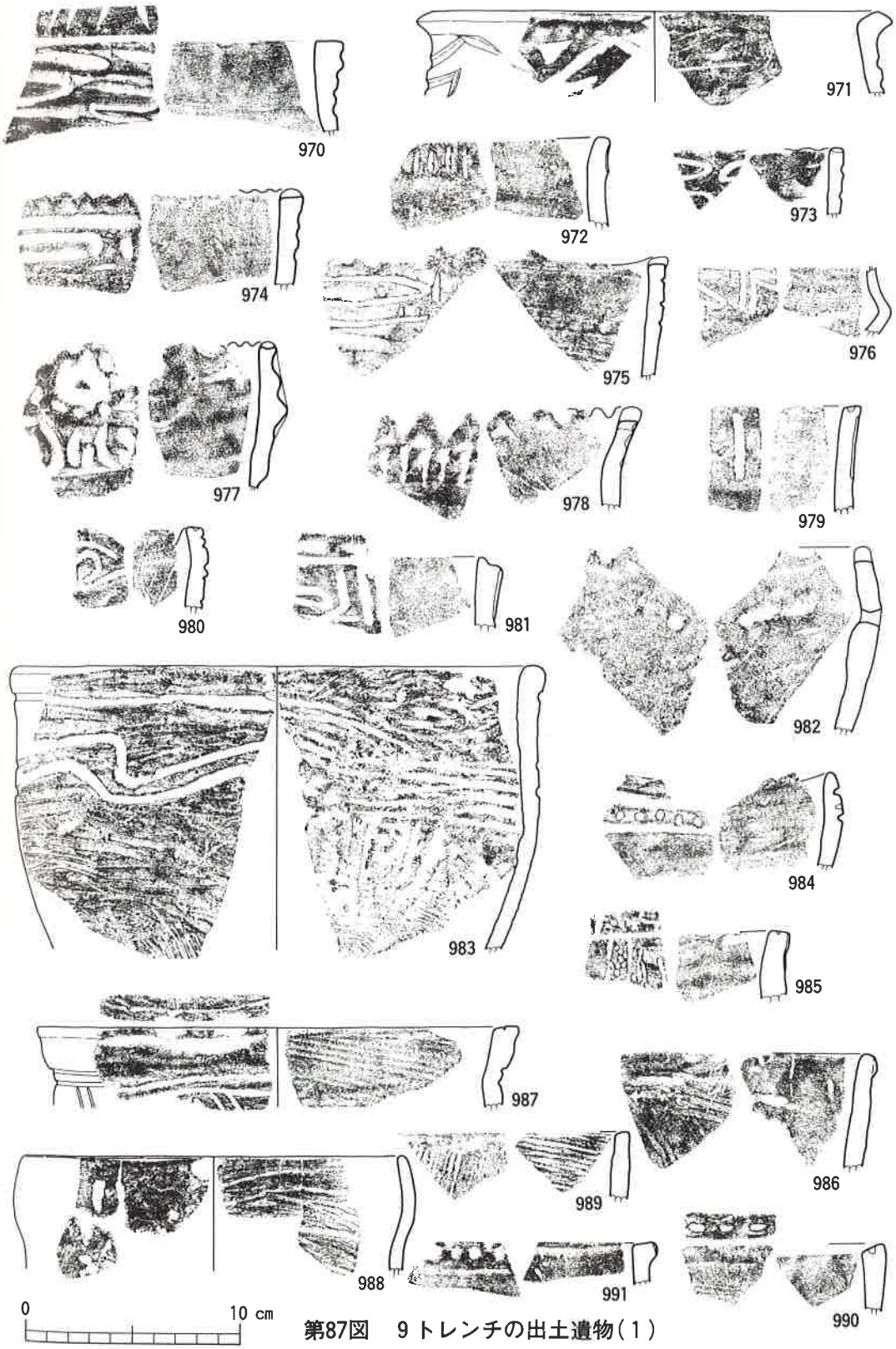
出土遺物は，土器と石器があるが少量である。土器は磨消縄文系の土器（1015～1020）と弥生土器（1022）がある。磨消縄文土器は口縁部がカマボコ状で内湾するタイプ（1015）と口唇部を拡張するタイプ（1016）がある。胴部文様には，頸部から肩部に細沈線文間に縄文や刺突文が施文される。弥生土器は，口径37㎝の大型の甕形土器である。口唇部は外方に水平に拡張し，口縁直下に二条以上の絡状の突帯文を巡らすタイプである。石器は，石鏃・磨石等が出土している。

9．11トレンチの調査（第91図）

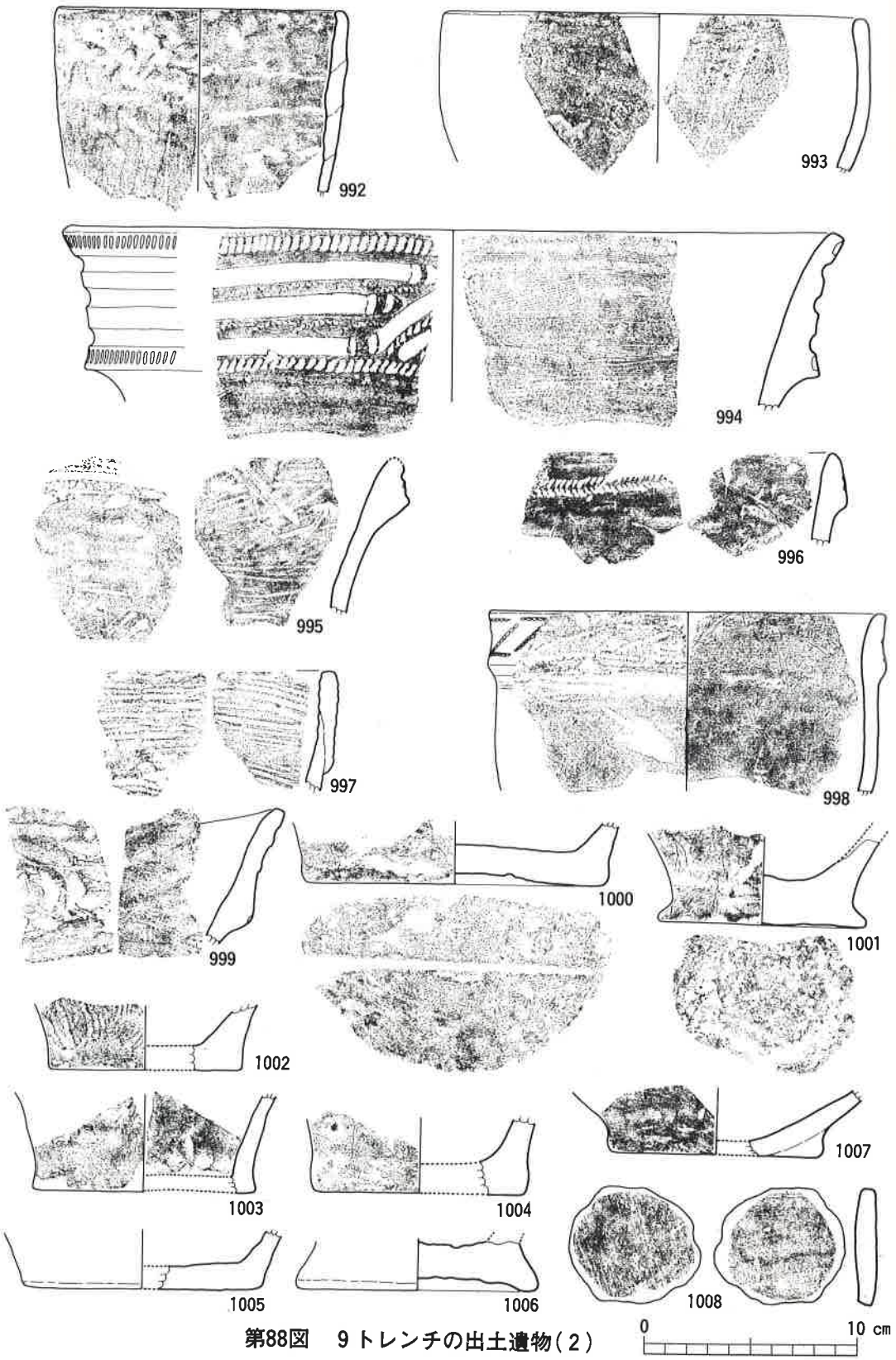
11トレンチは，山崎氏が報告した東側谷部に存在するという第二貝塚の上段部の様相を知るために設定したトレンチである。Ｈ7区に東西方向に，2ｍ×5ｍで設定した。表層は耕作に



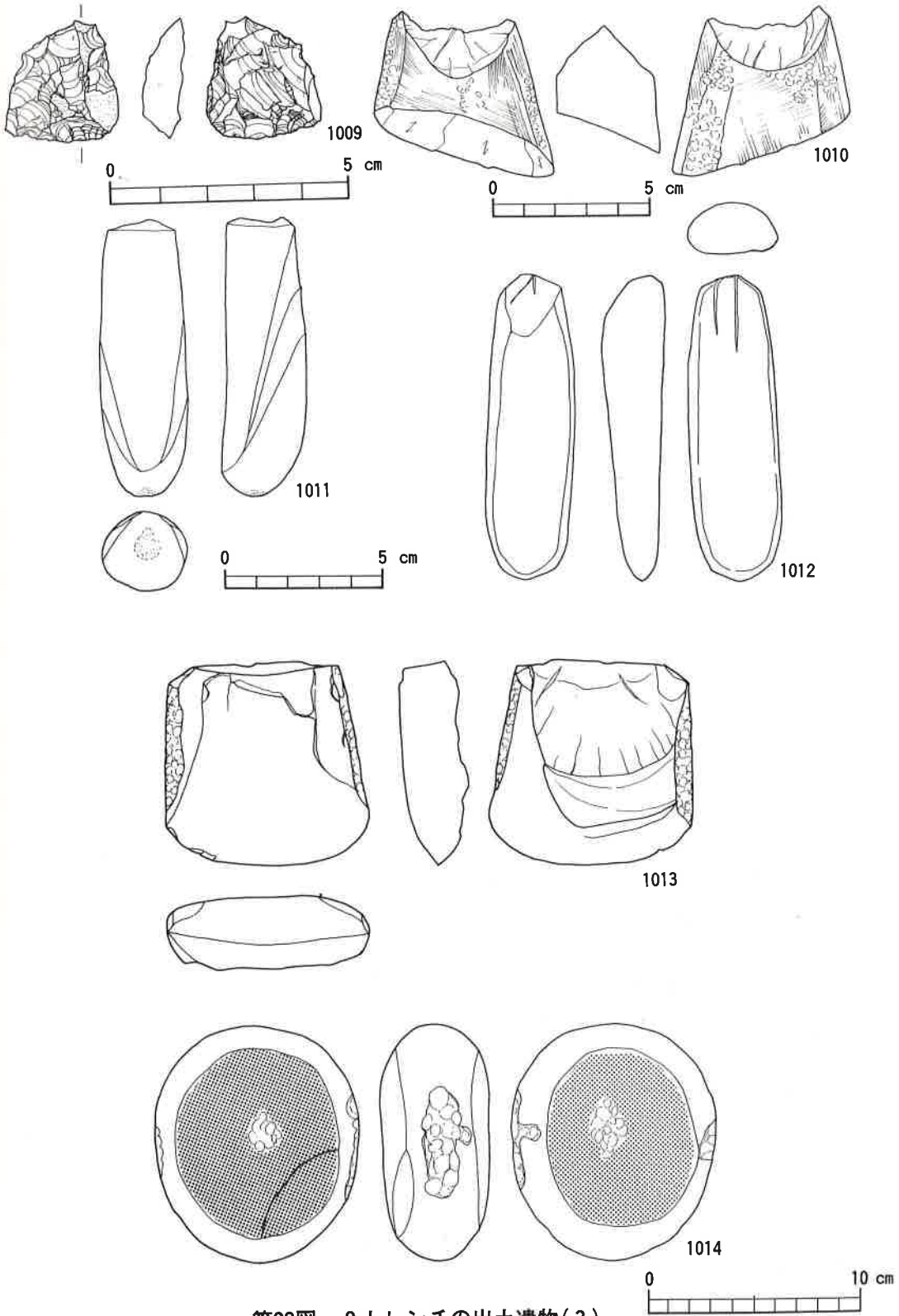
第86図　9トレンチ南壁土層断面図



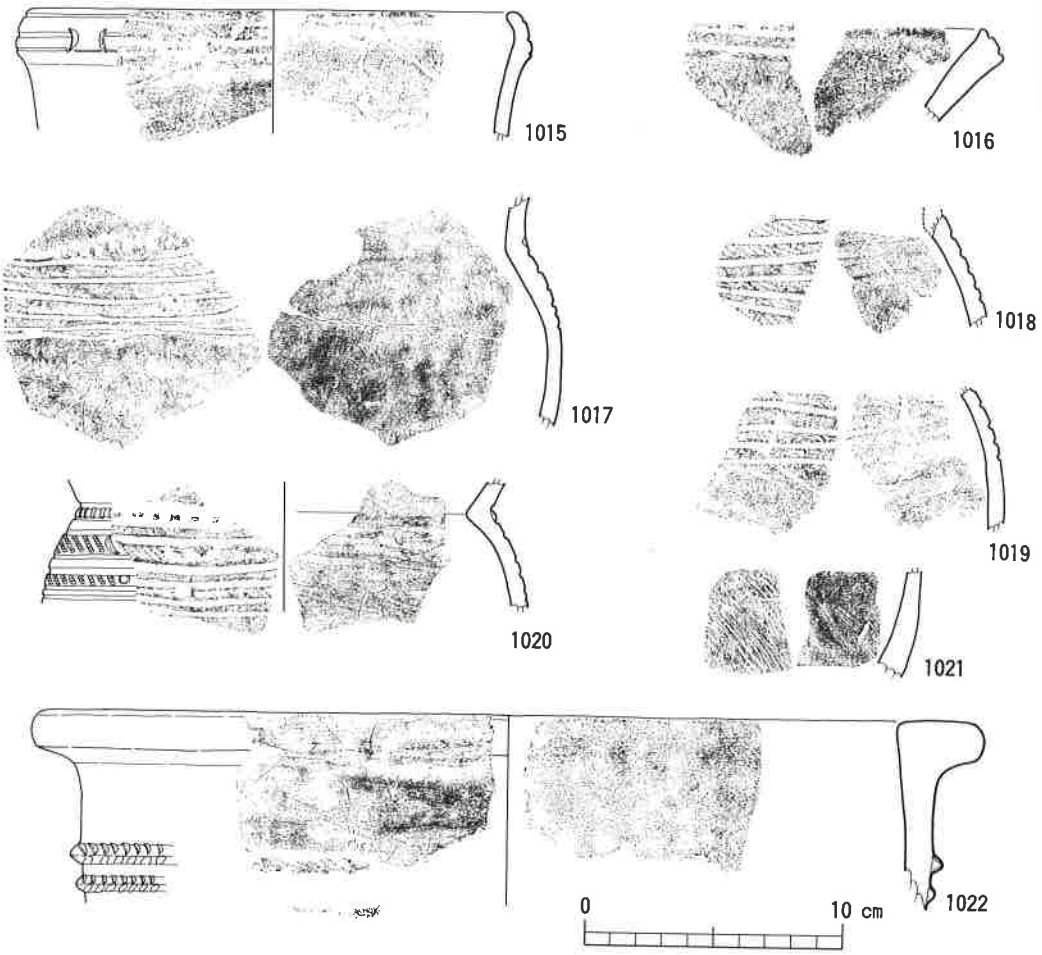
第87図　9トレンチの出土遺物（1）



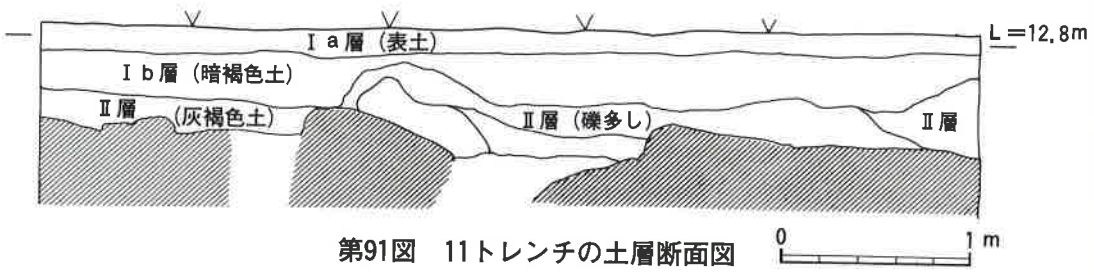
第88図　9トレンチの出土遺物（2）



第89図　9トレンチの出土遺物（3）



第90図　10トレンチの出土遺物

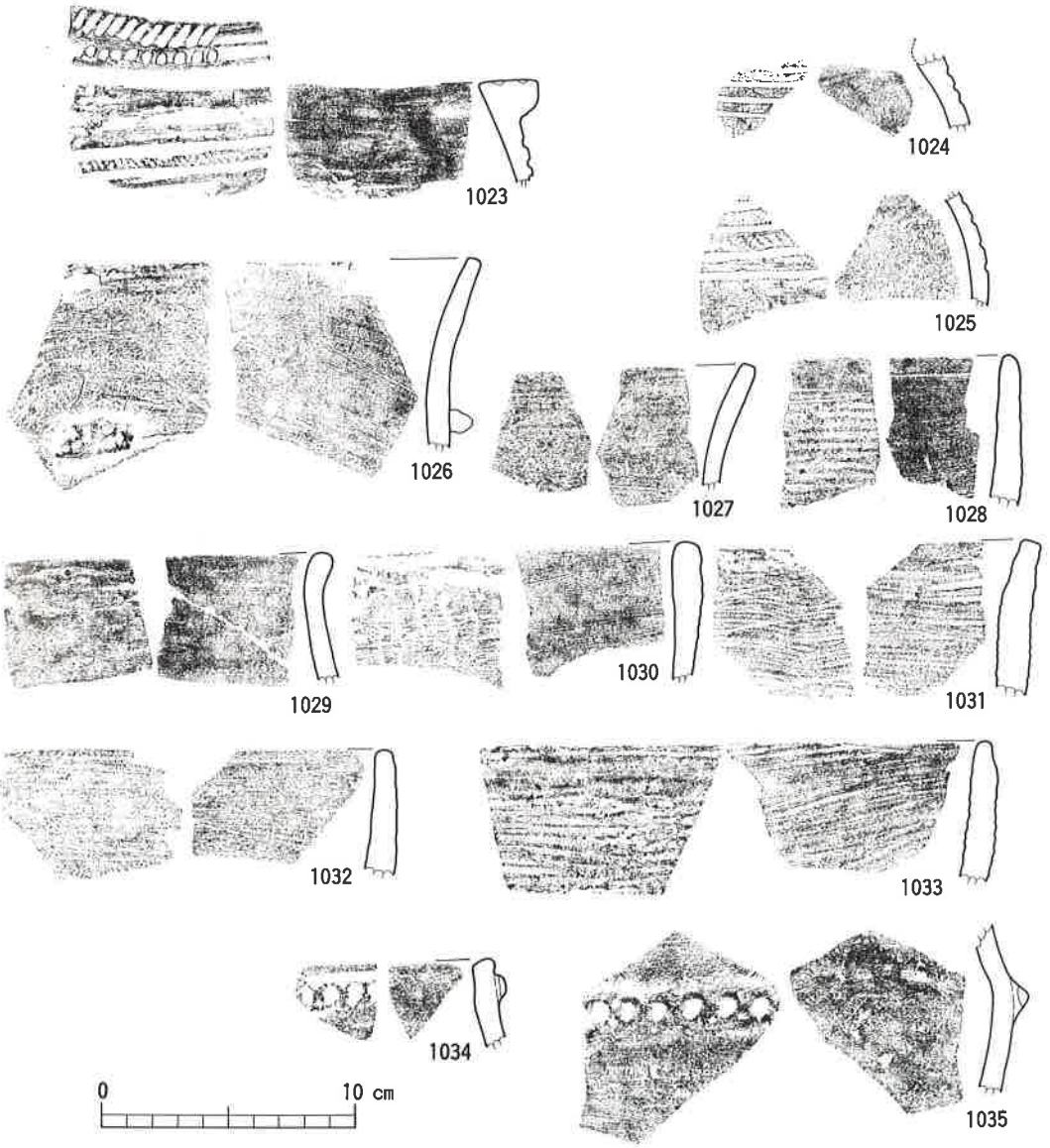


第91図　11トレンチの土層断面図

よって撹乱を受け，その下層は数層に分かれるが新しい時期の遺物が含まれる。表層下約50cmで，全面岩石となっている。出土遺物は，近世から歴史時代のものが少量で図化できるものはみられない。

10. 12トレンチ及び13トレンチの調査（第92図）

12トレンチ及び13トレンチは，10トレンチに直角で東西方向に設定したトレンチである。撹

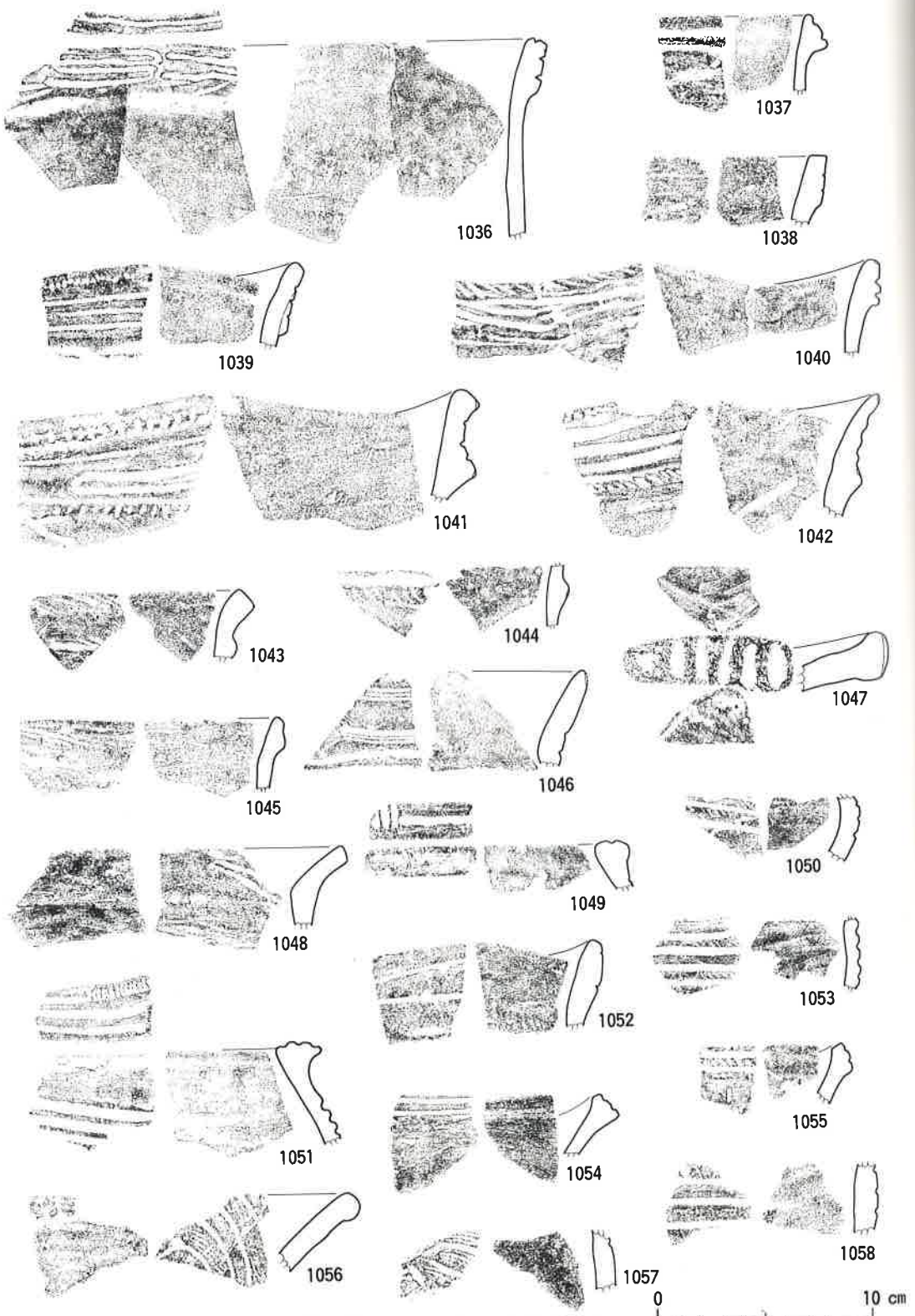


第92図　12トレンチの出土遺物

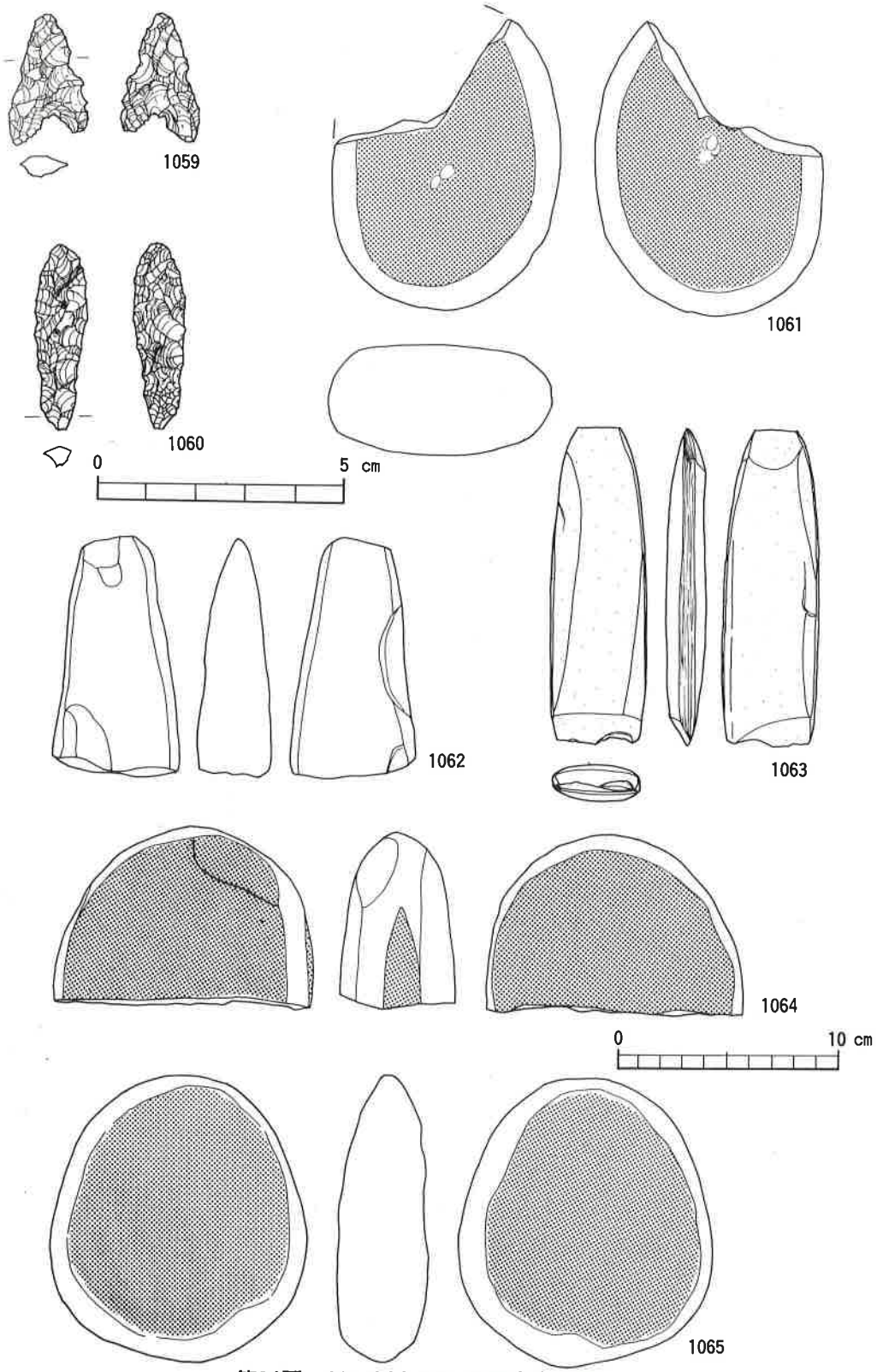
乱を受け，層序は10トレンチとほとんど同じ状況である。遺物は表層直下の出土で，土器と石器があるが少量である。土器は，後期の磨消縄文系の土器（1023～1025）と晩期土器（1026～1035）が出土した。磨消縄文土器は，内傾する口縁部の口唇部を水平に外方に拡張するタイプと胴部片で細沈線文間に縄文を施文したタイプである。晩期土器はリボン状の貼付文を付けた深鉢（1026）や組織痕土器（1030）がある。1034と1035は，刻目突帯文土器である。石器は，石錐・磨製石斧・石ノミ等が出土した。

11. 14トレンチの調査（第93図・第94図）

14トレンチは，山崎氏が報告している第二貝塚を確認するために設定したトレンチである。



第93図　14トレンチの出土遺物



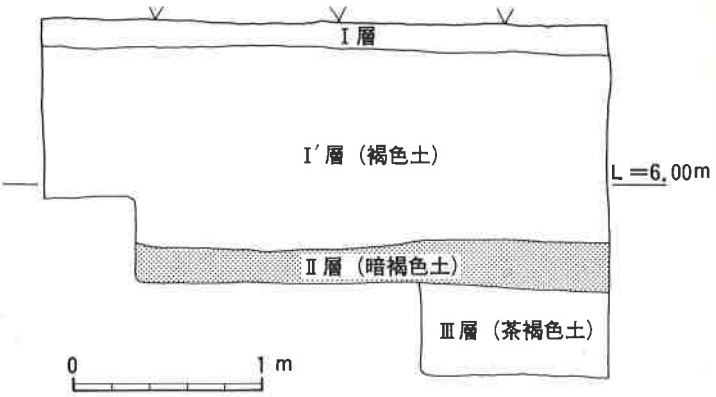
第94図　10～14トレンチの出土石器

トレンチは，Ｋ７区を中心とする谷部に直行する形で１ｍ×15m規模を設定した。調査の結果，谷部のため堆積層（造成土？）が厚く，１ｍ幅のトレンチでは深さ1.5mを掘ることがやっとであり，さらに時間的制約もあって，貝層を確認することは不可能であった。14トレンチの層位は，Ⅰ層は20㎝程度の耕作土で，その下層には50㎝から中央付近では１ｍにも及ぶ厚さの褐色土層（造成土？）が堆積する。その下層に15㎝～20㎝程度の暗褐色土層が堆積する。この層には，縄文土器のほかに土師器も包含するためⅡ層として取り扱った。その下層には茶褐色土層の無遺物層が続く。

Ⅱ層出土の縄文遺物は，土器と石器がある。土器は，肥厚口縁をなすタイプ（1036～1045）と磨消縄文系土器（1049～1058）がある。肥厚口縁には沈線文で文様帯をつくり，口唇部に沈線を巡らすもの（1036）や刻目を巡らすもの（1040）がある。また，1042のように太形凹線文の上下端に刻目を巡らすものなどがある。磨消縄文土器には，内傾する口縁部の口唇部を水平に拡張してその平坦面に凹線文を巡らすタイプ（1051）や口縁部がカマボコ状をなすもの（1052），外反する口縁部の口唇部を内外に平坦に拡張して文様帯をつくるもの（1054・1055）などがある。1056は皿状に外反する口縁部片であるが，内面に磨消縄文を施文する珍しい土器である。また，1047は台付皿形土器の口縁部片である。石器は，磨石が出土した。

12．15トレンチの調査

14トレンチで貝層が確認されなかったことと井戸を掘った時に貝殻が出たという情報をもとに，Ｋ５区付近に１ｍ×３ｍの15トレンチを設定した。15トレンチは，14トレンチ同様の層序で約1.5m下にⅡ層の歴史時代の包含層を確認したが，貝層は発見することはできなかった。谷部のため，貝層及び縄文時代包含層はかなり深いことが想定される。第二貝塚の発見は，今後の調査の課題である。



第95図　15トレンチの土層断面図

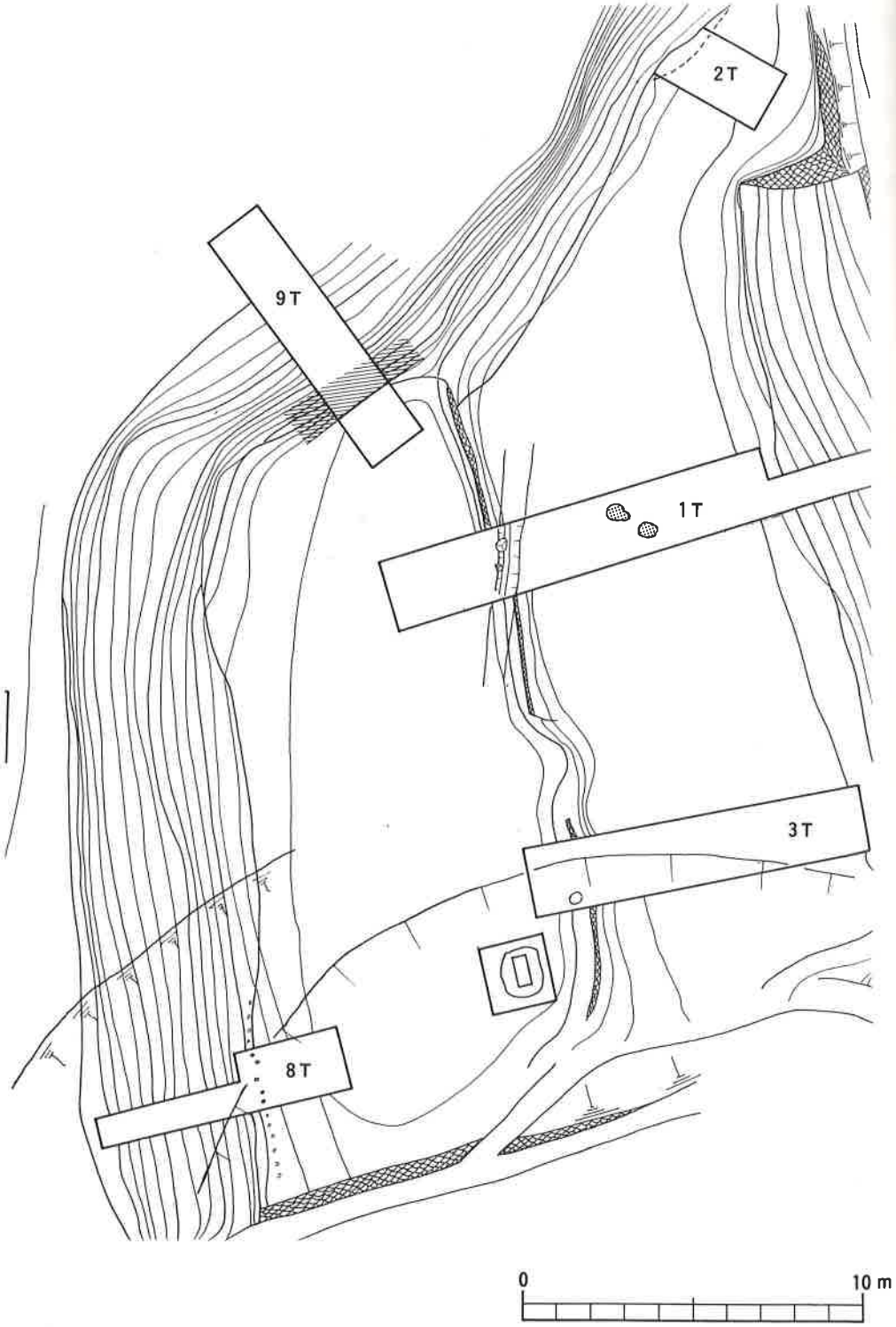
第3節　中世の遺構・遺物（第96図・第97図）

1トレンチでは撹乱層の途中に焼土が2カ所検出されており，その検出面を土層断面でみると，ほぼ平坦である。さらにその南側で，現在の畑地の段と一致するように，貝層を一部削平して，中世の溝が掘り込まれており，人頭大の石がこの溝に沿って並べられていた。この溝に関しては，検出できたのは貝層上面を覆っているときであったが，より上位からも青磁片が出土しており，北側で縄文時代の遺物が主体となってからも，この部分から中世の遺物が出土していた。調査中はトレンチの拡張部分の境目にあたるため，検出できなかったが，掘り込みはレベル的には，焼土が検出された面から行われた可能性がある。3トレンチは最も下部の包含層が縄文時代後期の包含層で，それ以外は中世の攪乱を受けた後の再堆積であることが判明した。南側断面図の炭化物を多く含んだ黒色土層から，青・白磁が出土しており，また杉材と考えられる直径20cm程の丸太が最下層のシラスに打ち込んである。8トレンチでは中世と近世の2時期に造成されたと考えられる痕跡があり，また斜面下に，土止めと考えられる径10cm前後の杭列が検出された。杭の列は，シラス面で検出したが，Ⅱａ層が乗っており，中世の時期であると考えられる。9トレンチでは縄文時代の遺物包含層（斜面で安定していない）があったが，深さ1m程で基盤岩がでてきた。斜面の下の部分で，基盤岩が直線的に切られていた。この付近からも青磁片が出土している。さらに一段上がった台地には，10・12・13トレンチから，中・近世のＰｉｔが6個検出され，掘立て柱建物跡の柱穴と判断できるものもあった。

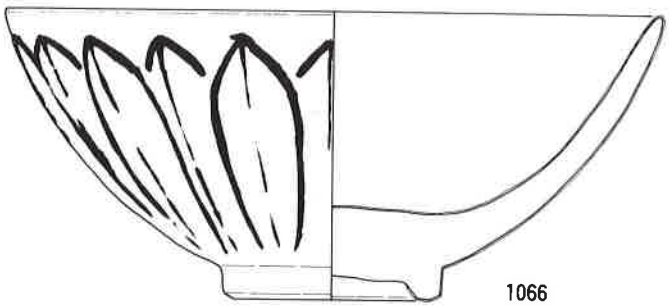
1・3・8・9トレンチの状況を考え合わせると，東側は低くなるが，現地形と近しい状況で，中世に何らかの施設がつくられたものと考えられる。東に河上城があり，現在より海岸線が入り込んで，さらに八房川が山間から平地にでて流れを緩やかにする所でもあり，こうしたことから河上城に伴う船着き場の可能性もあるのではなかろうか。そう考えると，上の台地の掘立て柱の建物跡もつながってくる。

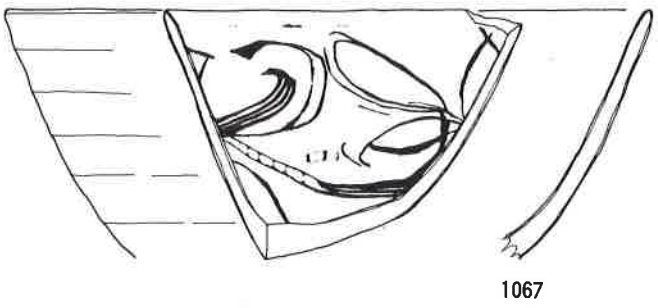
遺物はおもに1・3・4トレンチから，青・白磁片，ヘラ切り底の碗，内黒土師器，糸切り底の小皿などの破片が出土している。そのうち1トレンチから出土したほぼ完形の青磁と，3トレンチから出土した青磁，ほぼ完形の白磁のみを図示した。1066は，鎬が明瞭の碗で蓮弁文を有す。磁胎は灰色で，釉は灰色味を帯び，貫入がみられる。高台内は露台であり，窯砂が付着している。1067は内面に花文を有し，磁胎は灰褐色，釉は緑褐色を呈している。いずれも竜泉窯系青磁であろう。1068は口縁部は釉がかりしていない。磁胎は白色で，釉はやや青味がかっている。文様は内側に，まず雷文を配して，その下に3段の楓葉様（水滴をモチーフ？）の浮き彫りがあり，底に魚と水草をモチーフしたものが描かれている。底は糸切りの痕跡を残している。また口縁部外側の釉がかりしていない部分に，墨書がある。墨書は読み取れないが，今後分析が必要であろう。これらの遺物は，時期的に鎌倉時代～南北朝時代の河上氏の記録と一致するもので，遺構で述べた施設の可能性を裏付けている。

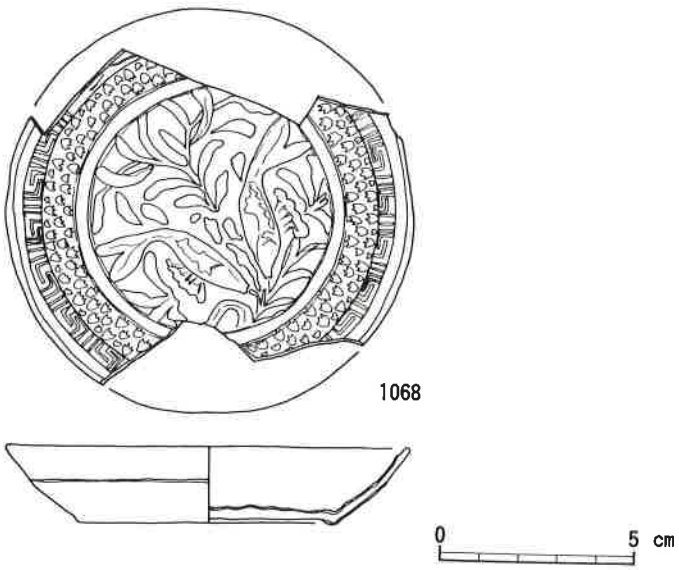
中世の遺構に関しては，河上城と総合的な把握が今後とも必要になってくるし，近世の遺構も存在することが予想される。このように川上貝塚は複合遺跡としての性格をもっている。



第96図　中世の遺構







第97図　1トレンチ・3トレンチ出土，青磁・白磁

第Ⅳ章　人骨及び自然遺物

1　鹿児島県市来町川上貝塚出土の人骨

小片丘彦・竹中正巳・佐熊正史（鹿児島大学歯学部口腔解剖学第２講座）

2　川上貝塚出土の自然遺物（概報）

—特に動物遺体について—

西中川　　駿（鹿児島大学農学部獣医学科）

3　市来町川上貝塚出土の貝類

坂　下　泰　典（日本貝類学会会員）

1　鹿児島県市来町川上貝塚出土の人骨

小片丘彦・竹中正巳・佐熊正史
（鹿児島大学歯学部口腔解剖学第２講座）

は　じ　め　に

平成２年（1990）に実施された鹿児島県日置郡市来町に所在する川上貝塚の遺跡範囲確認調査に伴って，縄文後期の埋葬人骨１体が出土した。川上貝塚からは，すでに昭和36年（1961），河口貞徳氏によって縄文後期人骨３体が発掘され，内藤（1984）による報告が公にされている。従って，本人骨はその追加例となるものである。

鹿児島県本土から出土した縄文時代人骨で，人類学的検討に耐えられる資料としては，上記の内藤によるもの以外に大森ら（1960）による出水中期人骨４例，小片ら（1987）による麦之浦後期人骨１例があるにすぎない。今回出土した川上縄文後期人骨は，残念ながら保存状態が良くないものであったが，南九州における縄文人骨資料の少ない現状からみて，貴重な追加資料となるものであり，人類学的観察の結果興味ある所見も認められたので報告したい。なお，人骨の計測方法は Martin ＆ Saller（1957）に従ったが，歯の計測は藤田（1949）の方法で行い，１／20㎜副尺付のノギスで計測した。

ここに人骨調査の機会を賜った鹿児島県教育委員会文化課の諸氏に感謝申し上げる次第である。

所　見

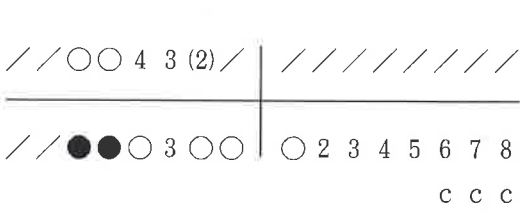
遺存骨格は混貝土層中にあり，骨質自体は比較的丈夫である。頭蓋骨片が示す諸形態から女性と推定され，年齢は，歯の咬耗，頭蓋縫合などから壮年期に属すと思われる。

１．頭蓋骨

計測可能な項目は下顎骨に関するものだけであった。

脳頭蓋は，左右頭頂骨片，前頭鱗右側骨片，蝶形骨右側大翼片，右側側頭骨が残っている。乳様突起は小さく，外反も認められない。縫合は矢状縫合の一部が観察可能で，内外両板とも離開している。なお，右側外耳道が観察可能であるが，骨瘤は認められない。

顔面頭蓋では，右側第２小臼歯相当部骨体から左側下顎枝にいたる下顎骨が残っており，保存状態も比較的良い。ほかには，右側犬歯から同小臼歯にいたる上顎骨歯槽部が辛うじて残存している。下顎骨の筋粗面は粗雑であり，顎舌骨筋線も強く発達している。オトガイ隆起がやや前方へ突出する傾向が認められる。オトガイ高および右側下顎体高（オトガイ孔部）は，それぞれ31㎜，27㎜である。また，右側下顎体厚（オトガイ孔部）は11㎜であり，下顎体の諸径は比較的小さい値を示している。下顎隆起の形成は認められない。歯式は次の通りである。なお，歯に関する計測値を表１に示す。



● ：生前脱落
○ ：死後脱落
（ ）：遊離歯
／ ：歯槽欠損
c ：う蝕

咬耗は下顎左第3大臼歯がMartinの2度で，ほかはすべて同3度である。ここで，縄文早期人には比較的多く認められる特異な磨耗（鈴木，1950．島，1959）が本例にもみられたので，以下その概要を述べたい。

特殊磨耗は下顎左第2小臼歯近心から下顎左第2大臼歯遠心にかけてみられる。第1・2大臼歯歯間部に最深部をもち，近遠心的に凹湾しており，個々の歯は，舌側から頬側へかけ頬側側が強く磨耗し，わずかに凹湾している。対合上顎歯の磨耗を推測すると，頬側から舌側へ舌側側が過度に磨耗した歯群が考えられる。この特殊磨耗の原因としては，獣皮や植物繊維などを嚙みながら口外に引き出ししごく作業などによる歯の酷使が想定されるが，引き出ししごく方向は下方で，その期間は短期間ではなく若年時から長期間行っていたものと考えられる。

病的所見としては，下顎左第1大臼歯近心根，下顎左側切歯，下顎右犬歯に根尖病巣がみられる。う蝕は，下顎左第1大臼歯の頬面歯頸部と遠心歯冠部から歯頸部，下顎左第2大臼歯の近心歯冠部から歯頸部と遠心歯頸部から頬側歯頸部，下顎左第3大臼歯の近心歯頸部から頬側歯頸部に認められた。隣接面及び頬側歯頸部う蝕の原因としては，歯冠部が歯の酷使によって隣接歯間接触点を失い，食物残査が歯頸部に溜まりやすくなったことが考えられる。

2．体幹・体肢骨

体幹・体肢骨では，左側と思われる肋骨片が小数残存するだけであった。

総　括

鹿児島県日置郡市来町に所在する川上貝塚の第1回遺跡範囲確認調査が平成2年に行われ，第8トレンチから人骨が検出された。出土した人骨の保存状態は良くないものであったが，南九州本土における縄文人骨資料の少ない現状からみて，できるだけ詳しく計測や観察を行った。その結果を要約すれば，次の通りである。

1．人骨の所属時代は，考古学資料から縄文時代後期と考えられる。
2．残存していたのは同一個体の人骨片で，頭蓋の一部と肋骨片が残っていたにすぎない。
3．乳様突起は小さく，下顎体の諸径も小さいことから，女性と考えられる。
4．歯の咬耗，頭蓋縫合の所見から壮年期と推定される。
5．下顎の歯に，特殊磨耗が認められた。

表1　歯の計測値(mm)

	近遠心径	頬舌径
下顎左第3大臼歯	8.05	7.40

参考文献

藤田恒太郎，1949：歯の計測基準について　人類学雑誌，61：27－32.

Martin.R & K.Saller, 1957：Lehrbuch der Anthropologie. Bd.I.Gustav Fischer, Stuttgart.

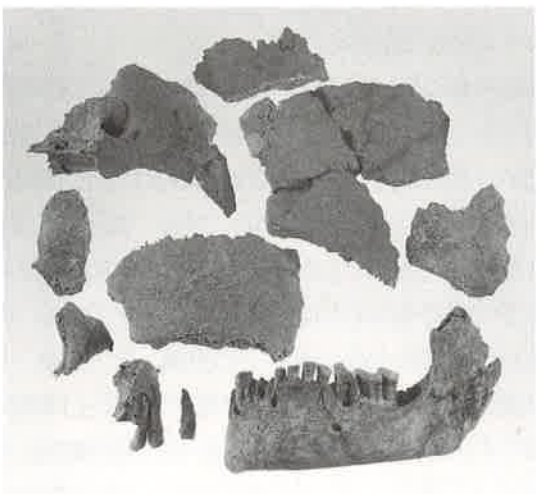
内藤芳篤，1984：南西諸島における古代人骨の人類学的調査研究－市来縄文人骨よりの考察－. 鹿大考古，2：84－91

小片丘彦・川路則友・佐熊正史・峰　和治・山本美代子・岡元満子，1987：川内市麦之浦貝塚出土の人骨. 麦之浦貝塚. 川内市土地開発公社，293－309

大森浅吉・松野　茂・大森　勲・甲原筑磨・竹之下克己・林　治茂，1960：薩摩国出水貝塚出土（昭和29年）の人骨について. 鹿児島医学雑誌，33：269－282

島　五郎，1959：古墳時代人及び石山石器時代人に見た歯牙磨耗について. 人類学雑誌，67：113－126

鈴木　尚，1950：相模平塚貝塚(早期縄文式遺跡)の人骨について. 人類学雑誌，61：117－127



出土人骨頭蓋（女性・壮年）

2　川上貝塚出土の自然遺物（概報）

－特に動物遺体について－

西中川　　駿

（鹿児島大学農学部獣医学科）

1．はじめに

川上貝塚（市来貝塚）は，市来町川上にあり，大正９年に発見されて以来，幾多の調査が行われ，有名な市来式土器を生んだ遺跡である。動物遺体は，寺師氏や河口氏により発掘されており，寺師氏により検出された動物遺体は，筆者らによりすでに報告[1]されているが，河口氏によるものは現在調査中である。

今回の発掘調査は，市来町教育委員会が主体者となり，県文化課の新東，堂込両氏の指導の下に行われ，動物遺体は縄文後期の人工遺物と共に検出されている。本遺跡の発掘調査は，今後数年間行われる予定であり，また，動物遺体を十分に検索する時間的余裕がなかったので，ここでは簡単に出土した哺乳動物種を掲げることにし，その詳細は，最終年度に報告することにする。

2．調査結果と考察

今回の調査で出土した自然遺物は，総重量12,786ｇ（貝類を除く）で，そのうち哺乳類が11,769ｇ，魚類897ｇ，その他120ｇであり，哺乳類が全体の92％を占めている。

哺乳類はイノシシ，シカ，イヌ，タヌキ，アナグマ，テン，イタチ，サル，オオヤマネコおよびウマで，イノシシが最も多く，ついでシカである。魚類はブダイなどタイ類が多く，サメ，カツオなど大型のものもみられる。詳細は専門家にお願いしたい。その他のものとして，カメ類，カエル類，カニ類，ウニ類などがみられる。

イノシシ，シカは，ほぼ全身の骨がみられ，長骨は割断されている。（写真１～32参照）。イノシシは，現生のものより少し大きく，シカもキュウシュウジカより大きい。イヌは下顎骨などの大きさから現生の柴イヌと同じ大きさの小型犬である（写真35～37）。タヌキ（38～41），アナグマ（42～47），テン（48～51），イタチ（52），サル（33～34）は，現生のものとほとんど同じ大きさである。ウマは表層から出土し，古墳時代以降のものであり，６～７歳の上顎，下顎臼歯で，大きさは現生の御崎馬のような中型馬に属する。また，現在わが国には棲息していないオオヤマネコ（58）の左橈骨１点が出土している。

貝塚から出土する自然遺物は，当時の人々の生活様式を知る上に重要な手がかりとなり，鹿児島県下でも麦之浦貝塚[2]や草野貝塚[3]からは，数多くの動物種が出土している。しかし，当時の人々の重要な狩猟獣は，イノシシ，シカが中心であり，他の小動物は少ない。これは川上貝塚でも同じ傾向がみられ，冬場の猟として，イノシシ，シカを射ち，食料としていたことが考えられる。イヌは狩猟の伴侶として，また，番犬として，最も古くから家畜化された動物で

あり，県下でも8カ所の縄文遺跡から検出され，骨の大きさから，いずれも小型イヌであったことが推測される。本貝塚からはウマの歯も出土しているが，時代的には後世のものであると考えられ，また，オオヤマネコの出土は，九州では初めてで，全国でも鳥浜貝塚，上黒岩岩陰，大曲洞穴などわずか数カ所からの出土であり，非常に貴重な資料である。

以上，川上貝塚出土の動物遺体について，その概要を簡単に報告したが，次回に十分な調査を行いその詳細を明らかにしたい。

3．ま と め

1）出土した自然遺物の総重量は，12,786ｇ（貝類を除く）で，哺乳類が全体の92％を占め，ついで魚類である。

2）哺乳類はイノシシ，シカ，イヌ，タヌキ，アナグマ，テン，イタチ，サル，オオヤマネコおよびウマであり，イノシシ，シカが最も多い。

3）魚類はブダイなどタイ類が多く，サメ，カツオなども検出され，また，カメ，カエル，カニ類もみられる。

参 考 文 献

1．松元　光春・西中川　駿：『鹿児島考古』18．183～192（1984年）

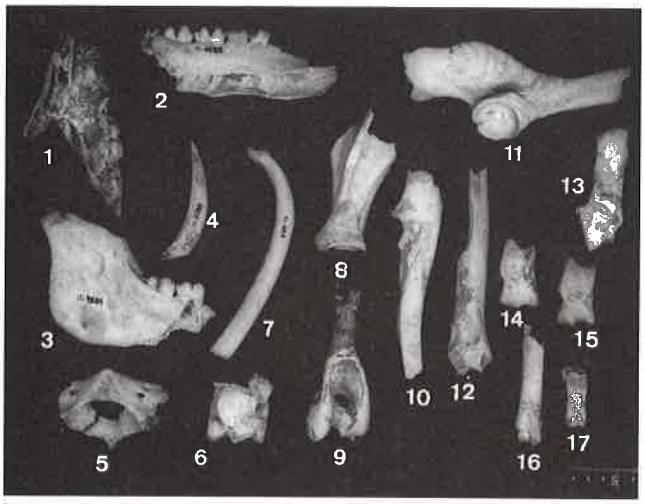
2．西中川　駿　他：『鹿児島大学農学部学術報告』37．105～113（1987年）

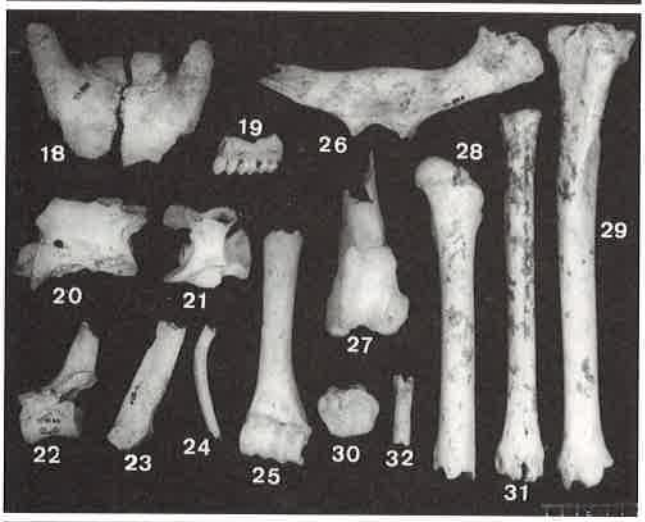
3．西中川　駿　他：『鹿児島市埋蔵文化財発掘調査報告書』９．274～282（1988年）

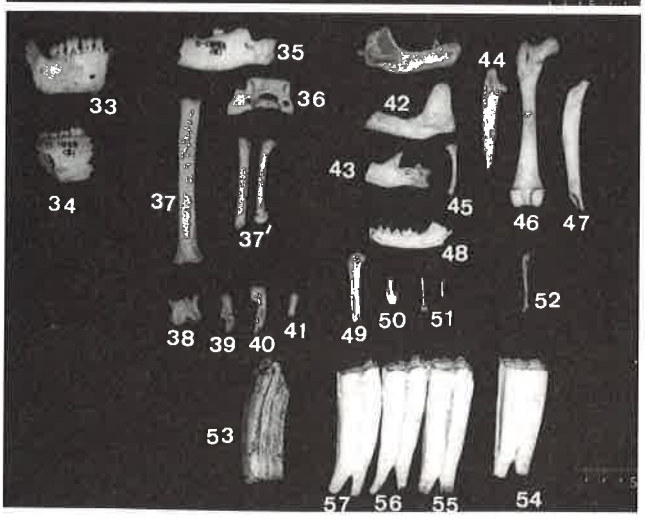
写真説明

1～17：イノシシ　18～32：シカ　33～34：サル　35～37：イヌ　38～41：タヌキ
42～47：アナグマ　48～51：テン　52：イタチ　53～57：ウマ　58：オオヤマネコ
1：下顎骨　2：下顎骨(左)　3：下顎骨(右)　4：犬歯(左)　5：環椎　6：腰椎
7：肋骨　8：肩甲骨(左)　9：上腕骨(右)　10：尺骨(左)　11：寛骨(右)　12：脛骨(右)
13：踵骨(右)　14：距骨(右)　15：距骨(右)　16：中足骨(左)　17：基節骨(右)
18：頭蓋　19：上顎骨(左)　20：軸椎　21：頚椎　22：胸椎　23：肋骨(左)　24：肋骨(右)
25：上腕骨(左)　26：寛骨(左)　27：大腿骨(左)　28：大腿骨(左)　29：脛骨(左)
30：足根骨(左)　31：中足骨(左)　32：基節骨(右)　33：下顎骨(右)　34：下顎骨(右)
35：下顎骨(左)　36：環椎　37：橈骨(右)　38：頚椎　39：踵骨(右)　40：尺骨(右)
41：基節骨　42：下顎骨(上－右，下－左)　43：下顎骨(右)　44：尺骨(右)　45：中手骨
46：大腿骨(左)　47：脛骨(左)　48：下顎骨(左)　49：脛骨(左)　50：踵骨(左)
51：中足骨　52：尺骨(左)　53：上顎臼歯(右)　54：下顎臼歯(右)　55～57：下顎臼歯(右)
58：橈骨(左)

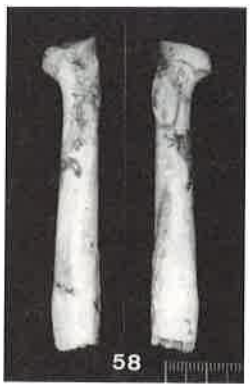
図版　動物遺体







1～17：イノシシ
18～32：シカ
33～34：サル
35～37：イヌ
38～41：タヌキ
42～47：アナグマ
48～51：テン
52：イタチ
53～57：ウマ
58：オオヤマネコ



3　市来町川上貝塚出土の貝類

坂　下　泰　典
（日本貝類学会会員）

出土貝類目録は，川上貝塚の今回発掘調査の１トレンチの純貝層（Ⅶ層及びⅨ層）を中心に８トレンチを付加して目録を作成した。

その結果，３類61科139種の目録が作成された。今回は出土貝類すべてに目を通し目録作成を行ったが，数量的分析は次の機会に行いたい。

なお，Ⅵ層の混土貝層の貝はⅦ層に加え，Ⅷ層の混土貝層はⅨ層に加えて目録を作成した。

【腹足類】

科　　名	和　　名	貝層 Ⅶ Ⅸ	棲息地	現棲分布
つたのはがい科	ツタノハガイ	●	岩礁帯	房総以南
	ヨメガサガイ	●	岩礁帯	北海道南部以南
	ヒメコザラガイ	●	岩礁帯	北海道南部以南
すかしがい科	オトメガサガイ	● ●	岩礁帯	房総以南
	アサテンガイガイ	●	岩礁帯	房総以南
みみがい科	トコブシ	●	岩礁帯	北海道南部以南
	クロアワビ	● ●	岩礁帯	北海道南部以南
にしきうずがい科	エビスガイ	● ●	岩礁帯	房総以南
	イシダタミガイ	● ●	岩礁帯	北海道南部以南
	クボガイ	● ●	岩礁帯	房総以南
	クマノコガイ	● ●	岩礁帯	房総以南
	オオコシダカガンガラガイ	● ●	岩礁帯	北海道南部以南（日本海側）
	コシダカガンガラガイ	● ●	岩礁帯	北海道以南
	ヒメクボガイ	● ●	岩礁帯	紀伊以南
	ウズイチモンジガイ	● ●	岩礁帯	房総以南
	ギンタカハマガイ	● ●	岩礁帯	房総以南
	キサゴ	●	砂底	北海道南部以南
かたべがい科	カタベガイ	●	岩礁帯	房総以南
りゅうてんさざえ科	コシタカサザエ	● ●	岩礁帯	房総以南
	サザエ	● ●	岩礁帯	北海道南部以南
	スガイ	● ●	岩礁帯	房総以南
	ウラウズガイ	● ●	岩礁帯	房総以南
	サンショウズガイ	●	岩礁帯	房総以南
あまおぶねがい科	アマオブネガイ	● ●	岩礫帯	房総以南
	イシマキガイ	● ●	汽水・淡水	本州中部以南
	ヒロクチカノコガイ	●	汽水・岩礫帯	本州中部以南
	カノコガイ	●	汽水・岩礫帯	本州中部以南
たまきびがい科	タマキビガイ	●	岩礫帯	北海道以南
かわざんしょうがい科	カワザンショウガイ	●	汽水・葦等付着	
	サツマクリイロカワザンショウガイ	●	汽水・葦等付着	
むかでがい科	オオヘビガイ	● ●	砂礫帯	北海道南部以南
りそつぼ科	ヌノメチョウジガイ	●	岩礫帯	房総以南

科　　名	和　　名	貝層 VIIIX	棲 息 地	現 棲 分 布
うみにな科	フトヘナタリガイ	●●	内湾砂泥帯	東北以南
	ヘナタリガイ	●●	内湾砂泥帯	房総以南
	イボウミニナ	●●	内湾砂泥帯	北海道南部以南
	ウミニナ	●●	内湾砂泥帯	本州以南
おにのつのがい科	カヤノミカニモリガイ	●	岩礫帯	房総以南
とげかわにな科	タケノコカワニナ	●●	汽水・河口付近	本州以南
かわにな科	カワニナ	●●	淡水	北海道以南
すいしょうがい科	マガキガイ	●●	砂泥底	房総以南
	フドロガイ	●	砂泥底	房総以南
	シドロガイ	●	砂泥底	房総以南
すずめがい科	キクスズメガイ	●●	アワビ・サザエ等着生	北海道南部以南
かりばがさがい科	クルスガイ	●	岩礁に着生	房総以南
たからがい科	クチグロキヌタガイ	●	砂礫底	房総以南
	ホシキヌタガイ	●	岩礁帯	房総以南
たまがい科	ツメタガイ	●●	砂底	北海道南部以南
	トミガイ	●	砂底	紀伊以南
ふじつがい科	カコボラ	●●	岩礫底	房総以南
	ククリボラ	●	岩礫底	相模湾以南
とうかむりがい科	タイコガイ	●●	砂底	房総以南
	カズラガイ	●	砂底	房総以南
やつしろがい科	ヤツシロガイ	●●	砂底	北海道南部以南
いちぢくがい科	ビワガイ	●●	砂底	房総以南
あくきがい科	オニサザエ	●	岩礁帯	北海道南部以南
	センジュガイモドキ	●	岩礁帯	房総以南
	アカニシ	●	砂泥底	北海道南部以南
	ウネレイシガイダマシ	●	岩礁帯	房総以南
	ミカンレイシガイ	●	岩礁帯	房総以南
	ウニレイシガイ	●●	岩礁帯	北海道南部以南
	クリフレイシガイ	●●	岩礁帯	北海道南部以南
	レイシガイ	●●	岩礁帯	北海道南部以南
	イボニシ	●●	岩礁帯	北海道南部以南
	ヒメヨウラクガイ	●●	岩礁帯	房総以南
たもとがい科	マツムシガイ	●	岩礁帯	房総以南
	イボフトコロガイ	●●	岩礁帯	房総以南
えぞばい科	バイ	●●	砂底	北海道南部以南
	ミクリガイ	●	砂底	房総以南
おりいれようばい科	アラムシロガイ	●●	砂泥底	北海道南部以南
いとまきぼら科	ナガニシ	●	砂底	北海道南部以南

科　　名	和　　名	貝層 VIIIX	棲 息 地	現 棲 分 布
ふでがい科	ハナカゴオトメフデガイ	●	岩礫底	相模湾以南
まくらがい科	マクラガイ	●	砂底	房総以南
ころもがい科	トカシオリイレボラ	●	砂底	房総以南
いもがい科	キヌカツギイモガイ ベッコウイモガイ サヤガタイモガイ	● ●● ●	岩礁帯 砂礫底 岩礁帯	房総以南 房総以南 房総以南
やまたにし科	ヤマタニシ	●●	陸産	本州以南
やまくるまがい科	ヤマクルマガイ	●	陸産	本州中部以南
あづきがい科	アズキガイ	●●	陸産	長野県以西
きせるがい科	アラナミギセルガイ	●●	陸産	九州南部
おかくちきれがい科	ホソオカチョウジガイ	●●	陸産	本州以南
おなじまいまい科	ダコスタマイマイ オナジマイマイ ツクシマイマイ	● ● ●	陸産 陸産 陸産	九州南部 本州以南 山口県以南
おかみみがい科	オカミミガイ	●		

【堀足類】

科　　名	和　　名	貝層 VIIIX	棲 息 地	現 棲 分 布
つのがい科	ヤカドツノガイ	●	砂底	北海道南部以南

【斧足類】

科　　名	和　　名	貝層 VIIIX	棲 息 地	現 棲 分 布
ふねがい科	カリガネエガイ エガイ ベニエガイ サルボウガイ サトウガイ(マルサルボウガイ) ハイガイ フネガイ	● ● ● ● ● ●● ●	岩礫帯 岩礫帯 岩礫帯 砂泥底 砂泥底 砂泥帯 岩礫帯	北海道南部以南 房総以南 房総以南 北海道南部以南 房総以南 三河湾以南 東北以南
たまきがい科	タマキガイ	●●	砂底	房総以南
いがい科	クジャクガイ ムラサキインコガイ	● ●	岩礁帯 岩礁帯	房総以南 北海道南部以南
うぐいすがい科	アコヤガイ	●	岩礫帯	房総以南
ねずみのてがい科	ネズミノテガイ	●	砂礫底	房総以南

科　　名	和　　名	貝層 VIIIX	棲息地	現棲分布
うみぎくがい科	チリボタンガイ ウミギクガイ	● ●	岩礁帯 岩礁帯	房総以南 房総以南
いたやがい科	イタヤガイ	●●	砂底	北海道西南部以南
つきひがい科	ツキヒガイ	●●	砂底	房総以南
いたぼがき科	マガキ コケゴロモガキ ケガキ	●● ● ●	内湾岩礫帯 岩礫帯 岩礫帯	北海道以南 東北以南 東北以南
とまやがい科	トマヤガイ	●	岩礫底	本州以南
きくざるがい科	キクザルガイ ケイトウガイ シロザルガイ	● ● ●	岩礫帯 岩礫帯 岩礫帯	本州以南 房総以南 紀伊以南
ざるがい科	トリガイ ザルガイ モクハチアオイガイ	● ●● ●●	砂底 砂底 砂底	陸奥湾以南 房総以南 紀伊以南
まるすだれがい科	イオウハマグリ ハマグリ チョウセンハマグリ カガミガイ オキシジミ スダレハマグリ サツマアカガイ アサリ オキアサリ コタマガイ シオヤガイ カノコアサリ	● ●● ●● ●● ●● ●● ●● ●● ● ●● ● ●	砂泥底 砂底 砂底 砂泥底 砂泥底 砂底 砂底 砂泥礫底 砂底 砂底 泥底 砂礫底	房総以南 北海道南西部以南 房総以南 北海道南西部以南 本州以南 九州南部以南 房総以南 北海道以南 房総以南 北海道南西部以南 紀伊以南 房総以南
ばかがい科	バカガイ シオフキガイ アリソガイ オオトリガイ	●● ●● ● ●	砂底 砂底 砂底 砂底	北海道南部以南 房総以南 房総以南 房総以南
ふじのはながい科	ナミノコガイ	●●	砂底	房総以南
しおさざなみがい科	イソシジミ オチバガイ	●● ●	砂礫底 砂礫帯	北海道西南部以南 駿河湾以南
まてがい科	マテガイ	●	砂底	北海道南西部以南
いしがい科	マツガサガイ	●	淡水砂礫底	北海道以南
しじみがい科	ヤマトシジミガイ	●●	汽水河口砂礫底	北海道以南

【8 トレンチ】

にしきうずがい科 あまおぶねがい科 いとまきぼら科 えぞばい科	アナアキウズガイ アマガイ ヒメイトマキボラ イソニナ		岩礫帯 汽水岩礫帯 岩礁帯 岩礫帯	本州中部以南 房総以南 房総以南

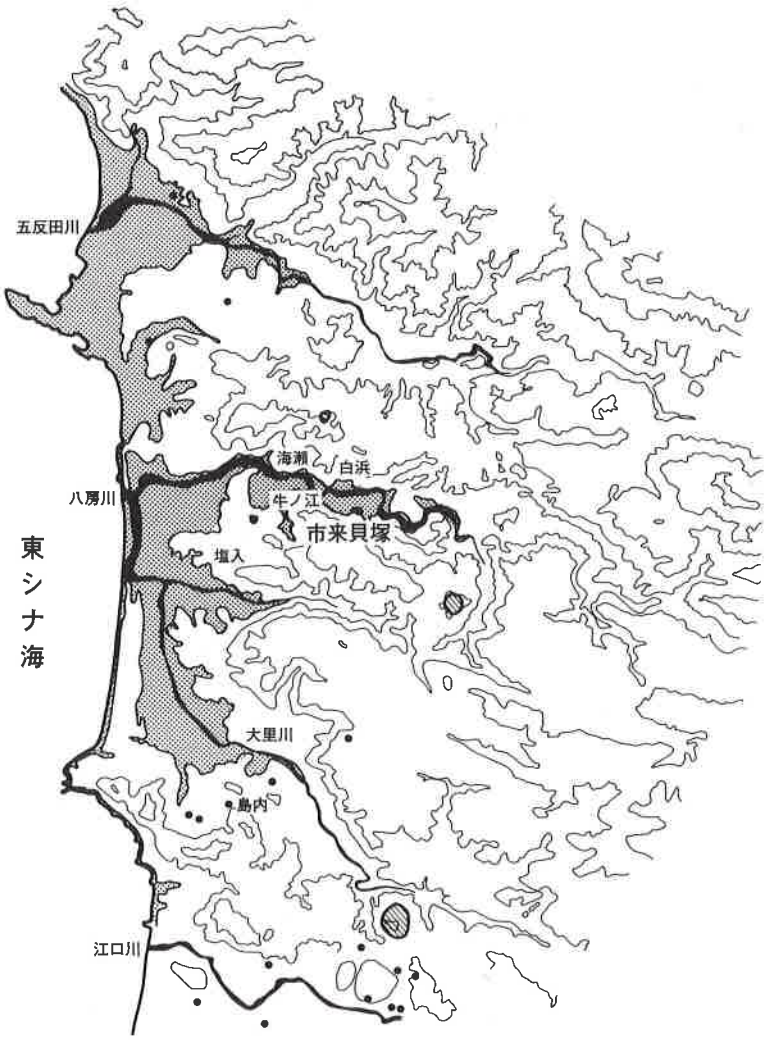
第Ⅴ章　発掘調査のまとめ

第１節　川上（市来）貝塚について

川上（市来）貝塚は，八房川の南岸に位置する。貝塚を形成したと考えられる台地は，山地から伸びた尾根が谷底平野に突き出たかたちで標高12～13mの舌状台地となっている。

貝塚は，この台地の北斜面（標高７～12m）の畑地の造成によって一部貝層が露出して確認されていた。今回の確認調査によって貝層の末端を検出する予定であったが，貝層が意外にも急傾斜で深く堆積しており，貝層下部及び末端の検出は次回に譲る結果となった。

貝層下面は５～６mが想定され，縄文後期の海岸線はほぼこの位置が推定される。川上貝塚は現在の海岸線から約3.5kmの位置に所在しており，第98図のような縄文海進のピーク時に近い状態の海岸線が想定される。八房川を取り巻く複雑で深く入り込んだ縄文時代の海岸線は，磯と砂浜が交互に存在する最良の漁場が形成されていたことを窺い知ることができる。



第98図　縄文時代の海岸線（標高10m線）

貝塚は，幅約10mの極めて狭い急傾斜の谷部に形成されていることが判明した。そして，貝層中には埋葬人骨が検出されているが，前回の発見と今回の検出位置から想定するとかなりの範囲に及ぶことが考えられる。

貝塚を形成した集落の調査は今回の大きな課題の一つであったが，今回の調査では時間的制約もあって検出するまでには

至らなかった。次回の調査に期待したい。

第2節　出土遺物について

今回の確認調査においては，各トレンチから各種の遺物が出土している。そして，各々のトレンチでは出土遺物は若干異なる傾向がみられる。最も出土遺物の多いトレンチは，1トレンチと4トレンチである。1トレンチは貝塚の貝層末端の位置にあたり，4トレンチは貝塚上段の位置にあたる。出土遺物には，土器，土製加工品（メンコ），石器，貝器（貝輪・垂飾），骨角器（垂飾・耳栓・髪針・釣針）等の種類がある。

1．土器について

1トレンチは，Ⅵ層の純貝層の上部は中世の遺構で若干削平されており，またⅣ層までは土師器が混入している。縄文後期の正常な堆積層は，Ⅴ層以下であることが判明した。

出土土器は，Ⅰ類からⅨ類の9類に類別して説明した。Ⅰ類土器は，大きく二タイプに細分できる。1～6は短直線の凹線文を口縁部に集約して施文するタイプで，出水式土器の影響を受けた土器に比定される。7～12は口縁部を若干肥厚する傾向がみられるタイプである。特に11や12は口縁下に突帯文を巡らせて文様帯を形成している。これまで，川内市麦之浦貝塚[1]や菱刈町年ノ宮遺跡[2]などでも散見されており，今後の資料の増加によっては新型式として独立する必要があろう。Ⅱ類土器は沈線文で文様を構成するタイプであり，断片的な出土ではあるがⅡ類として指宿式土器に比定した。Ⅲ類土器は，肥厚口縁の文様帯をつくる一群で，いわゆる市来式土器[3]に該当するタイプを一括した。今回の調査では最も出土量の多いタイプの一群である。文様は，沈線文・凹線文・刻目文・貝殻腹縁刺突文を単独にあるいは組み合わせて施文している。また，無文のタイプも多い。単独あるいは組み合わせは9種に分けられるが，肥厚文様帯に刻目を単独に連続して巡らして施文するタイプの出土が最も多い。また，刻目文は沈線文・太形凹線文・貝殻刺突文のすべての文様と組み合わされており，最も愛用された文様であるといえる。また層位的にも下層から出土する傾向にあり，本遺跡において早い段階から用いられた文様ともいえる。Ⅳ類土器は，口縁部が逆「く」字に内湾して屈曲し屈曲稜部の上下に貝殻刺突文を施文するタイプである。末吉町丸尾遺跡[4]で出土していらい類例が増加しており，断片的な出土であるが独立してⅣ類として抽出した。また，本遺跡の出土土器中では，このⅣ類のみの胎土に金雲母が含まれている。このことは，他地方からの持ち込みかどうか特異な事情が想定される。Ⅴ類は，台付皿形土器の器種を一括したものである。口縁部文様は凹線文や貝殻刺突文や刻目文を施文し，脚部も凹線部や貝殻刺突文の比較的シンプルな文様構成がみられる。Ⅲ類に属する台付皿形土器と考えられる。Ⅵ類は，型式の不明な土器群を一括して掲げた。中でも，275は口唇部を拡張して二条の凹線文の両脇に刻目を巡らせ，口縁部下には刻目を施した突帯文を巡らせて文様帯とする。波状口縁を呈し，波頂部は橋状の把手をつくる。在地系土器ではないが，非常に市来式土器に類似した文様構成である。その他に，口唇部平坦面に刻目文や貝殻刺突文を施文するものや口唇部外面に小さな突帯を巡らせ蒲鉾状

第2表　類別土器の層位的出土状態

類別	細別	Ⅰ層	Ⅱ層	Ⅲ層	Ⅳ層	Ⅴ層	Ⅵ層	Ⅶ層	Ⅷ層	Ⅸ層	Ⅹ層	計
Ⅰ類	短凹線文・直線文等	3	1	3			2	1	1		1	12
Ⅱ類	二本平行沈線文等	3	1	5	1		2	1				13
Ⅲ類	①沈線文（凹線文）	3		8	1		5	1	1			19
	②沈線文＋刻目	1		4			4	5				14
	③沈線文＋刺突文	1					1					2
	④沈線文＋貝殻刺突文	6	1		1		3	3		1		15
	⑤太凹線文＋刻目	3	1	7			1	12	1		1	26
	⑥刻目文	8	3	6	3		9	20	5	2	4	60
	⑦刻目文＋貝殻刺突文	2		2	1		2	5	5			17
	⑧貝殻刺突文	3	3	7	2		8	8	6		1	38
	⑨無文	3		9	2		3	4	1		1	23
Ⅳ類	口縁部「く」字形			1	2	1						4
Ⅴ類	台付皿形土器		1	4	1	1	2	3				12
Ⅵ類	型式不明土器	7	1	11	8		6	3	1			37
Ⅶ類	各種の底部	5		6	3		9	13	1		1	38
Ⅷ類	a 磨消縄文土器					1	1					2
	b 〃	8		5	2	2	5	3				25
	c 〃	2		5	1		1					9
	d 〃	2		5	2	3	5					17
Ⅸ類	磨消縄文系土器	1		3	1		3					8
		61	12	91	31	8	72	82	22	3	9	391

の口縁部をつくるもの等がある。口縁部だけの細片であり，該当する型式はこれまでのところ不明である。Ⅶ類は，底部片を一括したものである。Ⅰ類からⅥ類土器に属する底部と考えられる。Ⅷ類は，磨消縄文系の土器である。形態の特徴からａ～ｄの四類に分類できる。Ⅷａ類は小池原上層式に，Ⅷｂ類は鐘崎式[5]に比定される。Ⅷｃ類は北久根山式に比定され，Ⅷｄ式は西平式土器に該当する。このように，編年に従えば磨消縄文系土器は継続的に伝播していることになる。これまで，市来式土器は鐘崎式土器[6]と共伴し，逆「く」字口縁の丸尾タイプは北久根山式や西平式土器[7]に伴う傾向が知られている。

３トレンチは土層が攪乱されており遺物のみの分類となったが，４トレンチはⅢ・Ⅳ層は遺物が厚く堆積しているため遺物は層位的に把握された。３トレンチと４トレンチの土器の分類は基本的に同じである。

Ⅰ類は，沈線文土器である。外反する口縁部で，頸部でわずかに折れ曲がり内側に稜をつくるものをⅠ－ａ類，口縁部まっすぐ立ち上がるのをⅠ－ｂ類，口縁部が内湾気味に立ち上がり直線を施すものをⅠ－ｃ類と分類した。Ⅱ類は口縁部が幅広く肥厚し，２条の平行沈線を引く

ものである。Ⅲ類は，口縁端部が肥厚し，そこに文様を施していくものである。文様は貝殻腹縁を押圧したものやヘラ状工具による連続刺突文と，凹線を組み合わす。無文のものもある。端部が断面三角形状を呈するものをⅢ－ａ類とし，幅広く文様帯となり断面が「く」の字状となることもあるものをⅢ－ｂ類，無文のものⅢ－ｃ類がある。Ⅳ類は磨消縄文系の土器である。いずれも内外面を丁寧にヘラミガキしている。口縁部が舌状をなして外反し，曲線文がおおきく凹線の幅がひろいものをⅣ－ａ類，口縁部が厚さを変えずに立ち上がり端部で蒲鉾状に肥厚しその外側に縄文を残すものをⅣ－ｂ類，口縁端部が「く」の字状に上方に拡張され外に面をつくり，そこに一般に２条の沈線を引き縄文を残すものをⅣ－ｃ類に細分した。Ⅴ類は，口縁部が幅広く半円形に肥厚し，やや内湾気味に立ち上がり，文様はヘラ状工具による沈線と刺突文で口縁部と胴部に施される土器である。

Ⅰ－ａ類・Ⅰ－ｂ類は指宿式に類似するが，２条の平行沈線が必ずしも基本となっていない。Ⅰ－ｃ類は出水式に，Ⅲ－ａ類が市来Ⅰ式に，Ⅲ－ｂ類が市来Ⅱ式に，Ⅳ－ａ類が小池原上層式に，Ⅳ－ｂ類が北久根山式に，Ⅳ－ｃ類が西平式に，Ⅴ類が納曽式にそれぞれ相当する。４トレンチで層位的にとらえると，沈線文土器と小池原上層土器・北久根山式土器がⅣ層から出土し，Ⅱ類土器と市来式土器と西平式土器がⅢ層から，納曽式土器がⅡ層下から出土している。Ⅴ層にまだ遺物包含層が残っており，さらに詳細に分層できる可能性がある。量的には３トレンチではⅢ類の市来式を中心に出土し，４トレンチではⅠ類・Ⅱ類・Ⅳ類が多く出土した。市来式土器は４トレンチでは，Ⅲ－ａ類である市来Ⅰ式に限って出土している。

８トレンチの調査では，縄文時代の遺物包含層において，純貝層は検出されず，混土貝層とシラス層が互層状態で堆積していた。人骨は，縄文時代包含層のこの互層に挟まっており，攪乱は考えられない。また頭骨がまとまって出土し，土層断面には北西側に人骨が残っており，埋葬人骨の可能性が高い。前回の調査と考え合わせるとかなりの埋葬人骨が存在する可能性がある。

２．貝輪・装飾品・釣針について

貝輪は完成品は破損品が１点みられたが，他は未製品である。なお，貝種は，タマキガイとマルサルボウガイの二種であった。タマキガイの未製品から，貝輪の製作工程が想定可能である。まず，殻頂部の除去段階の第一工程，次に外面を粗く研磨した第二行程，さらに貝殻腹縁の外周を調整剝離（内面にある刻み部分まで）する第三行程，そして外周側面を研磨する第四行程である。

貝層の調査面積が狭いため数量的には少ないが，一般に貝塚からみられる装飾品も多種に及ぶ。垂飾品には，ウミギクガイ製の垂飾，イノシシ牙製の垂飾，イノシシ牙製の板状垂飾，サメ歯製垂飾などがある。また，サメの椎骨を研磨・穿孔して作った耳栓と想定されるものも出土した。さらに丁寧な彫刻加工品を施した髪針が５個出土している。

釣針は，単式釣針で無磯の型態が７本出土した。素材を太く仕上げる大型のタイプと細かく仕上げる小型のタイプの二種がみられる。小型のタイプに完形品が２個含まれていた。素材はイノシシの犬歯またはシカ角と鑑定されるもので，軸頭部から湾曲部，鉤先部へと細く鋭く丁

寧につくられている逸品である。

第3節　人骨及び自然遺物について

1．人骨について

埋葬人骨は，頭蓋骨片が8トレンチの混土貝層中から発見された。既に，昭和36年の河口貞徳氏の調査で4体の埋葬人骨が発見されているが，これまでは貝塚部分の西側での発見であった。今回の東側の8トレンチでの発見は，埋葬がかなり広い範囲であったことが判明した。いずれも，縄文時代後期に該当するものである。今回発見の人骨は少量であるが，南九州における縄文人骨資料の少ない現状からみて貴重な追加資料となった。

人骨は，頭蓋骨の一部と肋骨片のみの発見であった。人骨調査の所見によると，壮年期の女性人骨と推定された。さらに下顎の歯に特殊な摩耗を確認されている。なお，人骨の詳細については，第Ⅳ章－1を参照して頂きたい。

2．動物遺体について

出土した自然遺体の総重量のうち，哺乳類が全体の92％を占め，ついで魚類であった。哺乳類はイノシシ，シカ，イヌ，タヌキ，アナグマ，テン、イタチ，サル，オオヤマネコおよびウマであり，イノシシ，シカが最も多い。ウマは表層からの出土で古墳時代以降のものであるが，その他のものは縄文時代後期に該当する。また，現在わが国には棲息していないオオヤマネコの出土は，九州では初めてであり，全国でも福井県鳥浜貝塚，愛媛県上黒岩岩陰などわずか数カ所の出土であり，非常に貴重な資料となった。なお，動物遺体の詳細については，第Ⅳ章－2を参照して頂きたい。

3．貝類について

今回の川上貝塚の出土貝類は，3類61科，139種の目録が作成された。数量的にはマガキが断然と多く，続いてハマグリ，フトヘナタリガイである。今回は出土貝類はすべてに目を通し目録作成を行なったが，数量的及び層位的分析は時間的制約もあって次の機会に行ないたい。なお，出土貝類の詳細については，第Ⅳ章－3を参照して頂きたい。

註

1）川内市土地開発公社　1987　「麦之浦貝塚」『本川地区造成事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』

2）菱刈町教育委員会　1991　「寺山遺跡・年ノ宮遺跡」『菱刈町埋蔵文化財発掘調査報告書(6))』

3）河口貞徳　1981　「市来式の祖形と南島先史文化への影響」『鹿児島考古　第15号』

4）鹿児島県教育委員会　1984　「末吉町丸尾遺跡」『鹿児島県埋蔵文化財発掘調査報告書(29)』

5）西健一郎　1980　「鐘崎式土器」『九州文化史研究所紀要　第25号』

6）鹿児島市教育委員会　1988　「草野貝塚」『鹿児島市埋蔵文化財発掘調査報告書(9)』

7）鹿児島県教育委員会　1989　「中ノ原遺跡(Ⅰ)他」『鹿児島県埋蔵文化財発掘調査報告書(48)』

第3表　出土土器観察表(1)

挿図	番号	出土区	層	胎　土	焼成	色　調	外面調整(文様)	内面調整	備　考
第7図	1	1T	X	長石,石英,角閃石	良好	茶褐色	ナデ,短凹線(羽状)	ナデ	
	2	1T	Ⅷ	長石,石英,角閃石	良好	暗茶褐色	ナデ,短凹線(格子状)	ナデ	口唇部刻目
	3	1T	Ⅵ	長石,石英,角閃石	良好	茶褐色	ナデ,短直線(斜状)	ナデ	口唇部刻目
	4	1T	Ⅲ	長石,石英,角閃石	良好	茶褐色	ナデ,短直線(斜状)	ナデ	
	5	1T	Ⅱ	長石,石英,角閃石	良好	暗茶褐色	ナデ,短直線(羽状)	ナデ	
	6	1T	Ⅰ	長石,石英,角閃石	良好	暗茶褐色	ナデ,刺突連点文	ナデ	
	7	1T	Ⅵ	長石,石英,角閃石	良好	黒褐色	ナデ,沈線+凹点(?)	ナデ	肥厚口縁
	8	1T	Ⅲ	長石,石英,角閃石	良好	黒褐色	ナデ,短直線(羽状)	ナデ	
	9	1T	Ⅰ	長石,石英,角閃石	良好	暗茶褐色	ナデ,凹点文	ナデ	肥厚口縁
	10	1T	Ⅰ	長石,石英,角閃石	普通	黄褐色	ナデ,凹点分	条痕調整	肥厚口縁
	11	1T	Ⅶ	長石,石英,角閃石	良好	暗褐色	ナデ,曲線文(弧条)	ナデ	突帯文
	12	1T	Ⅲ	長石,石英,角閃石	良好	暗褐色	ナデ+条痕,曲線文(弧条)	ナデ+条痕	突帯文
	13	1T	Ⅲ	長石,石英,角閃石	良好	灰褐色	ナデ,凹線文	ナデ	
	14	1T	Ⅰ	長石,石英,角閃石	良好	茶褐色	ナデ,凹線文	ナデ	
	15	1T	Ⅲ	長石,石英,角閃石	良好	暗茶褐色	ナデ,沈線文	条痕	口唇部刻目
	16	1T	Ⅳ	長石,石英,角閃石	良好	明褐色	ナデ,曲線文	ナデ	口唇部刺突文
	17	1T	Ⅰ	長石,石英,角閃石	良好	明褐色	ナデ,曲線文	ナデ	
	18	IT	Ⅵ	長石,石英,角閃石	良好	茶褐色	ナデ,凹線文	ナデ	
	19	1T	Ⅱ	長石,石英,角閃石	良好	茶褐色	ナデ,短沈線文	ナデ	口縁突起部
	20	1T	Ⅲ	長石,石英,角閃石	良好	黒褐色	ナデ,短沈線文	ナデ,短沈線	口縁突起部
	21	1T	Ⅲ	長石,石英,角閃石	良好	茶褐色	ナデ,沈線文	ナデ	波状口縁
	22	1T	Ⅵ	長石,石英,角閃石	良好	暗褐色	ナデ,沈線文	ナデ	口唇部貼付突帯
	23	1T	Ⅶ	長石,石英,角閃石	良好	暗褐色	ナデ,曲線文	ナデ	
	24	1T	Ⅰ	長石,石英,角閃石	良好	茶褐色	ナデ,曲線文	ナデ	口唇部刻線
	25	1T	Ⅲ	長石,石英,角閃石	良好	明茶褐色	ナデ,沈線文+刺突文	ナデ	擬縄文
第8図	26	1T	Ⅵ	長石,石英,角閃石	良好	茶褐色	ナデ,沈線文	ナデ	平口縁
	27	1T	Ⅲ	長石,石英,角閃石	良好	暗茶褐色	ナデ,沈線文	ナデ	平口縁,突起
	28	1T	Ⅲ	長石,石英,角閃石	良好	明褐色	ナデ,沈線文	ナデ	波状口縁
	29	1T	Ⅲ	長石,石英,角閃石	良好	黄褐色	ナデ,沈線文	ナデ	
	30	1T	Ⅰ	長石,石英,角閃石	良好	暗褐色	ナデ,沈線文	ナデ	
	31	1T	Ⅵ	長石,石英,角閃石	良好	赤褐色	ナデ,沈線文	ナデ	波状口縁
	32	1T	Ⅷ	長石,石英,角閃石	良好	暗褐色	ナデ,沈線文	ナデ	
	33	1T	Ⅲ	長石,石英,角閃石	良好	褐色	ナデ,沈線文	ナデ	
	34	1T	Ⅲ	長石,石英,角閃石	良好	灰褐色	ナデ,沈線文	ナデ	
	35	1T	Ⅲ	長石,石英,角閃石	良好	灰褐色	ナデ,沈線文	ナデ	
	36	1T	Ⅲ	長石,石英,角閃石	良好	灰褐色	ナデ,沈線文	ナデ	
	37	1T	Ⅰ	長石,石英,角閃石	良好	暗褐色	ナデ,沈線文	ナデ	
	38	1T	Ⅵ	長石,石英,角閃石	良好	茶褐色	ナデ,沈線文	ナデ	
	39	1T	Ⅵ	長石,石英,角閃石	良好	茶褐色	ナデ,沈線文	ナデ	
	40	1T	Ⅳ	長石,石英,角閃石	良好	茶褐色	ナデ,沈線文	ナデ	突起(渦文)
第9図	41	1T	Ⅶ	長石,石英,角閃石	良好	茶褐色	ナデ,沈線文+刻目	ナデ	
	42	1T	Ⅶ	長石,石英,角閃石	良好	茶褐色	ナデ,沈線文	ナデ	口唇部刻目
	43	1T	Ⅵ	長石,石英,角閃石	良好	明褐色	ナデ,沈線文+刺突文	ナデ	
	44	1T	Ⅲ	長石,石英,角閃石	良好	赤褐色	ナデ,沈線文+刻目	ナデ	
	45	1T	Ⅵ	長石,石英,角閃石	良好	赤褐色	ナデ,沈線文+貝殻刺突文	ナデ	
	46	1T	Ⅲ	長石,石英,角閃石	良好	暗褐色	ナデ,沈線文+刻目	ナデ	
	47	1T	Ⅵ	長石,石英,角閃石	良好	暗褐色	ナデ,沈線文+刻目	ナデ	平口縁
	48	1T	Ⅵ	長石,石英,角閃石	良好	暗褐色	ナデ,沈線文+刻目	ナデ	口唇部刻目
	49	1T	Ⅰ	長石,石英,角閃石	良好	明褐色	ナデ,沈線文	ナデ	
	50	1T	Ⅲ	長石,石英,角閃石	普通	明褐色	ナデ,沈線文	ナデ	口唇部刻目

第4表　出土土器観察表(2)

挿図	番号	出土区	層	胎　土	焼成	色　調	外面調整（文様）	内面調整	備　考
第9図	51	1T	Ⅵ	長石,石英,角閃石	良好	暗褐色	ナデ,凹線文＋刻目	ナデ	口唇部刻目
	52	1T	Ⅲ	長石,石英,角閃石	良好	明褐色	ナデ,沈線文＋刻目	ナデ	
	53	1T	Ⅶ	長石,石英,角閃石	良好	明褐色	ナデ,凹線文＋刻目	ナデ	
	54	1T	Ⅶ	長石,石英,角閃石	良好	明褐色	ナデ,凹線文＋刻目	ナデ	口唇部刻目
第10図	55	1T	Ⅰ	長石,石英,角閃石	良好	茶褐色	ナデ,凹線文＋刻目	ナデ	
	56	1T	Ⅶ	長石,石英,角閃石	良好	茶褐色	ナデ,凹線文＋刻目	ナデ	
	57	1T	Ⅲ	長石,石英,角閃石	良好	茶褐色	ナデ,凹線文＋刻目	ナデ	
	58	1T	Ⅸ	長石,石英,角閃石	良好	灰褐色	ナデ,凹線文＋貝殻刺突文	ナデ	
	59	1T	Ⅰ	長石,石英,角閃石	良好	茶褐色	ナデ,凹線文＋刺突文	ナデ	
	60	1T	Ⅰ	長石,石英,角閃石	良好	茶褐色	ナデ,凹線文＋貝殻刺突文	ナデ	
	61	1T	Ⅰ	長石,石英,角閃石	良好	茶褐色	ナデ,凹線文＋貝殻刺突文	ナデ	
	62	1T	Ⅰ	長石,石英,角閃石	良好	茶褐色	ナデ,凹線文＋貝殻刺突文	ナデ	波状口縁
	63	1T	Ⅵ	長石,石英,角閃石	良好	明褐色	ナデ,凹線文＋貝殻刺突文	ナデ	
	64	1T	Ⅶ	長石,石英,角閃石	良好	茶褐色	ナデ,凹線文＋貝殻刺突文	ナデ	
	65	1T	Ⅰ	長石,石英,角閃石	良好	暗褐色	ナデ,沈線文＋貝殻刺突文	ナデ	
	66	1T	Ⅵ	長石,石英,角閃石	良好	暗褐色	ナデ,凹線文＋貝殻刺突文＋刺突文	ナデ	
	67	1T	Ⅱ	長石,石英,角閃石	良好	茶褐色	ナデ,凹線文＋貝殻刺突文	ナデ	
	68	1T	Ⅵ	長石,石英,角閃石	良好	茶褐色	条痕,凹線文	条痕	
	69	1T	Ⅰ	長石,石英,角閃石	良好	黒褐色	ナデ,凹線文	ナデ	
	70	1T	Ⅶ	長石,石英,角閃石	良好	褐色	ナデ,凹線文＋貝殻刺突文	ナデ	
	71	1T	Ⅵ	長石,石英,角閃石	普通	褐色	ナデ,凹線文＋貝殻刺突文	ナデ	口唇部刻目
	72	1T	Ⅱ	長石,石英,角閃石	良好	灰褐色	ナデ,短凹線	ナデ	
	73	1T	Ⅶ	長石,石英,角閃石	良好	暗褐色	ナデ,凹線文＋貝殻刺突文	ナデ	
	74	1T	Ⅰ	長石,石英,角閃石	良好	褐色	ナデ,短沈線(格子状)	ナデ	
	75	1T	Ⅸ	長石,石英,角閃石	良好	暗褐色	ナデ,凹線文(曲線文)	ナデ	
	76	1T	Ⅳ	長石,石英,角閃石	良好	暗褐色	ナデ,沈線文＋貝殻刺突文	ナデ	口唇部貝殻刺突文
	77	1T	Ⅰ	長石,石英,角閃石	良好	茶褐色	ナデ,凹線文＋貝殻刺突文	ナデ,	
第11図	78	1T	Ⅶ	長石,石英,角閃石	良好	茶褐色	条痕,太形凹線文＋刻目	条痕,刻目	波頂部内面刻目
	79	1T	Ⅹ	長石,石英,角閃石	良好	茶褐色	条痕,太形凹線文＋刻目	条痕,刻目	
第12図	80	1T	Ⅲ	長石,石英,角閃石	良好	茶褐色	条痕,太形凹線文＋刻目	条痕,刻目	波状口縁
	81	1T	Ⅲ	長石,石英,角閃石	良好	茶褐色	ナデ,太形凹線文＋刻目	ナデ	
	82	1T	Ⅲ	長石,石英,角閃石	良好	黄褐色	ナデ,太形凹線文＋刻目	ナデ	
	83	1T	Ⅵ	長石,石英,角閃石	良好	暗褐色	ナデ,太形凹線文＋刻目	ナデ	平口縁
	84	1T	Ⅶ	長石,石英,角閃石	良好	暗褐色	ナデ,太形凹線文＋刻目	ナデ	
	85	1T	Ⅲ	長石,石英,角閃石	良好	暗褐色	ナデ,太形凹線文＋刻目	ナデ	波状口縁
	86	1T	Ⅲ	長石,石英,角閃石	良好	暗褐色	ナデ,太形凹線文＋刻目	ナデ	
	87	1T	Ⅰ	長石,石英,角閃石	良好	灰褐色	条痕,太形凹線文＋刻目	条痕	
	88	1T	Ⅲ	長石,石英,角閃石	良好	赤褐色	ナデ,太形凹線文＋刻目	ナデ	
	89	1T	Ⅶ	長石,石英,角閃石	良好	暗褐色	ナデ,太形凹線文＋刻目	ナデ	
	90	1T	Ⅶ	長石,石英,角閃石	良好	褐色	ナデ,太形凹線文＋刻目	ナデ	
第13図	91	1T	Ⅶ	長石,石英,角閃石	良好	褐色	ナデ,太形凹線文＋刻目	ナデ	波状口縁
	92	1T	Ⅶ	長石,石英,角閃石	良好	褐色	ナデ,太形凹線文＋刻目	条痕	
第14図	93	1T	Ⅱ	長石,石英,角閃石	良好	赤褐色	ナデ,太形凹線文＋刻目	ナデ	波状口縁
	94	1T	Ⅷ	長石,石英,角閃石	良好	暗褐色	ナデ,太形凹線文＋刻目	ナデ,条痕	
	95	1T	Ⅸ	長石,石英,角閃石	良好	黄褐色	ナデ,太形凹線文＋刻目＋貝殻刺突	ナデ	
	96	1T	Ⅶ	長石,石英,角閃石	良好	暗褐色	ナデ,太形凹線文＋刻目	ナデ	
	97	1T	Ⅶ	長石,石英,角閃石	良好	赤褐色	ナデ,太形凹線文＋貝殻刺突文	ナデ	穿孔有り
	98	1T	Ⅰ	長石,石英,角閃石	良好	赤褐色	ナデ,凹線＋刻目＋貝殻刺突	ナデ	
	99	1T	Ⅶ	長石,石英,角閃石	良好	褐色	ナデ,太形凹線文＋刻目	ナデ	
	100	1T	Ⅶ	長石,石英,角閃石	良好	褐色	ナデ,太形凹線文＋貝殻刺突	ナデ,	波状口縁

第5表　出土土器観察表(3)

挿図	番号	出土区	層	胎　土	焼成	色　調	外面調整（文様）	内面調整	備　考
第14図	101	1T	Ⅶ	長石,石英,角閃石	良好	黒褐色	ナデ,太形凹線文+刻目	ナデ	波状口縁
	102	1T	Ⅶ	長石,石英,角閃石	良好	褐　色	ナデ,太形凹線文+刻目	ナデ	
	103	1T	Ⅰ	長石,石英,角閃石	良好	褐　色	ナデ,太形凹線文+刻目	ナデ	波状口縁
	104	1T	Ⅶ	長石,石英,角閃石	良好	茶褐色	ナデ,太形凹線文+刻目	ナデ	
	105	1T	Ⅰ	長石,石英,角閃石	良好	暗褐色	ナデ,太形凹線文+刻目	ナデ	波状口縁
第15図	106	1T	Ⅶ	長石,石英,角閃石	良好	灰褐色	ナデ,太形凹線文+刻目	ナデ	
	107	1T	Ⅶ	長石,石英,角閃石	良好	茶褐色	ナデ,条線文+貝殻刺突文	ナデ	
	108	1T	Ⅶ	長石,石英,角閃石	良好	灰褐色	ナデ,条線文	ナデ	
	109	1T	Ⅳ	長石,石英,角閃石	良好	褐　色	ナデ,太形凹線文+貝殻刺突文	ナデ	波状口縁
	110	1T	Ⅶ	長石,石英,角閃石	良好	茶褐色	ナデ,条線文+貝殻刺突文	ナデ	
	111	1T	Ⅲ	長石,石英,角閃石	良好	茶褐色	ナデ,太形凹線文+刻目	ナデ	波状口縁
	112	1T	Ⅳ	長石,石英,角閃石	良好	茶褐色	ナデ,状線文+貝殻刺突文	ナデ	
	113	1T	Ⅵ	長石,石英,角閃石	良好	明褐色	ナデ,沈線文	ナデ	波状口縁
	114	1T	Ⅲ	長石,石英,角閃石	良好	明褐色	ナデ,凹線文	ナデ	
	115	1T	Ⅰ	長石,石英,角閃石	良好	暗褐色	ナデ,条線文	ナデ	
	116	1T	Ⅳ	長石,石英,角閃石	良好	灰褐色	ナデ,凹線文	ナデ,条痕	
	117	1T	Ⅸ	長石,石英,角閃石	良好	暗褐色	ナデ,凹線文	ナデ	
第16図	118	1T	Ⅶ	長石,石英,角閃石	良好	赤褐色	条痕,刻目	条痕	波状口縁
	119	1T	Ⅶ	長石,石英,角閃石	良好	茶褐色	ナデ,刻目+刺突文	ナデ	
	120	1T	Ⅶ	長石,石英,角閃石	良好	茶褐色	ナデ,刻目+刺突文	ナデ	
	121	1T	Ⅲ	長石,石英,角閃石	良好	茶褐色	ナデ,刻目+刺突文	ナデ	
	122	1T	Ⅵ	長石,石英,角閃石	良好	茶褐色	ナデ,刻目	ナデ	
	123	1T	Ⅷ	長石,石英,角閃石	良好	灰褐色	ナデ,刻目	ナデ	
	124	1T	Ⅶ	長石,石英,角閃石	良好	灰褐色	ナデ,刻目	ナデ	
	125	1T	Ⅵ	長石,石英,角閃石	良好	明褐色	条痕,刺突文	条痕	
	126	1T	Ⅶ	長石,石英,角閃石	良好	暗褐色	ナデ,刺突文	ナデ	
	127	1T	Ⅵ	長石,石英,角閃石	良好	赤褐色	ナデ,刺突文	ナデ	
	128	1T	Ⅲ	長石,石英,角閃石	良好	灰褐色	ナデ,刺突文	ナデ	
	129	1T	Ⅶ	長石,石英,角閃石	良好	明褐色	ナデ,刺突文	ナデ	波条口縁
	130	1T	Ⅰ	長石,石英,角閃石	良好	茶褐色	ナデ,刺突文+凹点文	ナデ	
	131	1T	Ⅱ	長石,石英,角閃石	良好	灰褐色	ナデ,刺突文+凹線文	ナデ	
	132	1T	Ⅶ	長石,石英,角閃石	良好	灰褐色	条痕,刺突文+凹線文	条痕	
	133	1T	Ⅵ	長石,石英,角閃石	良好	暗褐色	ナデ,刻目	ナデ	波条口縁
	134	1T	Ⅵ	長石,石英,角閃石	良好	暗褐色	ナデ,刻目	ナデ	波条口縁
第17図	135	1T	Ⅶ	長石,石英,角閃石	良好	灰褐色	ナデ+条痕,刻目	条痕	
	136	1T	Ⅵ	長石,石英,角閃石	良好	赤褐色	ナデ+条痕,刻目	ナデ,刻目	波条口縁
	137	1T	Ⅶ	長石,石英,角閃石	良好	赤褐色	ナデ+条痕,刻目	ナデ	
	138	1T	Ⅶ	長石,石英,角閃石	良好	暗褐色	ナデ+条痕,刻目	ナデ	
	139	1T	Ⅶ	長石,石英,角閃石	良好	暗褐色	ナデ+条痕,刻目	ナデ	平口縁
	140	1T	Ⅶ	長石,石英,角閃石	良好	茶褐色	ナデ+条痕,刻目	ナデ	平口縁
	141	1T	Ⅹ	長石,石英,角閃石	良好	茶褐色	ナデ+条痕,刻目	ナデ	平口縁
	142	1T	Ⅹ	長石,石英,角閃石	良好	茶褐色	ナデ+条痕,刻目	ナデ	平口縁
	143	1T	Ⅹ	長石,石英,角閃石	良好	茶褐色	ナデ+条痕,刻目	ナデ	
	144	1T	Ⅹ	長石,石英,角閃石	良好	明褐色	ナデ+条痕,刻目	ナデ	
	145	1T	Ⅷ	長石,石英,角閃石	良好	明褐色	ナデ+条痕,刻目	ナデ	
	146	1T	Ⅰ	長石,石英,角閃石	良好	暗褐色	ナデ,刻目	ナデ	
第18図	147	1T	Ⅱ	長石,石英,角閃石	良好	暗褐色	ナデ,刻目	ナデ	波状口縁
	148	1T	Ⅰ	長石,石英,角閃石	良好	茶褐色	ナデ,刻目	ナデ	
	149	1T	Ⅰ	長石,石英,角閃石	良好	茶褐色	ナデ,刻目	ナデ	
	150	1T	Ⅶ	長石,石英,角閃石	良好	明褐色	ナデ,刻目	ナデ	

第6表　出土土器観察表(4)

挿図	番号	出土区	層	胎　土	焼成	色　調	外面調整（文様）	内面調整	備　考
第18図	151	1T	Ⅳ	長石,石英,角閃石	良好	明褐色	ナデ,刻目	ナデ	
	152	1T	Ⅵ	長石,石英,角閃石	良好	灰褐色	ナデ,刻目	ナデ	
	153	1T	Ⅳ	長石,石英,角閃石	良好	茶褐色	ナデ,刻目	ナデ	
	154	1T	Ⅲ	長石,石英,角閃石	良好	茶褐色	ナデ,刻目	ナデ	
	155	1T	Ⅶ	長石,石英,角閃石	良好	茶褐色	ナデ,刻目	ナデ	
	156	1T	Ⅶ	長石,石英,角閃石	良好	茶褐色	ナデ,刻目	条痕	
	157	1T	Ⅸ	長石,石英,角閃石	良好	明褐色	ナデ,刻目	ナデ	
	158	1T	Ⅶ	長石,石英,角閃石	良好	暗褐色	ナデ,刻目	ナデ	
	159	1T	Ⅶ	長石,石英,角閃石	良好	明褐色	ナデ,刻目+刺突	ナデ	
	160	1T	Ⅰ	長石,石英,角閃石	良好	茶褐色	ナデ,刻目	ナデ	
	161	1T	Ⅷ	長石,石英,角閃石	良好	暗褐色	ナデ,刻目	ナデ	
	162	1T	Ⅰ	長石,石英,角閃石	良好	明褐色	ナデ,刻目	ナデ	
	163	1T	Ⅲ	長石,石英,角閃石	良好	赤褐色	ナデ,刻目	ナデ	
	164	1T	Ⅳ	長石,石英,角閃石	良好	暗褐色	ナデ,刻目	ナデ	
	165	1T	Ⅸ	長石,石英,角閃石	良好	暗褐色	ナデ,刻目	ナデ	
	166	1T	Ⅰ	長石,石英,角閃石	良好	褐色	ナデ,刻目	ナデ	
	167	1T	Ⅲ	長石,石英,角閃石	良好	茶褐色	ナデ,刻目+貝殻刺突	ナデ	
	168	1T	Ⅷ	長石,石英,角閃石	良好	灰褐色	ナデ,刻目+貝殻刺突	ナデ	
	169	1T	Ⅲ	長石,石英,角閃石	良好	暗褐色	条痕,刻目+凹線文	条痕	
第19図	170	1T	Ⅱ	長石,石英,角閃石	良好	暗褐色	工具ナデ,刻目(刺突文)	条痕,工具ナデ	平口縁
	171	1T	Ⅵ	長石,石英,角閃石	良好	茶褐色	ナデ,刻目(刺突文)	ナデ	波状口縁
	172	1T	Ⅶ	長石,石英,角閃石	良好	茶褐色	ナデ,刻目(刺突文)	条痕,ナデ	
	173	1T	Ⅷ	長石,石英,角閃石	良好	暗褐色	ナデ,刻目(刺突文)	ナデ	
	174	1T	Ⅷ	長石,石英,角閃石	良好	明褐色	ナデ,刻目(刺突文)	ナデ	
	175	1T	Ⅰ	長石,石英,角閃石	良好	明褐色	条痕,刺突文	条痕	
	176	1T	Ⅵ	長石,石英,角閃石	良好	明褐色	ナデ,刻目	条痕,ナデ	
	177	1T	Ⅶ	長石,石英,角閃石	良好	茶褐色	工具ナデ,刻目	工具ナデ	
	178	1T	Ⅲ	長石,石英,角閃石	良好	茶褐色	ナデ,刻線	工具ナデ	
	179	1T	Ⅶ	長石,石英,角閃石	良好	茶褐色	工具ナデ,刻線	工具ナデ	
	180	1T	Ⅲ	長石,石英,角閃石	良好	茶褐色	工具ナデ,条痕	工具ナデ	
	181	1T	Ⅶ	長石,石英,角閃石	良好	明褐色	工具ナデ,刻目+貝殻刺突文	条痕+工具ナデ	
	182	1T	Ⅷ	長石,石英,角閃石	良好	暗褐色	工具ナデ,刻目+貝殻刺突文	工具ナデ	
	183	1T	Ⅲ	長石,石英,角閃石	良好	暗褐色	工具ナデ,刻目+貝殻刺突文	工具ナデ	
第20図	184	1T	Ⅶ	長石,石英,角閃石	良好	暗褐色	条痕,刻目+貝殻刺突文	条痕	
	185	1T	Ⅶ	長石,石英,角閃石	良好	茶褐色	ナデ,刻目+貝殻刺突文	条痕+ナデ	波状口縁
	186	1T	Ⅵ	長石,石英,角閃石	良好	暗褐色	ナデ,刻目+貝殻刺突文	工具ナデ	
	187	1T	Ⅰ	長石,石英,角閃石	良好	茶褐色	ナデ,刻目+貝殻刺突文	工具ナデ	
	188	1T	Ⅷ	長石,石英,角閃石	良好	明褐色	ナデ,刻目+貝殻刺突文	ナデ	
	189	1T	Ⅶ	長石,石英,角閃石	良好	暗褐色	ナデ,刻目+貝殻刺突粉	ナデ	
	190	1T	Ⅷ	長石,石英,角閃石	良好	明茶褐色	条痕,刻目+貝殻刺突文	条痕	
	191	1T	Ⅰ	長石,石英,角閃石	良好	暗褐色	工具ナデ,刻目+貝殻刺突文	工具ナデ	
	192	1T	Ⅳ	長石,石英,角閃石	良好	茶褐色	条痕,刻目+貝殻刺突文	工具ナデ	メンコ?
	193	1T	Ⅷ	長石,石英,角閃石	良好	灰褐色	工具ナデ,刺突文+貝殻刺突文	工具ナデ	
	194	1T	Ⅵ	長石,石英,角閃石	良好	茶褐色	ナデ,刻目+貝殻刺突文	工具ナデ	波状口縁
	195	1T	Ⅷ	長石,石英,角閃石	良好	茶褐色	ナデ,刺突文+貝殻刺突文	工具ナデ	
	196	1T	Ⅲ	長石,石英,角閃石	良好	茶褐色	ナデ,沈線文+貝殻刺突文	工具ナデ	平口縁
第21図	197	1T	Ⅶ	長石,石英,角閃石	良好	黒褐色	工具ナデ,貝殻刺突文	工具ナデ	平口縁
	198	1T	Ⅰ	長石,石英,角閃石	良好	黒褐色	工具ナデ,貝殻刺突文	工具ナデ	平口縁
	199	1T	Ⅶ	長石,石英,角閃石	良好	赤褐色	工具ナデ,貝殻刺突文	工具ナデ	平口縁
	200	1T	Ⅶ	長石,石英,角閃石	良好	暗褐色	工具ナデ,貝殻刺突文	工具ナデ	

第7表　出土土器観察表(5)

挿図	番号	出土区	層	胎　土	焼成	色　調	外面調整（文様）	内面調整	備　考
第21図	201	1T	Ⅵ	長石,石英,角閃石	良好	暗褐色	ナデ,貝殻刺突文	工具ナデ	
	202	1T	Ⅶ	長石,石英,角閃石	良好	黄褐色	ナデ,貝殻刺突文	工具ナデ	
	203	1T	Ⅱ	長石,石英,角閃石	良好	暗褐色	ナデ,貝殻刺突文	工具ナデ	
	204	1T	Ⅵ	長石,石英,角閃石	良好	暗褐色	条痕,貝殻刺突文	条痕	
	205	1T	Ⅵ	長石,石英,角閃石	良好	茶褐色	ナデ,貝殻刺突文	ナデ	
	206	1T	Ⅷ	長石,石英,角閃石	良好	暗褐色	条痕＋ナデ,貝殻刺突文	条痕	
	207	1T	Ⅷ	長石,石英,角閃石	良好	暗褐色	ナデ,貝殻刺突文	ナデ	
	208	1T	Ⅳ	長石,石英,角閃石	良好	茶褐色	ナデ,貝殻刺突文	工具ナデ	
	209	1T	Ⅷ	長石,石英,角閃石	良好	暗褐色	工具ナデ,貝殻刺突文	工具ナデ	
	210	1T	Ⅵ	長石,石英,角閃石	良好	茶褐色	工具ナデ,貝殻刺突文	工具ナデ	
	211	1T	Ⅵ	長石,石英,角閃石	良好	茶褐色	工具ナデ,貝殻刺突文	工具ナデ	
	212	1T	Ⅹ	長石,石英,角閃石	良好	暗褐色	工具ナデ,貝殻刺突文	工具ナデ	
	213	1T	Ⅲ	長石,石英,角閃石	良好	明褐色	条痕,貝殻刺突文	工具ナデ	
第22図	214	1T	Ⅰ	長石,石英,角閃石	良好	明褐色	ナデ,貝殻刺突文	工具ナデ	
	215	1T	Ⅲ	長石,石英,角閃石	良好	灰褐色	ナデ,貝殻刺突文	工具ナデ	平口縁
	216	1T	Ⅶ	長石,石英,角閃石	良好	灰褐色	ナデ,刻目＋貝殻刺突文	工具ナデ	波状口縁
	217	1T	Ⅲ	長石,石英,角閃石	良好	茶褐色	ナデ,貝殻刺突文	工具ナデ	
	218	1T	Ⅷ	長石,石英,角閃石	良好	茶褐色	工具ナデ,貝殻刺突文	工具ナデ	
	219	1T	Ⅰ	長石,石英,角閃石	良好	黄褐色	工具ナデ,貝殻刺突文	工具ナデ	
	220	1T	Ⅶ	長石,石英,角閃石	良好	暗褐色	工具ナデ,貝殻刺突文	工具ナデ	
	221	1T	Ⅲ	長石,石英,角閃石	良好	茶褐色	条痕,貝殻刺突文	ナデ＋条痕	
	222	1T	Ⅶ	長石,石英,角閃石	良好	茶褐色	ナデ,貝殻刺突文	工具ナデ	
	223	1T	Ⅶ	長石,石英,角閃石	良好	明褐色	ナデ,貝殻刺突文	工具ナデ	
	224	1T	Ⅷ	長石,石英,角閃石	良好	茶褐色	ナデ,貝殻刺突文	工具ナデ	
	225	1T	Ⅲ	長石,石英,角閃石	良好	茶褐色	ナデ,貝殻刺突文	工具ナデ	
	226	1T	Ⅲ	長石,石英,角閃石	良好	暗褐色	ナデ,貝殻刺突文	工具ナデ	
	227	1T	Ⅵ	長石,石英,角閃石	良好	黄褐色	工具ナデ,貝殻刺突文	工具ナデ	
	228	1T	Ⅱ	長石,石英,角閃石	良好	茶褐色	工具ナデ,貝殻刺突文	工具ナデ	
	229	1T	Ⅵ	長石,石英,角閃石	良好	茶褐色	工具ナデ,貝殻刺突文	工具ナデ	
第23図	230	1T	Ⅱ	長石,石英,角閃石	良好	茶褐色	工具ナデ,貝殻刺突文	ナデ	平口縁
	231	1T	Ⅲ	長石,石英,角閃石	良好	茶褐色	工具ナデ,貝殻刺突文	条痕＋ナデ	
	232	1T	Ⅵ	長石,石英,角閃石	良好	暗褐色	工具ナデ,貝殻刺突文	工具ナデ	
	233	1T	Ⅷ	長石,石英,角閃石	良好	茶褐色	工具ナデ,貝殻刺突文	工具ナデ	
	234	1T	Ⅳ	長石,石英,角閃石	良好	茶褐色	工具ナデ,貝殻刺突文	工具ナデ	
	235	1T	Ⅲ/Ⅷ	長石,石英,角閃石	良好	灰褐色	条痕,無文	条痕＋ナデ	
	236	1T	Ⅶ	長石,石英,角閃石	良好	茶褐色	条痕,無文	条痕＋ナデ	
	237	1T	Ⅲ	長石,石英,角閃石	良好	茶褐色	条痕,無文	条痕	波状口縁
	238	1T	Ⅳ/Ⅵ	長石,石英,角閃石	良好	黄褐色	条痕,無文	工具ナデ	
	239	1T	Ⅷ	長石,石英,角閃石	良好	暗褐色	工具ナデ,無文	ナデ	
	240	1T	Ⅶ	長石,石英,角閃石	良好	暗褐色	工具ナデ,刺突文	条痕	
	241	1T	Ⅲ	長石,石英,角閃石	良好	黄褐色	工具ナデ,無文	工具ナデ	
	242	1T	Ⅲ	長石,石英,角閃石	良好	赤褐色	工具ナデ,無文	条痕＋ナデ	平口縁
	243	1T	Ⅰ	長石,石英,角閃石	良好	暗褐色	工具ナデ,無文	ナデ	
	244	1T	Ⅲ	長石,石英,角閃石	良好	赤褐色	工具ナデ,無文	工具ナデ	
第24図	245	1T	Ⅰ	長石,石英,角閃石	良好	暗褐色	工具ナデ,無文	工具ナデ	
	246	1T	Ⅶ	長石,石英,角閃石	良好	明褐色	工具ナデ,無文	工具ナデ	
	247	1T	Ⅲ	長石,石英,角閃石	良好	暗褐色	工具ナデ,無文	工具ナデ	
	248	1T	Ⅲ	長石,石英,角閃石	良好	茶褐色	工具ナデ,無文	工具ナデ	
	249	1T	Ⅰ	長石,石英,角閃石	良好	茶褐色	工具ナデ,無文	工具ナデ	
	250	1T	Ⅵ	長石,石英,角閃石	良好	暗褐色	工具ナデ,無文	ナデ	

第8表　出土土器観察表(6)

挿図	番号	出土区	層	胎　土	焼成	色　調	外面調整（文様）	内面調整	備　考
第24図	251	1T	Ⅳ	長石,石英,角閃石	良好	灰褐色	ナデ,無文	ナデ	
	252	1T	Ⅲ	長石,石英,角閃石	良好	茶褐色	ナデ,無文	工具ナデ	
	243	1T	Ⅲ	長石,石英,角閃石	良好	茶褐色	ナデ,無文	工具ナデ	
	254	1T	X	長石,石英,角閃石	良好	暗褐色	ナデ,無文	工具ナデ	
	255	1T	Ⅲ	長石,石英,角閃石	良好	赤褐色	ナデ,無文	工具ナデ	
	256	1T	Ⅳ	長石,石英,角閃石	良好	灰褐色	ナデ,無文	工具ナデ	
	257	1T	Ⅵ	長石,石英,角閃石	良好	茶褐色	ナデ,無文	工具ナデ	
	258	1T	Ⅰ	長石,石英,角閃石	良好	茶褐色	ナデ,無文	工具ナデ	
	259	1T	Ⅳ	長石,石英,角閃石	良好	茶褐色	条痕,貝殻刺突文	条痕	
	260	1T	Ⅴ	長石,石英,角閃石,雲母	良好	茶褐色	条痕,貝殻刺突文	条痕	金雲母が多量
	261	1T	Ⅲ	長石,石英,角閃石	良好	暗褐色	工具ナデ,貝殻刺突文	工具ナデ	金雲母が多量
	262	1T	Ⅳ	長石,石英,角閃石,雲母	良好	茶褐色	工具ナデ,貝殻刺突文	工具ナデ	
第25図	263	1T	Ⅲ	長石,石英,角閃石	良好	茶褐色	工具ナデ,沈線文+刻目	工具ナデ	台付皿形土器
	264	1T	Ⅱ	長石,石英,角閃石	良好	茶褐色	工具ナデ,凹線文+貝殻刺突	工具ナデ	
	265	IT	Ⅲ	長石,石英,角閃石	良好	茶褐色	工具ナデ,沈線文+刻目	工具ナデ	顔料付着
	266	1T	Ⅵ	長石,石英,角閃石	良好	明褐色	工具ナデ,凹線文	工具ナデ	
	267	1T	Ⅵ	長石,石英,角閃石	良好	明褐色	工具ナデ,突起文	工具ナデ	
	268	1T	Ⅲ	長石,石英,角閃石	良好	明褐色	工具ナデ,刻目	工具ナデ	
	269	1T	Ⅶ	長石,石英,角閃石	良好	明褐色	工具ナデ,貝殻刺突文	工具ナデ	脚部透し穴
	270	1T	Ⅶ	長石,石英,角閃石	良好	明褐色	工具ナデ,貝殻刺突文	工具ナデ	
	271	1T	Ⅶ	長石,石英,角閃石	良好	灰褐色	工具ナデ,凹線文	工具ナデ	脚部透し穴
	272	1T	Ⅴ	長石,石英,角閃石	良好	茶褐色	工具ナデ,沈線文	ケズリ	
	273	1T	Ⅳ	長石,石英,角閃石	良好	黄褐色	工具ナデ,凹線文	ケズリ	穿孔
	274	1T	Ⅲ	長石,石英,角閃石	良好	黄褐色	工具ナデ,無文	ナデ	
第26図	275	1T	Ⅶ	長石,石英,角閃石	良好	黄褐色	工具ナデ,凹線文+刻目	工具ナデ	
	276	1T	Ⅲ	長石,石英,角閃石	良好	茶褐色	工具ナデ,凹線文	工具ナデ	
	277	1T	Ⅲ	長石,石英,角閃石	良好	茶褐色	工具ナデ,沈線文+刺突文	工具ナデ	突起貼布
	278	1T	Ⅲ	長石,石英,角閃石	良好	明褐色	工具ナデ,凹線文+刺突文	工具ナデ	
	279	1T	Ⅰ	長石,石英,角閃石	良好	明褐色	条痕,凹線文	工具ナデ	
	280	1T	Ⅲ	長石,石英,角閃石	良好	暗褐色	工具ナデ,無文	工具ナデ	
	281	1T	Ⅵ	長石,石英,角閃石	良好	明褐色	工具ナデ,刻目	工具ナデ	突帯文剝離痕
	282	1T	Ⅵ	長石,石英,角閃石	良好	暗褐色	工具ナデ,刻目	工具ナデ	口唇部施文
	283	1T	Ⅰ	長石,石英,角閃石	良好	明褐色	工具ナデ,刻目	工具ナデ	口唇部施文
	284	1T	Ⅱ	長石,石英,角閃石	良好	黒褐色	工具ナデ,刻目	工具ナデ	口唇部施文
	285	1T	Ⅳ	長石,石英,角閃石	良好	明褐色	工具ナデ,貝殻刺突文	工具ナデ	口唇部施文
第27図	286	1T	Ⅵ	長石,石英,角閃石	良好	灰褐色	工具ナデ,無文	工具ナデ	
	287	1T	Ⅰ	長石,石英,角閃石	良好	黄褐色	工具ナデ,無文	工具ナデ	
	288	1T	Ⅶ	長石,石英,角閃石	良好	黄褐色	工具ナデ,無文	工具ナデ	
	289	1T	Ⅲ	長石,石英,角閃石	良好	黄褐色	工具ナデ,無文	工具ナデ	
	290	1T	Ⅳ	長石,石英,角閃石	良好	黄褐色	工具ナデ,無文	工具ナデ	
	291	1T	Ⅳ	長石,石英,角閃石	良好	暗褐色	工具ナデ,無文	工具ナデ	
	292	1T	Ⅵ	長石,石英,角閃石	良好	褐色	工具ナデ,刻目	工具ナデ	口唇部施文
	293	1T	Ⅵ	長石,石英,角閃石	良好	黄褐色	工具ナデ,無文	条痕	
	294	1T	Ⅲ	長石,石英,角閃石	良好	茶褐色	工具ナデ,無文	工具ナデ	
	295	1T	Ⅳ	長石,石英,角閃石	良好	茶褐色	工具ナデ,無文	工具ナデ	
	296	1T	Ⅵ	長石,石英,角閃石	良好	茶褐色	条痕,無文	条痕	
	297	1T	Ⅷ	長石,石英,角閃石	良好	茶褐色	条痕,無文	条痕	
	298	1T	Ⅲ	長石,石英,角閃石	良好	茶褐色	工具ナデ,無文	工具ナデ	
	299	1T	Ⅳ	長石,石英,角閃石	良好	茶褐色	工具ナデ,無文	工具ナデ	
28図	300	1T	Ⅲ	長石,石英,角閃石	良好	明茶褐色	工具ナデ,無文	工具ナデ	

第9表　出土土器観察表(7)

挿図	番号	出土区	層	胎　土	焼成	色　調	外面調整（文様）	内面調整	備　考
第28図	301	1T	Ⅲ	長石,石英,角閃石	良好	暗褐色	条痕,無文	条痕	
	302	1T	Ⅲ	長石,石英,角閃石	良好	褐　色	条痕,無文	条痕	
	303	1T	Ⅰ	長石,石英,角閃石	良好	茶褐色	条痕,無文	条痕	
	304	1T	Ⅳ	長石,石英,角閃石	良好	茶褐色	工具ナデ,無文	工具ナデ	
	305	1T	Ⅰ	長石,石英,角閃石	良好	茶褐色	ナデ,無文	ナデ	
	306	1T	Ⅳ	長石,石英,角閃石	良好	茶褐色	条痕＋ナデ,無文	ナデ	
	307	1T	Ⅳ	長石,石英,角閃石	良好	黄褐色	条痕,無文	条痕	
	308	1T	Ⅶ	長石,石英,角閃石	良好	暗褐色	ナデ,刻目＋凹線	ナデ	
	309	1T	Ⅰ	長石,石英,角閃石	良好	明褐色	ナデ,凹線＋刺突文	ナデ	
	310	1T	Ⅰ	長石,石英,角閃石	良好	暗褐色	ナデ,凹線＋刺突文	ナデ	波状口縁
	311	1T	Ⅲ	長石,石英,角閃石	良好	暗褐色	ナデ,刺突文	ナデ	
	312	1T	Ⅶ	長石,石英,角閃石	良好	茶褐色	条痕,凹線文	ナデ	
第29図	313	1T	Ⅵ	長石,石英,角閃石	良好	茶褐色	ナデ,平底	ナデ	以下底部
	314	1T	Ⅶ	長石,石英,角閃石	良好	茶褐色	ナデ,平底	ナデ	
	315	1T	Ⅶ	長石,石英,角閃石	良好	明褐色	条痕＋ナデ,平底	条痕＋ナデ	
	316	1T	Ⅶ	長石,石英,角閃石	良好	茶褐色	工具ナデ,平底	条痕＋ナデ	
	317	1T	Ⅶ	長石,石英,角閃石	良好	明褐色	工具ナデ,平底	工具ナデ	
	318	1T	Ⅲ	長石,石英,角閃石	良好	茶褐色	工具ナデ,平底	工具ナデ	
	319	1T	Ⅰ	長石,石英,角閃石	良好	茶褐色	工具ナデ,平底	工具ナデ	
	320	1T	Ⅲ	長石,石英,角閃石	良好	茶褐色	工具ナデ,平底	工具ナデ	
	321	1T	Ⅲ	長石,石英,角閃石	良好	茶褐色	工具ナデ,平底	工具ナデ	
	322	1T	Ⅶ	長石,石英,角閃石	良好	茶褐色	工具ナデ,平底	工具ナデ	
	323	1T	Ⅰ	長石,石英,角閃石	良好	明褐色	工具ナデ,平底	工具ナデ	
	324	1T	Ⅳ	長石,石英,角閃石	良好	暗褐色	工具ナデ,平底	工具ナデ	
	325	1T	Ⅳ	長石,石英,角閃石	良好	明褐色	工具ナデ,平底	工具ナデ	
	326	1T	Ⅶ	長石,石英,角閃石	良好	茶褐色	条痕,平底	条痕＋工具ナデ	
	327	1T	Ⅷ	長石,石英,角閃石	良好	明褐色	工具ナデ,平底	工具ナデ	
	328	1T	Ⅵ	長石,石英,角閃石	良好	暗褐色	工具ナデ,平底	工具ナデ	
	329	1T	Ⅳ	長石,石英,角閃石	良好	茶褐色	工具ナデ,平底	工具ナデ	
	330	1T	Ⅰ	長石,石英,角閃石	良好	茶褐色	工具ナデ,平底	工具ナデ	
第30図	331	1T	Ⅶ	長石,石英,角閃石	良好	茶褐色	工具ナデ,上げ底	工具ナデ	
	332	1T	Ⅰ	長石,石英,角閃石	良好	茶褐色	条痕＋ナデ,上げ底	条痕＋ナデ	
	333	1T	Ⅶ	長石,石英,角閃石	良好	茶褐色	工具ナデ,上げ底	工具ナデ	
	334	1T	Ⅶ	長石,石英,角閃石	良好	茶褐色	工具ナデ,上げ底	工具ナデ	
	335	1T	Ⅲ/Ⅷ	長石,石英,角閃石	良好	茶褐色	工具ナデ,上げ底	工具ナデ	
	336	1T	Ⅵ	長石,石英,角閃石	良好	茶褐色	工具ナデ,上げ底	工具ナデ	
	337	1T	Ⅵ	長石,石英,角閃石	良好	茶褐色	工具ナデ,上げ底	工具ナデ	
	338	1T	Ⅲ	長石,石英,角閃石	良好	茶褐色	工具ナデ,上げ底	工具ナデ	
	339	1T	Ⅵ	長石,石英,角閃石	良好	茶褐色	工具ナデ,上げ底	工具ナデ	
	340	1T	Ⅲ	長石,石英,角閃石	良好	灰褐色	工具ナデ,平底	工具ナデ	
	341	1T	Ⅹ	長石,石英,角閃石	良好	茶褐色	工具ナデ,平底	工具ナデ	
	342	1T	Ⅵ	長石,石英,角閃石	良好	茶褐色	工具ナデ,平底	工具ナデ	
	343	1T	Ⅵ	長石,石英,角閃石	良好	茶褐色	工具ナデ,平底	工具ナデ	
	344	1T	Ⅶ	長石,石英,角閃石	良好	灰褐色	ケズリ,平底	工具ナデ	
	345	1T	Ⅲ	長石,石英,角閃石	良好	灰褐色	工具ナデ,平底	ナデ＋条痕	
	346	1T	Ⅵ	長石,石英,角閃石	良好	灰褐色	ナデ＋条痕,平底	ナデ	
	347	1T	Ⅶ	長石,石英,角閃石	良好	茶褐色	ナデ＋条痕,平底	ナデ＋条痕	
	348	1T	Ⅶ	長石,石英,角閃石	良好	茶褐色	工具ナデ,平底	ナデ	
	349	1T	Ⅰ	長石,石英,角閃石	良好	茶褐色	工具ナデ,平底	ナデ	
	350	1T	Ⅵ	長石,石英,角閃石	良好	茶褐色	工具ナデ,平底	ナデ	

第10表　出土土器観察表(8)

挿図	番号	出土区	層	胎　土	焼成	色　調	外面調整（文様）	内面調整	備　考
第31図	351	1T	Ⅵ	長石,石英,角閃石	良好	灰褐色	工具ナデ,凹線＋縄文	ナデ	
	352	1T	Ⅴ	長石,石英,角閃石	良好	灰褐色	工具ナデ,縄文	ナデ	
	353	1T	Ⅰ	長石,石英,角閃石	堅緻	茶褐色	研磨,凹線	研磨	
	354	1T	Ⅶ	長石,石英,角閃石	堅緻	黒　色	研磨,凹線＋刺突文	研磨	
	355	1T	Ⅵ	長石,石英,角閃石	堅緻	黄灰色	研磨,凹線＋縄文	研磨	
	356	1T	Ⅶ	長石,石英,角閃石	堅緻	黒　色	研磨,凹線＋縄文	研磨	
	357	1T	Ⅳ	長石,石英,角閃石	堅緻	黄灰色	研磨,凹線	研磨	
	358	1T	Ⅰ	長石,石英,角閃石	堅緻	黄灰色	研磨,凹線	研磨	
	359	1T	Ⅰ	長石,石英,角閃石	堅緻	黄灰色	研磨,凹線＋刺突文	研磨	
第32図	360	1T	Ⅲ	長石,石英,角閃石	堅緻	暗褐色	研磨,凹線＋縄文	ナデ	橋状突起
	361	1T	Ⅰ	長石,石英,角閃石	堅緻	暗褐色	研磨,凹線＋縄文	ナデ	
	362	1T	Ⅰ	長石,石英,角閃石	堅緻	黄灰色	ナデ,凹縄文	ナデ	
	363	1T	Ⅵ	長石,石英,角閃石	堅緻	暗褐色	ナデ,凹線文＋縄文	ナデ	
	364	1T	Ⅰ	長石,石英,角閃石	堅緻	茶褐色	ナデ,凹線文＋縄文	ナデ	
	365	1T	Ⅴ	長石,石英,角閃石	堅緻	茶褐色	ナデ,凹線文	ナデ	
	366	1T	Ⅲ	長石,石英,角閃石	堅緻	茶褐色	研磨,凹線文＋縄文	研磨	
	367	1T	Ⅵ	長石,石英,角閃石	堅緻	茶褐色	ナデ,凹線文＋縄文	ナデ	
	368	1T	Ⅵ	長石,石英,角閃石	堅緻	茶褐色	工具ナデ,凹線文	工具ナデ	
	369	1T	Ⅲ	長石,石英,角閃石	堅緻	暗褐色	工具ナデ,凹線文	工具ナデ	
	370	1T	Ⅰ	長石,石英,角閃石	堅緻	茶褐色	工具ナデ,凹線文	工具ナデ	
	371	1T	Ⅰ	長石,石英,角閃石	堅緻	茶褐色	工具ナデ,凹線文＋縄文	工具ナデ	
	372	1T	Ⅴ	長石,石英,角閃石	堅緻	茶褐色	工具ナデ,凹線文＋貝殻刺突文	工具ナデ	
	373	1T	Ⅳ	長石,石英,角閃石	堅緻	暗茶褐色	工具ナデ,凹線文＋縄文	工具ナデ	
	374	1T	Ⅲ	長石,石英,角閃石	堅緻	暗茶褐色	工具ナデ,凹線文	工具ナデ	
	375	1T	Ⅲ	長石,石英,角閃石	堅緻	茶褐色	工具ナデ,凹線文＋縄文	工具ナデ	
	376	1T	Ⅶ	長石,石英,角閃石	堅緻	茶褐色	研磨,凹線文＋縄文	研磨	顔料貼布
	377	1T	Ⅵ	長石,石英,角閃石	堅緻	茶褐色	ナデ,凹線文	ナデ	
第33図	378	1T	Ⅲ	長石,石英,角閃石	堅緻	茶褐色	ナデ,凹線文＋縄文	ナデ	
	379	1T	Ⅰ	長石,石英,角閃石	堅緻	茶褐色	ナデ,凹線文＋縄文	ナデ	
	380	1T	Ⅲ	長石,石英,角閃石	堅緻	灰褐色	研磨,凹線文＋縄文	研磨	
	381	1T	Ⅲ	長石,石英,角閃石	堅緻	暗褐色	ナデ,凹線文＋縄文	ナデ	
	382	1T	Ⅰ	長石,石英,角閃石	堅緻	茶褐色	ナデ,凹線文	ナデ	
	383	1T	Ⅵ	長石,石英,角閃石	堅緻	暗褐色	ナデ,凹線文	ナデ	
	384	1T	Ⅲ	長石,石英,角閃石	堅緻	茶褐色	研磨,凹線文	研磨	
	385	1T	Ⅲ	長石,石英,角閃石	良好	茶褐色	ナデ,凹線文	ナデ	
	386	1T	Ⅵ	長石,石英,角閃石	堅緻	茶褐色	研磨,凹線文	研磨	
	378	1T	Ⅴ	長石,石英,角閃石	堅緻	茶褐色	研磨,凹線文	研磨	
	388	1T	Ⅵ	長石,石英,角閃石	堅緻	茶褐色	研磨,凹線文	研磨	
	389	1T	Ⅵ	長石,石英,角閃石	堅緻	暗褐色	研磨,凹線文＋刺突文	研磨	
	390	1T	Ⅲ	長石,石英,角閃石	堅緻	明褐色	研磨,凹線文＋刺突文	研磨	
	391	1T	Ⅵ	長石,石英,角閃石	堅緻	暗褐色	研磨,凹線文＋縄文	研磨	
	392	1T	Ⅲ	長石,石英,角閃石	良好	明褐色	ナデ,凹線文＋刺突文	ナデ	
	393	1T	Ⅰ	長石,石英,角閃石	堅緻	暗褐色	研磨,凹線文	研磨	
	394	1T	Ⅵ	長石,石英,角閃石	堅緻	灰褐色	研磨,凹線文＋縄文	研磨	
	395	1T	Ⅴ	長石,石英,角閃石	堅緻	灰褐色	研磨,凹線文＋縄文	研磨	
	396	1T	Ⅵ	長石,石英,角閃石	堅緻	茶褐色	研磨,凹線文＋縄文	研磨	
	397	1T	Ⅳ	長石,石英,角閃石	堅緻	茶褐色	研磨,凹線文＋縄文	研磨	
	398	1T	Ⅲ	長石,石英,角閃石	堅緻	茶褐色	研磨,凹線文＋縄文	研磨	
	399	1T	Ⅰ	長石,石英,角閃石	堅緻	茶褐色	研磨,凹線文＋縄文＋刺突文	研磨	
	400	1T	Ⅴ	長石,石英,角閃石	堅緻	茶褐色	ナデ,凹線文＋縄文	ナデ	

第11表　出土土器観察表(9)

挿図	番号	出土区	層	胎　土	焼成	色　調	外面調整（文様）	内面調整	備　考
第33図	401	1 T	V	長石,石英,角閃石	堅緻	暗 褐 色	研磨,凹線文＋縄文	研磨	
	402	1 T	Ⅲ	長石,石英,角閃石	堅緻	暗 褐 色	研磨,凹線文＋縄文	研磨	
	403	1 T	Ⅲ	長石,石英,角閃石	堅緻	茶 褐 色	研磨,凹線文＋貝殻刺突文	ナデ	
第34図	404	1 T	Ⅳ	長石,石英,角閃石	堅緻	明 褐 色	ナデ,平底	ナデ	底部
	405	1 T	Ⅲ	長石,石英,角閃石	堅緻	黒 褐 色	研磨,平底	研磨	底部
	406	1 T	Ⅰ	長石,石英,角閃石	堅緻	黒 褐 色	ナデ,上げ底	ナデ	底部
第35図	407	1 T	Ⅲ	長石,石英,角閃石	良好	茶 褐 色	ナデ,凹線文＋貝殻刺突文	ナデ	口縁部
	408	1 T	Ⅵ	長石,石英,角閃石	良好	茶 褐 色	ナデ,凹線文＋貝殻刺突文	ナデ	口縁部
	409	1 T	Ⅲ	長石,石英,角閃石	良好	茶 褐 色	ナデ,刻目	ナデ	胴部
	410	1 T	Ⅲ	長石,石英,角閃石	良好	茶 褐 色	工具ナデ,沈線	工具ナデ	口縁部
	411	1 T	Ⅵ	長石,石英,角閃石	良好	茶 褐 色	工具ナデ,沈線	工具ナデ	口縁部
	412	1 T	Ⅳ	長石,石英,角閃石	良好	茶 褐 色	工具ナデ,沈線	工具ナデ,貝殻刺突文	口縁部
	413	1 T	Ⅰ	長石,石英,角閃石	堅緻	茶 褐 色	工具ナデ,凹線文	研磨	口縁部
	414	1 T	Ⅵ	長石,石英,角閃石	良好	茶 褐 色	工具ナデ,凹線文	ナデ	口縁部
第47図	524	3 T	撹乱	石英,長石,角閃石	良好	赤 褐 色	ナデ,沈線	工具ナデ	
	525	3 T	撹乱	石英,長石,角閃石,砂礫多い	良好	赤 褐 色	ナデ,沈線	ナデ	
	526	3 T	撹乱	石英,長石,角閃石	良好	暗 褐 色	ナデ,沈線	ナデ	
	527	3 T	撹乱	石英,長石,角閃石	良好	褐色,黄白色	不明,沈線	不明	
	528	3 T	撹乱	石英,長石,角閃石	良好	褐　色	ナデ,刺突,沈線	ナデ	
	529	3 T	撹乱	石英,長石,角閃石	良好	赤 褐 色	ナデ,沈線	ナデ	
	530	3 T	撹乱	石英,長石,角閃石	良好	赤 褐 色	ナデ,沈線	工具ナデ	
	531	3 T	撹乱	石英,長石,角閃石	良好	暗 褐 色	ナデ,刺突,沈線	ナデ	
	532	3 T	撹乱	石英,長石,角閃石	良好	黄 白 色	ヘラミガキ,沈線	ヘラミガキ	
	533	3 T	撹乱	石英,長石,角閃石	良好	黒色,赤褐色	ナデ,短凹線,沈線,貝殻文	工具ナデ	
	534	3 T	撹乱	石英,長石,角閃石	良好	赤 褐 色	不明,沈線	不明	
	535	3 T	撹乱	石英,長石,角閃石	良好	暗赤褐色・黄白色	ナデ,沈線	ナデ	
	536	3 T	撹乱	石英,長石,角閃石	良好	黒 褐 色	ナデ,沈線	工具ナデ	
	537	3 T	撹乱	石英,長石,角閃石	良好	暗赤褐色	ナデ,ヘラ刺突	工具ナデ	
	538	3 T	撹乱	石英,長石,角閃石	良好	暗赤褐色	ナデ,貝殻文	ナデ	
	539	3 T	撹乱	石英,長石,角閃石	良好	黄 白 色	ナデ,凹線,刺突(貝)	ナデ	
	540	3 T	撹乱	石英,長石,角閃石	良好	淡赤褐色	ナデ,ヘラ刺突	ナデ	
	541	3 T	撹乱	石英,長石,角閃石	良好	赤 褐 色	ナデ,貝殻文	ナデ	
	542	3 T	撹乱	石英,長石,角閃石	良好	淡 褐 色	ナデ,凹線,貝殻文	工具ナデ	
	543	3 T	撹乱	石英,長石,角閃石	良好	淡 褐 色	ナデ,沈線,貝殻文	ナデ,工具ナデ	
第48図	544	3 T	撹乱	石英,長石	良好	褐　色	ナデ,斜沈線	ナデ	
	545	3 T	撹乱	石英,長石,角閃石	良好	暗 褐 色	ナデ,貝殻文	工具ナデ	
	546	3 T	撹乱	石英,長石,角閃石	良好	赤 褐 色	ナデ,凹線,ヘラ連続刺突	ナデ,ヘラ連続刺突	
	547	3 T	撹乱	石英,長石,角閃石	良好	赤 褐 色	ナデ,沈線	ナデ	
	548	3 T	撹乱	石英,長石,角閃石	良好	暗 褐 色	ナデ,沈線	ナデ	
	549	3 T	撹乱	石英,長石,角閃石	良好	黄 褐 色	ナデ,凹線,連続刺突(ヘラ)	工具ナデ	
	550	3 T	撹乱	石英,長石,角閃石	良好	褐　色	ナデ,凹線,連続刺突(ヘラ)	ナデ	
	551	3 T	撹乱	石英,長石,角閃石	良好	褐　色	ナデ,沈線	ナデ	
	552	3 T	撹乱	石英,長石,角閃石	やや不良	赤 褐 色	不明,沈線	不明	
	553	3 T	撹乱	石英,長石,角閃石	良好	赤 褐 色	ナデ,連続刺突(ヘラ)	ナデ	
	554	3 T	撹乱	石英,長石,角閃石	良好	暗 褐 色	ナデ,沈線	ナデ	
	555	3 T	撹乱	石英,長石,角閃石	良好	黄 褐 色	ナデ,凹線	ナデ	
	556	3 T	撹乱	石英,長石,角閃石	良好	赤 褐 色	ナデ,刻目,短沈線	ナデ	
	557	3 T	撹乱	石英,長石	やや不良	黄 白 色	ナデ,沈線	ナデ	炭化物
	558	3 T	撹乱	石英,長石,角閃石	良好	暗 褐 色	工具ナデ	工具ナデ	
	559	3 T	撹乱	石英,長石,角閃石	良好	黄 白 色	ナデ	貝殻条痕	

第12表　出土土器観察表(10)

挿図	番号	出土区	層	胎　土	焼成	色　調	外面調整（文様）	内面調整	備　考
第48図	560	3 T	撹乱	石英,長石	やや不良	暗黄褐色	ナデ	ナデ	炭化物
	561	3 T	撹乱	石英,長石,角閃石	良好	黒褐色	ナデ	工具ナデ	炭化物
第49図	562	3 T	撹乱	石英,長石,角閃石	良好	暗褐色	ナデ,条痕	ナデ,条痕	
	563	3 T	撹乱	石英,長石,角閃石	良好	暗褐色	ナデ	ナデ	
	564	3 T	撹乱	石英,長石,角閃石	良好	暗褐色	ナデ	ナデ	
	565	3 T	撹乱	石英,長石,角閃石	良好	赤褐色	ナデ,短沈線	ナデ	
	566	3 T	撹乱	石英,長石,角閃石	良好	暗灰色	ヘラミガキ,凹線,縄文	ヘラミガキ	
	567	3 T	撹乱	石英,長石,角閃石,金雲母	良好	暗灰色	ヘラミガキ,凹線,縄文	ヘラミガキ	
	568	3 T	撹乱	石英,長石,角閃石	良好	暗灰色	ヘラミガキ,縄文	ヘラミガキ	
	569	3 T	撹乱	石英,長石,角閃石	良好	灰　色	ヘラミガキ,縄文	ヘラミガキ	
	570	3 T	撹乱	石英,長石,角閃石	良好	暗灰色	ヘラミガキ,凹線,縄文	ヘラミガキ	
	571	3 T	撹乱	石英,長石,角閃石	良好	暗灰色	ヘラミガキ,凹線,縄文	ヘラミガキ	
	572	3 T	撹乱	石英,長石,角閃石	良好	暗灰色	ヘラミガキ,凹線,縄文	ヘラミガキ	
	573	3 T	撹乱	石英,長石,角閃石	良好	灰白色	ヘラミガキ,凹線,縄文	ヘラミガキ	
	574	3 T	撹乱	石英,長石,角閃石	良好	暗灰色	ヘラミガキ,凹線,縄文,円形刺突	ヘラミガキ	
	575	3 T	撹乱	石英,長石,角閃石	良好	暗灰色	不明,凹線,縄文	不明	
	576	3 T	撹乱	石英,長石,角閃石	良好	黄白色	ヘラミガキ,凹線,縄文	ヘラミガキ	
	577	3 T	撹乱	石英,長石,角閃石	良好	赤褐色	ヘラミガキ,凹線,縄文	ヘラミガキ	
	578	3 T	撹乱	石英,長石,金雲母	良好	灰白色	ヘラミガキ,凹線	ヘラミガキ	
	579	3 T	撹乱	石英,長石,角閃石	良好	赤褐色	ナデ,斜沈線	ナデ	
	580	3 T	撹乱	石英,長石,角閃石	良好	暗赤褐色	工具ナデ,短沈線	ナデ	
	581	3 T	撹乱	石英,長石,角閃石	良好	暗褐色	貝殻条痕	貝殻条痕	
第50図	582	3 T	撹乱	石英,長石,角閃石	良好	黒褐色・黄白色	ナデ	貝殻条痕	
	583	3 T	撹乱	石英,長石	良好	淡赤褐色	ナデ	貝殻条痕	
	584	3 T	撹乱	石英,長石,角閃石	良好	黒色・茶褐色	条痕	条痕	
	585	3 T	撹乱	石英,長石,角閃石	良好	暗褐色	工具ナデ	工具ナデ	
	586	3 T	撹乱	石英,長石,角閃石	良好	赤褐色・暗褐色	ナデ	貝殻条痕	
	587	3 T	撹乱	石英,長石,角閃石	不良	黄白色	工具ナデ	貝殻条痕	
	588	3 T	撹乱	石英,長石,角閃石	良好	赤褐色	工具ナデ	貝殻条痕	
	589	3 T	撹乱	石英,長石,角閃石	良好	黄褐色	ナデ	ナデ,指頭圧痕	
	590	3 T	撹乱	石英,長石,角閃石	良好	茶褐色	工具ナデ	ナデ	
	591	3 T	撹乱	石英,長石,角閃石	良好	茶褐色	ナデ	工具ナデ	
	592	3 T	撹乱	石英,長石,角閃石	良好	淡褐色	ナデ	ナデ	
	593	3 T	撹乱	石英,長石,角閃石	良好	黄褐色	工具ナデ	ナデ	
	594	3 T	撹乱	石英,長石,角閃石	良好	黄灰色・黒色	ナデ,指頭圧痕	工具ナデ	
	595	3 T	撹乱	石英,長石,角閃石	良好	赤褐色	不明	不明	
	596	3 T	撹乱	石英,長石,角閃石	良好	赤褐色	工具ナデ	不明	
第55図	608	4 T	Ⅳ	石英,長石,角閃石	良好	赤褐色	ナデ,沈線	ナデ	
	609	4 T	Ⅳ	石英,長石,角閃石	良好	茶褐色	ナデ,工具ナデ,沈線	ナデ,工具ナデ	
	610	4 T	Ⅳ	石英,長石,角閃石,細砂礫	良好	茶褐色	ナデ,工具ナデ,沈線	ナデ	
	611	4 T	Ⅳ	石英,長石	良好	茶褐色	ナデ,沈線	工具ナデ	
	612	4 T	Ⅳ	石英,長石	良好	茶褐色	ナデ,刺突,沈線	ナデ	
	613	4 T	Ⅳ	石英,長石,角閃石,砂礫多い	良好	茶褐色	ナデ,沈線	ナデ	
	614	4 T	Ⅲ	石英,長石,角閃石	良好	褐　色	ナデ,ヘラ刻目,沈線	ナデ	
	615	4 T	Ⅳ	石英,長石,角閃石,砂粒	良好	黄灰色	ナデ,刺突,沈線	ナデ	
	616	4 T	Ⅴ	石英,長石,角閃石	良好	暗褐色	ナデ,工具ナデ,刺突,沈線	ナデ	
	617	4 T	Ⅳ	石英,長石,角閃石	良好	褐　色	ナデ,貝殻条痕,刺突,沈線	ナデ,貝殻条痕	
	618	4 T	Ⅲ	石英,長石,角閃石	良好	暗褐色	ナデ,沈線	ナデ	
	619	4 T	Ⅳ	石英,長石,角閃石	やや不良	赤褐色	ナデ,沈線	工具ナデ	
	620	4 T	Ⅲ	石英,長石,角閃石	良好	暗褐色	ナデ,沈線	ナデ,沈線	

第13表　出土土器観察表(11)

挿図	番号	出土区	層	胎　土	焼成	色　調	外面調整（文様）	内面調整	備　考
第55図	621	4 T	Ⅲ	石英,長石,角閃石	良好	褐　色	ナデ,沈線	ナデ・工具ナデ,沈線文	
第56図	622	4 T	Ⅳ	石英,長石,角閃石,砂礫多い	良好	褐　色	ナデ,沈線	ナデ	
	623	4 T	Ⅲ	石英,長石,角閃石,砂粒	良好	茶褐色	ナデ,沈線,刺突(貝)	ナデ	
	624	4 T	Ⅳ	石英,長石,角閃石	良好	淡赤褐色	ナデ,条痕,沈線	ナデ	
	625	4 T	Ⅳ	石英,長石,角閃石	良好	暗褐色	ナデ,刺突,沈線,刻目(ヘラ)	ナデ	
	626	4 T	Ⅲ	石英,長石,角閃石	良好	赤褐色	ナデ,沈線	工具ナデ	
	627	4 T	Ⅲ	石英,長石,角閃石	良好	褐　色	ナデ,沈線	条痕後ナデ	
	628	4 T	Ⅳ	石英,長石,角閃石	良好	褐　色	ナデ,沈線	ナデ,沈線	
	629	4 T	Ⅳ	石英,長石,角閃石	良好	茶褐色	ナデ,沈線	ナデ	
	630	4 T	Ⅴ	石英,長石	良好	褐　色	ナデ,沈線	ナデ,条痕	
	631	4 T	Ⅲ	石英,長石,角閃石	良好	褐　色	ナデ,沈線	貝殻条痕	
	632	4 T	Ⅳ	石英,長石,角閃石	良好	赤褐色	ナデ,沈線	ナデ	
	633	4 T	Ⅴ	石英,長石,角閃石,金雲母	良好	赤褐色	条痕,ナデ,凹線	工具ナデ	穿孔有り
	634	4 T	Ⅲ	石英,長石,角閃石	不良	赤褐色	不明,沈線	不明	
	635	4 T	Ⅳ	石英,長石,角閃石,砂礫多い	良好	褐　色	ナデ,沈線	工具ナデ	
	636	4 T	Ⅲ	石英,長石,角閃石	良好	褐　色	ナデ,沈線	ナデ	
	637	4 T	Ⅳ	石英,長石,砂粒	良好	赤褐色	ナデ,沈線	条痕	
	638	4 T	Ⅳ	石英,長石,角閃石	良好	暗褐色	ナデ,沈線	ナデ	
	639	4 T	Ⅲ	石英,長石	良好	暗褐色	ナデ,沈線	ナデ	
第57図	640	4 T		石英,長石,角閃石	良好	黄褐色	条痕,凹線,刺突(貝)	条痕,工具ナデ	
	641	4 T	Ⅲ・Ⅳ	石英,長石,角閃石	良好	赤褐色	ナデ,凹線,刻目	ナデ	
第58図	642	4 T	Ⅱ下/Ⅲ	石英,長石,角閃石	良好	赤褐色	ナデ,沈線	ナデ,工具ナデ	
	643	4 T	Ⅲ	石英,長石,角閃石	良好	赤褐色	ナデ,刺突(貝),凹線	工具ナデ	
	644	4 T	Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ	石英,長石,金雲母	良好	赤褐色	ナデ,貝殻条痕,沈線	貝殻条痕	
第59図	645	4 T	Ⅱ	石英,長石,角閃石	良好	赤褐色	ヘラナデ(ミガキ様),刺突(貝)	工具ナデ	
	646	4 T	Ⅲ	石英,長石,角閃石	良好	暗赤褐色	工具ナデ,刺突(ヘラ)	工具ナデ	
	647	4 T	Ⅲ	石英,長石,角閃石	良好	暗赤褐色	工具ナデ,巻貝押圧回転	ナデ	
	648	4 T	Ⅳ	石英,長石,角閃石	良好	暗褐色	工具ナデ,刺突(貝)	ナデ,工具ナデ	
	649	4 T	Ⅳ	石英,長石,角閃石	良好	暗褐色	貝殻条痕,刺突(貝)	貝殻条痕	
	650	4 T	Ⅲ	石英,長石,角閃石,砂粒	良好	淡赤褐色	ナデ,刺突(貝)	工具ナデ	
	651	4 T	Ⅲ	石英,長石,角閃石	良好	暗褐色	ナデ,刺突(ヘラ)	ナデ	
	652	4 T	Ⅱ	石英,長石,角閃石	良好	茶褐色	ヘラナデ,刺突(貝)	ナデ	
	653	4 T	Ⅳ	石英,長石,角閃石	良好	褐　色	ナデ,刺突(貝)	ナデ	
	654	4 T	Ⅲ	石英,長石,角閃石	良好	暗褐色	ナデ,刺突(貝)	工具ナデ	
	655	4 T	Ⅱ	石英,長石,角閃石	良好	褐　色	ナデ,貝殻文	工具ナデ	
	656	4 T	Ⅲ	石英,長石,角閃石	良好	赤褐色	ナデ,沈線,刺突(貝)	ナデ	
	657	4 T	Ⅲ	石英,長石,角閃石	良好	赤褐色	ナデ,刺突(木口状)	ナデ	
	658	4 T	Ⅱ	石英,長石,角閃石	良好	赤褐色	ナデ,貝殻条痕,刺突(貝)	ナデ	
	659	4 T	Ⅲ	石英,長石,角閃石	良好	暗褐色	ナデ,刺突(貝)	工具ナデ	
	660	4 T	Ⅱ	石英,長石,角閃石,砂礫多い	良好	黄白色	ナデ,刺突(木口状)	不明	
	661	4 T	Ⅲ	石英,長石,角閃石	良好	赤褐色	ナデ,刺突(貝)	ナデ	
	662	4 T	Ⅳ下	石英,長石	良好	淡褐色	貝殻条痕,貝殻文	貝殻条痕	把手痕
	663	4 T	Ⅱ下	石英,長石,角閃石	良好	赤褐色	ナデ,凹線,連続刺突(ヘラ)	ナデ	
第60図	664	4 T	Ⅱ	石英,長石,角閃石	良好	茶褐色	ナデ,凹線,貝殻文	貝殻条痕,ナデ消し	
	665	4 T	Ⅲ	石英,長石,角閃石	良好	黄褐色	ナデ,凹線,貝殻文	ナデ	
	666	4 T	Ⅳ	石英,長石,角閃石	良好	黄褐色	ナデ,条痕	ナデ,条痕	
	667	4 T	Ⅲ	石英,長石,角閃石	良好	暗黄褐色	ナデ	ナデ,貝殻条痕	
	668	4 T	Ⅲ	石英,長石,角閃石	良好	黄褐色	ナデ	貝殻条痕	
	669	4 T	Ⅲ	石英,長石,角閃石	良好	褐　色	ナデ	ナデ,貝殻条痕	
	670	4 T	Ⅳ	石英,長石,金雲母,砂粒	良好	赤褐色	ナデ,沈線	ナデ	把手

第14表　出土土器観察表(12)

挿図	番号	出土区	層	胎　土	焼成	色　調	外面調整（文様）	内面調整	備　考
第60図	671	4 T	Ⅱ	石英,長石,角閃石	良好	褐　色	ナデ,短凹線	工具ナデ	
	672	4 T	Ⅲ	石英,長石,角閃石,砂礫多い	良好	黒褐色	ナデ,刺突	工具ナデ	
	673	4 T	Ⅲ	石英,長石,角閃石	良好	赤褐色	ナデ,刺突(貝)	ナデ	
	674	4 T	Ⅳ	石英,長石,角閃石	良好	暗褐色	ナデ,凹線,縄文	ヘラナデ	
	675	4 T	Ⅲ	石英,長石	良好	淡褐色	ナデ,刺突(貝)	工具ナデ	
	676	4 T	Ⅲ	石英,長石,角閃石	良好	褐　色	貝殻条痕,円形刺突,刺突(貝)	貝殻条痕	
	677	4 T	Ⅴ	石英,長石,角閃石	良好	暗赤褐色	貝殻条痕,刺突(貝)	工具ナデ	
第61図	678	4 T	Ⅲ・Ⅳ	石英,長石,角閃石	良好	赤褐色	ヘラミガキ,凹線,縄文	ヘラミガキ,工具ナデ	赤色顔料塗布
	679	4 T	Ⅲ	石英,長石,角閃石	良好	赤褐色	ヘラミガキ,凹線,縄文	ヘラミガキ,工具ナデ	赤色顔料塗布
	680	4 T	Ⅳ	石英,長石,角閃石	良好	赤褐色	ヘラミガキ,凹線,縄文	ヘラミガキ,工具ナデ	赤色顔料塗布
	681	4 T	Ⅳ	石英,長石,角閃石,砂粒	良好	赤褐色	ヘラミガキ,凹線,縄文	ヘラミガキ	
	682	4 T	Ⅳ	石英,長石,角閃石,砂粒	良好	暗赤褐色	ヘラミガキ,凹線,縄文	ヘラミガキ	
	683	4 T	Ⅲ	石英,長石,角閃石	良好	黒　色	ヘラミガキ,沈線,縄文	ヘラミガキ,沈線,縄文	1対の穿孔
第62図	684	4 T	Ⅲ下	石英,長石,角閃石,砂粒	良好	黒褐色	ヘラミガキ,縄文	ヘラミガキ	
	685	4 T	Ⅳ	石英,長石,砂粒	良好	黒褐色	ヘラミガキ,縄文	ヘラミガキ	
	686	4 T	Ⅳ	石英,長石,砂粒	良好	黒　色	ヘラミガキ,縄文	ヘラミガキ	
	687	4 T	Ⅳ	石英,長石,砂粒	良好	灰褐色	ヘラミガキ,縄文	ヘラミガキ	
	688	4 T	Ⅲ	石英,長石,角閃石	良好	灰　色	ヘラミガキ,縄文	ヘラミガキ	
	689	4 T	Ⅲ	石英,長石,角閃石	良好	淡褐色	ヘラミガキ,凹線	ヘラミガキ	
	690	4 T	Ⅱ・Ⅲ	石英,長石,角閃石	良好	灰褐色	ヘラミガキ,凹線,縄文	ヘラミガキ	
	691	4 T	Ⅲ	石英,長石,角閃石,砂粒	良好	灰　色	ヘラミガキ,凹線,縄文,刺突(ヘラ)	ヘラミガキ	
	692	4 T	Ⅲ	石英,長石,角閃石,砂粒	良好	灰　色	ヘラミガキ,凹線,縄文	ヘラミガキ	
	693	4 T	Ⅳ	石英,長石,角閃石	良好	黄褐色	ヘラミガキ,凹線,縄文	ヘラミガキ	
	694	4 T	Ⅲ	石英,長石,角閃石	良好	暗褐色	ヘラミガキ,凹線,縄文	ナデ	
第63図	695	4 T	Ⅱ	石英,長石,角閃石	良好	黄灰色	ヘラミガキ,凹線,縄文	ヘラミガキ	
	696	4 T	Ⅲ	石英,長石,角閃石	良好	灰褐色	ヘラミガキ,刺突(ヘラ),凹線,縄文	ヘラミガキ,工具ナデ	
	697	4 T	Ⅴ	石英,長石,角閃石,砂粒	良好	赤褐色	ヘラミガキ,縄文,凹線	ヘラミガキ	
	698	4 T	Ⅱ下	石英,長石,角閃石,砂粒	良好	黒　色	ヘラミガキ,縄文,凹線	ヘラミガキ	
	699	4 T	Ⅳ・Ⅴ	石英,長石	良好	暗赤褐色	ヘラミガキ	ヘラミガキ,工具ナデ	
	700	4 T	Ⅲ下	石英,長石,角閃石	良好	暗灰色	ヘラミガキ	ヘラミガキ	
	701	4 T	Ⅱ下	石英,長石,角閃石	良好	赤褐色	ナデ,工具ナデ	ナデ	
	702	4 T	Ⅳ・Ⅴ	石英,長石,角閃石	良好	灰褐色	工具ナデ,凹線	ナデ,貝殻文	
	703	4 T	Ⅱ	石英,長石,角閃石	良好	赤褐色	ヘラミガキ,沈線,刺突(ヘラ)	ヘラミガキ	
	704	4 T	Ⅲ	石英,長石,角閃石	良好	暗褐色	ナデ,沈線	ナデ	
	705	4 T	Ⅳ	石英,長石,角閃石,砂粒	良好	黄褐色	ヘラミガキ	ヘラミガキ	
	706	4 T	Ⅲ	石英,長石,角閃石	良好	黒褐色	ヘラミガキ	ヘラミガキ	
	707	4 T	Ⅳ/Ⅳ下	石英,長石,角閃石	良好	黒褐色	工具ナデ後ヘラミガキ	工具ナデ後ヘラミガキ	
	708	4 T	Ⅳ	石英,長石,角閃石	良好	黄白色	ヘラミガキ	ナデ	
第64図	709	4 T	Ⅴ	石英,長石,角閃石	良好	赤褐色	工具ナデ,刻目,短沈線	貝殻条痕	
	710	4 T	Ⅳ	石英,輝石,沈線,鉄マンガン粒	不良	黄白色	不明	条痕	多孔質
	711	4 T	Ⅳ	石英,長石,角閃石	良好	暗赤褐色	工具ナデ	ナデ	
	712	4 T	Ⅲ	石英,長石,角閃石	良好	暗赤褐色	ナデ	貝殻条痕	
	713	4 T	Ⅲ	石英,長石,角閃石	良好	褐　色	工具ナデ,ヘラ短沈線,突帯	工具ナデ	
	714	4 T	Ⅱ	石英,長石,角閃石	良好	黄灰色	工具ナデ	貝殻条痕	
	715	4 T	Ⅳ	石英,長石	良好	暗褐色	工具ナデ	工具ナデ	
	716	4 T	Ⅳ	石英,長石,角閃石	良好	赤褐色	条痕	条痕	
	717	4 T	Ⅳ	石英,長石,角閃石	良好	赤褐色	ナデ	ナデ	
	718	4 T	Ⅳ	石英,長石,角閃石	良好	暗赤褐色	ナデ	ナデ	
	719	4 T	Ⅲ	石英,長石,角閃石	良好	褐　色	ナデ	ナデ	
	720	4 T	Ⅲ	石英,長石	良好	褐　色	条痕	ナデ	

第15表　出土土器観察表(13)

挿図	番号	出土区	層	胎　土	焼成	色　調	外面調整（文様）	内面調整	備　考
第64図	721	4 T	Ⅳ	石英,長石,角閃石	良好	褐　色	ナデ	ナデ	
第65図	722	4 T	Ⅳ	石英,長石,角閃石	良好	赤褐色	貝殻条痕	貝殻条痕	
	723	4 T	Ⅳ	石英,長石,角閃石	良好	褐　色	ナデ	工具ナデ	
	724	4 T	Ⅲ	石英,長石,角閃石	良好	黄褐色	工具ナデ	貝殻条痕	
	725	4 T	Ⅲ	石英,長石,角閃石	良好	赤褐色	工具ナデ	工具ナデ	
	726	4 T	Ⅱ	石英,長石,角閃石	良好	暗赤褐色	貝殻条痕	貝殻条痕	
	727	4 T	Ⅳ	石英,長石,角閃石	良好	黒褐色	ヘラミガキ	ヘラミガキ	
	728	4 T	Ⅲ	石英,長石,角閃石	良好	黄灰色	ヘラミガキ	ヘラミガキ	
	729	4 T	Ⅳ	石英,長石,角閃石	良好	暗褐色	工具ナデ	工具ナデ	
	730	4 T	Ⅳ･Ⅴ	石英,長石,角閃石	良好	暗赤褐色	ナデ	工具ナデ	
	731	4 T	Ⅳ	石英,長石,角閃石	良好	淡褐色	ヘラミガキ,刺突	工具ナデ	
	732	4 T	Ⅳ	石英,長石,角閃石	良好	褐　色	ヘラミガキ,工具ナデ	ヘラミガキ,工具ナデ	
	733	4 T	Ⅲ	石英,長石,角閃石	良好	暗褐色	ナデ	条痕後ナデ消し	
第66図	734	4 T	Ⅲ下Ⅳ	石英,長石,角閃石	良好	赤褐色	不明	不明	
	735	4 T	Ⅳ	石英,長石,角閃石	良好	赤褐色	貝殻条痕,ヘラ刻目,円形刺突	貝殻条痕	
	736	4 T	Ⅱ	石英,長石,角閃石	良好	赤褐色	ナデ,凹線	ヘラナデ	
	737	4 T	Ⅳ	石英,長石,角閃石	良好	赤褐色	工具ナデ,凹線,刺突(貝)	ナデ	
	738	4 T	Ⅳ	石英,長石,角閃石	良好	赤褐色	ナデ,沈線,刺突	ナデ	
	739	4 T	Ⅲ	石英,長石,角閃石	良好	黄褐色	ヘラミガキ,沈線,透かし	ナデ	
	740	4 T	Ⅲ	石英,長石,角閃石	良好	赤褐色	ナデ,貝殻文,透かし	ナデ	
	741	4 T	Ⅲ	石英,長石,角閃石	良好	黄褐色	ナデ,刺突(貝),貝殻文,透かし	貝殻条痕	
	742	4 T	Ⅲ	石英,長石,角閃石	良好	暗赤褐色	ナデ,沈線,透かし	工具ナデ	
	743	4 T	Ⅲ	石英,長石,角閃石	良好	赤褐色	ナデ,凹線,透かし	ナデ	
	744	4 T	Ⅳ	石英,長石,角閃石	良好	黄褐色	ナデ,凹線	ナデ	
	745	4 T	Ⅲ	石英,長石,角閃石	良好	黄灰色	ナデ,刺突(木口),透かし	ナデ	
	746	4 T	Ⅲ	石英,長石,角閃石	良好	褐　色	ナデ	不明	
	747	4 T	Ⅲ	石英,長石,角閃石	やや不良	赤褐色	ナデ	ナデ	
	748	4 T	Ⅲ	石英,長石,角閃石	良好	黄褐色	ナデ,沈線	ナデ	
	749	4 T	Ⅲ	石英,長石,角閃石	良好	黄褐色	ナデ	工具ナデ	
	750	4 T	Ⅳ	石英,長石,角閃石	良好	赤褐色	工具ナデ,沈線	ヘラミガキ	
	751	4 T	Ⅲ	石英,長石,角閃石	良好	褐　色	ナデ,粘土貼りつけ	ナデ	
	752	4 T	Ⅲ	石英,長石,角閃石	良好	赤褐色	ナデ,刺突(貝)	ナデ	
第67図	753	4 T	Ⅲ	石英,長石,角閃石	良好	黄白色	ナデ,沈線,透かし	ナデ	
	754	4 T	Ⅲ	石英,長石,角閃石	良好	淡褐色	ナデ,沈線	ナデ	
	755	4 T	Ⅴ	石英,長石,角閃石	良好	淡黄褐色	ナデ	ナデ	
	756	4 T		石英,長石,角閃石	良好	茶褐色	ナデ,刺突	不明	
	757	4 T	Ⅱ	石英,長石,角閃石	良好	赤褐色	ナデ	ナデ	
	758	4 T	Ⅱ	石英,長石,角閃石	良好	黄褐色	ナデ	ナデ	
	759	4 T	Ⅳ	石英,長石,角閃石	良好	黄灰色	条痕,沈線	条痕	
	760	4 T	Ⅱ	石英,長石,角閃石	良好	褐　色	条痕,沈線	ナデ,指頭圧痕	
	761	4 T	Ⅳ	石英,長石,角閃石	良好	赤褐色	ナデ,沈線	ナデ	
	762	4 T	Ⅳ･Ⅴ	石英,長石,角閃石	良好	黄褐色	ナデ,沈線	工具ナデ	
	763	4 T	Ⅴ	石英,長石,角閃石	良好	赤褐色	ナデ,沈線	ナデ	
	764	4 T	表	石英,長石,角閃石,金雲母	良好	黒褐色	ナデ,沈線	工具ナデ	
	765	4 T	Ⅳ	石英,長石,角閃石	良好	褐　色	ナデ,沈線	工具ナデ	
	766	4 T	Ⅳ	石英,長石,角閃石	良好	黄褐色	ナデ,沈線	ナデ,指頭圧痕	
	767	4 T	Ⅳ	石英,長石,角閃石	良好	淡褐色	ナデ,沈線	ナデ	
	768	4 T	Ⅳ	石英,長石,角閃石	良好	赤褐色	ナデ,沈線(櫛状)	貝殻条痕	
	769	4 T	Ⅳ	石英,長石,角閃石	良好	褐　色	ナデ,沈線	工具ナデ	
	770	4 T	Ⅳ	石英,長石	良好	黒褐色･黄白色	ナデ,沈線	ナデ	

第16表　出土土器観察表(14)

挿図	番号	出土区	層	胎　土	焼成	色　調	外面調整（文様）	内面調整	備　考
第67図	771	4 T	Ⅲ	石英,長石,角閃石	良好	褐　色	ナデ,沈線	ナデ	
	772	4 T	Ⅲ	石英,長石,角閃石	良好	赤褐色	ナデ,沈線	ナデ	
	773	4 T	Ⅲ	石英,長石,角閃石	良好	茶褐色	ナデ,沈線	工具ナデ	
	774	4 T	Ⅱ	石英,長石,角閃石	良好	黒褐色	ナデ,ケズリ,沈線	ナデ	
	775	4 T	Ⅲ	石英,長石,角閃石,金雲母	良好	黒褐色・灰色	丁寧なナデ,沈線,貝殻文	不明	
	776	4 T	Ⅳ	石英,長石,角閃石	良好	暗赤褐色	ナデ,沈線,貝殻文(くの字)	工具ナデ	
	777	4 T	Ⅲ	石英,長石,角閃石	良好	淡褐色	ナデ,沈線	丁寧なナデ	
第68図	778	4 T	Ⅲ	石英,長石,角閃石	良好	暗褐色	ナデ,突帯	条痕	
	779	4 T	Ⅲ	石英,長石	良好	黒褐色・赤褐色	貝殻条痕,貝殻文	貝殻条痕	
	780	4 T	Ⅳ	石英,長石,角閃石	良好	灰　色	ヘラミガキ	ヘラミガキ	
	781	4 T	Ⅲ	石英,長石,角閃石	良好	暗褐色	工具ナデ	ナデ	
	782	4 T	Ⅳ	石英,長石	良好	茶褐色	ナデ	貝殻条痕	
	783	4 T	Ⅳ	石英,長石,角閃石	良好	赤褐色	ナデ	ヘラミガキ	
	784	4 T	Ⅳ	石英,長石,角閃石	良好	暗褐色	工具ナデ	ナデ	
	785	4 T	Ⅴ	石英,長石,角閃石	良好	褐　色	工具ナデ	ナデ	
	786	4 T	Ⅱ・Ⅲ	石英,長石,角閃石	良好	赤褐色	ナデ	工具ナデ	
	787	4 T	Ⅲ	石英,長石,角閃石	良好	赤褐色・黒褐色	工具ナデ	工具ナデ	
	788	4 T	Ⅲ	石英,長石,金雲母	良好	黄褐色	ヘラミガキ	工具ナデ	
	789	4 T	Ⅳ	石英,長石,角閃石	良好	赤褐色	工具ナデ	条痕	
	790	4 T	Ⅲ	石英,長石	良好	赤褐色	工具ナデ	工具ナデ	
	791	4 T	Ⅲ	石英,長石,角閃石	良好	赤褐色	工具ナデ	工具ナデ	
	792	4 T	Ⅳ	石英,長石,角閃石	良好	赤褐色・黒褐色	工具ナデ後ヘラミガキ	ヘラミガキ	
	793	4 T	Ⅲ	石英,長石,角閃石	良好	暗赤褐色	条痕	ヘラミガキ	
第69図	794	4 T	Ⅳ	石英,長石,金雲母,砂礫多い	良好	暗褐色・黄灰色	工具ナデ	工具ナデ	
	795	4 T	Ⅲ	石英,長石,角閃石	良好	黄褐色	工具ナデ	ナデ	
	796	4 T	Ⅳ	石英,長石,角閃石	良好	褐　色	条痕	工具ナデ	
	797	4 T	Ⅲ	石英,長石,角閃石	良好	赤褐色	工具ナデ	工具ナデ	
	798	4 T	Ⅱ	石英,長石,角閃石	良好	淡赤褐色	工具ナデ	条痕	
	799	4 T	Ⅲ	石英,長石	良好	灰褐色	工具ナデ	工具ナデ	
	800	4 T	Ⅳ	石英,長石,角閃石	良好	暗褐色	条痕	工具ナデ,ナデ	
	801	4 T	Ⅲ・Ⅳ	石英,長石	良好	黄褐色	貝殻条痕	貝殻条痕	
第70図	802	4 T	Ⅲ	石英,長石,角閃石	良好	暗赤褐色	工具ナデ	工具ナデ	
	803	4 T	Ⅳ	石英,長石,角閃石	良好	褐　色	条痕	条痕	
	804	4 T		石英,長石,角閃石	良好	暗赤褐色	ヘラナデ	工具ナデ	
	805	4 T	Ⅲ	石英,長石,角閃石	良好	茶褐色	工具ナデ	工具ナデ	
	806	4 T	Ⅳ	石英,長石,角閃石	良好	黄灰色	工具ナデ	丁寧なナデ	
	807	4 T	Ⅳ	石英,長石,角閃石	良好	赤褐色	工具ナデ	工具ナデ	
	808	4 T	Ⅲ	石英,長石,角閃石	良好	淡黄褐色	ナデ	工具ナデ,ナデ	
	809	4 T	Ⅳ	石英,長石,角閃石	良好	赤褐色	工具ナデ(ミガキ様)	工具ナデ(ミガキ様)	
	810	4 T	Ⅲ	石英,長石,角閃石	良好	暗褐色・赤褐色	ヘラナデ	工具ナデ	
	811	4 T	Ⅲ	石英,長石,角閃石	良好	暗褐色	条痕	ナデ	
	812	4 T	Ⅲ	石英,長石,角閃石	良好	暗褐色	工具ナデ	工具ナデ	炭化物
	813	4 T	Ⅲ	石英,長石,角閃石	良好	赤褐色	貝殻条痕	貝殻条痕	
	814	4 T	Ⅱ	石英,長石,角閃石	良好	赤褐色	ナデ	不明	
第71図	815	4 T	Ⅲ	石英,長石,角閃石	良好	褐　色	ヘラミガキ,条痕	ナデ,一部ヘラミガキ	
	816	4 T	Ⅳ	石英,長石,角閃石	良好	明赤褐色	工具ナデ	工具ナデ	
	817	4 T	Ⅱ	石英,長石,角閃石	良好	赤褐色	ヘラナデ	工具ナデ	
	818	4 T	Ⅳ	石英,長石,角閃石	良好	赤褐色	ナデ,沈線	ナデ	
	819	4 T	Ⅳ	石英,長石	良好	赤褐色	条痕	貝殻条痕	
	820	4 T	Ⅳ	石英,長石	良好	赤褐色・黒灰色	ナデ	ナデ	

第17表　出土土器観察表(15)

挿図	番号	出土区	層	胎　土	焼成	色　調	外面調整（文様）	内面調整	備　考
第71図	821	4 T	Ⅳ	石英,長石,角閃石	良 好	黄褐色・黒褐色	工具ナデ	貝殻条痕	
	822	4 T	Ⅳ・Ⅴ	石英,長石,角閃石	良 好	赤 褐 色	ナデ	工具ナデ	炭化物
	823	4 T	Ⅳ	石英,長石,角閃石	良 好	赤 褐 色	工具ナデ	工具ナデ	
	824	4 T	Ⅲ	石英,長石,角閃石	良 好	淡赤褐色	ナデ,圧痕(網)	ナデ	
	825	4 T	Ⅳ	石英,長石,角閃石,金雲母	良 好	黄 褐 色	工具ナデ	ナデ	
	826	4 T	Ⅲ	石英,長石,角閃石	良 好	淡茶褐色	ナデ	ナデ	
	827	4 T	Ⅲ	石英,長石,角閃石	良 好	黄 褐 色	貝殻条痕	ナデ	
	828	4 T	Ⅲ	石英,長石,角閃石	良 好	暗 褐 色	ナデ	工具ナデ	
	829	4 T	Ⅳ	石英,長石,角閃石	良 好	暗 褐 色	工具ナデ	不明	
	830	4 T	Ⅱ	石英,長石,角閃石	良 好	赤 褐 色	工具ナデ	工具ナデ	
	831	4 T		石英,長石,角閃石	良 好	茶 褐 色	工具ナデ	ナデ	
	832	4 T	Ⅲ	石英,長石,角閃石	良 好	赤 褐 色	ナデ,指頭圧痕	ナデ	
第72図	833	4 T	Ⅳ	石英,長石,角閃石	良 好	暗黄褐色	ナデ	工具ナデ	
	834	4 T	Ⅲ	石英,長石,角閃石	良 好	赤 褐 色	工具ナデ	ナデ	
	835	4 T	Ⅳ	石英,長石	良 好	淡赤褐色	ナデ	ナデ	
	836	4 T	Ⅱ	石英,長石,角閃石	良 好	赤 褐 色	工具ナデ	ナデ,条痕	
	837	4 T	Ⅳ	石英,長石	良 好	淡赤褐色	ナデ	ナデ	
	838	4 T	Ⅱ	石英,長石,角閃石	良 好	赤 褐 色	ナデ	ナデ	
	839	4 T	Ⅳ	石英,長石,角閃石	良 好	赤 褐 色	ナデ	ナデ	
	840	4 T	Ⅲ	石英,長石,角閃石	良 好	赤 褐 色	不明	不明	
	841	4 T	Ⅲ	石英,長石,角閃石	良 好	赤 褐 色	工具ナデ	ナデ	
	842	4 T	Ⅳ	石英,長石,角閃石	良 好	赤 褐 色	工具ナデ	貝殻条痕	
	843	4 T	Ⅳ	石英,長石,角閃石	良 好	褐　色	工具ナデ	ナデ	
	844	4 T	Ⅴ	石英,長石,角閃石	良 好	黄 白 色	ナデ,刻目突帯	ナデ	弥生
	845	4 T	Ⅲ	石英,長石,角閃石	良 好	黄 褐 色	ハケ目	ハケ目	
第77図	884	5 T	Ⅲ上	石英,長石,角閃石	良 好	暗 褐 色	ヘラミガキ,凹線,縄文	ヘラミガキ	
	885	5 T		石英,長石,角閃石	やや不良	黄 灰 色	ヘラミガキ,凹線,縄文	ヘラミガキ	
	886	6 T		石英,長石,角閃石	良 好	黄 灰 色	ヘラミガキ,凹線,縄文	ヘラミガキ	
	887	6 T		石英,長石,角閃石	良 好	赤 褐 色	ナデ,沈線	工具ナデ	
	888	6 T		石英,長石,角閃石	良 好	赤 褐 色	ヘラミガキ	ヘラミガキ	
	889	6 T		石英,長石,角閃石	良 好	褐　色	ナデ,木葉痕	不明	
	890	6 T		細砂土,灰				すり鉢	
第81図	891	8 T	貝上	石英,長石,角閃石	良 好	黒 褐 色	ナデ,沈線	ナデ	
	892	8 T	貝上	石英,長石,角閃石	良 好	赤 褐 色	ナデ,刻目,沈線	ナデ	
	893	8 T	貝上	石英,長石,角閃石	良 好	黄 褐 色	ナデ,刺突,沈線	ナデ	
	894	8 T	貝上	石英,長石,角閃石	良 好	暗赤褐色	ナデ,沈線,刺突	ナデ	穿孔あり
	895	8 T	貝上	石英,長石,角閃石	良 好	暗 褐 色	工具ナデ,凹線,連続刺突(貝)	ナデ,工具ナデ	
	896	8 T	撹乱	石英,長石,砂粒	良 好	黒 褐 色	ナデ,沈線	ナデ	
	897	8 T	貝上	石英,長石,角閃石	良 好	黄 褐 色	ナデ,凹線,刺突(貝)	ナデ	
	898	8 T	貝上	石英,長石,角閃石	良 好	暗赤褐色	工具ナデ,沈線	ナデ	
	899	8 T	貝上	石英,長石,角閃石	良 好	赤 褐 色	ナデ,貝殻文	ナデ	
	900	8 T	撹乱	石英,長石,角閃石	良 好	赤 褐 色	ナデ,貝殻文	ナデ	
	901	8 T	混貝	石英,長石,角閃石	良 好	暗 褐 色	工具ナデ,貝殻文	ナデ	
	902	8 T	混貝	石英,長石,角閃石	良 好	黄 灰 色	不明,刺突	不明	
	903	8 T	混貝	石英,長石,角閃石	良 好	茶 褐 色	ナデ,凹線,貝殻文,円形刺突	貝殻条痕	
	904	8 T	混貝	石英,長石,角閃石	良 好	暗 褐 色	貝殻条痕,連続刺突(ヘラ)	貝殻条痕,刺突(ヘラ)	
	905	8 T	混貝	石英,長石,角閃石	良 好	淡赤褐色	ナデ,短沈線(ヘラ)	ナデ	
	906	8 T	表	石英,長石,角閃石	良 好	暗赤褐色	ナデ,貝殻文,刺突(ヘラ)	条痕後ナデ	
	907	8 T	撹乱	石英,長石,角閃石	良 好	暗赤褐色	工具ナデ,沈線,刺突(ヘラ)	ナデ	
	908	8 T	撹乱	石英,長石,角閃石	良 好	黄 褐 色	ナデ,連続刺突(ヘラ)	ナデ	

第18表　出土土器観察表(16)

挿図	番号	出土区	層	胎　土	焼成	色　調	外面調整（文様）	内面調整	備　考
第81図	909	8 T	貝上	石英,長石,角閃石	良好	黄白色	ナデ,凹線,連続刺突(ヘラ)	ナデ,貝殻条痕	
第82図	910	8 T	シラス	石英,長石,角閃石	良好	褐　色	ナデ,沈線,刺突(ヘラ)	工具ナデ	
	911	8 T		石英,長石,角閃石	良好	暗赤褐色	ナデ	貝殻条痕	
	912	8 T	撹乱	石英,長石,角閃石	良好	赤褐色	貝殻条痕	貝殻条痕	
	913	8 T		石英,長石,角閃石	良好	暗褐色	ナデ	ナデ	
	914	8 T	撹乱	石英,長石,砂粒	良好	褐　色	貝殻条痕	ナデ	
	915	8 T		石英,長石,角閃石,砂粒	良好	暗灰色	ヘラミガキ,沈線	ヘラミガキ	
	916	8 T		石英,長石,角閃石	良好	淡赤褐色	ヘラミガキ,凹線,縄文	ナデ	
	917	8 T		石英,長石,角閃石	良好	淡赤褐色	ヘラミガキ,凹線,縄文	ヘラミガキ	
	918	8 T	混貝	石英,長石,角閃石	良好	赤褐色	ナデ,沈線,透かし	ナデ	
	919	8 T	貝上	石英,長石,角閃石	良好	淡褐色	ナデ,沈線	工具ナデ	
	920	8 T		石英,長石,角閃石	良好	赤褐色	ナデ,貝殻条痕	ナデ	
	921	8 T		石英,長石,角閃石	良好	黒褐色	ナデ,沈線	工具ナデ	
	922	8 T	貝上	石英,長石,角閃石	良好	暗褐色	貝殻条痕	工具ナデ	
	923	8 T	貝上	石英,長石	良好	黄褐色	工具ナデ	貝殻条痕	
	924	8 T	混貝	石英,長石,角閃石	良好	暗赤褐色	ナデ,貝殻条痕	貝殻条痕	
	925	8 T	混貝	石英,長石,角閃石	良好	褐　色	条痕	条痕	
	926	8 T	混貝	石英,長石,角閃石	良好	淡褐色	工具ナデ	工具ナデ	
	927	8 T	混貝	石英,長石,角閃石	良好	淡黄褐色	貝殻条痕	貝殻条痕	
第83図	928	8 T	貝上	石英,長石,角閃石	良好	黄褐色	貝殻条痕	貝殻条痕	
	929	8 T	混貝	石英,長石,角閃石	良好	赤褐色	ナデ	ナデ	
	930	8 T	貝上	石英,長石,角閃石	良好	暗褐色	工具ナデ	ナデ	
	931	8 T	混貝	石英,長石,角閃石	良好	暗赤褐色	条痕	ナデ	
	932	8 T	貝上	石英,長石,角閃石	良好	暗赤褐色	条痕	ナデ	
	933	8 T	貝上	石英,長石	良好	褐　色	条痕後ナデ	条痕	
	934	8 T	混貝	石英,長石,金雲母	良好	暗褐色	工具ナデ	条痕	
	935	8 T	撹乱	石英,長石,角閃石	良好	赤褐色	条痕	条痕	
	936	8 T	貝上	石英,長石,角閃石	良好	暗褐色	貝殻条痕	貝殻条痕	
	937	8 T	混貝	石英,長石,角閃石	良好	赤褐色	ナデ	貝殻条痕	
	938	8 T	貝上	石英,長石,角閃石	良好	淡褐色	条痕	条痕	
	939	8 T	撹乱	石英,長石,角閃石	良好	黄褐色	条痕	条痕	
	940	8 T	シラス	石英,長石,角閃石	良好	暗赤褐色	工具ナデ	条痕	
	941	8 T	撹乱	石英,長石	良好	茶褐色	工具ナデ	ヘラミガキ	
	942	8 T		石英,長石,角閃石	良好	赤褐色	貝殻条痕	貝殻条痕	
	943	8 T	表	石英,長石,角閃石	良好	黄灰色	条痕	条痕	
	944	8 T		石英,長石,角閃石	良好	赤褐色	工具ナデ	ナデ	
	945	8 T	混貝	石英,長石,角閃石	良好	黄灰色	ナデ	不明	
	946	8 T		石英,長石,角閃石	良好	黄褐色	工具ナデ,条痕	ナデ	
	947	8 T	撹乱	石英,長石,角閃石	良好	茶褐色	工具ナデ	不明	
	948	8 T		石英,長石,角閃石	良好	赤褐色	ナデ	工具ナデ	
第84図	949	8 T	混貝	石英,長石,角閃石	良好	茶褐色	ナデ	工具ナデ	
	950	8 T	撹乱	石英,長石,角閃石	良好	赤褐色	工具ナデ	ナデ,ヘラ圧痕	
	951	8 T	貝上	石英,長石,角閃石	良好	黄褐色	ナデ,底部圧痕	工具ナデ	
	952	8 T	撹乱	石英,長石,角閃石	良好	黄灰色	ナデ	ナデ	
第87図	970	9 T	Ⅱ	石英,長石,角閃石	良好	茶褐色	ナデ,太形凹線(曲線)	ナデ	口唇部に刻目
	971	9 T	Ⅱ	石英,長石,角閃石	良好	茶褐色	ナデ,太形凹線(曲線)	ナデ	削り出文
	972	9 T	Ⅱ	石英,長石,角閃石	良好	黄褐色	ナデ,刻目	ナデ	
	973	9 T	Ⅰ	石英,長石,角閃石	良好	茶褐色	ナデ,凹線文(曲線)	ナデ	口唇部に刺突文
	974	9 T	Ⅰ	石英,長石,角閃石	良好	暗褐色	ナデ,凹線文(曲線)	ナデ	口唇部に刻目
	975	9 T	Ⅱ	石英,長石,角閃石	良好	茶褐色	ナデ,沈線文(曲線)	工具ナデ	口縁部突起

第19表　出土土器観察表(17)

挿図	番号	出土区	層	胎　土	焼成	色　調	外面調整（文様）	内面調整	備　考
第87図	976	9T	Ⅱ	長石,石英,角閃石	良好	茶褐色	ナデ,凹線文	ナデ	胴部屈曲
	977	9T	Ⅱ	長石,石英,角閃石	良好	灰褐色	ナデ,太形凹線(曲線)	ナデ	口縁部突起
	978	9T	Ⅱ	長石,石英,角閃石	良好	茶褐色	ナデ,刻線	ナデ	口唇部に貼付帯
	979	9T	Ⅰ	長石,石英,角閃石	良好	灰褐色	ナデ,凹直短線	ナデ	口唇部に刺突文
	980	9T	Ⅱ	長石,石英,角閃石	良好	茶褐色	ナデ,沈線文(曲線)	ナデ	口縁部突起
	981	9T	Ⅱ	長石,石英,角閃石	良好	茶褐色	ナデ,凹線文(曲線)	ナデ	口唇部凹線
	982	9T	Ⅰ	長石,石英,角閃石	良好	茶褐色	ナデ,無文	ナデ	口唇波状,穿孔
	983	9T	Ⅰ	長石,石英,角閃石	良好	暗褐色	ナデ,凹線文(平行線)	条痕,ナデ	
	984	9T	Ⅱ	長石,石英,角閃石	良好	黒褐色	ナデ,凹線文+刺突文	工具ナデ	
	985	9T	Ⅱ	長石,石英,角閃石	良好	褐色	ナデ,凹線文+刺突文	工具ナデ	
	986	9T	Ⅰ	長石,石英,角閃石	良好	灰褐色	ナデ,無文	工具ナデ	突帯状口縁
	987	9T	Ⅱ	長石,石英,角閃石	良好	赤褐色	ナデ,沈線文	条痕,ナデ	口唇部沈線文
	988	9T	Ⅱ	長石,石英,角閃石	良好	赤褐色	ナデ,無文	条痕,ナデ	口縁部内湾
	989	9T	Ⅱ	長石,石英,角閃石	良好	茶褐色	条痕+ナデ,無文	条痕,ナデ	
	990	9T	Ⅱ	長石,石英,角閃石	良好	茶褐色	工具ナデ,無文	工具ナデ	口唇部に刺突文
	991	9T	Ⅱ	長石,石英,角閃石	良好	茶褐色	ナデ,刻目突帯	工具ナデ	
第88図	992	9T	Ⅱ	長石,石英,角閃石	良好	暗褐色	条痕,無文	工具ナデ	粘土巻き上げ痕
	993	9T	Ⅱ	長石,石英,角閃石	良好	暗褐色	工具ナデ,無文	工具ナデ	
	994	9T	Ⅰ	長石,石英,角閃石	良好	灰褐色	ナデ,太形凹線+刻目+貝殻文	工具ナデ	肥厚口縁
	995	9T	Ⅱ	長石,石英,角閃石	良好	茶褐色	ナデ,太形凹線+貝殻刺突文	工具ナデ	肥厚口縁
	996	9T	Ⅰ	長石,石英,角閃石	良好	茶褐色	ナデ,刻目	工具ナデ	肥厚口縁
	997	9T	Ⅰ	長石,石英,角閃石	良好	茶褐色	条痕,無文	条痕	肥厚口縁
	998	9T	Ⅱ	長石,石英,角閃石	良好	茶褐色	ナデ,貝殻刺突文	工具ナデ	肥厚口縁
	999	9T	Ⅱ	長石,石英,角閃石	良好	茶褐色	ナデ,太形凹線	工具ナデ	肥厚口縁
	1000	9T	Ⅱ	長石,石英,角閃石	良好	茶褐色	圧痕	工具ナデ	底部
	1001	9T	Ⅱ	長石,石英,角閃石	良好	灰褐色	圧痕?	工具ナデ	底部
	1002	9T	Ⅰ	長石,石英,角閃石	良好	茶褐色	ナデ	工具ナデ	底部
	1003	9T	Ⅱ	長石,石英,角閃石	良好	灰褐色	圧痕?	工具ナデ	底部
	1004	9T	Ⅱ	長石,石英,角閃石	良好	灰褐色	圧痕?	工具ナデ	底部
	1005	9T	Ⅱ	長石,石英,角閃石	良好	茶褐色	圧痕?	ナデ	底部
	1006	9T	Ⅰ	長石,石英,角閃石	良好	茶褐色	工具ナデ	ナデ	上げ底
	1007	9T	Ⅱ	長石,石英,角閃石	堅緻	茶褐色	工具ナデ+研磨	ナデ	底部
	1008	9T	Ⅱ	長石,石英,角閃石	良好	茶褐色	工具ナデ	工具ナデ	土製加工品
第90図	1015	10T	Ⅱ	長石,石英,角閃石	良好	黄褐色	工具ナデ,細凹線	工具ナデ	
	1016	10T	Ⅱ	長石,石英,角閃石	良好	黄褐色	工具ナデ,細凹線+縄文	工具ナデ	
	1017	10T	Ⅱ	長石,石英,角閃石	良好	茶褐色	工具ナデ,沈線+刺突文	工具ナデ	
	1018	10T	Ⅱ	長石,石英,角閃石	良好	暗褐色	工具ナデ,凹線+縄文	工具ナデ	
	1019	10T	Ⅱ	長石,石英,角閃石	良好	黄褐色	工具ナデ,凹線	工具ナデ	
	1020	10T	Ⅱ	長石,石英,角閃石	良好	暗褐色	ナデ,凹線+刺突+縄文	工具ナデ	
	1021	10T	Ⅱ	長石,石英,角閃石	良好	暗褐色	条痕	条痕+工具ナデ	
	1022	10T	Ⅱ	長石,石英,角閃石	良好	黄褐色	工具ナデ,突帯文	工具ナデ	弥生土器
第92図	1023	12T	Ⅱ	長石,石英,角閃石	堅緻	黒褐色	工具ナデ,凹線+縄文	工具ナデ	
	1024	12T	Ⅱ	長石,石英,角閃石	良好	茶褐色	ナデ,細凹線+縄文	工具ナデ	
	1025	12T	Ⅱ	長石,石英,角閃石	良好	灰褐色	ナデ,細凹線+縄文	工具ナデ	
	1026	12T	Ⅱ	長石,石英,角閃石	良好	灰褐色	条痕	工具ナデ	貼付文
	1027	12T	Ⅱ	長石,石英,角閃石	良好	茶褐色	条痕	工具ナデ	
	1028	12T	Ⅱ	長石,石英,角閃石	良好	明褐色	条痕	工具ナデ	
	1029	12T	Ⅱ	長石,石英,角閃石	良好	暗褐色	工具ナデ	工具ナデ	
	1030	12T	Ⅱ	長石,石英,角閃石	良好	茶褐色	組織痕	工具ナデ	
	1031	12T	Ⅱ	長石,石英,角閃石	良好	茶褐色	条痕	条痕	

第20表　出土土器観察表(18)

挿図	番号	出土区	層	胎　土	焼成	色　調	外面調整（文様）	内面調整	備　考
第92図	1032	12T	Ⅱ	長石,石英,角閃石	良好	暗褐色	条痕	条痕	
	1033	12T	Ⅱ	長石,石英,角閃石	良好	茶褐色	条痕	条痕	
	1034	12T	Ⅱ	長石,石英,角閃石	良好	黄褐色	ナデ,刻目突帯文	ナデ	
	1035	12T	Ⅱ	長石,石英,角閃石	良好	黄褐色	ナデ,刻目突帯文	ナデ	
第93図	1036	14T	Ⅳ	長石,石英,角閃石	良好	茶褐色	ナデ,沈線文	ナデ	肥厚口縁
	1037	14T	表	長石,石英,角閃石	良好	茶褐色	ナデ,凹線文	ナデ	
	1038	14T	表	長石,石英,角閃石	良好	茶褐色	ナデ,沈線文	ナデ	
	1039	14T	表	長石,石英,角閃石	良好	茶褐色	ナデ,沈線文	ナデ	肥厚口縁
	1040	14T	表	長石,石英,角閃石	良好	暗褐色	ナデ,沈線文＋刻目	ナデ	肥厚口縁
	1041	14T	Ⅳ	長石,石英,角閃石	良好	明褐色	ナデ,沈線文＋刻目	ナデ	肥厚口縁
	1042	14T	Ⅲ	長石,石英,角閃石	良好	灰褐色	ナデ,凹線文＋刻目	工具ナデ	肥厚口縁
	1043	14T	Ⅲ	長石,石英,角閃石	良好	茶褐色	ナデ,凹線文＋刻目	工具ナデ	肥厚口縁
	1044	14T	Ⅲ	長石,石英,角閃石	良好	黄褐色	ナデ,凹線文＋刻目	工具ナデ	肥厚口縁
	1045	14T	表	長石,石英,角閃石	良好	黄褐色	ナデ,無文	工具ナデ	肥厚口縁
	1046	14T	表	長石,石英,角閃石	良好	茶褐色	ナデ,凹線文	工具ナデ	外反口縁
	1047	14T	Ⅳ	長石,石英,角閃石	良好	茶褐色	ナデ,凹線文	工具ナデ	台付皿形土器
	1048	14T	Ⅲ	長石,石英,角閃石	良好	茶褐色	ナデ	工具ナデ	外反口縁
	1049	14T	Ⅲ	長石,石英,角閃石	良好	灰褐色	ナデ,凹線文	工具ナデ	磨消縄文
	1050	14T	Ⅲ	長石,石英,角閃石	良好	灰褐色	ナデ,凹線文	工具ナデ	磨消縄文
	1051	14T	表	長石,石英,角閃石	良好	黄褐色	ナデ,凹線文	工具ナデ	磨消縄文
	1052	14T	表	長石,石英,角閃石	良好	黄褐色	ナデ,沈線文	工具ナデ	
	1053	14T	Ⅲ	長石,石英,角閃石	良好	灰褐色	ナデ,凹線文	工具ナデ	磨消縄文
	1054	14T	Ⅳ	長石,石英,角閃石	良好	灰褐色	ナデ,凹線文	工具ナデ	磨消縄文
	1055	14T	Ⅲ	長石,石英,角閃石	良好	灰褐色	ナデ,凹線文＋縄文	工具ナデ	磨消縄文
	1056	14T	Ⅲ	長石,石英,角閃石	良好	灰褐色	ナデ	沈線文＋縄文	磨消縄文
	1057	14T	表	長石,石英,雲母	良好	灰褐色	ナデ,凹線文＋縄文	工具ナデ	磨消縄文
	1058	14T	表	長石,石英,角閃石	良好	灰褐色	ナデ,凹線文＋縄文	工具ナデ	磨消縄文

第21表　出土石器観察表(1)

挿図	番号	器　種	石　材	区	層	最大長cm	最大幅cm	厚　さcm	重　量g	備　考
第38図	450	石　鏃	黒耀石	1T	貝層	1.675	1.115	0.395	0.38	
	451	石　鏃	黒耀石	1T	貝層	1.740	1.450	0.425	0.69	
	452	石　鏃	黒耀石	1T	貝層	1.625	1.555	0.380	1.03	
	453	石　鏃	黒耀石	1T	Ⅲ	2.925	2.225	0.420	2.42	
	454	石　鏃	黒耀石	1T	Ⅲ	2.415	2.590	0.930	4.31	
	455	石　錐	黒耀石	1T	表	2.055	2.305	0.635	2.89	
	456	削　器	黒耀石	1T	Ⅲ	2.745	1.290	0.795	2.88	
	457	楔形石器	黒耀石	1T		2.880	1.970	0.575	3.29	
	458	石　匙	黒耀石	1T	表	2.125	2.350	0.595	2.48	
	459	削　器	黒耀石	1T	Ⅲ	1.925	3.295	0.940	3.61	
	460	掻　器	黒耀石	1T	表	1.990	2.145	0.760	3.01	
	461	掻　器	黒耀石	1T	表	2.960	2.680	0.905	7.40	
	462	剝片石器	黒耀石	1T	Ⅱ	5.430	4.380	1.240	22.56	
	463	剝片石器	黒耀石	1T		1.715	2.745	0.840	3.10	
	464	剝片石器	黒耀石	1T		2.575	3.105	0.975	7.23	
	465	剝片石器	黒耀石	1T	表	3.015	3.740	1.075	11.56	
第39図	466	削　器	安山岩	1T	表	3.395	6.155	0.950	21.21	
	467	石　核	黒耀石	1T	Ⅲ	4.540	3.720	2.640	55.75	
	468	石　核	黒耀石	1T		3.290	4.680	2.075	32.08	
	469	石　核	黒耀石	1T	表	4.90	5.450	2.765	74.25	
	470	石ノミ	頁岩	1T	貝	(4.930)	(1.60)	(0.650)	(4.65)	

第22表　出土石器観察表(2)

挿図	番号	器種	石材	区	層	最大長cm	最大幅cm	厚さcm	重量g	備考
第39図	471	石包丁	砂岩		Ⅱ	(3.960)	(6.615)	(0.620)	(22.47)	
第40図	472	磨製石斧	ホルンフェルス		Ⅲ	(9.55)	(6.3)	(4.2)	(360.0)	敲石転用
	473	磨製石斧	頁岩		Ⅱ	(6.6)	(4.3)	(2.5)	(60)	
	474	掻器	砂岩		貝層上	5.05	10.2	9.0	(60)	
	475	不明	砂岩		Ⅱ	(6.7)	(4.6)	(2.4)	(115)	
	476	敲石・磨石	安山岩		Ⅲ	6.7	4.5	3.9	175	
	477	磨石	砂岩		Ⅲ	(6.7)	(10.4)	(4.1)	(460)	
	478	石皿	安山岩			(18.3)	(10.3)	(5.2)	(1320)	
	479	石皿	安山岩		Ⅲ	(12.9)	(14.6)	(3.5)	(800)	
第51図	599	石匙	黒耀石	3T		(2.575)	(2.310)	(0.660)	(3.34)	
	600	石匙	黒耀石	3T		(1.505)	(3.110)	(0.665)	(3.10)	
	601	磨製石斧	安山岩	3T		(9.4)	(3.2)	(3.1)	(90)	敲痕多
	602		凝灰石	3T		6.8	7.1	1.7	90	
	603	石錘	砂岩	3T		6.8	9.0	1.9	175	
	604	敲石	凝灰岩	3T		6.8	6.3	3.7	215	
	605		凝灰岩	3T		(10.0)	(7.9)	(3.6)	(290)	
	606	磨石	安山岩	3T		7.3	5.6	4.5	270	
	607	磨石	砂岩	3T		(11.0)	(4.0)	(3.7)	(240)	
第73図	859	石鏃	黒耀石	4T	Ⅲ	1.840	1.20	0.330	0.72	
	860	石鏃	黒耀石	4T	Ⅲ	1.380	1.470	0.375	0.79	
	861	楔形石器	黒耀石	4T	Ⅲ	2.005	2.645	0.820	4.44	
	862	楔形石器	黒耀石	4T	Ⅳ	2.075	1.770	0.505	2.17	
	863	剝片石器	黒耀石	4T	Ⅳ	2.275	3.420	1.130	9.17	
	864	剝片石器	黒耀石	4T	Ⅳ	3.120	2.310	0.715	4.41	
	865	磨製石斧	安山岩	4T	Ⅳ	(10.1)	(7.1)	(3.8)	(410)	
	866	石錘	凝灰岩	4T	Ⅲ下	10.8	10.8	2.5	350	
	867	敲石	安山岩	4T		6.0	5.2	4.3	145	
	868	磨石	安山岩	4T	Ⅲ	6.5	5.0	4.8	160	
	869	磨石	砂岩	4T	Ⅲ	12.8	11.2	5.4	1310	
第74図	870	磨石・敲石	安山岩	4T	表	(6.5)	(4.4)	(3.2)	(315)	
	871	磨石	安山岩	4T	Ⅱ下	7.9	6.0	5.5	440	
	872	磨石・敲石	砂岩	4T	Ⅲ	14.6	11.7	5.8	1500	
	873	磨石	砂岩	4T	Ⅲ	(8.8)	(5.65)	(3.2)	(250)	
	874	磨石	安山岩	4T	Ⅳ	(8.4)	(5.6)	(4.9)	(340)	
	875	磨石	砂岩	4T	Ⅱ	15.5	9.8	5.1	1110	
	876	磨石	砂岩	4T	Ⅳ	12.8	8.1	6.2	1000	全面研磨
	877	石皿	砂岩	4T	Ⅳ	(9.4)	(10.1)	(2.95)	280	
第75図	878	石皿	安山岩	4T		25.75	15.75	11.5	6.25kg	
	879	石皿	砂岩	4T	Ⅳ	18.3	19.4	3.9	2.3kg	
	880	石皿	安山岩	4T	Ⅳ	31.6	25.5	9.2	11.3kg	
	881	石皿	安山岩	4T		25.9	23.9	15.5	11.6kg	
	882	石皿	安山岩	4T		32.3	23.9	8.9	7.25kg	
	883	石皿	安山岩	4T	Ⅴ	30.6	29.8	8.3	6.35kg	
第85図	963	石鏃	黒耀石	8T		1.960	1.295	0.420	0.64	
	964	石鏃	黒耀石	8T		2.715	1.40	0.350	1.06	
	965	石鏃	黒耀石	8T		1.990	1.80	0.495	1.58	
	966	石匙	黒耀石	8T		4.90	2.830	0.715	8.28	
	967	削器	タンパク石	8T		2.0	4.555	0.715	5.85	
	968		黒耀石	8T		4.775	7.440	1.665	49.01	
	969	磨製石斧	安山岩	8T		9.915	4.840	2.075	125	敲石転用

第23表　出土石器観察表(3)

挿図	番号	器種	石材	区	層	最大長cm	最大幅cm	厚さcm	重量g	備考
第89図	1009	掻器	黒耀石	9T		2.9	2.45	0.25	5.19	
	1010	磨製石斧	頁岩	9T		(5.1)	(5.6)	(3.1)	(100)	
	1011	異形磨石	砂岩	9T		8.75	2.7	2.6	110	
	1012	不明	安山岩	9T		14.3	4.2	3.0	265	
	1013	磨製石斧	砂岩	9T		6.38	2.9	2.42	165	
	1014	磨石・敲石	安山岩	9T		11.1	9.6	5.15	820	
第94図	1059	石鏃	黒耀石	10T		2.2	1.9	0.10	1.42	
	1960	石錐	チャート	12T		3.05	0.20	0.20	2.32	
	1061	磨石	安山岩	10T		(13.1)	(10.4)	(4.92)	(820)	
	1062	磨製石斧	安山岩	13T		(10.85)	(5.75)	(2.7)	(270)	
	1063	石ノミ	砂岩	12T		9.590	2.895	1.280	59.49	
	1064	磨石	安山岩	10T		(8.0)	(11.7)	(5.2)	(690)	
	1065	磨石	安山岩	14T		13.0	11.6	4.1	800	

第24表　土製加工品観察表

挿図	番号	区	層	部位	直径cm	厚さcm	重さg
第36図	415	1T	Ⅰ	胴部	3.4	0.9	11.80
	416	1T		口縁部	4.1	0.9	18.72
	417	1T		口縁部	7.7	1.4	65.97
	418	1T		口縁部	8.5	1.5	68.79
	419	1T	Ⅰ	口縁部	6.3	1.6	45.70
	420	1T	Ⅰ	口縁部	4.8	1.3	24.49
	421	1T	Ⅶ	口縁部	5.8	1.3	29.01
	422	1T	Ⅰ	胴部	5.3	0.9	14.58
	423	1T	Ⅰ	胴部	4.8	0.6	19.31
	424	1T	Ⅰ	胴部	4.5	0.9	22.39
	425	1T	Ⅰ	胴部	5.0	0.8	11.32
	426	1T	Ⅲ	胴部	4.5	0.8	16.94
	427	1T		胴部	8.5	0.8	76.05
	428	1T		胴部	6.5	0.7	33.67
	429	1T	Ⅶ	胴部	6.4	0.7	17.66
	430	1T		胴部	5.9	0.8	28.71
	431	1T		胴部	4.5	0.9	19.65
	432	1T		胴部	4.0	0.8	14.16
	433	1T	Ⅲ	胴部	4.5	0.8	22.08
	434	1T	Ⅰ	胴部	4.3	0.8	14.80
	435	1T	Ⅸ	胴部	3.1	0.8	8.42
	436	1T	Ⅸ	胴部	5.0	0.7	19.17
	437	1T		胴部	5.8	0.9	29.22
	438	1T	Ⅶ	胴部	3.7	0.8	13.39
第37図	439	1T		胴部	7.0	1.0	42.24
	440	1T	Ⅱ	胴部	5.0	1.0	22.61
	441	1T		胴部	4.3	1.0	19.08
	442	1T		胴部	6.3	0.9	35.41
	443	1T	Ⅸ	胴部	4.6	1.3	27.13
	444	1T	Ⅱ	胴部	4.0	0.8	16.20

挿図	番号	区	層	部位	直径cm	厚さcm	重さg
第37図	445	1T	Ⅸ	胴部	6.3	0.8	33.21
	446	1T	Ⅰ	胴部	4.9	0.7	20.55
	447	1T		底部	4.8	0.9	34.41
	448	1T	Ⅸ	底部	6.3	0.9	40.99
	449	1T	Ⅸ	底部	6.0	1.2	46.52
第50図	597	3T		胴部	5.7	0.8	28.04
	598	3T		胴部	3.7	1.0	29.68
第72図	846	4T	Ⅲ	胴部上	6.0	1.45	73.14
	847	4T	Ⅲ	胴部	5.4	0.7	24.24
	848	4T	Ⅳ	胴部	3.9	0.85	16.44
	849	4T	Ⅳ	胴部	4.7	1.2	22.93
	850	4T	Ⅱ	胴部	3.7	0.6	10.82
	851	4T	Ⅲ	胴部	4.3	0.9	20.97
	852	4T	Ⅳ	胴部	4.6	0.8	20.29
	853	4T	Ⅳ	胴部	4.0	0.85	16.38
	854	4T	Ⅳ	胴部	3.4	0.7	9.66
	855	4T	Ⅳ	胴部	4.2	0.9	18.50
	856	4T	Ⅲ	胴部	4.7	1.0	30.03
	857	4T	Ⅳ	胴部	6.1	1.3	50.0
	858	4T	Ⅳ	胴部	4.4	0.6	16.49
第84図	953	8T		胴部	4.05	0.7	17.76
	954	8T		胴部	3.85	1.0	14.93
	955	8T		胴部	5.2	1.0	33.19
	956	8T		胴部	4.5	1.0	18.98
	957	8T		胴部	4.65	0.9	17.85
	958	8T		胴部	5.2	1.0	31.50
	959	8T		胴部	5.2	1.5	45.22
	960	8T		胴部	3.4	0.95	12.61
	961	8T		胴部	4.6	0.9	18.18
	962	8T		底部	6.7	1.8	74.57

第25表　出土貝輪観察表

図版	No.	区	層	貝種	法量 長×幅 mm	重さ g	加工状況
第41図	480	1T	Ⅸ	タマキガイ	—	3.51	内側々面の加工が残
	481	1T	Ⅸ	タマキガイ	78 × 75	24.66	内外側々面の加工が残
	482	1T	Ⅸ	タマキガイ	73 × 64	13.46	殻頂部除去と外面の研磨
	483	1T	Ⅸ	タマキガイ	72 × 63	17.00	殻頂部除去と外面の研磨
	484	1T	Ⅸ	タマキガイ	84 × 75	35.80	殻頂部除去と外面の研磨
	485	1T	Ⅸ	タマキガイ	71 × 63	12.90	殻頂部除去と外面の研磨
	486	1T	Ⅸ	タマキガイ	79 × —	20.85	殻頂部除去と外面の研磨
	487	1T	Ⅸ	タマキガイ	79 × —	15.55	殻頂部除去と外面の研磨
	488	1T	Ⅸ	タマキガイ	85 × —	32.02	殻頂部除去と外面の研磨
	489	1T	Ⅸ	タマキガイ	77 × 68	38.68	殻頂部除去と外面の研磨
	490	1T	Ⅸ	タマキガイ	76 × 67	27.00	殻頂部除去と外面の研磨
第42図	491	1T	Ⅸ	タマキガイ	64 × 54	14.31	殻頂部除去と外面の研磨
	492	1T	Ⅸ	タマキガイ	70 × 58	20.82	殻頂部の除去
	493	1T	Ⅸ	タマキガイ	72 × 62	26.10	殻頂部の除去
	494	1T	Ⅸ	タマキガイ	61 × 68	29.19	殻頂部の除去
	495	1T	Ⅸ	タマキガイ	79 × 71	30.13	殻頂部の除去
	496	1T	Ⅸ	タマキガイ	84 × 72	42.85	殻頂部の除去
	497	1T	Ⅸ	タマキガイ	73 × 65	26.80	殻頂部の除去
	498	1T	Ⅸ	タマキガイ	67 × 73	38.13	殻頂部の除去
	499	1T	Ⅸ	マルサルボウガイ	94 × 68	29.19	殻頂部の除去
	500	1T	Ⅸ	マルサルボウガイ	71 × 56	18.29	殻頂部の除去
第43図	501	1T	Ⅸ	マルサルボウガイ	98 × 70	70.18	殻頂部の除去
	502	1T	Ⅸ	マルサルボウガイ	73 × 55	20.77	殻頂部の除去
	503	1T	Ⅸ	マルサルボウガイ	98 × 76	85.70	殻頂部の除去
	504	1T	Ⅸ	マルサルボウガイ	72 × 58	26.76	殻頂部の除去
	505	1T	Ⅸ	マルサルボウガイ	54 × 63	16.55	殻頂部の除去

第26表　出土垂飾・骨角器観察表

図版	No.	区	層	遺物名	法量 長×幅 mm	重さ g	素材
第44図	506	1T	Ⅸ	垂飾	25 × 52	6.71	ウミギクガイ(貝)
	507	1T	Ⅸ	垂飾	38 × 10	2.39	イノシシ右上第1切歯
	508	1T	Ⅸ	垂飾	33 × 8	0.49	イノシシ犬歯
	509	1T	Ⅸ	垂飾	15 × 18	0.58	サメ歯
	510	1T	Ⅸ	垂飾	8 × 9	0.17	サメ椎骨
	511	1T	Ⅸ	垂飾	10 × 10	0.21	サメ椎骨
	512	1T	Ⅸ	髪針	50 × 13	3.06	シカ中足骨
	513	1T	Ⅸ	髪針	34 × 5	0.91	イノシシ腓骨
	514	1T	Ⅸ	髪針	6 × 5	0.95	イノシシ腓骨
	515	1T	Ⅸ	髪針	27 × 5	0.64	シカ中足骨
	516	1T	Ⅸ	髪針	16 × 7	0.45	イノシシ腓骨
第45図	517	1T	Ⅸ	単式釣針	16 × —	1.60	シカ角
	518	1T	Ⅸ	単式釣針	24 × 8	0.18	イノシシ犬歯またはシカ角
	519	1T	Ⅸ	単式釣針	19 × 7	0.13	イノシシ犬歯またはシカ角
	520	1T	Ⅸ	単式釣針	20 × —	0.08	イノシシ犬歯またはシカ角
	521	1T	Ⅸ	単式釣針	8 × —	0.09	イノシシ犬歯またはシカ角
	522	1T	Ⅸ	単式釣針	8 × —	0.09	イノシシ犬歯またはシカ角
	523	1T	Ⅸ	単式釣針	19 × —	0.03	イノシシ犬歯またはシカ角

貝塚部分近景

発掘作業風景

1トレンチ焼土検出状況

1トレンチ拡張区

1トレンチ中世溝状遺構

1トレンチ調査状況

1トレンチ貝層上面検出状況

（ 同 上 ）

1トレンチ貝層遺物出土状況

1トレンチ調査風景

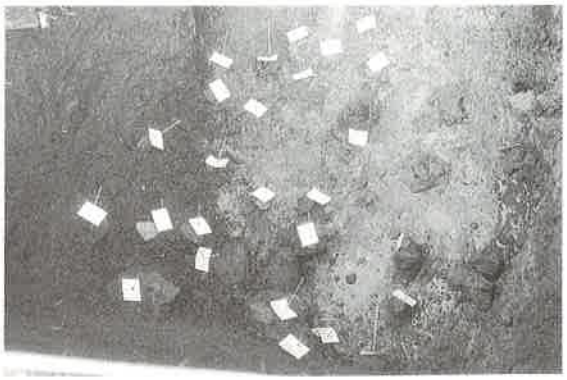
1トレンチ遺物出土状況

1トレンチ貝層堆積状況

3トレンチ遺物出土状況

3トレンチ掘り上がり

3トレンチ南壁土層



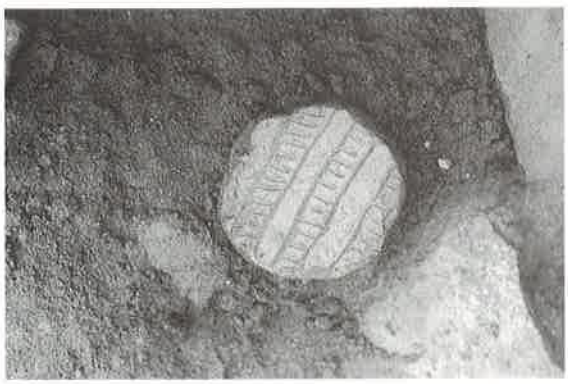
3トレンチ南側出土状況

3トレンチ杭

4トレンチ遺物出土状況

4トレンチ遺物出土状況

（ 同 上 ）



（ 同 上 ）

4 トレンチⅤ層上面・遺構検出状況

5 トレンチ遺構検出状況

6 トレンチ遺構検出状況

7 トレンチ遺構検出状況

9 トレンチ基盤岩整形

8トレンチ土層堆積状況

8トレンチ完掘状況

同　　上

傾斜下，土層堆積状況

杭列検出状況

8トレンチ人骨出土状況

人骨出土状況

土層断面に入っている人骨

10トレンチ遺物出土状況

14・15トレンチ作業風景

伐採状況

9 トレンチ埋めもどし

遺跡見学会

発掘体験学習

（ 同 上 ）

貝塚部分

1

3

4

6

11

26

27

78

79

91

184

139

185

197

199

216

227

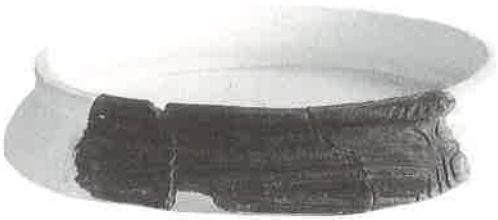
図版 10

230

237

275

351



356

407

910

1066

土製加工品（メンコ）

1068

608

625

894

709

641

648

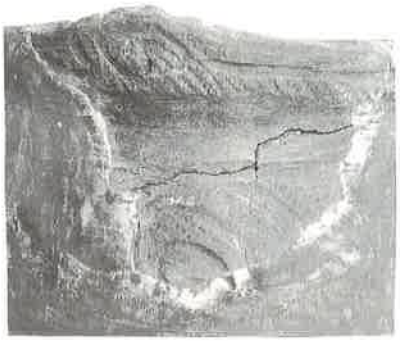
640

699

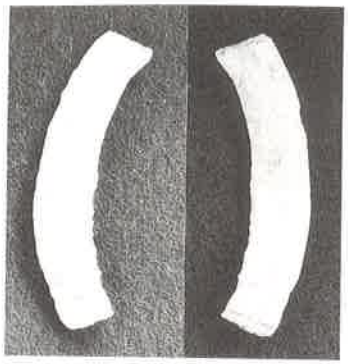
678

683

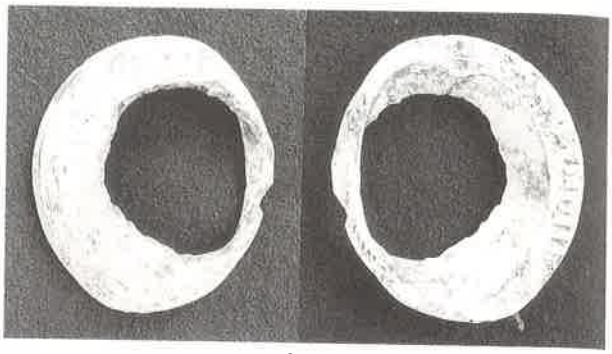
703



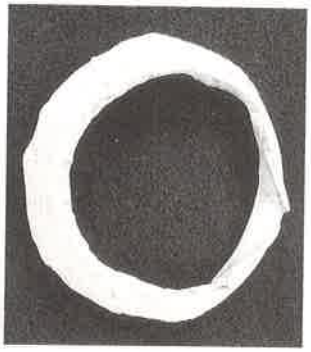
678



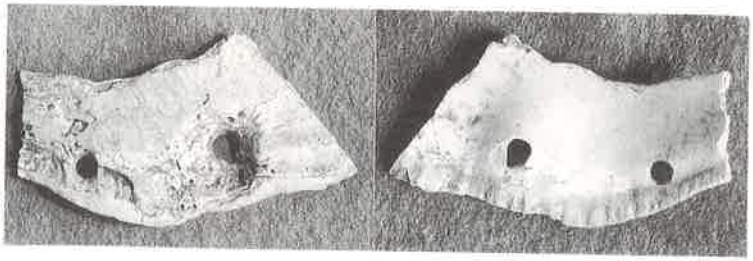
480



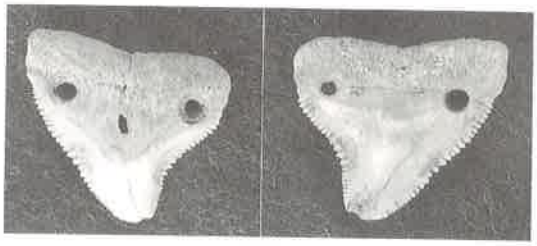
483



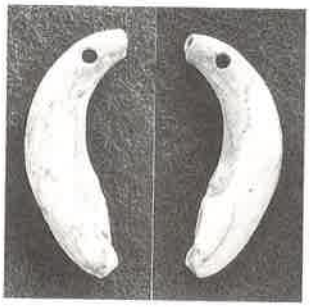
481



506



509



507

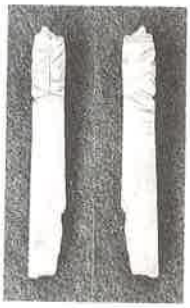
508

511

510

512

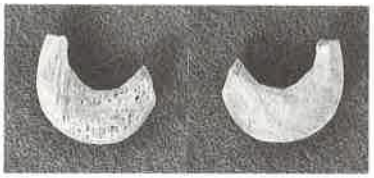
513



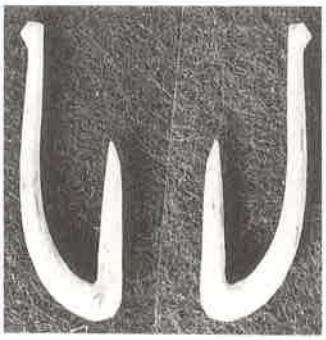
514

515

516



517

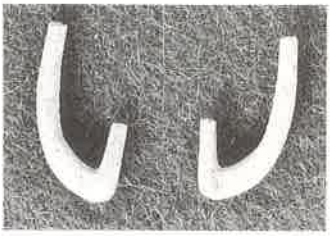


518

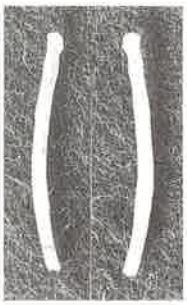
519

520

521

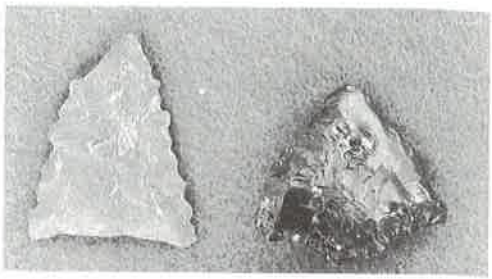


522

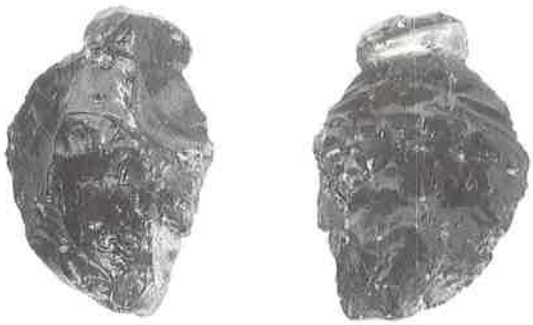


523

450 451 452



453 454



966

863

1063

469

あ と が き

川上（市来）貝塚の貝塚の調査は古くから行なわれ明らかにされてきたが，周辺に存在するとされる第二，第三の貝塚の発見や貝塚を形成した集落の確認が今回の調査目的であった。しかし，なるべく貝塚や保存されている現状を壊さないように配慮しながらの調査の中で，しかも時間的制約もあって初期の目的を十分に達することはできなかった。

しかしながら，１トレンチや４トレンチからは，多種で多量の遺物が出土した。これらの出土品から多くの成果をもたらしたと同時に今後に同じくらいの課題も残した。本報告書の作成にあたってもこの点を留意したつもりではあったが，不足がめだつことも否めない。

なお，本確認調査の遂行にあたっては，サツマイモなどの実る時期にもかかわらずご理解下さった耕作者や地主の方々の多大の協力を得た。また，広い範囲の確認調査や深いトレンチ調査など慣れない発掘調査に従事して下さった地元作業員の人々や大量の遺物の整理作業にあたって下さった人々にも多大の協力を得た。

以上のような方々の善意にみちた協力で調査は完了し，報告書も刊行のはこびとなった。記して感謝する次第です。

調査に参加した人々

市来町埋蔵文化財発掘調査報告書（1）

発 行 日　1991年3月
発　　行　市来町教育委員会
　　〒899－21　日置郡市来町湊町3305
印　　刷　㈲　朝　日　印　刷
　　〒890　鹿児島市上荒田町854－1